# 2013年度放送大学大学院開設予定授業科目講義内容

2012年11月発行

第　12　版

放送大学学園
学務部教務課

# 目　　次

## 1．生活健康科学プログラム


| 番号 | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生活健康研究（’０９）（環） | 1 | R | 2 |
| 2 | 家族生活研究（’０９）（文） | 5 | R | 2 |
| 3 | 食健康科学（’０９）（環）【自然環境科学プログラムと共通】 | 8 | TV | 2 |
| 4 | 居住環境整備論（’１２）（環） | 12 | TV | 2 |
| 5 | 生活リスクマネジメント（’１１）（文） | 15 | R | 2 |
| 6 | 健康科学の史的展開（’１０）（環） | 18 | TV | 2 |
| 7 | 精神医学持論（’１０）（環）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 22 | R | 2 |
| 8 | ヘルスリサーチの方法論（’１３）（文）（２０１３年度開設科目） | 25 | R | 2 |
| 9 | 看護ケアの倫理学（’０９）（環） | 28 | R | 2 |
| 10 | スポーツ・健康科学（’０９）（教） | 32 | R | 2 |
| 11 | 発達運動論（’１１）（教） | 35 | R | 2 |
| 12 | 社会福祉研究（’１０）（政） | 38 | R | 2 |
| 13 | 現代の福祉政策（’１０）－担い手の役割と責任－（政） | 41 | R | 2 |


（文）旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報学群）」の科目です。

（環）旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

（政）旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

（教）旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

（臨）旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

## 2．人間発達科学プログラム


| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 人間発達論（’０９）（教） | 44 | R | 2 |
| 15 | 才能と教育（’１０）－個性と才能の新たな地平へ－（教） | 48 | TV | 2 |
| 16 | コミュニティ教育論（’１０）（教） | 51 | TV | 2 |
| 17 | 教育行政と学校経営（’１２）（教） | 54 | R | 2 |
| 18 | 生涯学習の理論と実践（’１０）（教） | 57 | TV | 2 |
| 19 | カリキュラム編成論（’１３）（教）（２０１３年度開設科目） | 60 | R | 2 |
| 20 | 教育文化論特論（’１１）（教） | 63 | TV | 2 |
| 21 | 現代教育改革論（’１１）－世界の動向と日本のゆくえ－（教） | 66 | R | 2 |
| 22 | 道徳性形成・徳育論（’１１）（教） | 69 | R | 2 |
| 23 | 生涯発達心理学研究（’１１）（教） | 72 | R | 2 |
| 24 | 現代社会心理学特論（’１１）（教）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 75 | R | 2 |
| 25 | 教育心理学特論（’１２）（教）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 78 | R | 2 |
| 26 | 学校臨床心理学特論（’０９）（教）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 81 | TV | 2 |
| 27 | 心理・教育統計法特論（’０９）（教）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 84 | R | 2 |
| 28 | 発達心理学特論（’１１）（教）（臨）【臨床心理学プログラムと共通】 | 87 | TV | 2 |


（教）旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

（臨）旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

## ３．臨床心理学プログラム

| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 29 | 臨床心理学特論（’１１）(臨) | 90 | R | 4 |
| 30 | 臨床心理面接特論（’１３）－心理療法の世界－ (臨) （２０１３年度開設科目） | 95 | R | 4 |
| 31 | 臨床心理学研究法特論（’１２）(臨) | 101 | R | 2 |
| 32 | 心理・教育統計法特論（’０９）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】 | (84) | R | 2 |
| 33 | 発達心理学特論（’１１）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】 | (87) | TV | 2 |
| 34 | 教育心理学特論（’１２）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】 | (78) | R | 2 |
| 35 | 現代社会心理学特論（’１１）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】 | (75) | R | 2 |
| 36 | 家族心理学特論（’１０）(臨) | 104 | R | 2 |
| 37 | 精神医学特論（’１０）(環)(臨) 【生活健康科学プログラムと共通】 | (22) | R | 2 |
| 38 | 障害児・障害者心理学特論（’１３）(臨) （２０１３年度開設科目） | 107 | R | 2 |
| 39 | 臨床心理地域援助特論（’１１）(臨) | 110 | R | 2 |
| 40 | 学校臨床心理学特論（’０９）(教)(臨) 【人間発達科学プログラムと共通】 | (81) | TV | 2 |

(環) 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

(教) 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

(臨) 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

## ４．社会経営科学プログラム

| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 41 | 公共哲学（’１０）(政) | 113 | R | 2 |
| 42 | 日本の技術・政策・経営（’１３）(政) （２０１３年度開設科目） | 116 | R | 2 |
| 43 | 社会経済組織論（’１０）(政) | 119 | R | 2 |
| 44 | 行政裁量論（’１１）(政) | 122 | R | 2 |
| 45 | ２０世紀中国政治史研究（’１１）(政) | 125 | R | 2 |
| 46 | 大学のマネジメント（’０８）(政) | 129 | R | 2 |
| 47 | 地域の発展と産業（’１１）(政) | 132 | R | 2 |
| 48 | 産業立地と地域経済（’１２）(政) | 135 | TV | 2 |
| 49 | 自治体ガバナンス（’１３）(政) （２０１３年度開設科目） | 138 | TV | 2 |
| 50 | パーソナル・ネットワーク論（’１２）(政) | 141 | R | 2 |
| 51 | 環境工学（’１３）(環)(政) （２０１３年度開設科目） 【自然環境科学プログラムと共通】 | 144 | TV | 2 |
| 52 | 都市環境デザイン論（’１０）(政) | 147 | TV | 2 |

(環) 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

(政) 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

## 5．人文学プログラム（※旧文化情報学プログラム）

| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 53 | 国語国文学研究の成立（’１１）㊟ | 151 | R | 2 |
| 54 | 人類学研究（’１０）－環境問題の文化人類学－ ㊟ | 154 | TV | 2 |
| 55 | 哲学史における生命概念（’１０）㊟ | 157 | R | 2 |
| 56 | 美学・芸術学研究（’１３）㊟ （２０１３年度開設科目） | 160 | TV | 2 |
| 57 | アフリカ世界の歴史と文化（’１３）㊟ （２０１３年度開設科目）<br>－ヨーロッパ世界との関わり－ | 163 | R | 2 |
| 58 | 東アジアの歴史と社会（’１０）㊟ | 166 | TV | 2 |
| 59 | 日本の歴史と社会（’０９）㊟ | 169 | R | 2 |
| 60 | 異文化の交流と共存（’０９）㊟ | 173 | R | 2 |
| 61 | ことばとメディア（’１３）－情報伝達の系譜－ ㊟ （２０１３年度開設科目） | 176 | R | 2 |

㊟ 旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報科学群）」の科目です。

## 6．情報学プログラム

| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 62 | ２１世紀メディア論（’１１） | 179 | TV | 2 |
| 63 | 音楽・情報・脳（’１３） （２０１３年度開設科目） | 182 | TV | 2 |
| 64 | ソフトウェア工学（’１３） （２０１３年度開設科目） | 185 | R | 2 |
| 65 | 研究のためのＩＣＴ活用（’１３） （２０１３年度開設科目） | 188 | R | 2 |
| 66 | 情報学の新展開（’１２） | 191 | R | 2 |
| 67 | データベースと情報管理（’１２） | 194 | TV | 2 |
| 68 | ｅラーニングの理論と実践（’１２） | 197 | TV | 2 |
| 69 | 基礎情報科学（’０９）㊞ 【自然環境科学プログラムと共通】 | 200 | R | 2 |

㊞ 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

## 7．自然環境科学プログラム

| | | 頁 | メディア | 単位 |
|---|---|---|---|---|
| 70 | 現代物理科学の論理と方法（’１３）㊞ （２０１３年度開設科目） | 203 | R | 2 |
| 71 | 生命環境科学Ⅰ（’１０）－生物多様性の成立ちと保全－ ㊞ | 206 | TV | 2 |
| 72 | 生命環境科学Ⅱ（’０８）－環境と生物進化－ ㊞ | 209 | TV | 2 |
| 73 | 物質環境科学Ⅱ（’０８）－宇宙・自然システムと人類－ ㊞ | 211 | TV | 2 |
| 74 | 現代地球科学（’１１）㊞ | 214 | TV | 2 |
| 75 | 数理科学の方法（’０９）㊞ | 218 | R | 2 |
| 76 | 計算論（’１０）㊞ | 221 | R | 2 |
| 77 | 基礎情報科学（’０９）㊞ 【情報学プログラムと共通】 | (200) | R | 2 |
| 78 | 食健康科学（’０９）㊞ 【生活健康科学プログラムと共通】 | (8) | TV | 2 |
| 79 | 環境工学（’１３）㊞㊙ （２０１３年度開設科目）<br>【社会経営科学プログラムと共通】 | (144) | TV | 2 |

㊞ 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

㊙ 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910529 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 生活健康研究 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：本間　博文（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：藤原　康晴（放送大学客員教授）〕

## 講義概要

豊かな生活といえば，物質的な豊かさと解釈しがちであるが，精神的な豊かさ，心の豊かさが大きな比重を占めている。物質的に，そして精神的に豊かな生活が真に豊かな生活であり，質の高い生活といえよう。この科目では，生活者の家族や地域の人々等の「人的環境」，住居や生活用製品などの「物的環境」，「保健医療環境，「社会福祉環境」そして「生活者個人の状態」を対象に，生活の質にかかわる「主体性」，「創造性」，「関係性」，「相互扶助性」，「快適性」，「安心・安全性」，「持続可能性」等の観点からアプローチすることによって自己の生活の質の向上および他者の生活の質の向上につなげる方策や課題を追究する。

## 授業の目標

生活，保健医療，看護，社会福祉の各分野における生活者の自立と共生の観点から生活の質の向上を追究し，家庭，地域，企業，非営利組織，行政等において，生活や健康，福祉に関する課題を主体となって解決していく力量形成を目標としている。

## 履修上の留意点

この科目は，生活健康科学のキーワード「生活の質の向上」の基本的事項を概説したものであり，「生活の質の向上」にかかわる各分野の内容は，それぞれの専門科目の学習によって理解を深めてほしい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 今，なぜ「生活の質」が問われるのか | 生活の場における財・サービスは着実に充足されてきたが，生活に対する満足度は低下の傾向にある。生活のさまざまな場面の満足度の総合されたものを「生活の質」とみなすことができ，生活の各分野における質的アプローチが欠かせない。「生活者個人の状態」「生活者の人的環境」「生活者の物的環境」「保健医療環境」「社会福祉環境」を対象に，生活の質にかかわる観点から評価し，その質の向上につなげる枠組みを提案する。 | 藤原　康晴（放送大学客員教授） | 藤原　康晴（放送大学客員教授） |
| 2 | 個人と家族の生活経営 | 非婚化、晩婚化、離婚と再構成家族の増加等、多様化し流動化する個人と家族の生活において、生活経営の目標と方法が確立しにくく、生活の質の確保が困難になっている。第一に、生活経営の背景としての経済、社会、家族環境の状況の全体像示す。第二に、生活経営の問題点として、生活経営の主体形成が稀薄化していること、生活手段の利用と配置に格差があること等を取り上げる。第三に、多様な生活形態における生活経営の主体形成と家族の共同生活を促すような経済的、社会的環境を展望し、個人と家族の生活経営を総合的に支援する家族生活政策の必要性を強調したい。 | 松村　祥子（放送大学教授） | 松村　祥子（放送大学教授）<br>ゲスト：<br>宮本　みち子（放送大学教授） |
| 3 | 居住環境整備における住居の質 | 住まいは家族生活の容器である。このことは生活が変わるにつれて住まいもそれに対応しながら変わらなければならないということを意味している。生活の質を問題にするときに常にこのことを念頭において考える必要がある。本章では，第二次世界大戦後の家族のあり方の変化と住まいの対応について概観し，標準設計方式が大量住宅供給に果たした役割と、その仕組みによって提供された住宅の質について考察する。 | 本間　博文（放送大学名誉教授） | 本間　博文（放送大学名誉教授）<br>ゲスト：<br>亀田　紀子（放送大学大学院修了者） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 居住環境整備における自立と共生 | 戦後の住宅供給を担った旧「住宅公団」も改組され，供給の第一線から退いたことに示されるように，標準設計方式による大量供給はすでに時代の要請から外れ，多様なライフスタイル，ライフステージの居住者に対してどのように対応していくかが問われている。そのような観点から注目されているスケルトン・インフィル方式の考え方を、NEXT21のプロジェクトを通じて紹介し、さらにこの考え方を取り入れたスケルトン定借マンション方式を介して住まいづくりにおける共生のあり方を探る。 | 本間　博文（放送大学名誉教授） | 本間　博文（放送大学名誉教授） |
| 5 | 21世紀の住まいづくりに求められるもの | 21世紀の居住環境整備における重要な課題の一つは老朽化したマンションの建て替えである。この事業はまさに居住者主体の集合住宅づくりそのものである。この事業過程をトレースし，円滑に事業を進めるための条件を検証した結果，有能な事業コーディネータ（専門家）の存在と，集合住宅についての客観的であり，国民が容易に理解可能な性能表示制度の確立が必要であること，そしてこのような条件が整備されて初めて自立と共生が意味を持つことを述べる。 | 本間　博文（放送大学名誉教授） | 本間　博文（放送大学名誉教授） |
| 6 | 安全で安心できる消費生活　その1　商品・サービスの安全性確保と情報伝達 | 自然災害，犯罪，交通事故，消費する食品，生活用品，悪質商法，振り込め詐欺など生活のさまざまな場において，安全を脅かす事件や事故が続発している。それを過大あるいは過小に報道するマスコミの影響もあって，危険であるにもかかわらず多くの人々が安心している事例あるいはその逆の事例もある。商品・サービス消費にかかわる事故においても，危険の程度と人々の不安が対応していないものがある。とりわけ商品・サービス消費においては同じような事故が繰り返し起きており，この事故情報の収集とその伝達によって再発防止を推進する行政，事業者，生活者の役割を探る。 | 藤原　康晴（放送大学客員教授） | 藤原康晴（放送大学客員教授）<br>ゲスト：<br>中谷　延二（放送大学客員教授） |
| 7 | 安全で安心できる消費生活　その2　生活用製品による事故と使用者 | 生活用製品の事故が多発している。その事故原因の30%以上が使用者の不注意や誤使用によるものである。製品の使い方には，取扱説明書に記載されている「正常使用」，社会通念に反した無謀な「非常識な誤使用」およびその境界に「予見可能な誤使用」があり，これらの使用方法と責任所在について紛争処理の実態を取り上げて考察する。さらに，生活用製品による事故の未然防止，再発予防に向けて，行政，製造者の取り組みとともに実際の事故事例をもとに，使用者が自分の安全のために，そして他者の安全のために取り組まねばならないことは何かについて考える。 | 藤原　康晴（放送大学客員教授） | 藤原　康晴（放送大学客員教授） |
| 8 | 低炭素社会に向けた生活スタイル | 地球温暖化が急速に進行しており，その原因とされている温室効果ガスの排出削減が緊要である。しかし，家庭部門のエネルギー消費は増大を続けており，低炭素社会の実現に向けた生活スタイルの創出が求められている。ここでは，家庭から排出されるCO2を削減するため，生活系ごみのリディースを推進する市民，環境研究者，行政の協働した先進的な取組みを紹介する。さらに，日常生活のなかで排出しているCO2の量を認識することによる生活者一人ひとりのエネルギー消費削減の実践とその効果を考察する。 | 藤原　康晴（放送大学客員教授） | 藤原　康晴（放送大学客員教授）<br>ゲスト：<br>奈良　由美子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 健康生活とケアニーズ | 医学の進歩、保健医療福祉の充実、また経済的発展は、日本に世界一の長寿社会をもたらしたが、一方では、急速な高齢化や高度医療技術の進歩を背景に、必ずしも皆が「健康」でいるわけではない。慢性疾患の増加、健康生活に対する欲求の高まりは、常に人々を健康不安に陥らせており、むしろ「病い」や「障がい」とともに健やかに生きるという考え方が求められつつある。本章では、健康や保健医療の領域で20世紀後半に起こった考え方の変遷にはどのようなものがあるのか、またそれに応じて登場した「クオリティ・オブ・ライフ」という概念の導入を歴史的に理解することで、人々の生活の自立・自律と「クオリティ・オブ・ライフ」を高めるケアニーズとはどのようなものかを考察する。 | 井上 洋士（放送大学教授） | 井上 洋士（放送大学教授） |
| 10 | チームケアと看護活動の拡大 | 医療技術など治療医学の発展は、さまざまな疾病の原因の究明と治療に貢献し、平均寿命を飛躍的に延ばした。最新の治療も加わり、これまで治せなかった多くの患者の命を救っている。しかし、長期にわたるケアが重要な社会的課題になっており、それに対応する形でチームケアの必要性が出てきている。本章ではまず、チームケアとは何か、その一端を理解したうえで、チームケアの中心的な担い手である看護師は、チームの調整者としてどのように活動し役割を果たしているのか、具体的な事例を見ながら理解する。患者・家族や市民のチームケアへの参加とそれに向けてのレディネスについても考察を深める。 | 井上 洋士（放送大学教授） | 井上 洋士（放送大学教授）<br>ゲスト：<br>高﨑 絹子（放送大学客員教授） |
| 11 | 健康づくりに向けたプライマリケア体制の構築 | 人々のプライマリケアは，わが国では，疾病の治療は保険料を財源とした保険制度，そして疾病の予防は税金を財源とした自治体の保健事業という，ふたつの体制によって担われてきた。そして，充実したプライマリケア体制が確保され，平均寿命の大きな伸びがあり，結果として生活習慣病の増加が人々の健康づくりの深刻な課題になっている。そのような中で，平成18年6月に高齢者医療確保法が制定され，わが国のプライマリケア体制は，新たな段階を迎えているといえる。本章では，西洋医学のあゆみとそれを支えてきた体制，わが国のプライマリケア体制の特性と課題，また人々の健康づくりに向けた，今後のプライマリケア体制の構築をどのように展望するのか，それらのことを中心に学ぶ。 | 多田羅 浩三（放送大学客員教授・大阪大学名誉教授） | 多田羅 浩三（放送大学客員教授・大阪大学名誉教授） |
| 12 | わが国の保健事業の史的展開<br>－管理型から自発型へ－ | わが国では、昭和12年に保健所法が制定され、医療施設から独立して、衛生思想、衛生体制の充実、疾病予防に特化した事業を担う機関として保健所が生まれた。昭和57年に老人保健法が制定され、市町村の保健事業が，人々の健康づくりの基盤として大きな役割を果たしてきた。その実績の上に、平成12年3月に健康日本21が発表され、平成14年には健康増進法が制定された。そして平成20年4月には，高齢者医療確保法が施行され，メタボリック・シンドロームを対象とした特定健診・保健指導が、医療保険制度の保険者によって実施されることになった。本章では，わが国における保健事業体制の特徴、推進されてきた主な保健事業の内容、その概容、特徴について学び、特定健診・保健指導が実施されることになったことの歴史的意義について考える。 | 多田羅 浩三（放送大学客員教授・大阪大学名誉教授） | 多田羅 浩三（放送大学客員教授・大阪大学名誉教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 利用者主体の社会福祉 | 2000年以降の社会福祉制度においては、措置制度(行政処分による福祉サービス)から利用制度(利用者主体の契約選択)への移行が目指されている。そこで推進されているのは、個人の選択を尊重した制度、質の高いサービスの拡充、個人の自立生活を総合的に支援する地域福祉の充実である。しかし、社会福祉が特別なニーズをもった一部の人を対象にするものではなく、広範な人々の自立支援のために利用されるものに移行する中で多く問題も発生している。特に自立支援の理念と方法の揺らぎの中で雇用への誘導が過度になされたり、サービスの質量が不足して家族の負担が過重になっている等、利用者主体の社会福祉の実質化には程遠い状況がみられる。新たな理念と枠組みの社会福祉の現状と課題を整理し、有効な生活支援策になるために必要な福祉環境について検討したい。 | 松村 祥子<br>(放送大学教授) | 松村 祥子<br>(放送大学教授)<br><br>ゲスト:<br>大曽根 寛<br>(放送大学教授) |
| 14 | 社会福祉の担い手 | 社会福祉の政策・制度を立案する者、公私の諸機関で社会福祉制度の運営に係わる者、相談・コーディネイトに携わる者、サービス提供に直接従事する者等、多くの種類と数の担い手によって社会福祉は実施されている。少子高齢化、情報化、国際化等の社会変化と個人や家族の生活変化の中で、社会福祉は大きな転換期にある。拡大するニーズと制限される社会資源の狭間にあって、社会福祉が人々の生活の質向上に資するためにはどのような社会福祉の担い手が必要であろうか。社会福祉の担い手が現在、直面している問題と課題を明らかにし、これからの社会福祉の担い手のあり方について検討したい。 | 松村 祥子<br>(放送大学教授) | 松村 祥子<br>(放送大学教授)<br><br>ゲスト:<br>大曽根 寛<br>(放送大学教授) |
| 15 | つながりがもたらす「生活の質の向上」 | 家族，地域，職場等における人と人のつながりが生活満足度，充実感，安心感を与えていることが知られている。しかし，経済社会の変化やライフスタイルの多様化等によって人々のつながりが希薄化し，「生活の質」や社会にさまざまな影響を与えている。この科目の最後となるこの回では，生活者とその人的，物的，保健医療，社会福祉環境との共生を考えるとともに，社会福祉分野，次世代育成分野，環境保全分野，交通安全，防犯・防災分野，保健医療分野，看護分野，地域活性化分野など生活の各分野におけるつながりの構築に向けた活動を取り上げ，つながりの再構築のために何が必要であるかを考える。 | 藤原 康晴<br>(放送大学客員教授)<br>多田羅 浩三<br>(放送大学客員教授・大阪大学名誉教授)<br>井上 洋士<br>(放送大学教授)<br>松村 祥子<br>(放送大学教授) | 藤原 康晴<br>(放送大学客員教授)<br>多田羅 浩三<br>(放送大学客員教授・大阪大学名誉教授)<br>井上 洋士<br>(放送大学教授)<br>松村 祥子<br>(放送大学教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910502 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 家族生活研究 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：宮本みち子（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：清水新二（奈良女子大学名誉教授）〕

## 講義概要

現代の家族変動は激しく、21世紀のゆくえは家族のあり方を抜きにしては論じられないといわれるほど、その動向は重要テーマとなっている。講義では、家族の歴史的推移を整理し、そのなかに現代家族を位置付ける。また、制度、集団、家族生活としての家族の実態と理論的アプローチの方法を述べる。各章は家族理論と家族の実態を、研究の具体例を紹介しながら整理する。

## 授業の目標

家族現象に関して、生活者として、また、地域、行政、企業で家族や人間生活にかかわる仕事をしている担当者が、動きつつある家族の実態を多角的視点から柔軟に認識し、科学的知識や理論を修得し、家族をミクロ・マクロの両レベルから理解できることをねらいとする。また、個人・地域・公共の場で必要とされる家族をめぐる問題理解を深め、その対応についても社会的サービスや行政政策の観点から視野を広げる。

## 履修上の留意点

学部開講科目の「現代世界の結婚と家族('08)」「家族のストレスとサポート('08)」を合わせて学習すると理解が深まる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 家族をいかに観察するか | 家族のありようは、社会構造の影響を受けるとともに、家族のありようが社会構造に変化をもたらす。また、家族のありようは個人のライフコースを規定すると同時に、後者からも影響を受ける。本章では、家族のありようを社会と個人との関係から、歴史的に概観する。多元的に家族をとらえることで、われわれがかつての家族について抱いているステレオタイプな理解から脱却することが可能になる。<br>【キーワード】<br>世帯、親族、直系家族制度、夫婦家族制度、家族認知、サラリーマンと専業主婦からなる世帯 | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） |
| 2 | 集団としての家族 | 生活主体としての個人、生活システムとしての家族、社会構造の関連性から明らかになった実態は、どのように理解し、説明できるのか。その理論的枠組みを、制度、文化、規範、関係性、人間行為力をキーワードに整理する。ライフコース理論による家族研究を学習する。<br>【キーワード】<br>核家族、核家族の機能、家族の非社会性、家族周期モデル、家族発達モデル | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） |
| 3 | ライフコースと家族 | 個人の発達過程と家族のライフコースを実証研究から考察する。家族は時間の経過のなかで、発達的に変化することを理解する。そのさい、現代日本社会の家族をとりあげるだけでなく、欧米社会の家族を比較対象としてとりあげる。<br>【キーワード】<br>ライフコース、ライフイベント、ライフコースの（脱）標準化、ライフコースの（脱）制度化、ライフコースの個人化 | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） | 嶋崎尚子（早稲田大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 社会システムとしての家族 | 現代社会における生活システムと家族システムとの相互連関について解説したうえで、子どもを生活主体と捉えて、子どもの育ちを支える子育ちシステムと子育ちシステムにおける家族（親）の役割について問題提起をおこなう。<br><br>【キーワード】<br>生活システム、家族システム、子育ち支援システム | 神原文子（神戸学院大学教授） | 神原文子（神戸学院大学教授） |
| 5 | 相互作用としての家族 | 家族の相互作用研究を概説する。特に家族ストレス論（ABC－Xモデル、二重ABC－Xモデル、FAARモデルへの理論的進展）、「病」や「問題」を生み出す相互作用研究、そして演技や感情から家族の相互作用をみていく視座などを説明する。<br>【キーワード】<br>家族ストレス論、演技としての相互作用、感情としての相互作用 | 上野加代子（徳島大学教授） | 上野加代子（徳島大学教授） |
| 6 | ネットワークのなかの家族 | 個人をとりまくネットワークの一部として家族をとらえる。個人のアイデンティティが固定化されるにはネットワークが供給する「重要な他者」が不可欠であり、重要な他者の供給装置としての家族の意義を概説する。そしてアジアの女性の国際移動と携帯やパソコンを利用したネットワーク、彼女たちのアイデンティティの変容についてもみていく。<br><br>【キーワード】<br>個人のネットワーク、アイデンティティ、国際移動の女性化 | 上野加代子（徳島大学教授） | 上野加代子（徳島大学教授） |
| 7 | 家族の個人化 | 家族の個人化という観点から動きつつある現代家族の実態とその背景を説明する。「家族の個人化」研究を紹介すると共に、近代家族から現代家族への推移を、家族の個人化、個別化、私事化などの傾向と関連させつつ述べる。<br><br>【キーワード】<br>家族の個人化、個別化、私事化、近代家族、個人単位の社会 | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） |
| 8 | 生活者にとっての家族ライフスタイル | 生活者にとっての家族ライフスタイルの多様なとらえ方と、家族ライフスタイルが多様化することの意味を解説するとともに、家族ライフスタイルの多様化を左右するライフチャンスについて問題提起する。とりわけ、健常者のみならず、子どもも障がい者も、だれもが生きる権利を尊重されるためのライフチャンスの条件整備を喚起したい。<br>【キーワード】<br>生活者、家族ライフスタイル、ライフチャンス | 神原文子（神戸学院大学教授） | 神原文子（神戸学院大学教授） |
| 9 | 職業と家族 | 家族は職業・労働を通して所得を得て家族生活を再生産している。この回では家族と職業・労働をどのように結びつけて捉えるかを整理する。さらに、時代の推移とともに、職業と労働とがどのように発展し、そのことが家族にどのような影響を及ぼしてきたかをみていく。<br><br>【キーワード】<br>職業分類・職業・家族経営・雇用システム・日本型雇用・女性労働 | 宮本みち子（放送大学教授） | 宮本みち子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | ジェンダーと家族 | 近代化にともなう「近代家族」の誕生が、ジェンダー関係にどのような影響を及ぼしたかをみる。また、子育てや介護などのケア・ワークに焦点を当てて、ジェンダーの視点からみる。最後に、家族の仕事・時間・お金を、ジェンダーの切り口で整理する。<br>【キーワード】<br>ジェンダー・性役割分業・家父長制・近代家族・アンペイド・ワーク | 宮本みち子（放送大学教授） | 宮本みち子（放送大学教授） |
| 11 | 現代社会と家族ストレス | 家族が体験する家族ストレスに焦点をあて、関連する概念の整理をしながら家族がどのようにストレスに向き合い、対処をしていくのかを学ぶ。あわせて、現代の家族が直面しやすい家族ストレスの社会的背景についてABCXモデルの枠組みを使いつつ説明し、理解を深める。<br>【キーワード】<br>家族システム、家族ストレス、ストレス対処戦略、家族危機、家族生活の二面性 | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） |
| 12 | 家族と病い | 病いが決して個人的事柄ではなく周囲をも含めた社会的な事柄、とりわけ家族にとってしばしば大きな生活上の出来事となって影響をおよぼすことを確認する。そのうえで病者本人と周囲の相互作用について学び、これを家族の生活に当てはめて考えるとどうなるかを検討する。<br>【キーワード】<br>欲求充足の相互規定性、分配正義、疾病利得と病者役割、共依存、アダルト・チルドレン | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） |
| 13 | 別れと遺族支援 | 家族生活に焦点をあわせながら、別れと悲嘆、そしてそこからの回復について、自死（自殺）遺族の場合を取り上げ、その実態、直面する苦悩、課題を理解する。その上でそうした家族問題への社会的対応一般について学び考える機会とする。<br>【キーワード】<br>喪失と悲嘆、曖昧な別れ、封印された死、自死遺族、自殺対策基本法 | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） | 清水新二（奈良女子大学名誉教授） |
| 14 | 人口構造と家族 | わが国の人口構造は、少産少死という歴史的な転換期の最終段階にあるが、「超少子化」といわれる低い出生率の状態が続いている。このような少子高齢化は社会の様相を大きく変えつつある。その実態をおさえ、少子高齢化がマクロレベルとミクロレベルでどのような世代間関係と関わっていうのかを整理する。<br>【キーワード】<br>人口高齢化・人口転換・合計特殊出生率・第2の人口転換・少子化対策 | 宮本みち子（放送大学教授） | 宮本みち子（放送大学教授） |
| 15 | 社会政策と家族 | 家族にかかわる社会政策の構成と、それが家族とどのような関連性を有しているのか、近年の社会政策の特徴をみていく。また、現代家族が生活保障システムとどのようにかかわりながら変容を遂げ、そこにどのような課題があるのかを検討する。<br>【キーワード】<br>社会政策・家族政策・福祉国家・脱商品化・脱家族化・稼ぎ手モデル・個人モデル・ジェンダー政策 | 宮本みち子（放送大学教授） | 宮本みち子（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910510 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 食健康科学 （’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：小城　勝相　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：中谷　延二　（放送大学客員教授）〕

## 講義概要

高齢化した日本の社会において「健康」は最も関心の高い課題のひとつである。食生活は人間の生命と活動、健康を支えるもっとも基本的で重要な生活行為である。本科目ではヒトの健康の基盤となる重要な食品成分を解説し、生活の質"QOL"の向上に寄与することを目指した食の科学を論ずる。具体的には食品の機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）を概説し、食品素材に含まれる各機能を有する成分について解説し、動脈硬化、糖尿病、がんなどいわゆる生活習慣病の予防、食習慣の改善、機能性を発揮する食品（特定保健用食品、機能性食品など）について論究する。あわせて大きな社会的脅威と不安を与えた食品の安全性に関する問題と食環境の重要性を論ずる。

## 授業の目標

健康を目指した食生活を構築するためには食物（食品）に含まれる成分の基本的機能を理解する。栄養素の化学と機能をを習得し、さらに多種類の食材に含まれる微量な非栄養素の生体に有効にはたらく機能成分の理解を目標とする。あわせて嗜好性を豊かにする食品成分を知る。

## 履修上の留意点

化学と生物学の基礎を学んでおくこと、さらに栄養学、生化学関連の科目を履修していることが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 食品の機能と健康 | 人間生活のなかで「食」はヒトの健康を支える最も重要な位置を占める。生命の維持、活動エネルギーの補給に食物（食品）を摂取する。食品には3つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）があり、食品に含まれる成分が機能を発現する。これら機能成分について概説する。<br>【キーワード】<br>食品の機能、栄養機能、嗜好機能、生体調節機能、特定保健用食品 | 中谷延二（放送大学客員教授） | 中谷延二（放送大学客員教授） |
| 2 | 糖質の科学 | 糖質（炭水化物）は主としてエネルギー源としてはたらく。日常的に摂取する穀類、イモ類、豆類に多く含まれるデンプンが主なエネルギー源である。糖質は単糖類，少糖類（オリゴ糖）、多糖類に分類され、それぞれの有効な機能を紹介する。消化、吸収、代謝機構を述べ、エネルギー産生機構を解説する。<br>【キーワード】<br>糖質、単糖類、少糖類、多糖類、グルコース、デンプン、オリゴ糖、食物繊維、エネルギー産生 | 中谷延二（放送大学客員教授） | 中谷延二（放送大学客員教授） |
| 3 | 脂質の科学 | 脂質は水に不溶で、有機溶媒に溶解する脂溶性食品成分である。高エネルギー栄養素である。脂質を構成する脂肪酸類の化学的特性を述べ、脂質の酸化反応および生合成経路を解説する。脂質の消化、吸収機構、機能についても述べる。<br>【キーワード】<br>脂質、脂肪酸、不飽和脂肪酸、コレステロール、過酸化脂質 | 中谷延二（放送大学客員教授） | 中谷延二（放送大学客員教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | タンパク質の科学 | タンパク質は生命を維持する上で重要な機能を担う。タンパク質を構成するのは20種類のアミノ酸であり、グリシンを除くとすべてL型と呼ばれる立体構造を持つ。地球生命におけるL-アミノ酸の起源からタンパク質の構造、酵素反応、機能について解説する。<br>【キーワード】<br>L-アミノ酸、必須アミノ酸、タンパク質、酵素、ヘモグロビン | 小城勝相（放送大学教授） | 小城勝相（放送大学教授） |
| 5 | ビタミンとミネラルの科学 | これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要のある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のミクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。特にカルシウムの機能と骨の健康について解説する。<br>【キーワード】<br>ビタミン、ミネラル、カルシウム、鉄、コバルト、セレン | 小城勝相（放送大学教授） | 小城勝相（放送大学教授） |
| 6 | 嗜好成分の科学<br>香り成分の科学 | 「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来因子のひとつである「香り成分」を取り上げ、ヒトが香りを感知するしくみ、食品由来の香り成分、調理過程で生成する香り成分の化学的特性および機能性について論じる。<br>【キーワード】<br>おいしさを決定する因子、香り成分、香り成分の生成 | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） |
| 7 | 呈味成分の科学 | 食品に含まれる呈味成分は、食品のおいしさを決定する最も重要な食品由来因子である。ヒトが味を感知するしくみを概説し、呈味成分（甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の5基本味、および辛味、渋味）の化学的特性と機能性について論じる。<br>【キーワード】<br>甘味、塩味、酸味、苦味、うま味、辛味、渋味 | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） |
| 8 | 食品色素の科学 | 食品に含まれる色素は構造上、ポルフィリン系、カロテノイド系、フラボノイド系などに分類できる。それぞれについて化学的特性、機能性について論じるとともに、褐変など食品の保存、加工、調理過程で生じる色素についても解説する。<br>【キーワード】<br>ポルフィリン系色素、カロテノイド、フラボノイド、褐変 | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授） |
| 9 | 生体内酸化ストレスと疾病 | 地球上のほとんどの生命は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持することができる。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使った酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺している。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。あとで述べられる生活習慣病との関連において、望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。<br>【キーワード】<br>酸化ストレス、ATP、恒常性、ラジカル反応、活性酸素、生活習慣病 | 小城勝相（放送大学教授） | 小城勝相（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 活性酸素による生活習慣病と食による予防 | 第9章でのべた、望ましくない酸化、即ち、活性酸素によって起こると考えられる生活習慣病の食による予防について解説する。<br><br>【キーワード】<br>活性酸素、動脈硬化、メタボリックシンドローム、生活習慣病、抗酸化系食品、特定保健用食品、コレステロール、高血圧 | 小城勝相（放送大学教授） | 小城勝相（放送大学教授） |
| 11 | 糖尿病の食による予防と是正 | 糖尿病は戦後急速に増加し、その予備軍まで含めると40歳以上の国民3人に1人に達する。急増の主因は、食の欧米化と身体活動量の低下である。糖尿病は血糖が上昇する疾患であるが、自覚症状がないまま進行し、網膜、腎臓、神経の障害、動脈硬化疾患などの合併症を発生させ、患者の生命と生活の質を脅かす。食事は、運動・薬物療法と並ぶ糖尿病治療の三本柱であり、量とバランスが考慮された糖尿病の食事療法は、すべての生活習慣病の予防・治療の基本となる。<br><br>【キーワード】<br>肥満、インスリン、HbA1C、食事療法、運動療法、食品交換表、管理栄養士 | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） |
| 12 | 動脈硬化の食による予防と是正 | 食は健康の源であり、その量とバランスの乱れはさまざまな生活習慣病に結びつく。特に動脈硬化による脳卒中と心臓病は日本人の死因の三分の1を占めるが、糖尿病と共に、この動脈硬化を強く促進する脂質異常症（高脂血症）と高血圧の進行においても、身体運動と並び食習慣が深く関与している。現代に生きる我々は、これらの生活習慣病に対応するために、その食生活を根本的に見直すことが求められる。<br><br>【キーワード】<br>LDLコレステロール、HDLコレステロール、トリグリセリド、血圧、生活習慣病 | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） |
| 13 | メタボリックシンドロームとその他の生活習慣病の食による予防と是正 | メタボリックシンドロームとは、放置されがちな初期の高血糖・高血圧・脂質異常症（高脂血症）が、肥満を背景に同一人に重なり、動脈硬化疾患が多発する状態である。その根本的原因は、過食と運動不足によるエネルギーバランスの乱れであり、解決には生活習慣の是正が必須である。他にもアルコール性肝疾患、痛風、一部の癌などについても食生活との関連が指摘されている。一方、科学的根拠が薄い健康食品の氾濫も問題になっており、消費者側も科学的エビデンスに基づく適切な判断が必要である。<br>【キーワード】<br>リスクファクター、診断基準、内臓脂肪、インスリン抵抗性 | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） | 曽根博仁（新潟大学大学院教授） |
| 14 | わが国で頻発する食品由来疾患 | 食の安全について、刹那的な情報に振り回されて不安を感じる者が非常に多い。本講義では、消費者として注意すべき食品由来疾患を患者数に基づいてランク付けし、各疾患の原因と対策について概要を説明する。<br><br>【キーワード】<br>ノロウイルス、カンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオ、下痢原性大腸菌 | 西川禎一（大阪市立大学大学院生活科学研究科教授） | 西川禎一（大阪市立大学大学院生活科学研究科教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 健康な食生活 | 摂食の意義、食物の生体へのはたらき（食品成分の機能）について把握する。「何をどのように食べたらよいか」に関し、食生活指針、食事摂取基準、食事のバランス、食事バランスガイドを概説する。これからの栄養学として遺伝子学を取り入れたニュートリゲノミックス（栄養遺伝子学）を語る。<br><br>【キーワード】<br><br>食品機能、食事摂取基準、食事バランスガイド、遺伝子、ニュートリゲノミックス | 中谷延二（放送大学客員教授） | 菊﨑泰枝（奈良女子大学大学院教授）<br>小城勝相（放送大学教授）<br>曽根博仁（新潟大学大学院教授）<br>中谷延二（放送大学客員教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910618 | 履修制限 | 有 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 居住環境整備論 （’１２）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：藤本信義（宇都宮大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：小林秀樹（千葉大学大学院教授）〕
【本学担当専任教員：川原靖弘（放送大学准教授）】

講義概要

居住環境整備は、21世紀の日本社会が取り組むべき重要な社会課題の一つである。新規開発から既存の居住環境やコミュニティの再生に重点がシフトする中で、従来のように行政や民間ディベロッパーなどの供給側に依存した整備手法は様々な限界を示しており、そこに暮らす人々を主体とした居住者参加型の活動やプロジェクトが増えつつある。本講義では、このような住まい・まちづくりに関心をもつ住民の一人一人、あるいは、それを支援する専門家を目指す学生を対象として、住民主体の意義を考察するとともに、活動推進に必要な知識や様々な手法を提示することを狙いとする。2章から8章までが住まいづくり、9章から15章までがまちづくりと2部構成になっている。

授業の目標

本講義の目標は、第一に、様々な場面で取り組まれている居住環境の再生・整備の諸相を知ること、第二に、その背景にある社会情勢や住民主体の考え方を理解すること、第三に、プロジェクト推進に必要な事業手法や法制度、及び住民と専門家等の協働のあり方を学ぶこと、第四に、居住環境整備の今後の展開について自分なりの考えを育むこと、である。これらを通じて、一人一人の住民として、あるいは活動を支える専門家として必要な知識を習得する。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 住民主体の居住環境整備 | 全体の総論として、居住環境の再生・整備における住民主体の意義を講義するとともに、各回の概要を紹介する。また、新規開発が少なくなり既存環境の再生・整備が主題になるとともに、そこに暮らす住民自らが主体的に活動に取り組むことの重要さを示す。<br>【キーワード】<br>総論、住民主体、再生型の居住環境整備、住まい、まちづくり | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） | 小林秀樹（千葉大学大学院教授）<br>藤本信義（宇都宮大学名誉教授） |
| 2 | 協同を支える住まいの所有形態 | 欧米を中心に住民主体の住宅所有制度として発達しているコープ住宅（組合所有）を紹介するとともに、日本での新しい試みであるスケルトン定借、居住者法人所有、賃貸型コープ住宅について実例を交えて考察する。<br>【キーワード】<br>所有制度、コープ住宅、組合所有、スケルトン定借、区分所有 | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） |
| 3 | 居住者参加による住まいづくり | 住み手が自分たちの住まいづくりに自ら関わりながら、希望するライフスタイルを実現し、安心して住み続けられるコミュニティを形成している日本のコープ住宅（コーポラティブ住宅とも呼ぶ）の先進事例を通して、これからの集住のあり方や、住民が主体的に居住環境の形成に関わる意義について解説する。<br>【キーワード】<br>コープ住宅、居住者参加、コミュニティ形成、ライフスタイル | 森永良丙（千葉大学大学院准教授） | 森永良丙（千葉大学大学院准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 新しいシェア居住の可能性 | 単身化、少子高齢化が進む中で、集まって暮らす良さを求めた新しいシェア居住が登場し、一定の支持を得ている。それらを概観するとともに、共同の食事室等をもつコレクティブハウス、若者を中心に広がりをみせるルームシェア等に焦点をあてて解説する。<br>【キーワード】<br>シェア居住、コレクティブハウス、ルームシェア、シェアハウス | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） |
| 5 | 住民主体の福祉の住まいづくり | 住民があたり前に生活し、障がいを有したり、老いを迎えても安心が保障される住まいのあり方を描くとともに、市民やユーザーが参加する福祉の住まいづくりの最新事例の動向と、それらが内包する問題・課題と可能性について解題する。<br>【キーワード】<br>居住福祉、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘﾋﾞﾝｸﾞ、ケア付き高齢者住宅、障がい者コープ | 園田眞理子（明治大学教授） | 園田眞理子（明治大学教授） |
| 6 | 住民による地域の福祉拠点づくり | 住民が参加して生み出す福祉拠点・居場所づくりに着目する。我が国の郊外住宅地において住民主体に取り組んできた子育て、高齢者居住支援等の様々な福祉拠点・居場所づくりの現状と将来の展開可能性について、事例を踏まえつつ解説する<br>【キーワード】<br>福祉拠点、居場所づくり、子育て支援、NPO、中間支援組織 | 園田眞理子（明治大学教授） | 園田眞理子（明治大学教授） |
| 7 | 既存建築を生かした住まいづくり | 既存建築に新しい価値を与えながら空間再生を果たす事例が増えている。ストックを活用した住まいづくりも多くみられるようになった現在、ハードとソフトの提案にどのようなものがあるのか、その可能性と課題について、最新事例やプロジェクトを通して解説する。<br>【キーワード】<br>既存建築、ストック活用、リノベーション、コンバージョン | 森永良丙（千葉大学大学院准教授） | 森永良丙（千葉大学大学院准教授） |
| 8 | 団地型マンションの再生 | マンションの老朽化が問題になるとともに、マンション建替えはもちろんのこと、複数棟からなる団地型マンションの再生が注目されている。修繕、改修、建替えをどのように選択し、住民の合意形成をはかるのかについて考察する。<br>【キーワード】<br>マンション建替え、団地再生、棟別再生、生活サービス | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） | 小林秀樹（千葉大学大学院教授） |
| 9 | 地域コミュニティの再生 | 「地域コミュニティの崩壊」が言われるようになって久しいが、人々をつなぐ「絆」を何に求めるかが今日改めて模索されている。輸入概念であるコミュニティが、我が国の居住環境整備においてどのように扱われてきたのかをトレースする。<br>【キーワード】<br>コミュニティ、地域の絆、居住環境整備、ソーシャルキャピタル | 藤本信義（宇都宮大学名誉教授） | 藤本信義（宇都宮大学名誉教授） |
| 10 | 地域コミュニティとNPOの協働 | 我が国では、身近なコミュニティの最小単位として自治会・町内会が位置づけられる。人々のコミュニティ関係が希薄化するなかで、この地縁組織と、活動のテーマ性、専門性、機動性等を有するNPOとの連携・協働のありかたを、事例を通して考察する。<br>【キーワード】<br>地域コミュニテイ、自治会、町内会、NPO、協働 | 藤本信義（宇都宮大学名誉教授） | 藤本信義（宇都宮大学名誉教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | コミュニティ・ワークショップの手法 | 高度成長期に開発への抵抗から始まった住民運動は、今日、「守る」運動から「創る」運動へと展開している。このような経緯をふまえて、コミュニティを住民参加で守り育てることの意義とその具体的手法を学ぶ。とくに、コミュニティ・ワークショップの手法に着目する。<br>【キーワード】<br>住民参加、ワークショップ、行政の広域化、コミュニティ・カルテ | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) |
| 12 | 地域資源の活用とコミュニティ参加 | 我が国における人口減少社会の到来は、都市・農村を問わずコミュニティの活力に影を投げかけている。その中で、地域資源に改めて目を向け、その活用を図ることによってコミュニティの活性化をはかる住民参加のあり方を、具体的な事例を通して探る。<br>【キーワード】<br>地域資源、少子高齢化、定住環境整備 | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) |
| 13 | 経済基盤と居住環境の一体的整備 | 少子高齢化の進行が著しい農山村の居住環境をどのように維持していくかは、いわゆる「限界集落」の増加に伴って緊要の課題となっている。経済基盤の強化を図りつつ、快適な居住環境を守り育てることの必要性を、都市農村交流等の事例を踏まえて解説する。<br>【キーワード】<br>農山村、田園都市、経済基盤、都市農村交流、コミュニティビジネス | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) | 藤本信義(宇都宮大学名誉教授) |
| 14 | コミュニティ・NPOと連携した学校教育活動 | 小中学校の学習支援活動や交流活動など、地域のコミュニティやNPO、企業が学校と連携して地域性のある教育活動を実践し、教育効果を高めるとともに地域活力を得ている事例は全国に数多い。こうした関係が成立する背景、経緯と継続の条件などについて習志野市、大阪市および横浜市の事例をもとに考察する。<br>【キーワード】<br>小学校、学習支援、学社連携、学社融合 | 三橋伸夫(宇都宮大学教授) | 三橋伸夫(宇都宮大学教授) |
| 15 | 中山間地域の地域経営と住民主体形成 | 過疎化・高齢化などの長期的社会変動、自然災害や市町村合併など突発的な社会変動を経て、地域経営が困難さを増しつつあるわが国農山村の地域経営の持続性を確保すべく、住民と行政が協働して「新たな公」の一翼を担いつつある状況を報告し、今後の住民主体のあり方について考察する。<br>【キーワード】<br>中山間地域、地域経営、新たな公、住民主体 | 三橋伸夫(宇都宮大学教授) | 三橋伸夫(宇都宮大学教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8910600 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　生活リスクマネジメント　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：奈良由美子（放送大学教授）　　〕

## 講義概要

生活の質を高めるうえで生活リスクを理解し低減することは不可欠である。このことは生活者自身はもちろん、地域、企業、行政といったリスク管理主体を含めた社会全体の課題といえる。本科目では、リスクの様相の局面、リスクの認識の局面、そしてリスクへの対処の局面から、生活リスクマネジメントの理論と実践についての講義を行う。

## 授業の目標

リスクの増大化・複雑化する現代において、生活上のリスクを把握し管理することが社会的にも求められている。本科目では、喫緊の課題ともいえる生活リスクマネジメントについて、知識の提供と実践能力の育成を行うことを目的とする。その際、生活者自身はもちろん、地域、企業、行政といった立場の異なるリスク管理主体の協働までを射程に入れた検討を行いたい。

## 履修上の留意点

生活の総合性や現代的課題をまず理解するためにも「生活健康研究（’09）」を履修していただきたい。また、複数の主体の協働、そのなかでの生活者の課題については「生活知と科学知（’09）」（学部科目）も履修しておくことが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | リスク研究へのいざない | 科目全体の導入回として、この回では、現代社会にあってリスクを理解しこれを管理することの意義についての問題提起を行う。その際に、生活あるいは生活者の視点からリスクをとらえる本書の立場を示しておきたい。また、リスク研究についての関連学問領域におけるアプローチを紹介する。<br>【キーワード】<br>リスク、生活、生活者、リスク研究、リスク社会、安全と安心 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 2 | リスク概念 | リスクの本質は不確実性にある。リスクとは何であるかを理解するためには、リスクの特性と不確実性とのかかわり、また不確実性から生じる評価の問題、認識の問題、さらには対応の問題を理解することが必要となる。これらの内容を中心に、リスクの定義、リスクの成分といった項目についても見ていく。<br>【キーワード】<br>不確実性、確率、望ましくない結果、頻度、強度、ハザード、ペリル、ダメージ | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 3 | リスクの実際 | この回のねらいは、わたしたちの生活にどのようなリスクがどの程度の大きさで存在しているのかを把握することによって、リスクの様相の局面を理解することである。具体的には、人間の死亡についての統計データをみることで、いくつかのリスクの大きさをとらえる。また、現代社会および一人の人間の生活に発生するリスクについての分類を提示する。<br>【キーワード】<br>平均寿命、年間死亡リスク、生涯死亡リスク、リスクの分類 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | リスク認知とバイアス | リスクの本質は不確実性にあり、これに人間の認知能力の制約が関わることで、リスク情報の処理の過程には認知バイアスが生じる。この認知のゆがみが、主観リスクと客観リスクとの乖離をうむ。この回では、リスク認知のバイアスとは何かについて、具体的ないくつかの認知バイアスをとりあげながら説明する。<br>【キーワード】<br>リスク認知、客観リスク、主観リスク、認知バイアス、ヒューリスティック、リスク情報、正常性バイアス | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 5 | リスクイメージとリスクの受容 | わたしたちはリスクについてのイメージを形成し、そのイメージによってリスクを判断している。ひとびとのリスクイメージとリスク認知について見ていく。また、ひとびとのリスクの受容の実態とその要因について、もっとも低いレベルでのリスク受容すなわちゼロリスク要求にも言及しながら考える。<br>【キーワード】<br>リスクイメージ、リスクの認知地図、リスク受容、便益、自発性、ゼロリスク | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 6 | 社会のなかのリスク | リスクについての認識はひとによって違う。これは、各個人がおかれている社会的コンテクストが異なるためである。この回では、リスクに対する見方や考え方がどのように社会的に構成されるのかについて考える。日本におけるリスク観の特徴やその背景にも触れる。<br>【キーワード】<br>社会的コンテクスト、個体的要因、文化的・環境的要因、国際比較、日本人のリスク観 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 7 | リスクマネジメントの基本 | リスクを低減するための管理手法であるリスクマネジメントに関して、その意義と基本を提示する。リスクの分析や評価、リスク処理の手法を含む具体的なリスクマネジメントプロセスについて述べる。また、生活者が自らの生活にリスクマネジメントを導入する際の留意点や積極性についても言及する。<br>【キーワード】<br>コスト、PDCAサイクル（PDSサイクル）、リスクマネジメントプロセス、リスク分析、リスク評価、リスク処理技術 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 8 | リスクコミュニケーション | あるリスクについて立場の異なる複数の主体が関係するとき、リスクについての問題解決が困難になることが多い。リスクに対する考え方や意見の違いがあるとき、リスクコミュニケーションが必要となる。この回では、リスクコミュニケーションについて、その意義と基本的な方法を考える。<br>【キーワード】<br>リスクコミュニケーション、生活者、専門家、専門家バイアス、欠如モデル、相互作用プロセス | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 9 | 自然災害 | わが国は世界有数の自然災害国である。自然災害は生活に大きな損害をもたらす。この回では自然災害について、その様相、認識、対処の局面を考える。とくに地震災害に焦点をすえながら、社会と生活者にとっての対処の方法と課題を検討する。<br>【キーワード】<br>自然災害、地震、公助、自助、共助、時間 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 犯罪 | わが国の安全神話の崩壊が指摘されて久しい。この回では、生活の安全・安心を脅かす犯罪について、リスクの様相、認識、対処の局面からアプローチする。具体的には、犯罪の認知件数や被害状況等から犯罪の実際をおさえるとともに、生活者の体感治安と犯罪不安の様子を見ることで、犯罪に対する安全と安心の阻害状況を理解する。そのうえで、犯罪への対処の方策について考えていきたい。<br>【キーワード】<br>犯罪、認知件数、犯罪被害、体感治安、犯罪不安、犯罪者、ターゲット、環境、地域 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 11 | 製品安全 | 科学技術が進展し消費者のニーズも多様化する現代社会にあって、さまざまな製品が開発・販売され、生活の利便性を高めている。同時に、その使用による被害も指摘されている。この回では、日常生活で使用する製品をとりあげ、事故や被害実態を見たうえで、製品安全に対する生活者の認識をおさえ、さらにこれへの対処を行政、事業者、そして消費者の立場から考えていく。<br>【キーワード】<br>消費者、製品事故、製品評価技術基盤機構（NITE）、警告表示、消費生活用製品安全法、製造物責任法（PL法）、責任、誤使用と正常使用、製品の不確実性 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 12 | 食品安全 | 食の安全・安心に対するひとびとの関心は高い。この回では食品の安全性について、客観的な様相を具体的なデータによっておさえ、これとひとびとの主観的な認識との差がどうであるか、さらにはその差の要因は何かを考察する。総じて、現代社会にあってわたしたちが食品リスクに向かい合うための手がかりを考えていきたい。<br>【キーワード】<br>食の安全・安心、食中毒、食品添加物、食品安全委員会、BSE問題、遺伝子組換え食品、中国製冷凍ギョーザ事件、マスコミ報道 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 13 | 信頼とリスク | 現代社会においてリスクを考えるとき、重要な分析概念のひとつとなるのが「信頼」である。この回では、まず信頼の意味ならびに生活の安全・安心と信頼との関わりをおさえる。そのうえで、リスクをめぐる複数の主体のあいだで信頼を構築することの意義と可能性について、主要モデルや具体的事例を示しながら考えていく。<br>【キーワード】<br>信頼、生活の外部依存、安全の外部依存、伝統的な信頼モデル、主要価値類似性モデル、専門的能力、姿勢、誠実さ、参加の重要性、第三者 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 14 | 生活者の主体性とリスクガバナンス | この回では、生活者がリスク社会に主体的に関わることの意義と可能性を検討する。具体的には、ソーシャル・キャピタルの醸成とリスクガバナンスの展開をとりあげ、そこに生活者が能動的に参加することでもたらされる新たなリスク対処資源や問題解決手法について検討していく。<br>【キーワード】<br>主体性、参加、ソーシャル・キャピタル、信頼、ネットワーク、互酬性の規範、リスクガバナンス、フレーミングの多角化 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |
| 15 | 安全と安心、そして信頼の構築にむけて | これまでに現代社会における生活リスクについて、その様相、認識、対処の局面から述べてきた。最終回では、それらの内容を①ゼロリスクを前提としない実際的なリスクマネジメントの導入、②安全に裏付けられた安心の実現、③生活者のリスク管理の主体としての復権の観点から総括することで、本書全体のまとめを行う。<br>【キーワード】<br>リスクマネジメントのクライテリア、ゼロリスク、安全と安心、不安、生活全体への満足、主体性、セルフエンパワメント、信頼 | 奈良由美子（放送大学教授） | 奈良由美子（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910570 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 健康科学の史的展開 （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：多田羅浩三（大阪大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：高鳥毛敏雄（関西大学教授）〕

## 講義概要

平均寿命世界一の社会は、世界一多様な健康状態の人たちが生活する社会であり、そのような社会が求めている新しい科学の役割こそ、「健康科学」が担わなければならないか。そうした課題に対し、歴史的な視点に立って、講義ではヒポクラテス以来の人類の医学のあゆみ、また人々の健康を支える制度の構築に先駆的な取り組みをすすめてきたイギリスのプライマリケア・システムの発展の系譜や現状、またわが国の現代の地平について学ぶ。そして健康科学の新しい展望について、21世紀の健康科学が、人々の多様な健康状態を支える科学として、どのような課題に直面し、どのような方向に向かっているのか、考えたい。

## 授業の目標

「健康科学」が、どのような道を歩んで築かれてきたのか、現在どのような地平にあるのか、21世紀にどのような方向を展望すべきか考察することによって、人々の保健、医療を担う専門職の人たちが、高齢社会の中で直面する今日の人々の多様な健康課題に対し、より広く、より長期の展望のもとに、より自立的な対応をすすめることができるよう、見識を培って欲しい。

## 履修上の留意点

健康科学は、対象とする領域が非常に広い。これに対し、歴史的な視点や海外の経験に学ぶという観点から、アプローチして欲しいという考えから、本講義では、健康科学の原点である医学の歴史、社会保障制度の母国とされるイギリスのプラマリケア発展の系譜、現状を最初に取り上げることにした。そのことに留意して履修いただきたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Ⅰ．医学の歩み<br>1．ヒポクラテスの医学 | 西洋医学の父といわれ、医神アスクレピオスを奉じて活躍した、ヒポクラテスの医学の、症状の観察、液体病理学、瘴気論という方法と考え方、またヒポクラテスの医学を継承したローマ時代の医師、ガレノスの生気論を中心に、その内容、特徴について学び、西洋医学の原点を確認したい。<br>【キーワード】<br>ヒポクラテスの医学，症状の観察，液体病理学，瘴気論，生気論 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 2 | 2．液体病理学・瘴気論 | 人間の発見をモットーとする、ルネッサンスという時代を迎え、ヴェザリウスの解剖学が生まれ、ハーベイ、ラマッツィーニ、モルガーニ、ビシャー、シュヴァン、ウイルヒョウらによって刻まれた、ヒポクラテスの液体病理学から細胞病理学へのあゆみを通じて得られた、人間の疾病の本態についての理解、その特徴について考えてみよう。またヒポクラテスは空気が悪いから病気になる，環境が悪いから病気になると考えた。この瘴気論との闘いに，最初に名乗りをあげたのが，ジョン・スノーである。スノーがどのような手法によって、瘴気論の世界を突破する地平を開いたか学ぶ。<br>【キーワード】<br>解剖学，血液循環論、働く人々の病気、一般解剖学、細胞病理学，コレラへのたたかい | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 3 | 3．瘴気論・症状の医学 | パスツールによる免疫学、コッホの細菌学、フレミングによる抗生物質の発見によって、瘴気論への挑戦がすすみ、ナイチンゲールの新しい病院機能、看護学校の創設、ペッテンコーフェルの衛生学によって瘴気論が継承された。それらの実践の中ですすめられてきた疾病への闘いのあとをたどる。ヒポクラテスの医学において、最も重視された手法は症状の詳細な観察と記録である。産業革命を背景に登場してきた病院を舞台に区分収容という方法を取り入れ、ブライトが症状の中に疾病を発見するという診断学の手法を明らかにした。診断学を教える場所として病院附属の医学校が創設され、現代の医学を担う医師が養成されてきた。<br>【キーワード】<br>免疫学，細菌学，抗生物質，看護学校，衛生学、病院、区分収容、診断学 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | Ⅱ. イギリスのプライマリケアの歩みに学ぶ<br>4. 人々の健康を支えるシステム | イギリスでは、1911年の国民健康保険制度の制定以降、公衆衛生、一般医の医療の上に、病院の医療が重ねられるよう、プライマリケアの管理システムをどのように構築するか、1948年の国民保健サービスの実施を経て、100年に近い取り組みがすすめられてきた。現地にオックスフォードシャー・プライマリケア・トラストを訪問し、話を聞いた。システム構築の歩みについて学び、トラストの現状や成果、課題について紹介したい。<br>【キーワード】<br>国民健康保険制度、国民保健サービス、ドーソン報告、国民保健サービス・地域ケア法，プライマリケア・トラスト | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 5 | 5. 人々の健康を支える施設 | プライマリケアの中核を担っているヘルスセンター、地域ケアの拠点施設として幅広い役割を果たしているコミュニティ・ホスピタル、多様な住民を対象とした母子保健事業の拠点となっている小児センター、在宅ケアを受けている難病の子どもたちのためにかけがえのない役割を担っている小児のホスピス、これらの施設が、人々の身近にあって、広くイギリスの人々のプライマリケアを担っている。オックスフォードに設置されている、これらの施設を訪問し、話を聞いた。これらの施設の発展の系譜について学び、施設の役割や特徴について紹介したい。<br>【キーワード】<br>ヘルスセンター，コミュニティ・ホスピタル，小児センター，子どものホスピス | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 6 | 6. 人々の健康を支える多様な専門職 | 疾病のみではなく健康状態を診るという理念のもとに活躍している一般医、また地域の健康課題のよき相談相手として活躍してきた保健師、ナイチンゲール以来の伝統をもち、在宅ケアを担っている地区看護士など、多様なる保健専門職によって、イギリスの人たちの健康は支えられている。オックスフォードを訪問し、これらの専門職の人たちに会って、話を聞いた。プライマリケアを担う専門職の人たちの発展の系譜について学び、彼らが担うサービスの現状や特徴について紹介したい。<br>【キーワード】<br>一般医、保健師、地区看護師、地区新生児臨床看護師 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 7 | Ⅲ. 現代の地平<br>7. 現代社会の健康課題 | 明治期に入り、産業化をすすめる中で、貧困問題、労働者の健康問題、不衛生の問題が生じてきた。これに対するために社会制度が整えられ様々な健康課題を克服してきた。高度経済成長期には公害などの環境汚染問題が課題となった。近年は生活習慣病が健康課題として大きな課題となっている。生活習慣病に対するには制度を整えるだけではなく、人々が主体的に健康を守る社会づくりが大切となってきている。ヘルスプロモーションが社会運動として進められてきている理由もここにある。明治時代からの健康課題の推移を学び、現代社会における健康課題の現状を鳥瞰し、それに対する社会のあり方や重視されている考え方について学ぶ。<br>【キーワード】<br>天然痘，コレラ，結核，脳卒中、がん、生活習慣病、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |
| 8 | 8. 人口政策と母子保健 | わが国は多産多死型からは少産少死型の社会になってきている。人口政策、母子保健の対策は、社会、国家の存亡に関わる重要な問題である。 人口政策、母子保健活動の歩みを振り返ってみる。人口政策の点からは合計特殊出生率が低下し、少子化に対する対策が課題となっている。母子保健領域においては、乳児死亡率、妊産婦死亡率は大幅に改善しているが、子育て支援、乳幼児に対する虐待防止対策、発達障害者に対する支援など、新たな難しい課題に対する対策が求められてきている。これらについて学ぶ。<br>【キーワード】<br>人口政策、乳幼児死亡、合計特殊出生率、保健師、保健所、母子保健法、地域保健法、自治体 | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 9. 労働者に対する健康への挑戦 | 農耕、狩猟生活をしていた人々の中から鉱工業の労働者として生活する者、また工場労働者、勤務者、自営業者などとして働らく人々が登場してきた。働らく人々の健康問題は現代社会におけるの重要な健康課題となっている。労働と健康、職場と健康について歴史的経過及び労働者の健康保護制度を理解する。働く人々の健康管理体制、健康増進対策、また労働災害、職業病、作業関連疾患の予防を取り巻く状況について考える。<br>【キーワード】<br>農耕社会，労働者，勤務者，自営業者 | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |
| 10 | 10. 都市と健康 | 先進国における「都市と健康」の歴史を振り返ってみる。都市の健康問題は労働者人口の増加により生じてきている。都市には商人、様々な自営業者、労働者が存在し、現在フリーター、ネットカフェ難民、ホームレスなどの不安定生活者の健康管理も課題となっている。欧米諸国の大都市には移民などの外国人の問題が大きい状況にある。HIV感染症、薬物汚染、多量飲酒者、暴力・虐待などの問題も生じている。社会的な要因を踏まえた都市の新たな健康運動が進められている。都市と健康について歴史的な流れの中で現代社会における都市と健康について学ぶ。<br>【キーワード】<br>都市、不安定就労者、結核問題，HIV感染者，ホームレス、移民、ヘルシーシティーズ | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |
| 11 | 11. 健康の危機管理 | わが国の健康危機管理体制としては、保健所体制の中で食品・環境衛生、母子保健、結核対策が進められてきた。しかし、地域保健法が成立してから、阪神淡路大震災などの自然災害、腸管出血性大腸菌O157の流行、バイオテロの脅威、SARSや新型インフルエンザなどの新感染症の発生に際し、国民の健康を保護するための公衆衛生制度の再構築が課題となってきている。ここでは、わが国のこれまでの健康危機事例に基づき、健康危機管理体制の現状や課題について紹介する。また、イギリスにおける新たな健康危機組織について学ぶ。<br>【キーワード】<br>伝染病対策，食品衛生，環境衛生，自然災害、大腸菌O157、バイオテロ、SARS、食品安全、新感染症 | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |
| 12 | 12. 人々の健康を支える事業 | 人々の健康を支えるため事業は、社会の様々な組織や団体の人々によって実施されている。健康を支える事業は、保健所、自治体、地域医師会などに属する医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、理学療法士などの専門職の人々によって担われている。学校や事業所においても健康事業が行われている。また、地域の健康づくりに関わる市民組織や地域組織の活動も重要である。人々の健康を支える事業について紹介する。<br>【キーワード】<br>健康支援、医療保健専門職，専門職団体，民間団体，自助組織，公衆衛生活動 | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） | 高鳥毛敏雄（関西大学・教授） |
| 13 | Ⅳ. 21世紀の展望<br>13. 公衆衛生の役割と展望 | 現代の公衆衛生は、産業革命を背景とした人口の都市への集中と国際的な経済交流の発展を背景とした感染症の流行という事態に直面して生まれた社会の制度である。フランクやチャドウイック、ラムゼイ、シモン,長与専斎らの活躍によって構築されてきた、公衆衛生の伝統について学ぶ。とくに社会の関与が人々の健康に対し、どのような地平を開いてきたかについて考える。<br>【キーワード】<br>フランク，チャドウイック，ラムゼイ，シモン，長与専斎、社会の関与，4つの地平 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 14. 健康日本21の開く地平 ―制度と知恵をつなぐ― | 西洋医学は、人類の疾病への闘いに大きな成果をあげてきた。その現代の優等生は日本である。1986年には男女ともに平均寿命世界一の記録を達成した。そのような実績にもかかわらず、わが国の生活習慣病による死亡数は激増している。平均寿命世界一の社会は、最も多様な健康状態の人たちが生活している社会である。結果として、人々の生活習慣、医療保険制度、保健事業や福祉事業のあり方が厳しく問われている。現代の健康科学は、新たな展開を厳しく求められているといえる。そのような状況の中ですすめられている、健康日本21の推進、特定健診・保健指導実施の意義について考える。<br>【キーワード】<br>平均寿命世界一，生活習慣病，医療保険制度，保健事業，健康日本21、特定健診・保健指導 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |
| 15 | 15. 社会を支える制度の歩みと展望 | 人類の歴史の中で生まれ発展してきた制度の中で、とくにイギリスの歴史にみられる、陪審制度、議会制度、大学、修道院の解体と救貧法、プロフェッションの誕生などにフォーカスをあてて、長い歴史の中で人々の社会を支える制度が築かれてきた歩みについて学ぶ。そして講義の最終回として、21世紀の今日、社会を支える制度のあり方について、社会保障の母国といわれるイギリスにおける歩みから何を学ぶか、何を展望するか考えたい。<br>【キーワード】<br>陪審制度，議会制度，大学，救貧法，プロフェッション，社会の制度，人々の知恵 | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） | 多田羅浩三（大阪大学・名誉教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8910553 | 履修制限 | 有 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　精神医学特論　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）〕

## 講義概要

精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深くて広い学問である。本科目は臨床心理士養成コース大学院の科目であるので、専門的な医学的な知識がなくとも理解できるよう工夫がなされている。今日見られる代表的な疾患を広くとりあげて事例をあげつつ紹介し、診断ばかりでなく治療の基本的な流れを解説することに力点が置かれている。

## 授業の目標

主な精神疾患について、症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを正しく理解習得する。そのことを通じ、精神障害をもつ人々がどんな困難を抱えているかを知るとともに、適切な援助を行うにはどうすればよいか具体的に工夫できる力を養う。また、医学・医療において精神医学が担っている役割を理解し、今日の社会において精神障害者福祉が抱えている課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。

## 履修上の留意点

あらかじめ学んでおく科目として特に指定するものはないが、日頃から健康や医学の問題に関心を持ち、家庭医学書や新聞・書籍などを通じて心身の健康についての基礎知識を養っておくことが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 精神医学とは何か | 医学において精神医学の占める位置を確認しつつ、精神医学の歴史と現状を展望する。精神症状を把握するための面接法、臨床検査法、診断法についての基本的な考え方を学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>精神医学、従来診断、DSM-IV、ICD-10 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |
| 2 | 気分障害(1) | 従来の診断名では躁うつ病と呼ばれる気分障害をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて学ぶ。今日の精神医療において最も重要なテーマのひとつである。<br><br>【キーワード】<br>気分障害、躁うつ病、うつ病 | 仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長） | 仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長） |
| 3 | 気分障害(2) | 気分障害の治療法を構成する薬物療法と精神療法の役割を述べる。抗うつ薬・気分安定薬など主な治療薬の特徴と注意点、精神療法の基本原則のほか、電撃療法や認知療法などにも言及する。<br><br>【キーワード】<br>抗うつ薬、気分安定薬、認知療法 | 仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長） | 仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 統合失調症(1) | かつて精神分裂病と呼ばれていた統合失調症は、現在でも精神医療の大きな課題である。その概念、疫学、症状、診断基準、成因仮説、最近の動向などについて学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>統合失調症、精神分裂病、ドーパミン仮説 | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |
| 5 | 統合失調症(2) | 統合失調症の治療法すなわち、薬物療法、精神療法、作業療法、SSTなどについて述べる。抗精神病薬の作用・副作用と使用の意義を理解するとともに、疾患の特徴を踏まえた援助のあり方について考える。<br><br>【キーワード】<br>抗精神病薬、作業療法、SST | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |
| 6 | 不安障害と関連事項(1) | 従来の診断名では神経症と呼ばれる疾患群を不安障害としてとりあげ、その主なものについて、疫学、症状、治療法などを述べる。本章ではパニック障害、強迫性障害、恐怖症などを扱う。<br><br>【キーワード】<br>神経症、不安障害、パニック障害、強迫性障害、恐怖症 | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |
| 7 | 不安障害と関連事項(2) | 第6章に続き，不安障害と関連事項について学ぶ。本章ではヒステリー、適応障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などに焦点を合わせ、ストレスと心の健康の関係についても考える。<br><br>【キーワード】<br>ヒステリー、転換性障害、解離性障害、適応障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD) | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |
| 8 | 身体疾患による精神障害 | 身体疾患にともなって生じる精神障害は、精神医学においてはきわめて重要なテーマである。代表例を通じてその特徴を学び、現代における意義を考える。てんかんについても簡単に言及する。<br><br>【キーワード】<br>症状性精神病、器質性精神病、てんかん | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |
| 9 | 小児期の精神障害 | 小児期に明らかとなる広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などについて述べる。これらの障害は今日注目を集めており、正しく理解することが必要である。<br><br>【キーワード】<br>発達障害、広汎性発達障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害(ADHD) | 市川 宏伸(東京都立梅ヶ丘病院院長) | 市川 宏伸(東京都立梅ヶ丘病院院長) |
| 10 | 思春期・青年期の精神障害 | 思春期・青年期にはさまざまな精神障害が発症・顕在化する。その中で特にこの時期に特徴的な疾患としてパーソナリティ障害と摂食障害をとりあげ、概念、症状、診断、治療などについて学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>パーソナリティ障害、摂食障害、神経性無食欲症、神経性大食症 | 石丸 昌彦(放送大学教授) | 石丸 昌彦(放送大学教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 壮年期の精神障害 | 壮年期の精神障害は、職場や家庭での社会的責任やストレスと関連するものが多い。本章では心身症とアルコール依存症をとりあげ、その概念や症状について学びつつ今日の現状を展望する。<br><br>【キーワード】<br>心身症、アルコール依存症、物質関連障害 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |
| 12 | 老年期の精神障害 | わが国が直面している超高齢化社会では、高齢者の心の健康はきわめて重要な課題である。本章では老年期認知症を中心に、老年期の精神疾患の特徴や注意点を学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>老年期認知症、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、うつ病 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |
| 13 | 精神科治療(1) | 精神科治療薬の種類とその推定される作用機序について述べる。個々の治療薬の特徴を知るとともに、精神科の薬物療法において注意すべき点を学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>向精神薬、臨床試験、EBM | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |
| 14 | 精神科治療(2) | 精神科面接の基本的な進め方について学び、面接そのものが持つ治療効果について理解する。また、精神疾患の特徴に応じた精神療法のあり方について、いくつかの例を通して理解する。<br><br>【キーワード】<br>精神科面接、心理教育、疾患に応じた精神療法的配慮 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |
| 15 | 日本の精神医療の現状 | 日本の精神医療の歴史と現状を行政・法律や社会意識の面から検討する。本人の同意なしに治療を行う場合の人権保護の問題や、精神障害者の社会復帰を支える援助のあり方を含む。<br><br>【キーワード】<br>精神保健福祉法、強制入院、患者の人権、社会復帰 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910626 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ ヘルスリサーチの方法論 （’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：井上洋士（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

健康や保健医療に関する研究には、基盤となるアプローチがあるのと同時に、多様な研究方法が存在する。調査研究について大別すれば、量的研究や質的研究があり、またそれらを組み合わせた方法論的トライアンギュレーションも存在する。また、たとえば量的研究においても、介入的研究や質問紙による調査、WEB調査なども存在する。本科目では、研究遂行のためのガイドとなるべく、健康や保健医療の研究のアプローチの基礎について概略を紹介し、一部の方法については具体的に言及する。保健・医療・看護・健康に関連する学生をコアターゲットとして考えているものの、福祉、生活、心理、教育、社会など、幅広い領域の学生も受講できるよう、また内容的にも各自の研究に十分役立つよう、工夫してある。

授業の目標

健康や保健医療に関する基本的な研究アプローチのうち、主要なものについての基本的理解を深めること、及び大学院における実査や論文作成等の研究を実施するにあたり、本科目で学んだ事項を発展的に応用し、研究テーマの焦点を絞って、そのテーマに合った方法を選択する実践的な力を培っていことを目標とする。

履修上の留意点

他の生活健康科学プログラム関係の科目と並行して学ぶことが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ヘルスリサーチと方法論 | 本科目での学び方について解説をする。特に、「研究とは何か」を改めておさえたうえで、ヘルスリサーチないしは保健・医療・福祉分野での調査研究について、その位置づけや方法論、流れについて概説をする。また、「私の疑問」をリサーチ・クエスチョンにし、さらに洗練させて研究課題へと具体化させる過程についても紹介する。<br>【キーワード】<br>ヘルスリサーチ、研究、リサーチ・クエスチョン、内的妥当性、外的妥当性 | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 |
| 2 | 健康関連の理論・モデルと研究への適用 | 健康という現象を研究としてどのようにとらえるのか、理論やモデルと、それらの研究への適用について紹介し、受講者各自が研究を実施するにあたり「どのように光を当てるのか」を模索する契機とする。また、健康行動や健康教育にかかわる研究について頻繁に用いられる理論・モデルのいくつかについても紹介する。<br>【キーワード】<br>健康、健康行動、理論、モデル、概念、健康信念モデル、計画的行動理論、自己効力感 | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 |
| 3 | 健康分野での文献検索とクリティーク | ヘルスリサーチを進めていく上で、健康や医療、看護分野での文献や論文を探してレビューすることは不可欠である。ここでは、文献の種類や探し方を紹介する。さらに、収集した文献を概観するにあたっては、たえず批判的な目を持つ必要があると言われるが、その意味や、文献クリティークの視点について紹介する。<br>【キーワード】<br>文献の種類、文献検索、検索エンジン、クリティーク | 伊藤美樹子・大阪大学准教授 | 伊藤美樹子・大阪大学准教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 健康や病い・障害の研究デザイン | 健康や病いの研究のうち、「人」を対象とするものにおいては、患者など、その当事者そのものを念頭におくことが多い。しかし実際には、家族や地域の人々などを対象とする研究も含まれる。ここでは、研究対象をどうとらえるのかを考えていく。調査研究におけるサンプリングなど、研究デザインの構築の仕方についても言及する。<br>【キーワード】<br>研究デザイン、研究計画（どう立てていくか）、量的方法、質的方法 | 伊藤美樹子・大阪大学准教授 | 伊藤美樹子・大阪大学准教授 |
| 5 | ヘルスリサーチにおける質的研究 | ヘルスリサーチにおいて質的研究にはどのような役割があるのか、どのような場合に質的研究を選択するとよいのか、質的研究により厚みが出る研究テーマはどういうものなのかについて説明する、また、研究テーマなどにより、どの方法を選択したらよいかを考える。<br>【キーワード】<br>質的データ、実践科学、専門性への問い直し | 木下康仁・立教大学教授 | 木下康仁・立教大学教授 |
| 6 | グラウンデッド・セオリー・アプローチと健康・看護領域での活用 | 看護研究などでよく用いられるグラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）の概説と、この手法を選択する場合の注意点、実践研究例を紹介する。また、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）を実践するにあたり、学ぶべきこと、姿勢などについても考える。<br>【キーワード】<br>グラウンデッド・セオリー・アプローチ、概念、カテゴリー、切片化 | 森真喜子・北里大学准教授 | 森真喜子・北里大学准教授 |
| 7 | 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチと健康領域での活用 | 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）は、GTAとどこが違うのか、どういった場合にM-GTAが適しているのかについて紹介する。また、M-GTAを実施する際の心構えと学ぶべきことについても考えていく。<br>【キーワード】<br>多重的同時比較、理論生成、実践的活用、一般化可能性 | 木下康仁・立教大学教授 | 木下康仁・立教大学教授 |
| 8 | ヘルスリサーチにおける量的研究：質問紙調査を中心に | 質問紙調査、いわゆるアンケート調査を主軸とする量的研究について、その役割・意義について概要を説明する。また、質問紙調査遂行のプロセスについて概観していく。<br>【キーワード】<br>量的調査、配表、質問紙、質問文、回収率、統計ソフト | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 |
| 9 | ヘルスリサーチにおける介入研究 | 健康領域での介入的な研究は、準実験的研究とも呼ばれるものが多い。ここでは実験研究についてまず述べるが、実験研究の限界と、それゆえ行われる準実験的研究について、紹介する。具体的には、実施の仕方や留意点、限界などを紹介しつつ、その意義を検討していく。<br>【キーワード】<br>実験研究、介入研究、準実験的研究、介入、対照群、無作為割付、バイアス、交絡因子 | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授　ゲストスピーカー：東京都町田市南つくし野小学校　主任養護教諭　三浦佐智子 |
| 10 | 統計を使って研究を進め「考える」とは | 量的な実験や研究の結果はデータ化されている。研究計画の段階で研究目的にあがっている変数を測定するため、調査票を作成したり、測定機器を用いた。調査や実験が終わって、各対象者と変数のデータセットを作成して、さあ何をしようか、というところからこの回では扱っていく。全体を通して統計を使って「考える」とは何かについて説明をしていく。<br>【キーワード】<br>統計、分析、有意差、関連性、相関、尺度開発 | 戸ヶ里泰典・放送大学准教授 | 戸ヶ里泰典・放送大学准教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 質の高い研究を目指すための諸アプローチ | ヘルスリサーチにおいて質の高いものを目指すための諸アプローチについて扱う。具体的には、近年注目されている、量的研究と質的研究との組み合わせ、すなわち方法論的トライアンギュレーション、紙ベースではなくインターネットを通じたWeb調査の実施、既存の調査データを用いて別の研究目的を設定して研究を進める2次分析、そしてシステマティック・レビューについてである。それぞれのメリット・デメリットについても紹介する。<br>【キーワード】<br>方法論的トライアンギュレーション、Web調査、2次分析、副次的研究、システマティック・レビュー | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 ゲストスピーカー：東京地下鉄株式会社 産業保健師 島忍 |
| 12 | 研究における倫理的配慮 | 倫理、尊厳、人権という研究理論で使われる言葉を理解した上で、研究理論の基本的ルールであるインフォームド・コンセントと個人情報保護について、さらに安全性や科学性への配慮について考察する。また、こうした考察の基礎をなす倫理原則を検討する。<br>【キーワード】<br>倫理、尊厳、人権、インフォームド・コンセント、個人情報保護 | 樽井正義・慶応義塾大学教授 | 樽井正義・慶応義塾大学教授 |
| 13 | 当事者参加型リサーチ | ヘルスリサーチでは近年、調査研究を研究者が請け負う形ではなく、調査研究の計画立案からまとめと成果発表に至るまで、研究者と当事者が協働で行う方式で進める当事者参加型リサーチが注目されている。この回では、その基本的な考え方と具体的な実践方法について、日本とオーストラリアでの例をもとに紹介する。<br>【キーワード】<br>当事者参加型リサーチ、アクション・リサーチ、エンパワーメント、協働、コンフリクト | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 ゲストスピーカー：NPO日本HIV陽性者ネットワークジャンププラス 事務局長 高久陽介 |
| 14 | ソーシャルマーケティングと研究への導入 | 健康領域の研究において、ソーシャルマーケティングの概念が導入されることが増えてきている。そこで、ソーシャルマーケティングの基本的な考え方を紹介するとともに、ソーシャルマーケティングに基づき保健医療領域での研究をしていくことの意義について考える。実際の研究例についても触れていく。<br>【キーワード】<br>ソーシャルマーケティング、形成調査、プロセス評価、アウトカム評価 | 木原雅子・京都大学准教授 | 木原雅子・京都大学准教授 |
| 15 | ヘルスリサーチの成果の還元 | ヘルスリサーチについて、実践をしていく上でのアプローチをここまで紹介したが、この回では、研究成果をどのようにまとめて世に還元したらいいのかについて触れる。最後に、まとめと今後の取り組み方について述べる。<br>【キーワード】<br>研究成果、発表、論文、査読、学会 | 井上洋士・放送大学教授 | 井上洋士・放送大学教授 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910537 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 看護ケアの倫理学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：髙﨑絹子（放送大学客員教授）〕

〔主任講師（現職名）：山本則子（東京大学大学院教授）〕

## 講義概要

近年、医学や科学技術が進歩するなかで、医療における倫理的課題への関心は、先端 的医療や医療事故等の問題に止まらず、また、医療従事者や医療を受ける患者や病弱者 だけでなく、一般の人々の間にも高まっている。それは、医療は予防から急性期・慢性 期治療、リハビリテーション、さらにターミナルに至る人生のあらゆるステージで、人々の生老病死に密接に関わりをもち、QOLに深く関連しているからである。現実的な健康課題や医療的ニーズを満たすために、そこに生ずる倫理的課題を理解して看護ケアを提供することである。本科目では、医療倫理の原則、看護倫理の課題を理解し、一人一人がどのように判断し、看護ケアを提供することが必要かについて考察する。

## 授業の目標

医療倫理や看護倫理の歴史と原則を踏まえて、看護ケアを提供する場の特徴と倫理的課題について理解し、解決のためのプロセスを考える。倫理的課題は、医療従事者、患者・病弱者及び家族それぞれの価値観や判断とそのズレ、さらに、医療や日常生活を取り巻く環境や制度・政策の状況等に深く関連していることを理解する。できるだけ事例を多く取り上げるとともに、理論的な検討を行うことを目指す。

## 履修上の留意点

医療倫理、看護ケアの倫理的課題の特質から、個々の倫理的課題に対応する明確な解 答を求めるのではなく、課題をめぐる様々な状況を含めて、アセスメント能力、判断能 力を高めるのが重要であることを理解する。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 看護ケアの特質と看護倫理 | 保健医療福祉の場においては、cure（治療）とcare（ケア）が両輪となって機能することが重要である。しかし、治療や療養生活の方針をめぐって、患者・クライアント、医師や他のスタッフ、あるいは家族との間に意見の違いが生じ、さまざまな問題や倫理的課題が起こる。看護者は、その解決をめぐってさまざまなジレンマに直面するが、ここではCareを第一義的な役割とする看護者は、患者・看護・医師との間の人間関係や職場環境の調整を含め、問題解決のためにどのように倫理的責任と役割を果たすことができるかを考察する。 | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） |
| 2 | 医療における倫理的原則 | 「ヒポクラテスの誓い」を嚆矢とするローカル色強く師弟継承的な誓約は、時代下るとともに同業職能集団の自己規定的な内視へと発展してきた。現代にいたって、そこに医療を受ける側の人々の権利という視点が導入されることとなった。医療従事者ばかりでなく、市民、法学者・司法者や行政者、そして倫理学者が望ましい医療のあり方を模索し、これまで実に様々な倫理的な綱領、宣言、原則が提出されてきた。しかしこれらすべてが矛盾なく調和しているわけではないし、医療従事者が個々のケースにそれらをただ機械的に適用することで倫理問題を必ず解消できると期待することはできない。そこで倫理的原則の厳選・適用範囲・制約を探っていく必要がある。 | 服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授） | 服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 医療倫理学と看護倫理学 | 医療倫理の「医療」を医師法に定められた医業を指すとみると、医療倫理は医師の振舞い方をめぐる規範としてとても狭く理解されることになる。他方、「医療」を広くとらえるならば、医療倫理は看護倫理をも包含するものとみなされる。その場合、看護倫理に特異的な要素というものは何なのだろうか。他の医療職種にとっての倫理と看護倫理とが決定的に違う点はあるのだろうか。それらが衝突し合うことはないのだろうか。看護師は看護倫理のみを問い求め、考えていさえすれば十分なのだろうか。こうした問いに答えるためには、医療と看護との関係、倫理と倫理学の意味やはたらきといった基本的な事柄に立ち返って考えてみる必要がある。 | 服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授） | 服部健司（群馬大学大学院医学研究科教授） |
| 4 | 看護倫理の理念 | 看護ケアの実践では倫理的判断を求められる場面が多く、看護ケアの倫理は看護の専門性と深くかかわっている。ここでは看護倫理の歴史とその位置づけ、看護倫理の原則、看護師の倫理綱領について概観し、看護ケアの倫理における理念とは何か、またそれはどのような特質をもつかを考える。 | 大西香代子（田園学園女子大学教授） | 大西香代子（田園学園女子大学教授） |
| 5 | 看護ケアにおける倫理的課題 | 看護ケアにおける倫理的課題に気づき、適切な倫理的判断を行うために必要な概念やモデルについて概観する。またプライバシー保護や機密保持、インフォームド・コンセント、意思決定支援など、患者・クライアントや家族に対する看護ケアの実践にとって普遍的な倫理概念について考える。 | 大西香代子（田園学園女子大学教授） | 大西香代子（田園学園女子大学教授） |
| 6 | 成人期の看護ケアと倫理（1）ー急性期の看護を中心としてー | ライフサイクルにおいて成人期は、個人的にも家族・社会的にも重要な役割を担っており、特に成人期の疾病は重大な影響をもたらす。成人期の急性期にみられる倫理的な課題には、救急患者のインフォームド・コンセントと代理決定、脳死と臓器移植などがあげられる。これらの内容と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者が取り得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例を通して考察する。 | 山本則子（東京大学大学院教授） | 山本則子（東京大学大学院教授） |
| 7 | 成人期の看護ケアと倫理（2）ーガン看護を中心としてー | ガンは生命に関わる疾患であり、ガン患者の治療の過程においては、告知やインフォームド・コンセント、治療の進め方から死の迎え方まで、様々な倫理的課題が生じる。以前に比べると、診断や治療は格段の進歩を遂げ、緩和ケアを実施するところも多くなってきたが、選択肢の増加などにより新たな倫理的課題も生じている。ガン看護で患者や家族の苦しみに寄り添う看護者が、どのように倫理的役割を果たすことができるかを事例を通して考察する。 | 大西香代子（田園学園女子大学教授） | 大西香代子（田園学園女子大学教授） |
| 8 | 母子看護ケアと倫理（1）ー母性看護の倫理を中心としてー | 人が生まれるプロセスは、長期の妊娠期間とドラマチックともいえる出産に象徴される。このプロセスには、妊産婦の身体的、心理的な問題だけでなく、家族的、社会的的な状況が影響しており、そこには多くの倫理的課題が含まれている。医学技術の発達により、妊娠出産に伴う危機から多くの命が救われるようになったが、一方では、生む生まないの選択、人工流産、不妊治療、さらには遺伝子診断、対外受精や代理出産の問題等の先端医療技術も医療倫理課題をより複雑にしている。こうした様々な背景や治療とケアの問題に伴う倫理的課題を理解し、援助するために看護者の果たす倫理的役割を、事例を通して考察する。 | 石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長） | 石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 母子看護ケアと倫理（2）ー小児看護の倫理を中心としてー | 子どもがこの世に生を受け、心身ともに健康に成長して社会人として育つまでには、母親や家庭だけでなく、多くの人々のあたたかい支援が必要である。特に、疾病や傷害をもつ子どもは、医療だけでなく、様々なケアを必要とするが、家族の養護や育児能力が十分でなかったり、環境が整っていない場合には、生命の危機など、基本的な生存権を奪われる場合もある。看護者は、子どもや母親などの養護者の状況を的確に把握し、適切な援助を行うとともに、倫理的課題の解決を図るために何をする必要があるかについて事例を通して考察する。 | 石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長） | 石井トク（日本赤十字北海道看護大学学長） |
| 10 | 精神科看護ケアと倫理 | 精神科看護ケアにおいては、患者本人の意思が不明瞭であったり、家族の意向や社会の要請との間にギャップを生じたりすることが多い。また、非自発的な入院治療や隔離・拘束が認められるている領域であることから、患者の立場はきわめて弱く、特に倫理的配慮の必要な領域といえる。看護者が患者を暴力的に支配した負の歴史もふまえながら、その人権擁護における看護者の役割について、事例を通して考察する。 | 大西香代子（田園学園女子大学教授） | 大西香代子（田園学園女子大学教授） |
| 11 | 高齢者看護ケアと倫理（1）ー急性期における看護を中心としてー | 身体的、心理的、社会的のいずれの側面にも自立能力が低下した高齢者は、権利や尊厳が侵されやすい立場におかれることが多い。特に、治療が優先される医療の場では、しばしば治療方針と高齢者や家族のニーズとの間にギャップが生じ、緊急を要する手術や人工呼吸器の装着、あるいは臓器移植や高度医療に伴う濃厚な治療が行われる場合、倫理的問題が生じることが多い。高齢者をめぐる倫理的課題を理解し、高齢者の健康と安全,QOLを守るために、看護者の倫理的役割は何かについて既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。 | 山本則子（東京大学大学院教授） | 山本則子（東京大学大学院教授） |
| 12 | 高齢者看護ケアと倫理（2）ー認知症の看護ケアを中心としてー | 認知症をもつ人とその家族をケアする際には、多くの倫理的課題に直面する。治療や各種セラピーに関する意思決定、社会資源の利用に関する意思決定、療養の場と生活に関する決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論などを用い、事例検討を通して考える。併せて認知症をもつ人への権利擁護の活動や成年後見制度などについて学ぶ。 | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） |
| 13 | 在宅ケアと倫理 | 家庭はプライベートな場であり、他者の介入には限界がある。このため在宅ケアにおける倫理的課題は、施設における課題とは異なる様相を呈する。家族の介護責任についての考え方、家族による介護放棄・虐待の問題、社会資源の利用に関する意思決定などである。これらの課題の構造と現状について理解し、倫理的課題に直面した場合に看護者がとり得る態度や行動を、既存の理論を用い、事例検討を通して考察する。 | 山本則子（東京大学大学院教授） | 山本則子（東京大学大学院教授） |
| 14 | 看護研究と倫理 | 人間を対象とする研究を行う際には、研究の目的やその結果がもたらす影響を十分考慮するとともに、研究の対象となる人へのインフォームド・コンセントや、安全に配慮して行う必要がある。医学・医療の発展の歴史においては、多くの研究が行われてきたが、研究の対象となる人の安全と権利を守るために、ヘルシンキ宣言が採択された。看護分野においても看護研究の倫理指針が定められているが、医学研究に参画したり、看護研究を行う際の看護職の倫理的配慮と役割について考える。 | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） | 髙﨑絹子（放送大学客員教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 看護倫理の課題と展望 | 医療・看護を取り巻く状況は急速に変化し、また、人々の生活様式や価値観も時代の影響を受けて多様化している。医療サービスに対するニーズも多岐にわたり、要求レベルが高まっているが、倫理的問題も増加している。医療の学際的な協力、国際化が求められるなかで、チームケアの中心的な役割を担う看護者は、人々のQOLの向上を目指して、様々なジレンマを乗り越え、看護の倫理的意思決定のプロセスにおけるアセスメントや判断能力を向上させることにより、問題の解決と倫理的役割を果たすことであることを学ぶ。 | 髙﨑絹子(放送大学客員教授) | 髙﨑絹子(放送大学客員教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910545 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　スポーツ・健康科学　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：樋口　満　（早稲田大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：福永　哲夫（鹿屋体育大学長）　〕
【担当専任教員：臼井　永男（放送大学教授）　】

講義概要

はじめに、今日、私たちがスポーツを日常生活のなかに積極的に取り入れることの意義を歴史的視点から概説する。次に、運動・スポーツの生理学的基礎、及び健康の保持・増進という視点から運動・スポーツの理論について解説する。さらに、運動・スポーツが子どもや女性の健康の保持増進、中高年者の生活習慣病の予防に及ぼす効果を解説する。また、生活習慣病の運動療法、老化防止・介護予防に及ぼす運動・スポーツの有効性について、社会経済的視点とも関連させて解説する。

授業の目標

我々が生活する現代社会は、日常生活において身体活動が著しく不足する傾向があり、さまざまな生活習慣病の発症を助長している。そのため、子どもから高齢者に至るすべての年齢階層において、意識的に運動・スポーツを組み込んだライフスタイルの構築が必要である。そこで、全15回の講義を通して、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、全生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につながることを目標とする。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | はじめに<br>ー健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学するー | 現代社会において、運動・スポーツが健康の保持・増進、生活習慣病予防のために重要であることを理解するために、人間の生活史について解説する。日本の健康づくりの沿革について解説する 。<br><br>【キーワード】<br>運動不足病、生活習慣病、メタボリックシンドローム、運動基準2006、運動指針2006 | 樋口　満<br>（早稲田大学スポーツ科学学術院・教授） | 樋口　満<br>（早稲田大学スポーツ科学学術院・教授） |
| 2 | 運動・スポーツの生理学(1)<br>呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ | 呼吸・循環器系の構造と機能の理解を踏まえて、一過性運動時の喚気応答、心拍数、心拍出量、酸素摂取量の変化を理解する。そして、持久性トレーニングによる最大酸素摂取量の増加と持久性運動能力の向上について説明する。<br><br>【キーワード】<br>呼吸器系、循環器系、最大酸素摂取量、持久性トレーニング | 宮地元彦<br>（(独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー） | 宮地元彦<br>（(独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー） |
| 3 | 運動・スポーツの生理学(2)<br>神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ | 神経系の構造と機能、脳の運動中枢、及び運動の発現と制御、運動が脳・神経系に及ぼす効果を解説する。骨格筋の構造と機能、骨格筋の力学的特性（筋線維特性）、及び運動トレーニングが骨格筋の構造と機能に及ぼす影響について解説する。<br><br>【キーワード】<br>脳・神経系、運動の発現と制御、骨格筋の力学的特性 | 福永哲夫<br>（鹿屋体育大学・学長） | 福永哲夫<br>（鹿屋体育大学・学長） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 運動・スポーツの生理学(3)<br>エネルギー代謝機能と運動・スポーツ | エアロビック、及びアネロビックな一過性運動時のエネルギー代謝と関連する栄養素の機能、及び運動時の各種ホルモン動態、さらに疲労の発現について解説する。また、トレーニングによるエネルギー基質の代謝的変化について解説する。<br>【キーワード】<br>エネルギー代謝、エネルギー源栄養素、運動時のホルモン動態 | 樋口 満<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) | 樋口 満<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) |
| 5 | 健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(1)<br>トレーニング概論 | トレーニングの理論とトレーニング条件(強度・頻度・期間)について概説するとともに、暑熱環境下におけるトレーニング時の水分補給の重要性について健康管理という視点から解説する。<br>【キーワード】<br>トレーニングの法則、トレーニング強度、トレーニング頻度、トレーニング期間、暑熱環境 | 福永哲夫<br>(鹿屋体育大学・学長) | 福永哲夫<br>(鹿屋体育大学・学長) |
| 6 | 健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(2)<br>エアロビックトレーニング | 持久性運動(エアロビックエクササイズ)の各種強度指標について解説する。各種エアロビックトレーニングによる最大酸素摂取量の変化とその要因について健康の保持・増進という視点から解説する。<br>【キーワード】<br>エアロビック運動、最大酸素摂取量、%V02max、METS(メッツ) | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) |
| 7 | 健康の保持・増進のための運動・スポーツの理論(3)<br>レジスタンストレーニング | 筋力と筋量増強に及ぼすレジスタンストレーニングの効果について、健康の保持・増進という視点から解説する。<br>【キーワード】<br>レジスタンス運動、筋パワー、筋持久力 | 福永哲夫<br>(鹿屋体育大学・学長) | 福永哲夫<br>(鹿屋体育大学・学長) |
| 8 | 運動プログラムの管理と運動負荷試験 | 運動プログラムを実施するに当たって必要なメディカルチェック、及び運動負荷試験と心電図モニタリングについて解説する。また、服薬者における運動プログラムについても解説する。<br>【キーワード】<br>運動プログラム、メディカルチェック、運動負荷試験、心電図モニタリング | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) |
| 9 | 健康の保持・増進と運動・スポーツ(1)<br>子どもの発育・発達と健康 | 少年期から思春期を経て青年期に至る身体の形態発育、及び機能発達と、それらに影響を及ぼす運動習慣と各種運動・スポーツの効果について、健全発達と健康管理という視点から解説する。<br>【キーワード】<br>発育、発達、暦年齢、生理学的年齢 | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) |
| 10 | 健康の保持・増進と運動・スポーツ(2)<br>女性の健康と性ホルモンの影響 | 女性の身体的特徴とその加齢変化について、女性ホルモンの役割と関連させて概説する。そして、女性の健康・体力と、それに影響を及ぼす運動・スポーツの効果について、食習慣とも関連させて解説する。<br>【キーワード】<br>女性の身体的特徴、女性の体力、性ホルモン | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) | 谷口有子<br>(国際武道大学・教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 生活習慣病予防と運動・スポーツ(1)<br>肥満・高脂血症 | メタボリックシンドロームの概念と定義を概説し、その基礎疾患としての内臓脂肪型肥満、肥満判定について解説する。また、肥満、高脂血症の予防や運動療法について減量と関連づけて解説する。<br><br>【キーワード】<br>メタボリックシンドローム、内臓脂肪型肥満、高脂血症、減量 | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) |
| 12 | 生活習慣病予防と運動・スポーツ(2)<br>高血圧症・動脈硬化 | 高血圧症、動脈硬化の発症メカニズムとそれらの運動による予防と運動療法について解説する。<br><br>【キーワード】<br>高血圧症、動脈硬化 | 宮地元彦<br>((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー) | 宮地元彦<br>((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー) |
| 13 | 生活習慣病予防と運動・スポーツ(3)<br>糖尿病 | 糖尿病の定義と分類、および2型糖尿病の発症メカニズムについて概説する。一過性運動時の糖代謝の変化、及び持久性トレーニングによる糖代謝機能改善効果について解説する。<br><br>【キーワード】<br>糖尿病、血糖値、インスリン、GLUT4 | 樋口 満<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) | 樋口 満<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) |
| 14 | 生活習慣病に対する適切な運動療法 | 生活習慣病に対する適切な運動療法について、各種有疾患者に対する注意点と運動処方の実際について解説する。<br><br>【キーワード】<br>生活習慣病の有疾患者、運動処方、運動療法 | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) | 坂本静男<br>(早稲田大学スポーツ科学学術院・教授) |
| 15 | 老化防止・介護予防と運動・スポーツ | 高齢社会における介護予防、QOL向上という視点から、高齢者に対する運動・スポーツの有効性について解説する。また、その社会・経済的効果について解説する。<br><br>【キーワード】<br>高齢社会、老化防止、介護予防、QOL | 宮地元彦<br>((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー) | 宮地元彦<br>((独)国立健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910596 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 発達運動論 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：臼井永男（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：岡田修一（神戸大学教授）〕
【本学担当専任教員：】

講義概要

健全な成人になるためには、発達期のそれぞれの時期に必要で十分な身体活動が求められる。一方、身体機能の各要素によって、発達の時期ならびに速度が異なることから、当該要素の発達に即した運動の選択が重要になってくる。これらのことはまた、運動機能の低下様相がみられる加齢期についても同様である。さらに、この運動機能の発達・加齢変化をふまえると、各人生の段階において運動実施の目的・ねらいも異なってくる。 そこで、誕生から生涯にわたって発達し、変化する運動機能の特徴を概説するとともに、各年齢期における運動実施の重要性について論じる。

授業の目標

生涯を通じて健康でアクティブな生活を送るためには、発達の各段階において運動実施の重要な適時が存在する。すなわち、20歳までの成長期、それ以降の加齢期において、最も適切な時期に科学的根拠に裏付けられた運動を実施することが求められる。ここでは、それらの運動をどのように実施すべきか、その考え方と科学的な知識を教授したい。

履修上の留意点

人間発達プログラムで開講されている、心理学、教育学関連の科目と合わせて受講されると、さらに理解が深まり、人間の発達を総合的に理解できるものと期待される。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 個体発生と系統発生 | 個体発生は系統発生を繰返す、といわれることがある。<br>本章では、人類誕生の歴史とともに、動物としてのヒトのからだの特徴について概説し、生涯を通じて健康に過ごすための身体活動の重要性について概説する。<br>【キーワード】<br>ヒト化、二足歩行 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 2 | 形態の発育 | 子どもは大人のミニチュア版ではないといわれるように、成長の過程で長育、量育、幅育のそれぞれが同じ割合で発育していくものではない。<br>本章では、身体各部の発育の過程を提示するとともに、それらと身体能力の発達との関係について概説する。<br>【キーワード】<br>身長、体重、年間発育量 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 3 | 手指動作の習得 | 手指は脳の出先器官ともいわれ、その機能は幼児期に急速に発達する。これはヒトの局所の神経・感覚機能の発達に依存する。<br>本章では、手指の発達時期、ならびに動作習得の意義について概説する。<br>【キーワード】<br>神経感覚機能 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 足の形態と機能の向上 | この世に生を受けて間もなく、ヒトは臥位から立位へと大きな姿勢の転換を強いられる。この時期、神経系の発達とともに、身体の土台としての足の機能も急速に発達する。<br>本章では、直立・二足歩行というヒト特有の移動様式に注目し、幼児期の足の形態と機能の発達について概説する。<br>【キーワード】<br>直立・二足歩行 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 5 | 全身動作の習得 | 立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的能力を習得した後に、全身動作が急速に発達する。これは全身を制御する脳・神経系の機能が発達する時期と一致する。<br>本章では、このような機能がこの時期に発達する要因について、またこの時期に全身動作を習得することの意義について概説する。<br>【キーワード】<br>脳・神経系、巧みさ | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 6 | ねばり強さの習得 | 身体のねばり強さは、全身持久力で評価され、その能力は身長の年間発育量がピークに達するあたりで急速に向上する。<br>本章では、全身持久力が呼吸循環機能の発達に大きな影響を受ける要因について、またこの時期にねばり強さを習得することの意義について概説する。<br>【キーワード】<br>呼吸・循環系 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 7 | 力強さの習得 | 身体の力強さは、筋力で評価され、その能力は骨格の成長が完成に向かう頃に急速に向上する。<br>本章では、筋力が筋の特性に影響を受ける要因について、またこに時期に力強さを習得することの意義について概説する。<br>【キーワード】<br>筋・骨格系 | 臼井永男（放送大学教授） | 臼井永男（放送大学教授） |
| 8 | 加齢による身体の変化（1） | 青年期以降、加齢に伴って身体は変化する。すなわち、中年期から身体の老化現象が始まり、高齢期には身体の老化がいっそう進行する。<br>本章では、加齢に伴う形態・身体組成、神経－筋系及び呼吸循環系機能の変化について概説する。<br>【キーワード】<br>形態・身体組成、神経－筋系機能、呼吸循環系機能 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 9 | 加齢による身体の変化（2） | 老化期にみられる身体の生理的機能の低下は、体力の低下や日常動作の変容を引き起こす。<br>本章では、加齢に伴う体力・運動機能の変化、ならびに起立動作、歩行動作などの日常生活動作の変容について概説する。<br>【キーワード】<br>体力、運動機能、日常生活動作 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 10 | 加齢による立位バランス能力の低下 | 体力のなかでも加齢による低下が最も大きい体力要素は、立位バランス能力である。<br>本章では、加齢に伴う立位バランス能力の低下のメカニズムを解説し、高齢者の転倒問題について概説する。<br>【キーワード】<br>立位バランス能力、転倒 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 中高齢期の身体活動と健康との関係 | 加齢に伴って身体活動量は減少する。この身体活動量の減少を起点とした悪循環から健康問題が生ずるといわれている。<br>本章では、中高年の身体活動と生活習慣病等の健康問題との関係について概説する。<br>【キーワード】<br>身体活動、生活習慣病 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 12 | 中高齢期における運動の効果 | 中高齢者に対する運動の効果は、生活習慣病の予防や転倒の予防だけでなく、精神心理的効果もあるといわれている。<br>本章では、筋力、バランス能力などの体力的側面、及び満足感などの心理的側面に及ぼす運動の影響について概説する。<br>【キーワード】<br>運動効果、生活習慣病予防、転倒予防、精神心理的効果 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 13 | 生活体力を高める方策（1） | 高齢になってもアクティブな日常生活を送るためには、生活機能を高める運動を実施することが必要である。<br>本章では、生活機能の基礎となる体力・運動機能、ならびにその能力の維持・向上を目指した体力科学的方策について概説する。<br>【キーワード】<br>生活機能、体力科学的方策 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 14 | 生活体力を高める方策（2） | 運動の効果を得るためには、運動の習慣的実施が必要となる。誰もが運動は身体に良いと思っているが、運動を継続できないのが実情である。<br>本章では、運動の習慣化に向けた方策とその具体的アプローチについて概説する。<br>【キーワード】<br>運動の習慣化 | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |
| 15 | アクティブ・エイジングを目指して | 生涯における人間の身体や健康の発達を考える場合、個人個人を取り巻く環境（人間環境、社会文化的環境、自然環境）との関係をふまえることが肝要である。<br>本章では、高齢期において活動的な生活や健康寿命の延伸を具現化した例を紹介し、アクティブ・エイジングの実現に向け、個々人が運動をどのように活用すべきかについて提案する。<br>【キーワード】<br>健康寿命の延伸、アクティブ・エイジング | 岡田修一（神戸大学教授） | 岡田修一（神戸大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910588 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　社会福祉研究　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：松村　祥子　（放送大学　教授）　〕

## 講義概要

転換期にある社会福祉の現状と課題を明らかにし、生活者にとって効果的なものにする為の研究方法を示す。社会福祉の専門家にとってだけでなく、医療・保険及び生活分野の専門職にとっても有効な教材とする。

第一に、現在の社会福祉研究の背景と課題を明らかにする。経済、社会、家族環境の下で進行中の福祉改革によって変化する社会福祉が抱える課題を明らかにする。第二に、社会福祉研究のテーマと研究方法について、人々の生活の質の向上と生活改善という尺度でみた場合、どこが評価でき、どこに問題があるのかについて検討する。第三に現在の社会福祉が目標とする「利用者主体の社会福祉」を実現するために不可欠な「生活者モデル」の構築と展開を示す。第四に、社会福祉の方法・技術の展開の課題を他領域も視野に入れながら、検討する。第五に社会福祉研究の発展の為の要点を明らかにする。

## 授業の目標

生活健康科学プログラムの1つの柱である「社会福祉研究」は主として社会福祉分野の研究テーマをもつ人だけでなく、家族・生活経営、消費科学、健康科学（医療、保健、スポーツ科学）を研究テーマとする人にも履修して頂きたい。

## 履修上の留意点

学部の社会福祉関係の科目の他、社会学、経済学、法律学関係の科目も履修すると、社会福祉研究の深さと広さがよく理解できるであろう。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ． | 研究の背景 | | | |
| 1 | 現代日本の社会福祉の背景と課題 | 21世紀初頭のわが国においては、少子高齢化、雇用の流動化、男女共同参画社会の進展等の中で、新たな生活問題が発生・拡大している。それに対して社会的介護体制、少子社会型子育て支援、障害者の自立支援、新貧困対策等多くの挑戦がおこなわれている。 ここでは、現代日本の社会福祉の背景と生活問題、現在進行中の福祉改革の経過、問題点及び課題について検討する。<br>【キーワード】<br>生活問題、福祉改革、社会福祉の課題 | 松村　祥子（放送大学教授） | 松村　祥子（放送大学教授） |
| 2 | 福祉国家体制の変化 | 第二次世界大戦後、先進国に広がった福祉国家の考えは、完全雇用と安定した労使関係が前提となっていた。1970年代後半から、世界に広がったグローバリゼーションや先進国の少子高齢化などによって、福祉国家を巡る環境は大きく変化した。本章では、戦後の福祉国家の変遷を社会・経済環境の変化との対応を考察し、これからの福祉国家のあり方を考えたい。<br>【キーワード】<br>福祉国家、資本主義、ベヴァリッジ報告、ブレトン・ウッズ体制、グローバリゼーション、高齢社会 | 駒村　康平（慶應義塾大学　教授） | 駒村　康平（慶應義塾大学　教授） |
| 3 | 社会福祉理論の動向と課題 | 社会福祉の理論という場合、実践理論と政策や制度の運営理論などがあるが、ここでは原理論の動向と課題を明らかにする。社会福祉の原理論とは、社会福祉の本質を明らかにすることを目的としているが、現在に至るまで論争が続いている。それは、社会福祉と呼ばれる事象には、政策と実践、社会性と個別性など、ときには対立する要素が含まれているところから、その理解を困難にしているためである。これまでの先行研究を振り返るとともに、なぜ本質を問うことに意味があるのかを、あらためて検討する。<br>【キーワード】<br>補充性、固有性、社会福祉本質論争 | 岩崎　晋也（法政大学教授） | 岩崎　晋也（法政大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| Ⅱ. 研究テーマと研究方法 | | | | |
| 4 | 社会福祉行政をめぐる問題 | 1990年代以降の福祉改革においては、中央政府主導型社会福祉から地方分権化の方向へと移行している。そこでは多様化した地域での生活にとっては、住民に近いところでの支援が有効であると強調されている。しかし社会福祉供給主体の多元化や住民参加による地域福祉にも問題があることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>社会福祉行政組織、地方分権化、地域福祉 | 松村　祥子（放送大学教授） | 松村　祥子（放送大学教授） |
| 5 | 社会福祉の経済問題 | 社会保障・社会福祉もヒト・カネ・モノといった資源を使う必要がある以上、資源の制約から逃れることができない。市場メカニズムが直接機能しない社会保障・社会福祉においても、財政からの制約や市場経済からの影響を受けている。本章では、社会保障・社会福祉をめぐる資源の配分の問題を市場メカニズムの問題点について考えたい。<br>【キーワード】<br>市場メカニズム、市場の失敗、公共財、情報の非対称性、価値財、政府の失敗、準市場メカニズム | 駒村　康平（慶應義塾大学　教授） | 駒村　康平（慶應義塾大学　教授） |
| 6 | 社会福祉の専門性 | 「社会福祉の専門性」は、社会福祉制度や社会福祉学の専門性・固有性として論じられる場合もあれば、社会福祉援助や社会福祉援助職の専門性・固有性として論じられる場合もある。本章では、後者に焦点を当て、社会福祉援助の固有性、社会福祉援助職の専門性、「当事者主権」時代における専門性、社会福祉援助職の上級専門職資格、の4点について論じる。<br>【キーワード】<br>専門性、ジェネラリスト・アプローチ、協働、当事者主権、社会福祉士 | 副田　あけみ（首都大学東京　教授） | 副田　あけみ（首都大学東京　教授） |
| 7 | 対象分析－生活問題を中心として | 生活問題論と福祉ニーズ論をとりあげる。生活問題論とは貧困や生活上の問題に着目し、福祉ニーズ論とは、利用者のニーズ（必要）を中心すえ分析する手法である。さらに最近の社会的排除や社会的周縁化の対象分析とその手法に言及する。<br>【キーワード】<br>生活問題論　福祉ニーズ論　社会的排除　社会的周縁化 | 山田知子（大正大学教授） | 山田知子（大正大学教授） |
| 8 | 社会福祉思想に関する諸問題 | 社会福祉実践・運動は，それ自体が「福祉」の実現という価値を含んでいる。だが，何が「福祉」という価値なのかは自明ではない。むしろ，歴史的社会的状況に応じて変化してきたと言えるであろう。そこで，社会福祉が前提としてきた基本的な人間観・社会観を明らかにした上で，近代市民社会において社会福祉が実現しようとしてきた理念や価値を明らかにする。<br>【キーワード】<br>人権、社会問題、ナショナル・ミニマム、ノーマライゼーション、エンパワメント、自立支援 | 岩崎　晋也（法政大学教授） | 岩崎　晋也（法政大学教授） |
| Ⅲ. 社会福祉研究の基盤－生活者モデルの構築と展開－ | | | | |
| 9 | 総合的生活者モデルの構築 | ここでは、第一に、受給者モデルから利用者モデルへの移行がどのように図られたのか、そこでの問題点は何かを検討する。第二に、生活者モデルの2類型とそれぞれの特色を明らかにする。第三に、総合的生活者モデルを構築する際に必要な生活と社会福祉の課題を示す。<br>【キーワード】<br>受給者モデル、利用者モデル、生活者モデル、総合的生活者モデル | 松村　祥子（放送大学教授） | 松村　祥子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 生活者モデルの展開ー総合的生活モデルの構築 | これまでどのような利用者をモデルとしてきたのかふりかえる。次に、ある高齢女性の生活歴をたどり、生活上の問題がどのように生み出されてきたのか、事例検討する。総合的生活者モデルをどう構築し、展開させていくのか、その道筋を探る。<br>【キーワード】<br>貨幣的ニーズ、非貨幣的ニーズ、消費者モデル、ナラティブ・データ | 山田 知子（大正大学教授） | 山田 知子（大正大学教授） |
| Ⅳ. 社会福祉の方法・技術の展開と課題 | | | | |
| 11 | ソーシャルワーク | 近年、わが国のソーシャルワーク研究においては、ポストモダン・アプローチへの関心と、エビデンスベースト・プラクティスへの関心が高まっている。本章では、ポストモダン・アプローチとしての物語アプローチおよび解決志向アプローチと、エビデンスベースト・ソーシャルワークおよび関連する内省的実践を取り上げて解説する。<br>【キーワード】<br>物語アプローチ、解決志向アプローチ、エビデンスベースト・プラクティス、内省的実践 | 副田 あけみ（首都大学東京 教授） | 副田 あけみ（首都大学東京 教授） |
| 12 | ケアワークの可能性 | ケアワークは高齢者介護や保育サービス分野などにおいて使用されることが多い用語であるが、はっきりと概念規定されているわけではない。高齢化の進展、また、女性の社会進出が進む中で、ケアワークの役割が社会的に増大している。ここでは高齢者介護におけるケアワークを中心に取り上げる。<br>【キーワード】<br>介護 介助 当事者主権 潜在能力 感情労働 | 山田 知子（大正大学教授） | 山田 知子（大正大学教授） |
| 13 | 社会福祉の管理・運営 | 社会福祉においては、1990年代に「地域ケア」が、2000年以降は「地域福祉」がキーワードになり、人々の生活を支援する地域を基盤とした事業が進展している。ここでは、社会福祉の管理・運営の例として、こうした事業で行われているネットワーク構築とそのマネジメントを取り上げ、要保護児童対策地域協議会と地域包括支援センターの事業のひとつである高齢者虐待防止活動について述べる。<br>【キーワード】<br>ネットワーク構築、マネジメント、要保護児童対策地域協議会、高齢者虐待防止ネットワーク、コーディネーター | 副田 あけみ（首都大学東京 教授） | 副田 あけみ（首都大学東京 教授） |
| Ⅴ. 社会福祉研究の発展のために | | | | |
| 14 | 社会福祉の総合化 | 社会福祉は社会・経済から強い影響を受ける。今日課題となっている社会福祉を巡るサービスの提供体制の見直し、人材問題、財政問題などは、その例である。ここでは少子高齢化社会のなかで、経済・行政において社会福祉はどのように位置づけられ、関連づけられていくか述べていきたい。<br>【キーワード】<br>準市場メカニズム、措置制度、介護報酬、社会福祉基礎構造改革、介護保険 | 駒村 康平（慶應義塾大学 教授） | 駒村 康平（慶應義塾大学 教授） |
| 15 | 研究者の立場 | これから社会福祉を研究する者が有するべき基本的な視点や問題意識について、特にフィールドとのかかわり方や、研究方法としての実証研究および歴史研究の必要性について述べる。最後に、これから社会福祉学が担わなければならない新たな研究課題にどのように取り組むべきなのか，将来の社会福祉研究者への期待をこめて述べていきたい。<br>【キーワード】<br>パラダイム、普遍化、実証研究、歴史研究、新しい福祉課題 | 岩崎 晋也（法政大学教授） | 岩崎 晋也（法政大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8910561 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 現代の福祉政策 （’１０）＝ （R）

－担い手の役割と責任－

〔主任講師（現職名）：大曽根　寛（放送大学教授）〕

〕

## 講義概要

社会福祉は、政策や制度を立案する者、公私の諸機関で実施にかかわる者、市民の福祉へのニーズを制度につなげる者、多様なサービス供給に携わる者、ボランティアなど、多様な種類と多数の担い手によって運営されている。また、社会福祉制度も大きな構造的変革を遂げつつある現在、その担い手は多分野にわたるようになっており、多くの資格制度とも関連している。時代の変革期にあって、もっとも必要なことは、政策・制度と市民の間にあり、社会福祉を有効に機能させる担い手の役割である。その役割と責任を明らかにし、養成のプロセスを打ちだしてくことは、現代の福祉政策の中心的な課題である。

## 授業の目標

この教材では、まず福祉政策が構造的な変容を遂げるとともない、担い手の議論をする必要が生じてきたことを確認する。そして、政策の立案と運営を担当することとなる機関において働く職員、例えば、公務員、法人職員の位置と機能を明確にする。また、立法・行政・司法機関に働きかける運動についても論じよう。次に、担い手の労働と生活について検討しつつ、さらに担い手の養成に関しても議論を深め現代的な課題に応えようとする。最終的には、担い手が政策に従属する忠実な遂行者として活動するというよりも、政策を形成し変革し続ける主体となることを目指す。

## 履修上の留意点

この教材は、社会福祉の入門書ではない。社会福祉についての基礎知識を有し、介護や実践にかかわっている方たちへの更なる前進の手がかりを提供しようとするものである。したがって、学部における社会福祉関係科目の履修を前提として作成されていることに留意されたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉の構造と担い手 | この教材の目的が、現代の社会福祉の理念と技術を確立するとともに、福祉政策の形成と運営に寄与する担い手の役割と責任を論ずることにあることを理解する。また、市民の活動が立法・行政・司法など国家の機能に影響していることについても学習する。<br>【キーワード】<br>福祉政策、担い手、市民 | 大曽根　寛（放送大学教授） | 大曽根　寛（放送大学教授） |
| 2 | 福祉職の形成過程 | 戦後日本社会における福祉専門職の形成過程を、四つの時期区分を設け概観する。また、福祉専門職の「専門性」や「専門職制度」を「属性モデル」や「プロセスモデル」の概念から、その性質や可能性を検討する。<br>【キーワード】<br>専門性、属性モデル、プロセスモデル | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） |
| 3 | 国家の変容と担い手の多様性 | 社会福祉は、政策や制度の立案者、実施にかかわる者だけではなく、より広い範囲の人々によって担われている。そのことを、日本における司法制度改革を実例として取り上げながら、社会福祉へのニーズを法制度につなげる役割を果たす「担い手」について考える。<br>【キーワード】<br>国家、法人、裁判 | 大曽根　寛（放送大学教授） | 大曽根　寛（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 地域社会と自治体 | 福祉基礎構造改革の流れにおいて、自治体の役割も変化しつつある。福祉政策における国・都道府県・市町村の役割分担を考えるとともに、自治体と協働する立場にある、NPO・ボランティア・地域自治会などの団体の役割についても考えたい。<br>【キーワード】<br>公助・共助・自助、地方自治体、地域団体、協働 | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） |
| 5 | 立法・行政・司法機関と運動 | 地域福祉における当事者・支援団体と行政の連携のかたちをホームレス支援から考える。ホームレス自立支援のための立法・行政・司法機関と運動の連携はどのように始まったのか、また現在のホームレス自立支援がかかえる課題は何か考えることを通じて、「運動」と「政策」の接点をさぐる。<br>【キーワード】<br>ホームレス、当事者、特別措置法、ネットワーク、自立支援 | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） |
| 6 | 実践から制度・施策への展開 | 高次脳機能障害者のリハビリテーションの実践において、現場の問題意識から出発し、国のモデル事業を経て、新たな制度・施策へと展開した過程を捉える。<br>【キーワード】<br>高次脳機能障害、多職種チーム、実態調査、モデル事業 | 阿部順子（岐阜医療科学大学教授） | 阿部順子（岐阜医療科学大学教授） |
| 7 | 当事者・家族と専門家の役割 | セルフヘルプグループである脳外傷友の会の設立と活動において、専門家が果たした役割と当事者が当事者能力を発揮して福祉の担い手になっていった経過から、当事者・家族と専門家の協働について考える。<br>【キーワード】<br>脳外傷友の会、当事者能力、協働 | 阿部順子（岐阜医療科学大学教授） | 阿部順子（岐阜医療科学大学教授） |
| 8 | 福祉職の実践と労働 | 戦後社会における老人福祉に関する法制度の形成や処遇内容を概観する。また、戦後混乱する社会のなかで、養老院などが、いかに老衰者や生活困窮者らを支えてきたのかを整理する。加えて、特別養護老人ホームが創設された背景を概観する。<br>【キーワード】<br>看護ホーム、特別養護老人ホーム、生活の場、介護実践 | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） |
| 9 | 雇用・労働条件と労働法 | 日本においては長時間労働や低賃金など介護労働者が厳しい労働条件に置かれていることが知られ、社会福祉分野において担い手の労働条件の改善に関心が持たれている。福祉の担い手に関わる、労働基準法や最低賃金法など労働法の概要とその問題点を探る。<br>【キーワード】<br>最低賃金、労働契約法、労働者派遣 | 高橋賢司（立正大学専任講師） | 高橋賢司（立正大学専任講師） |
| 10 | 福祉職の労働条件のあり方 | 近時、福祉関係職の労働条件、とりわけ介護保険法や障害者自立支援法下における福祉専門職の労働条件の問題は深刻である。そこで、障害者自立支援法の仕組みがいかに福祉専門職の労働条件と関わっているのかを例に雇用条件の問題を考えていきたい。<br>【キーワード】<br>応益負担、日割り計算、横だし行政 | 高橋賢司（立正大学専任講師） | 高橋賢司（立正大学専任講師） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 福祉職と社会保険 | 福祉職の労働基盤を確保するためには、生活リスクに対応する社会保険の存在が不可欠である。ここでは社会保険のあらましを概説するとともに、社会福祉における担い手に関する社会保険の適用状況から、問題点と課題を探る。<br>【キーワード】<br>社会保険、被扶養者、パートタイム労働者、職業病 | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） | 金川めぐみ（和歌山大学准教授） |
| 12 | 福祉職養成の実態と展望 | 現代社会における福祉専門職養成の現状とその課題を整理しつつ、次世代福祉専門職養成のあり方を検討する。とりわけ、中核的な役割を担う社会福祉士及び介護福祉士養成の現状と課題を明らかにする。<br>【キーワード】<br>社会福祉士、介護福祉士、養成教育 | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） | 三好　禎之（名古屋経営短期大学准教授） |
| 13 | 学びのプロセスを伝える養成研修 | 障害者ケアガイドライン試行事業に取り組む中で、「ニーズのとらえ方」、「社会資源を開発する方法」を伝えるための演習方法を編み出した。障害者ケアマネジメント養成研修における演習が人材養成に果たした役割とその限界について考える<br>【キーワード】<br>障害者ケアマネジメント、ニーズ、社会資源、演習 | 阿部順子（岐阜医科大学教授） | 阿部順子（岐阜医科大学教授） |
| 14 | 社会福祉におけるトラブルと責任 | 福祉の担い手は、人間の生活の全体性にかかわるため、その行いが、人の生命、人生、生活を大きく変えてしまうことがある。このとき、担い手は、どのような法的責任や倫理的責任を負うこととなるのだろうか。いくつかのトラブルを念頭に置きながら考えてみよう。<br>【キーワード】<br>トラブル、権利侵害、責任 | 大曽根　寛（放送大学教授） | 大曽根　寛（放送大学教授） |
| 15 | 専門家と市民の成長 | 福祉政策と担い手のあり方は、強い関係性を持っているのであるが、専門職・専門家やスペシャリストと呼ばれる方々だけでなく、市民もまた成長していく必要があることを確認する。このことを、専門性と市民性の関係についての議論を通じて明らかにする。<br>【キーワード】<br>市民活動、生涯学習、放送大学 | 大曽根　寛（放送大学教授） | 大曽根　寛（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920508 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 人間発達論 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：住田　正樹（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：田中　理絵（山口大学准教授）〕



## 講義概要

発達を人間の生涯にわたる変化の過程として捉え、その生涯過程を発達社会学の視点から考察していく。発達社会学の視点から人間の生涯過程を見ると、社会的役割の移行過程として捉えることができる。そしてその移行過程は、社会的役割の学習過程、社会的役割の遂行過程、社会的役割を喪失する喪失過程という3つの過程の段階に区分できる。社会的役割のなかでも特に主要な役割は職業的役割と家庭的役割であり、この2つの社会的役割を中心に考察を進めていく。

人間の発達過程のなかでも学習過程の段階がもっともドラスティックな変化を示す。そのため人間発達研究は学習過程の段階を中心に取り上げるのが、これまでの一般的な考察方法であった。しかし本講義では、遂行過程および喪失過程にも比重をおいて考察していく。

## 授業の目標

人間の発達過程が社会的・文化的条件によって規定されることはいうまでもない。人間の発達は、生物学的現象や心理学的現象だけではなく、社会学的現象でもある。本講義は、人間の発達過程を分析していくための発達社会学の基礎的概念と方法を学び、人間の発達現象が生起していく過程を考察していくための社会的視点を得ることを目的とする。

## 履修上の留意点

発達社会学は、人間の発達過程に対して社会的・文化的な文脈や環境がどのような影響を与えているのかを解明していく学問である。これに類似した学問に発達心理学（または生涯発達心理学）がある。 発達心理学は年齢に伴う行動や心的機能の変化を研究する学問である。同じ人間の発達過程を対象にしても発達社会学と発達心理学ではアプローチも異なり、分析方法も異なり、分析の方向も異なる。だが、だからこそ多産的な学問的成果を産む。発達社会学と発達心理学とのアプローチの相違、分析方法や分析の方向の相違に留意しつつ人間の発達過程についての考察を深めていただきたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 第Ⅰ部　人間発達と社会的役割 | | | | |
| 1 | 人間の発達過程と役割移行過程<br>－発達社会学の視点から－ | 発達とは誕生から死に至る全生涯の変化をいう。この、生涯にわたる人間の変化の過程を発達社会学の視点から見ていく。発達社会学の視点から人間の生涯をみると社会的役割の移行過程、すなわち社会的役割の学習（役割学習準備期、役割学習期、役割猶予期）、社会的役割の遂行（役割遂行期）、社会的役割の喪失（役割喪失期）という過程として捉えることができる。社会的役割のなかでも職業的役割と家庭的役割はその中核である。<br>【キーワード】<br>発達、社会化　社会的役割、役割移行、発達社会学、職業的役割、家庭的役割 | 住田　正樹（放送大学教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |
| 第Ⅱ部　社会的役割の学習過程 | | | | |
| 2 | 言語の獲得と自我形成<br>－役割学習準備期－ | 言語の獲得と自我形成は人間発達の基盤であり、人間発達にとって最も重要な側面である。意識の未分化な状態で生まれてきた子どもは家族とのコミュニケーションを通して自他の区別を意識するようになり、次第に自分自身に気づき始める。それが言語を獲得するようになると明確に自他を区別するようになり、他者の観点から自分自身を対象化して認識し、自我を形成していく。<br>【キーワード】<br>言語の獲得、シンボル、自我形成、重要な他者、コミュニケーション | 住田　正樹（放送大学教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 社会的ネットワークの形成と拡大<br>－役割学習期（Ⅰ）－ | 子どもは児童期にさしかかると、それまでの家族中心の人間関係は拡大し、新たなネットワークを形成していく。近隣の大人や、同年代の遊び仲間、教師や同級生などとの関係である。この新たなネットワークを通して、子どもはフォーマル、インフォーマルに社会化されていくが、特に遊び仲間は強い社会化の影響力をもつ。こうした人々とのネットワークを通して子どもは自己を相対化していき、自己中心的な思考から脱却していく。<br>【キーワード】<br>社会化　仲間集団、役割取得、一般化された他者 | 田中　理絵（山口大学准教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |
| 4 | 性役割の分化<br>－役割学習期（Ⅱ）－ | 性別は、それぞれの社会の文化によって異なるけれども、いずれの社会にあっても最も基本的な区分である。だから性役割を学習し、性別にしたがった行動をとるようになっていくことは子どもの社会化にとって基本的で重要なこととなる。性役割の学習は両親、仲間、他の大人との関係を通して、またメディアを通してなされていく。そして性役割に結びついた性的行動の意味を学んでいく。<br>【キーワード】<br>性の社会化、性役割、ジェンダー・アイデンティティ | 田中　理絵（山口大学准教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |
| 5 | 自我覚醒と自己探索<br>－役割猶予期（Ⅰ）－ | 青年期に人は自分自身の将来や進路を模索する。そして「自分とは何か」を問い、自省するようになる。自己を対象化して、自己を見つめるようになるわけである。そのためにそれまで安定的だった自我は揺れ動き、深刻な葛藤や不安に陥ることもあるが、しかしこうした過程を経て、新たな自己に気づき、自己を再構築していく。いわゆるアイデンティティの確立の問題である。<br>【キーワード】<br>自我覚醒、自己探索、役割混乱、モラトリアム、アイデンティティ | 田中　理絵（山口大学准教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |
| 6 | 職業と配偶者の選択過程<br>－役割猶予期（Ⅱ）－ | 職業的役割と家庭的役割は社会的役割の中核をなすが、学校教育を修了すると青年は職業に就き、また配偶者を得て新たな家族を形成して、自立した生活を営む。そのための職業的役割の選択と配偶者の選択の試行の時期が、この段階である。分業が進み職業が多様化し、そしてまた私的交際の自由な現代において、職業と配偶者の選択はどのような社会的要因に規定され、どのような過程を経て決められていくだろうか。<br>【キーワード】<br>職業的役割、家庭的役割、職業の選択、職業アスピレーション、配偶者選択 | 住田　正樹（放送大学教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |
| 第Ⅲ部　社会的役割の遂行過程 | | | | |
| 7 | 職業キャリアの形成<br>－役割遂行期（Ⅰ）－ | 職業的役割を選択・決定し、実際にその職業に就いたとしても直ちに職業的役割を遂行できるわけではない。職業役割を遂行していくためには、その遂行に必要な知識や技術、価値観や行動様式を習得しなければならない。そのための準備と試行、初歩的職務の遂行といった職業キャリア形成の期間が必要である。と同時に、この期間はその職業が自分の適性に合っているかどうかを判定するための職業的役割遂行の試行期間でもある。<br>【キーワード】<br>能力開発、職業的役割、職業的社会化、職業キャリア、職業文化 | 住田　正樹（放送大学教授） | 住田　正樹（放送大学教授）<br>田中　理絵（山口大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 家族の形成と親役割<br>－役割遂行期（Ⅱ）<br>－ | 配偶者を得て結婚し、新たな家族（生殖家族）を形成すると、それまでの習慣的行動（定位家族における役割行動）を調整して、夫婦間で新たな行動パターンを形成することになる。夫婦間での役割配分である（新婚期）。その後、出産・育児によって親は親になったことを自覚し、親としての役割期待や役割義務、また両親性の価値について学び、親役割を形成していく（育児期＝第一子の誕生から就学までの時期）。<br>【キーワード】<br>定位家族、生殖家族、夫婦役割、親役割、家族の変容、育児支援 | 田中　理絵<br>（山口大学准教授） | 住田　正樹<br>（放送大学教授）<br>田中　理絵<br>（山口大学准教授） |
| 9 | 職業キャリア・パターンの確立と安定<br>－役割遂行期（Ⅲ）<br>－ | 一定の職業に継続的に従事することによって、職業的役割を遂行していくための動機づけと行動パターンは明瞭になり、職業キャリア・パターンは確立し、安定化する。終身雇用・年功序列という日本型雇用慣行のもとで、これまでは多くの人たちは「会社人間」として働いてきた。しかしそのためにいろいろな問題も生じてきた。そして今職場環境が大きく変化して、人々の働き方も変化してきている。<br>【キーワード】<br>職務満足度、集団帰属意識、日本型雇用慣行、会社人間、役割葛藤、職務ストレス | 住田　正樹<br>（放送大学教授） | 住田　正樹<br>（放送大学教授）<br>田中　理絵<br>（山口大学准教授） |
| 10 | 家族の拡大と子どもの教育<br>－役割遂行期（Ⅳ）<br>－ | 第一子の就学、第二子の誕生と、家族は拡大期に入り、親役割は育児から子どもの教育に移る。子どもの教育を巡ってさまざまな問題が生じ、親は何かと気を揉み、不安に陥る時期である。また、子どもの教育費をはじめ経済的負担が増す時期でもあり、育児負担が減って時間的余裕が生まれた母親の再就職も増える。一方、父親の仕事は充実・多忙化する時期で、父親不在となることも多い。<br>【キーワード】<br>親役割、青少年問題、父親不在、ワーク・ライフ・バランス | 田中　理絵<br>（山口大学准教授） | 住田　正樹<br>（放送大学教授）<br>田中　理絵<br>（山口大学准教授） |
| 11 | 多様な女性の生き方<br>－役割遂行期（Ⅴ）<br>－ | かつての女性の生き方は、伝統的な性別役割意識に支えられ、固定的・画一的だった。現在、こうした性別役割意識は次第に薄れ、女性の生き方の選択肢は大幅に増加した。しかしその一方で、性役割は明確な社会規範としてなおも存在し、女性のライフスタイルは錯綜している。少子化などの問題とも関連が指摘される女性の生き方の多様化とはどういう事態なのだろうか。<br>【キーワード】<br>女性のライフサイクルの変容、性別役割分業、性役割の錯綜 | 田中　理絵<br>（山口大学准教授） | 住田　正樹<br>（放送大学教授）<br>田中　理絵<br>（山口大学准教授） |
| 第Ⅳ部　社会的役割の喪失過程 | | | | |
| 12 | 職業役割の喪失<br>－役割喪失期（Ⅰ）<br>－ | 仕事から引退し、職業役割を喪失する時期。したがって労働時間は短くなり、経済的報酬は減少し、職業的役割に結びつく人間関係は希薄となる。また子どもも独立し、脱親役割期（post-parental period）でもあるから、家庭的役割といっても夫婦関係に限れら、したがって夫婦関係の繋がりが強まっていく。しかし定年に対する多くの高齢者のイメージはこれまでとは異なり、アクティブなイメージへと変わってきている。<br>【キーワード】<br>定年制、引退過程2段階説、代替的役割、アクティブ・エイジング、伴侶性 | 住田　正樹<br>（放送大学教授） | 住田　正樹<br>（放送大学教授）<br>田中　理絵<br>（山口大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 高齢者の社会参加と生きがい<br>－役割喪失期（Ⅱ）－ | 全ての仕事から引退して職業生活から離脱する。だが職業は社会的地位を決定する主要な要因であるだけに、その代替的役割が不在であれば、孤独感を感じるようになる。だが、多くの高齢者は職業的役割の代替的役割として地域の社会活動に参加し、その活動を生きがいとして、アクティブな生活を送っている。社会的責任が減り、個人的自由が増大して自分の望むことが可能な時代である。高齢者はどのような生活を望み、どのように生活しているか。<br>【キーワード】<br>離脱理論と活動理論、第二の人生、社会参加、生きがい | 住田　正樹<br>(放送大学教授) | 住田　正樹<br>(放送大学 教授)<br>田中　理絵<br>(山口大学准教授) |
| 14 | 老齢化と病気・死<br>－役割喪失期（Ⅲ）－ | 人間も生物有機体である限り、確実に衰退し、老衰の道を辿る。罹患率も高くなる。老齢化による罹患はそのまま死を迎えることを意味する。それまで所属していた集団からは離脱せざるを得ず、また配偶者の病気・死によって最も親密な関係にあった夫婦関係も消滅する。こうした社会的繋がりの喪失は孤独をもたらすことにもなる。やがて避けることのできない死に向かう。高齢者は死をどのように受け入れるのか。<br>【キーワード】<br>老化、孤立、孤独感、不安感、病気、生活習慣病、死ぬ過程 | 住田　正樹<br>(放送大学教授) | 住田　正樹<br>(放送大学 教授)<br>田中　理絵<br>(山口大学准教授) |
| 第Ⅴ部　人間発達研究の課題 | | | | |
| 15 | 人間発達研究の課題 | これまでの発達研究は、人間の誕生から成人期に至るまでの時期を中心に進められてきた。この時期が最もドラスティクに変化する期間だからである。だが、発達は人間の生涯にわたる継続的な過程である。成人期に至るまでの過程で形成された特性が成人期以降もそのまま保持されるとは限らない。発達概念および発達研究の方法が再検討されなければならない。<br>【キーワード】<br>生涯発達、発達社会学、社会的役割、役割移行過程、縦断的方法 | 住田　正樹<br>(放送大学教授) | 住田　正樹<br>(放送大学 教授)<br>田中　理絵<br>(山口大学准教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8920540 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 才能と教育－個性と才能の新たな地平へ （’１０）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岩永　雅也（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：松村　暢隆（関西大学教授）〕



## 講義概要

才能教育は、世界各国で公教育体系の中の特殊教育の一環として実施され、研究も蓄積されている。その背景には、すべての子どもには才能を発現し開花させる権利と可能性があり、また、才能は社会の共有財産であるという信念がある。教育の形式的平等を強調してきた戦後日本では、公的な才能教育とその研究は全く低調であったが、教育への要請が多様化し、個性を活かす教育が求められている現在では、才能の正しい理解を基礎に、発達障害児も含めたすべての子どもの才能を見出して適切に対応することが求められている。本講義では、才能とその発見、社会的意味、そして才能を伸ばす指導について考えていく。

## 授業の目標

学校教育や乳幼児保育、家庭教育に携わる、あるいは関心を持つ学習者が本講義の対象である。まず、従来のエリート教育とは異なる才能教育の概念を正しく理解する。ついで、障害児も含めたすべての子どもが何らかの才能をもつ可能性を認識し、その上で、それを見出す多様な方法を知る。さらに、才能教育の実践方法として、アメリカをはじめ諸外国では、得意を伸ばし苦手を補うため、個性を活かす多様な方法が存在することを理解する。そして、日本社会で今後、通常教育や特別支援教育で展開しうる才能教育のあり方について考えることを目指す。

## 履修上の留意点

本講義の受講にあたっては、学部における基礎的な教育学関連の科目、例えば、教育原論、教育心理学、教育社会学、教育技術学、教育行政学といった分野の諸科目を履修していることが望ましい。その上で、学校臨床や特別支援教育に関する科目の履修も勧めたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 現代社会と才能教育 | 現代社会の教育問題の多くは、実は子どもたちの多様な才能とそれに対する適切な指導への視点の薄弱さに起因するものと考えられる。その意味で、才能とその教育は、まさに現代日本の教育の本質にも関わる重要なテーマの一つたり得る。その議論を始めるにあたり、才能とは何か、才能教育とは何かについて、日本とアメリカの才能教育の歴史的経緯を踏まえて概観した上で、才能教育を論じる必要性と今日的意義について考察する。<br>【キーワード】 年齢主義　英才（穎才）教育　平等至上主義　才能教育　臨教審　中教審　新自由主義　卓越と平等　個性化教育 | 岩永雅也（放送大学教授）・松村暢隆（関西大学教授） | 岩永雅也・松村暢隆 |
| 2 | 才能観の系譜 | 才能というものに対する人々のまなざし、つまり才能がどのようなものと考えられてきたか、そして、そのまなざしがどのように変遷してきたかを見る。人々が才能をどう見るかは、その社会がどのような社会か、才能に対してどのような視点を持っているか、そしてどのような才能をどう受け入れるかによって左右される。才能の本質とその社会的意味がどのように捉えられてきたのか、これまでの才能観の系譜を俯瞰する。<br>【キーワード】 天才　狂気　ロンブローゾ　クレッチマー　ゴールトン　知能テスト　ビネ　ターマン　知能指数　IQ　エリート　メリトクラシー | 岩永雅也 | 岩永雅也 |
| 3 | 心理学的概念としての才能 | 才能教育の前提となる才能の概念について、心理学的アプローチから考える。才能と才能教育の用語や実践に対して、一般にもたれるイメージを確認した上で、専門用語として「才能教育」という用語を用いるべきことを認識する。アメリカの法律における才能の定義を踏まえ、才能は多様な領域に現れることを理解して、才能があるとはどういうことかを考える。<br>【キーワード】 才能の概念　才能教育のイメージ　英才教育　才能の定義　才能と知能 | 松村暢隆 | 松村暢隆 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 才能の発見と評価 | 才能教育では、プログラムの対象者となる子どもの多様な才能の特徴が見分けられ、「認定」される。その際に、前提の概念となる、「多重知能」(MI)の理論と「知能の三輪概念」、およびそれらに基づいた才能の発見、認定の方法について述べる。そして、アメリカの学校でよく用いられる、才能の認定の手順として、テストや観察など多様な方法、手段が用いられることを理解する。<br>【キーワード】 才能の認定　多重知能(MI)理論　才能の三輪概念　回転ドア認定モデル　才能全体ポートフォリオ | 松村暢隆 | 松村暢隆 |
| 5 | 才能教育のタイポロジー | 才能教育に取り組む諸国、諸地域では、現在、さまざまな形態の教育実践を見ることができる。その国や地域の社会の在り方に応じ、また子どもたち一人一人の才能の特性にも対応するため、それらの実践の形態は実に多様である。しかし、最も基本的なところで分別するならば、それらは大きく2つの類型にまとめられる。そのタイポロジーとそれぞれの具体例を、特に才能教育の最先進国であるアメリカを中心に詳しく見ていく。<br>【キーワード】 早修(アクセラレーション)　拡充(エンリッチメント)　タレント・サーチ　螺旋 | 岩永雅也 | 岩永雅也 |
| 6 | 早修の方法と意義 | 才能教育の実施方法の一つである上位学年の学習内容の先取り学習のうち、上位学年に暦年齢よりも早く移る措置としての早修について、アメリカのナショナル・レポートを基に概観する。飛び入学をともなわない早修としてのアドバンスト・プレースメントにも言及する。さらに、日本の飛び入学についても取り上げ、その現状と意義を論じる。<br>【キーワード】 早修　飛び入学　飛び級　アドバンスト・プレースメント　教育上の例外措置　早期大学入学 | 岩永雅也 | 岩永雅也 |
| 7 | 拡充の方法とモデル | 才能教育の拡充の代表的な方法とモデルを、アメリカを例に紹介する。まず、多重知能(MI)を生かす拡充として、「MI実践」について述べる。つぎに、「全校拡充モデル」(SEM)と、その学習法の「拡充三つ組モデル」について述べる。すべての子どもたちを対象にした拡充によって、一人一人の特性に応じた学習を提供でき、その中で多様な優れた才能も伸ばせることを理解する。<br>【キーワード】 拡充　多重知能(MI)　全校拡充モデル(SEM)　拡充三つ組モデル　本物の学習　ポートフォリオ評価 | 松村暢隆 | 松村暢隆 |
| 8 | 諸外国の才能教育(1)と法的根拠と政策 | 「本格的に系統的な」才能教育の実践に、どのような要件が必要か検討する。その要件を満たして才能教育を実践する、各国や地域の才能教育制度の法的根拠、政策、現状や、政治的、経済的、社会的背景などについて説明する。<br>【キーワード】 機会平等　公教育　義務教育期間　全学習教科　教育法規　カナダ　アメリカ　韓国　台湾　香港　シンガポール　オーストラリア　イギリス | 本多泰洋(帝京短期大学教授) | 本多泰洋 |
| 9 | 諸外国の才能教育(2)教育実践の現状 | 「本格的に系統的な」才能教育の教育実践制度を類型化し、それぞれの類型の特徴と現状を、オーストラリアのサウスオーストラリア州、ニューサウスウエールズ州、韓国の才能教育の実践制度を事例として取り上げて説明する。<br>【キーワード】 拠点型　分散型　折衷型　オーストラリア　イグナイト・プログラム　オポチュニティー学級　選抜ハイスクール　韓国　才能学級　才能教育院　特殊目的高校　科学才能学校 | 本多泰洋 | 本多泰洋 |
| 10 | 理数科の才能と教育 | 才能教育の教育実践の効果が顕著に現れるのが、数学や科学の分野である。ここでは主に、日本の算数、数学や科学の教育実践やその制度を取り上げ、その特徴と現状から、実質的な拡充教育による才能教育であることを説明する。<br>【キーワード】 総合科学技術会議　科学技術政策　科学技術基本計画　SSH　ノースカロライナ科学数学高校　韓国科学高校・科学才能学校　出張授業　算数・数学・国際科学オリンピック | 本多泰洋 | 本多泰洋 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 芸術の才能と教育 | 才能を活かせる分野として、とくに芸術に注目し、その歴史的な背景や社会的意味について理解した上で、日本における芸術分野での才能教育の現状を見る。さらに、美術や音楽分野での才能を早期から見出して育てる方法や、優れた指導者の特徴と条件について検討する。<br>【キーワード】 芸術　独創性と法則性　音楽　音大教育　ソルフェージュ　美術　美大教育　デッサン　早期教育　コンクール | 岩永雅也 | 岩永雅也 |
| 12 | スポーツの才能と教育 | 才能を活かせる分野として、とくにスポーツに焦点を合わせて、その現状を知り、背景や社会的意味について検討する。スポーツ分野における才能を早期から見出して育てる方法や、優れた指導者の特徴を分析する。<br>【キーワード】 スポーツ、身体能力、測定、記録、オリンピック | 平野裕一（国立スポーツ科学センター・主任研究員） | 平野裕一 |
| 13 | 発達障害と才能 | 才能と発達障害は、同じ子どもに共存することがある。才能と発達障害の両面への特別支援が必要な「二重に特別な」（2Eの）子どもの存在を認識する必要がある。発達障害の子どもの才能を見つけて、それを学習に活かすという「2E教育」の理念・方法と、アメリカの2E教育の実践について概観して、日本の教育への示唆を考える。<br>【キーワード】 発達障害　特別支援教育　2Eの（二重に特別な）子ども　2E（二重の特別支援）教育　認知発達の凸凹　得意と苦手　発達障害の天才　サヴァン | 松村暢隆 | 松村暢隆 |
| 14 | 個性化教育で才能を活かす | すべての子どもの才能を学習に活かすために、個性化された学習が有効な方法となる。まず、アメリカの「授業の個性化」の概念と方法を述べる。そして、日本でも長年実践されてきた「個性化教育」を才能教育に位置づけて概説する。小学校での実践方法をまとめて見ながら、すべての子どもの特性に応じて学習を個性化するという、日米共通の理念で教育が可能なことを検討する。<br>【キーワード】 個性化教育　指導の個別化　学習の個性化　オープン・スクール　完全習得学習　順序・課題選択学習　課題設定学習　学習環境 | 松村暢隆 | 松村暢隆 |
| 15 | 個性と才能が活きる社会へ | 最終回として、日本の才能教育に「残された問題」を検討する。才能教育を今後の日本の教育に適切に根づかせるために、発展性のある実践を紹介しながら、社会的および教育制度上の条件、問題点を考える。各分野の極めて優れた才能を育てるだけでなく、すべての子どもの個性と才能を活かす教育を推進するために、必要・可能なことを論じる。<br>【キーワード】 早修　拡充　飛び入学　大学入試　個性化教育　異学年混合学習　マイノリティ　多文化教育　女性 | 松村暢隆・岩永雅也 | 松村暢隆・岩永雅也 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920532 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　コミュニティ教育論　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：岡崎　友典（放送大学准教授）　〕
〔主任講師（現職名）：玉井　康之（北海道教育大学教授）　〕



## 講義概要

学校・家庭・地域の連携・協力・融合が今日的な課題になっている。本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「コミュニティ教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様かつ深刻な問題の解決を図るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。

## 授業の目標

家庭での子育てや学校教育をめぐり、様々な問題が提示されているが、「家庭崩壊」や「学校崩壊」などセンセーショナルな表現で指摘される教育問題は、家庭や学校単独で起きる現象ではない。本科目のねらいは、人間の成長・発達といった社会的な作用（教育）を中心的に担う家庭・学校と人間の共同生活の場面としての「地域コミュニティ」との関係を、生涯学習・教育の視点から明らかにすることにある。とくに人間のもっとも基本的な教育環境である家庭と学校が地域住民の諸組織や機関との連携協力により、どのような形で地域社会＝コミュニティ形成の担い手（主体）を生み出しているかについて、「現代日本の教育課題」として提示することを目的としている。

## 履修上の留意点

この地域社会＝コミュニティレベルでの教育を担う専門職者、また民間の地域教育人材（コーディネータ、マイスター、ファシリテータの呼称で呼ばれる）の養成・育成に資するものである。したがって、大学院の関連科目だけでなく、学部段階の教育・心理学関連科目、とくに地域教育社会学、地域コミュニティ論などについてあらかじめ学習しておいてほしい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 教育環境としての「地域コミュニティ」～コミュニティとは何か～ | 第二次世界大戦後のわが国の地域開発政の展開過程に即して、地域社会と教育の関係について、地域社会の教育環境を類型化することによって、多様な形態のコミュニティが存在することを明らかにし、さらにそこに内在する教育上の課題について提起する。<br>【キーワード】<br>地域性　共同性　地域開発　地域コミュニティ　教育環境 | 岡崎友典<br>（玉井康之） | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 2 | 生涯学習と地域コミュニティの形成 | 家庭教育、学校教育、社会教育が人々のライフステージによって、どのような形で展開していくか。個人の生涯教育・学習といった視点とともに、急激に変動する地域社会の再編・再生＝地域コミュニティの形成」といった観点から考察することにより、コミュニティ教育の今日的課題を提示する。<br>【キーワード】<br>ライフサイクル　家族周期　生涯学習　生涯教育 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 3 | 学校と地域社会（1）～近代学校の成立とコミュニティ～ | 近代学校の成立過程、とくに公教育としての学校の役割について、初等教育・中等教育学校を中心に、その歴史的展開に即して、地域社会との関係を地域共同体＝「地域コミュニティ」の視点から考察する。<br>【キーワード】<br>公教育　近代学校　学制　義務教育　教育機会　通学区 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 学校と地域社会（2）～コミュニティスクールの源流～ | コミュニティスクールの概念を歴史的に明らかにするために、高度経済成長前に地域共同体が有していた教育力とそれが失われてきた社会的背景をとらえる。また学歴社会の中で、学校に求められる機能が変化してきたことをとらえる。コミュニティスクールの内実として求められる学校と地域の関係を提示しつつコミュニティスクールの現代的な役割と可能性について明らかにする。<br>【キーワード】<br>生活変化　地域共同体の崩壊　学歴社会　学校機能の変化　伝統文化の解体　学校外活動 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 5 | 地域の子どもの遊び・生活と教育コミュニティ | 子どもの遊び・体験活動などの遊び集団が持つ意義をとらえ、それが教育コミュニティの条件づくりともなることを明らかにする。また遊びが集団的に展開しなくなった現段階においては、居場所や遊びを意識的に作っていくことも必要性もとらえる。とりわけ学校を拠点としたサタデースクール、放課後の居場所づくりなどの必要性やコミュニティの果たす役割について、生活指導の視点から考察する。<br>【キーワード】<br>教育コミュニティ、地域遊び集団、集団遊び、ギャング・エイジ期、遊び集団、体験学習　放課後子どもプラン　居場所 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 6 | 総合的な学習とまちづくり | 総合的な学習のあり方は、よりいっそう地域の身近な素材を取り上げるようになっている。総合的な学習の一つの在り方として、地域のあらゆる課題を取り上げつつ、まちづくりをテーマにした総合的な学習も重要な方法となっている。このまちづくりをテーマにした総合的な学習の意味づけと地域への還元の方法を提示する。<br>【キーワード】<br>総合的な学習、まちづくり、地域づくり、地域調査、地域調べ学習、地域課題、地域貢献活動　学力 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 7 | 地域福祉とコミュニティ教育 | 福祉が社会的な課題となる社会（福祉社会）において、教育を成り立たせる条件としての福祉について、現代家族の特徴を踏まえたうえで、児童に関わる福祉施設の保育所（園）や児童養護・自立支援施設、また高齢者対象の施設など、地域レベルでの具体的な実践を通して考察する。<br>【キーワード】<br>地域福祉　福祉教育　児童福祉　養護施設　子育て支援 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 8 | PTAと地域住民組織～学校とコミュニティをつなぐ役割～ | 保護者によって組織されるPTAを、子どもを媒介として成立する成人の学習組織と捉え、さらに保護者が地域社会の中堅世代として地域社会形成に主要な役割を担うといった視点から、大人の教育責任について検討する。<br>【キーワード】<br>PTAの現代的役割　大人の教育責任　親父の会　町会・自治会 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 9 | コミュニティと学校の説明責任 | 保護者・学校への説明責任が求められるようになったが、これは単に学校が地域に説明することに留まらず、地域が学校の味方になるようにコーディネートすることを含めている。また説明責任の一環として、学校評価を導入する学校が増えてきた。この学校評価の基本的な目的と方法を明らかにする。学校が説明責任を果たし、地域の関係者を学校の味方にしていく必要性と効果をとらえる。<br>【キーワード】<br>説明責任、アカウンタビリティ、コーディネート力、学校評価、学校運営協議会、自己評価、学校関係者評価学校評価、学校評議員　学校運営協議会、説明責任 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 学校と地域を結ぶ地域コーディネーターの役割 | 学校と地域を結び学校教育を活性化するためには、コミュニティの教育活動を企画・調整・助言する役割を果たす「地域コーディネーター」の役割が重要である。地域コーディネーターは、教師が行き届かない地域の素材や名人の発掘も担うことができるからである。地域社会の中から教育人材が子ども達に直接指導することによって、学校も地域も教育活動が高まっていくこと、それを調整する地域コーディネーターの役割を明らかにする。<br>【キーワード】<br>地域コーディネーター、学校支援ボランティア、コーディネート力、学校支援地域本部事業 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 11 | 開かれた学校と生涯学習施設 | 学校の校舎も地域開放型の構造を採用する学校も増えている。このような学校施設を地域に開放する教育的意義を明らかにする。また地域の行事や活動や公民館事業なども、学校施設を活用することによって、学校教育とコミュニティ教育が相互補完的に発展・活性化する可能性について考察するとともに、コミュニティセンターとしての学校の教育機能についても考察する。<br>【キーワード】<br>学校開放施設、生涯学習施設、複合施設、地域交流棟、開かれた学校、オープンスペース、社会教育、コミュニティセンター | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 12 | 中山間地の学校と地域コミュニティ | 中山間地の学校は地域にとって非常に大きな役割を果たしている。中山間地の小規模学校の教育実践が、小規模の特性を活かすとともに、地域コミュニティと緊密な関係を持ちながら展開することにより、子どもだけでなく住民の生活をも支えていることをとらえる。また山村留学などの学校を支える活動が子ども・学校・地域に与える教育効果をとらえる。<br>【キーワード】<br>コミュニティ教育、山村留学、特認校、中山間地、へき地、統廃合問題、地域教育力、小規模校教育 | 玉井康之 | 玉井康之<br>岡崎友典 |
| 13 | コミュニティ形成と地域文化 | 地域生活のなかから生み出される「生活文化」について、文化の基本的な概念を押さえたうえで、文学や地域の産業（地場産業や観光）などの具体的な事例、とくに新たに創造される文化がコミュニティの形成に重要な役割をもつことを明らかにする。<br>【キーワード】<br>地域文化　地場産業　新旧住民の交流　住民の学習運動 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 14 | 移住・定住とコミュニティ～同窓会・同郷会の役割～ | 学校の卒業生によって組織される同窓会や同郷の出身者が組織する県人会や郷友会などの、地域コミュニティとの関係について考察する。とくに移住地においてこれら組織が人々の生活に果たす役割について、生涯学習の視点から明らかにする。<br>【キーワード】<br>移住と定住　人材の養成と移動　同窓会　県人会　郷友会　郷土意識 | 岡崎友典 | 岡崎友典<br>玉井康之 |
| 15 | コミュニティの教育的再編～まとめと課題～ | 地域社会の教育が、学校と家庭そして地域住民との共同作業・営みによって続けられることの必要性を、各回で学習した内容をもとに、「地域教育の創造」と「学習社会」における「地域社会の教育的再編」といった視点から「教育の課題」として提示する。<br>【キーワード】<br>学習社会　生涯教育　教育の再生　教育改革 | 岡崎友典<br>（玉井康之） | 岡崎友典<br>玉井康之 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920621 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　教育行政と学校経営　　（’１２）＝　　(R)

〔主任講師（現職名）：小川正人（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：勝野正章（東京大学大学院准教授）〕

【本学担当専任教員：】



講義概要

今日、「教育の構造改革」と呼ばれる教育改革が進行している。今日の教育改革が従来と大きく異なるのは、既存の教育行財政制度のしくみを大きく改編する中で、従来の政策決定と行政運営の諸権限を基礎単位に移譲することを指向しつつ、国から学校までのあらゆるレベルの改革が同時進行的に取り組まれていることである。そうした今日の教育改革とその下での教育・学校の問題を考える。既存の教育行財政制度の改編が進んでいる中で、国と地方の教育政策や教育行政の実情と課題、教育の中核的担い手である教職員の問題、学校を巡る新たな環境と学校経営の課題など、教育行政と学校経営が直面する現代の問題と政策課題を学ぶ科目としたい。

授業の目標

全15回の講義を通して、大きく変動している国、自治体、学校の教育システムの実情と問題、政策課題を理解することができることを目標とする。受講生としては、現職教職員、学校管理職、教育行政職員などを想定し、教育に強い関心をもつ市民等にとっても関心を持てるように、最新の動向と具体的事例を学べるものにしたい。

履修上の留意点

今日の日本における教育改革を国際的動向から理解するために、「現代教育改革論（’11）」を受講することが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 戦後教育行政と学校経営の展開 | 本科目の序論として、戦後の教育行政と学校経営の展開を学び、近年の教育行政と学校経営をめぐる政策動向から今後の基本的課題を考える。<br>【キーワード】<br>教育行政、学校経営、教育行政（教育委員会）と学校の関係、学校管理規則、地教行法、1971年中教審答申、出口管理型教育行政、学校の自主・自立（律） | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 2 | 国の教育行政機関と教育政策過程 | 国の教育政決定過程や行政運営の実際をそれに携わる政府（内閣、文部科学省）や政党等の活動を通して学ぶ。特に、戦後長期間に亘った旧自民党政権下における教育政策決定のしくみと過程の特徴を概観した後、それらが2001年以降の中央省庁再編等と2009年の政権交代でどのように改革され変化したのかを確認しながら国の教育政策決定のあり方について考える。<br>【キーワード】<br>内閣、内閣府、文部科学省、政権与党、文教族、教育下位政府（教育業界）、中央省庁再編、政権交代 | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 3 | 教育財政のしくみと特徴 | 日本の教育財政制度の特質を国レベルの教育費支出および予算過程を中心に考える。予算という資源をめぐって他の行政分野とのバランスを視野に入れつつ，予算執行及び決算による統制もまた重要な予算過程であり，教育行政もその枠内で実施されていることを理解する。また政権交代後の予算制度改革により教育への予算配分に生じた変化についても言及する。<br>【キーワード】<br>予算編成，決算，補助金，概算要求，予算科目，予算最大化行動 | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 地方自治体の教育行政機関と教育政策過程 | 地方自治体レベルの教育行政は執行機関として設置される教育委員会によって担われる。戦後，アメリカの地方教育行政制度に倣って導入された教育委員会制度に期待された役割と実際の機能を中心に，地方自治体の総合行政と教育行政の独立性とのバランスを重視することで現われた日本型教育委員会の特徴について，近年の改革の方向性を踏まえて考察する。<br>【キーワード】<br>執行機関，行政委員会，補助機関，補助執行，教育委員会法 | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） |
| 5 | 学力問題と教育課程行政 | 児童生徒の学びと成長・発達に必要な教育・文化の組織化と計画である教育課程は多岐にわたる課題を含んでいるが、本章では、主に、その編成や管理運営等の教育課程行政の側面を取り上げる。教育課程の編成、管理運営等に関する法制やその中心にある学習指導要領をめぐる論議や課題、教育課程行政の手法変化、そして、学力論議と学力保障の動向を学びながら教育課程行政の課題を考える。<br>【キーワード】<br>教育課程、学習指導要領、履修主義（年齢主義）、修得主義（課程主義）、学力「格差」、「効果のある学校」、教育課程マネジメント | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 6 | 教育公務員法制と教員政策 | 教員の地位・身分、服務など公務員の視点からその特徴と法制度を学ぶ。地方公務員であるにも拘らず他の一般地方公務員と異なる公立学校教員に関する法制等を学び、教育公務員法制をめぐる基本的課題を考える。<br>【キーワード】<br>教育公務員特例法、教員の政治的行為の制限、教育の政治的中立性、教員の労働基本権 | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 7 | 教員の給与と勤務 | 教員の人事管理や教員個々の職業生活のあり方に深く関わる教員給与の政策と法制度を学びながら、教員給与をめぐる今日的な課題を考える。また、教員給与の法制度と一体的な関係にある教員の勤務形態の問題と改善に向けた課題を検討する。<br>【キーワード】<br>年功給、職務給、職能・資格給、能力・業績給、「人材確保法」、義務教育等教員特別手当、「給特法」、教職調整額、超過勤務、時間外勤務手当 | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 8 | 教育費と教育の機会均等 | 教育は、社会的身分、経済的地位等によって差別されないように機会均等が保障されなくてはならないが、今日の日本では子育てや教育に多額の家計負担を要するのが実態である。教育費負担と小・中・高校段階の経済的困窮家庭への修学支援制度の実情や問題を学び、それらを巡る諸課題を考える。<br>【キーワード】<br>教育の機会均等、義務教育無償、教育格差、生活保護、教育扶助、就学援助、国民負担率 | 小川正人（放送大学教授） | 小川正人（放送大学教授） |
| 9 | 学校経営をめぐる政策動向 | 学校経営と直接的に関わる教育政策として教育の市場化（学校選択制）、学校の自主性・自律性の確立、アカウンタビリティ、教育の質の保障について検討する。また、日本でも貧困社会化、格差社会化の進展が問題となっているなかで、そのなかで学校にできることを考える。<br>【キーワード】<br>経済のグローバル化、知識社会、教育の市場化、学校の自主性・自律性、アカウンタビリティ、格差社会 | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 学校の組織と文化 | 学校は効率性を追求する官僚制組織としての側面を持つが、必ずしもその組織構造が予定するとおりに運営され、教育活動が行われているわけではない。さらに、学校運営・教育活動は組織構造だけでなく、組織文化からも大きな影響を受けていることが知られている。学校経営研究の基礎理論として、学校の組織構造と文化について考察する。<br>【キーワード】<br>システム論、官僚制、効率性、緩やかな結合、状況依存、正統性、組織文化 | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |
| 11 | 学校におけるリーダーシップ | アメリカでは1980年頃からスクール・リーダーが学校改革において果たす役割や効果に注目が集まるようになり、「教授的リーダーシップ」、「変革的リーダーシップ」、「分散型リーダーシップ」などが論じられるようになった。今日の日本でも、経営責任の明確化や機動的な学校運営を可能にするという観点から、校長の権限や資質・能力に対する関心が高まっており、これらの学校におけるリーダーシップの研究について学ぶことには大きな意義がある。<br>【キーワード】<br>効果のある学校、教授的リーダーシップ、変革的リーダーシップ、分散的リーダーシップ | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |
| 12 | 学校評価と学校改善 | 近年における学校評価の政策動向、制度について学ぶ。また学校改善の理論動向を概観した後、限定的な教育目標の設定と標準化されたテストによって教育の水準や質の向上を図ろうとするアメリカのNCLB法体制について指摘されている弊害を知り、日本の学校評価が自律的な学校改善につなげるための示唆を得る。<br>【キーワード】<br>自己評価、関係者評価、第三者評価、「監査社会」、学校改善、NCLB法 | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |
| 13 | 学校の財務管理 | これからの学校管理運営において求められる財務事務の在り方について学校の自主性・自律性確立の視点を踏まえて考える。公立学校を介した公費及び私費の資金の流れや，学校における財務運営上の効率性，有効性，合規性といった観点からの学校管理運営に係る現状と課題について考察する。<br>【キーワード】<br>支出負担行為，支出命令，会計管理者，相互けん制，物品管理 | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） | 本多正人（国立教育政策研究所総括研究官） |
| 14 | 教員の評価と専門職としての成長 | 勤務評定に代わる「新しい教員評価」制度の導入が推進されてきた背景やその目的を概観し、教員評価の理論について検討を加える。成果主義を教員評価に適用することは教師の仕事の性質ゆえに困難をもたらす。一方、教員評価の職能成長モデルについては、そこでの教師の学びが教育実践の目的や価値により深いレベルで関わるような学びとなるかが重要である。<br>【キーワード】<br>新しい教員評価、人的資源管理（論）、成果主義、目標管理、職能成長モデル（教員評価の） | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |
| 15 | 学校のガバナンスと経営 | 近年、学校と保護者、地域住民の連携・協力の充実・強化が推進されている。学校のガバナンス改革とも称される、こうした日本と外国の教育政策・施策について検討し、このような教育政策・施策に影響を与えている社会関係資本の理論について学ぶ。また、NPM型学校経営組織改革について検討を加え、望ましい学校経営組織改革の在り方を考える。<br>【キーワード】<br>学校のガバナンス、学校と保護者・地域の連携・協力、学校評議員、学校運営協議会、社会関係資本、参加民主主義、NPM | 勝野正章（東京大学准教授） | 勝野正章（東京大学准教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920559 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　生涯学習の理論と実践　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：三輪 建二（お茶の水女子大学教授）　　〕

【本学担当専任教員：岩永 雅也（放送大学教授）　　】



講義概要

生涯教育や生涯学習が主張されるようになって40年もの年月が経過している。生涯学習の施策化や制度化が国、都道府県、市町村レベルで進みつつある反面、知識基盤社会を迎えている今日、生涯学習の果たすべき役割はいっそう増している。本講義では、以上のような今日的状況をふまえ、一方では社会全体が生涯学習に求める諸課題について、地域、学校教育、大学からのアプローチをふまえて整理する作業を行う。他方で、海外の生涯学習政策との比較、および学び手である学習者（成人学習者）あるいは成人教育者（学習支援者）にとっての生涯学習の意義と課題についても言及する。

授業の目標

生涯学習の基本理念については、現在進行形である多様な生涯学習政策、生涯学習事業、学習活動を読み解くことのできる基本的な視座を身につけることを目標とする。また、生涯学習活動や実践についての幅広い理解を得ることも目標とする。さらに、放送大学における本講座の受講が、受講生にとっての生涯学習であることに示されるように、生涯学習の意味を、単に研究対象として考察するだけではなく、自らの学習に引き付けて考える思考法を身につけ、自らの学習を省察する習慣を習得することも本授業の目標となる。

履修上の留意点

専攻科目である岩永雅也『生涯学習論』（閉講科目）履修者も受講可能である。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生涯学習の理念（1） | 日本における生涯学習の理念について、戦後から平成20年に至るまでの流れを概観する。社会教育、生涯教育、学習社会、知識基盤社会などの類似の概念との関係を明らかにすると同時に、生涯学習の理念自体が、ノンフォーマルな学習やインフォーマルな学習形態、学校教育の包摂などを含めて変遷かつ拡大しつつあることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>社会教育、生涯教育、学習社会、知識基盤社会、ノンフォーマルな生涯学習 | 三輪 建二 | 三輪 建二 |
| 2 | 生涯学習の理念（2） | 平成20（2008）年に、中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して」が出され、生涯学習についての新しい理解と政策課題が示された。そこで、この答申の特徴について、知識基盤社会、知の循環型社会、個人の要望と社会の要請とのバランス、持続可能な社会の発展、連携・ネットワークの構築などの観点から明らかにすると同時に、答申がもつ課題についても言及する。<br>【キーワード】<br>知識基盤社会、知の循環型社会、社会の要請、学習成果の評価、連携・ネットワーク | 三輪 建二 | 三輪 建二 |
| 3 | 生涯学習の学習論（1） | 生涯学習は広範囲な概念であるが、生涯にわたる学習という考え方を「学習論」として整理してみると、どのようになるだろうか。ここでは、生涯学習の主な担い手である成人学習者の特性を活かした「アンドラゴジー」について検討する。M・ノールズのアンドラゴジーを中心とするが、アンドラゴジーのアイディアを拡大した成人学習論（ポスト・アンドラゴジー）についても言及する。<br>【キーワード】<br>アンドラゴジー、ノールズ、ポスト・アンドラゴジー | 三輪 建二 | 三輪 建二 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 生涯学習の学習論（2） | 生涯学習の概念はフォーマルな学習活動から、ノンフォーマル、インフォーマルな学習活動へと領域的、形態的な拡大を含んでおり、それにともなって新しい学習論が登場している。ここでは「省察的実践」（ショーン）「状況的学習」「実践コミュニティ」（ウェンガー）などについて検討し、それらの学習論が生涯学習にとってもつ意義について考察する。<br>【キーワード】<br>省察的実践、状況的学習論、実践コミュニティ | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：倉持伸江 東京学芸大学講師） |
| 5 | 学校・家庭・地域の連携 | 第2章で述べた答申は、社会全体の教育力の向上を目指しため「学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり」について言及している。学校・家庭・地域との連携が求められる社会的背景、連携の仕組みづくりについて考察すると同時に、「放課後子どもプラン」や「学校支援地域本部」「学校支援ボランティア」などの施策を取り上げ具体的に検討する。<br>【キーワード】<br>学校・家庭・地域との連携、放課後子どもプラン、学校支援地域本部、学校支援ボランティア | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：佐藤晴雄 日本大学教授） |
| 6 | NPO・ボランティア | 1990年代から生涯学習分野においても非営利団体（NPO）の役割が注目されるようになった。社会教育事業を担当するNPOや指定管理者となるNPOの存在の他、NPOの活動自体がNPO内外の関係者にとって（ノンフォーマル、インフォーマルな）生涯学習になっていることが背景にある。NPOやボランティアと生涯学習との関係について、以上の観点から検討する。<br>【キーワード】<br>NPO、NPO法、指定管理者、NPOと生涯学習 | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：田中雅文 日本女子大学教授） |
| 7 | 学習する組織 | 日本の社員教育や官公庁の研修等はOJTを中心に展開してきたが、知識・技能の急速な発展は終身雇用を前提とするOJT中心の教育・訓練の転換をせまっている。キャリア開発、エンプロイアビリティなどに言及し、組織全体が「学習する組織」として発展してく可能性と課題について考察する。<br>【キーワード】<br>OJT、終身雇用、キャリア開発、エンプロイアビリティ、学習する組織、P. センゲ | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：中村香 玉川大学准教授） |
| 8 | 高等教育機関の役割 | 大学は生涯学習に冷淡と言われてきたが、少子高齢化の中で、社会人に門戸を開放するようになっている。社会人への受け入れシステムの発展、大学・短大・専門学校、大学開放センターの役割について考察する。放送大学にも言及する。<br>【キーワード】<br>大学開放、社会人学生、大学開放センター、放送大学 | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：山本健慈 和歌山大学長） |
| 9 | 行政の生涯学習支援とネットワーク | 学習者が地域における学習資源を有効に活用していくためには、生涯学習機関や施設、団体の連携とネットワークが求められる。生涯学習を担当する行政の役割は、学級・講座の提供から学習情報の提供へ、さらには連携・ネットワークの構築へと転換しつつあることについて検討する。<br>【キーワード】<br>学習情報の提供、連携・協働、ネットワーク型行政 | 三輪 建二 | 三輪 建二（ゲスト：倉持伸江 東京学芸大学講師） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 生涯学習の評価 | これまでの生涯学習では、学習の成果としてのアウトプットが語られないことが多かった。第2回で述べた中央教育審議会は、生涯学習において学んだ成果を地域などで活かすことを軸に据えた「学習成果の評価」に言及している。評価の理論をふまえつつ、履修証明制度等の活用にも触れながら、学校教育モデルとは異なる生涯学習の評価のあり方について考察を深める。<br>【キーワード】<br>学習成果、教育評価、学習評価、履修証明制度 | 三輪 建二 | 三輪 建二 |
| 11 | 海外の生涯学習(1)<br>韓国 | 日本の生涯学習の動向を考える上で、他の諸国の生涯学習の理念と現状を理解することは、比較的考察を進める意味で重要である。3回にわたって世界各国の生涯学習の理念と現状、特色や課題について紹介する。まず、アジアの隣国である韓国の平生教育を取り上げることとし、平生教育の実務者の養成・研修についても言及する。<br>【キーワード】<br>韓国、社会教育、平生教育、平生教育士 | 三輪 建二 | 三輪 建二<br>(ゲスト:イ・ビョンジュン 釜山大学教授) |
| 12 | 海外の生涯学習(2)<br>ドイツ・フィンランド | 2回めは、生涯学習の先進国ともいうべきヨーロッパ諸国から、特にドイツおよびフィンランドの生涯学習を取り上げる。1990年代以降のEU統合の中での生涯学習政策(例えばグルントヴィ計画など)をはじめ、社会文化センターでの事業(ドイツ)、成人教育理念をふまえた活動理論の展開(フィンランド)に言及する。<br>【キーワード】<br>成人教育、継続教育、グルントヴィ計画 | 三輪 建二 | 三輪 建二 |
| 13 | 海外の生涯学習(3)<br>発展途上国 | アジアをはじめとする発展途上国における成人教育(生涯学習)は、識字教育を意味することが多い。3回目は、発展途上国の成人基礎教育、成人識字教育の現状と課題について言及する。また日本のNPO・NGOが途上国の識字教育に果たしている役割についても検討する。<br>【キーワード】<br>成人基礎教育、成人識字教育、NGO、バングラデシュ | 三輪 建二 | 三輪 建二<br>(ゲスト:座波 圭美 ユネスコ・アジア文化センター) |
| 14 | 生涯学習と格差 | いつでも、誰でも、どこでもという生涯学習の理念の実現は困難に直面している。一つは生涯学習の入口段階における学歴社会の存在であり、他方では、生涯学習によりますます経済的・社会的格差が発生しうるという問題である。また、成人の実践知と大学の学問知との相違を大学教育が再生産するという問題もある。生涯学習が格差是正にどの程度貢献しうるものなのかを考察する。<br>【キーワード】<br>格差社会、学歴社会、格差是正 | 三輪 建二 | 三輪 建二<br>(ゲスト:岩永 雅也 放送大学教授) |
| 15 | 生涯学習の展望と課題 | 日本のみならず世界各国で、フロント・エンド・モデルからの脱却と、生涯にわたる質の高い学習・教育を保証する教育システムの構築が希求される。生涯学習社会の実現への模索が続くものの、多くの克服すべき課題が未解決のまま残されている。前回の格差問題に続き、残された課題について検討すると同時に、講義全体のまとめを行う。<br>【キーワード】<br>フロント・エンド・モデル、生涯学習社会、学習観の転換 | 三輪 建二 | 三輪 建二<br>(ゲスト:岩永 雅也) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920648 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ カリキュラム編成論 （’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：田中博之（早稲田大学教職大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小川正人（放送大学教授）】



## 講義概要

本科目は、学校におけるカリキュラム編成の理論と方法について解説することをねらいとしている。理論面においては、歴史的考察をふまえながら、カリキュラム統合、編成法の類型、基盤におく学力観、学年発達等の視点について検討する。一方、方法面においては、学校を基盤としたカリキュラム開発に焦点をあてて、今日の学校が課題としているカリキュラム編成の方法について、実践事例を豊富に紹介しながら解説する。具体的には、習得・活用・探究の連携、言語活動の充実、総合的な学習の時間、教科横断的なカリキュラム編成、カリキュラム・マネジメント等の視点から考察する。さらに、海外のカリキュラム編成の最新動向についても実践的な解説を加える。

## 授業の目標

① カリキュラム編成の理論について、歴史的考察をふまえて理解している。
② カリキュラム編成の方法について、具体的な実践事例をふまえて理解している。
③ カリキュラム編成の理論と方法の特徴について、小論文形式等でわかりやすく論述することができる。

## 履修上の留意点

教職科目「教育課程の意義及び編成の方法」に対応しているため、学校での実践事例を豊富に紹介して具体的な解説を行うので、理論と実践を関連付けながら理解することが望ましい。各回で紹介する参考文献については、できる限り読むようにすると理解を一層深められる。予備的知識は特に必要としないが、学校のミドルリーダーとしての当事者意識を持って臨むことによって、より実践的な知識を得ることができるようになっている。もちろん、若手教員や学校関係者以外の受講も歓迎する。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | カリキュラム編成の特徴と今日的課題 | 初回の講義では、カリキュラムという用語の定義を行うとともに、その編成の特徴に関する基礎的な解説を行う。さらに、学校におけるカリキュラム編成の今日的課題を幅広くとらえることにより、学校がなぜ、どのように、どうやってカリキュラムを編成すべきなのかという問いに答えるようにする。<br>【キーワード】<br>カリキュラム編成、学習指導要領、学校カリキュラム、評価 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 2 | カリキュラム編成の理論と原理 | カリキュラム編成の理論について、国内と海外の諸理論を歴史的に紹介するとともに、編成に関わる基本原理について解説する。また、それらの理論が学校でのカリキュラム編成の今日的課題とどのように結びついているかについて理解できるようにする。<br>【キーワード】<br>内容構成論、開発方法論、評価論、履修原理、法的拘束力 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 3 | カリキュラムの基盤をなす学力モデル | 学校のカリキュラムは、その時代の学力観に強い影響を受けて編成される。そこで、平成23年度から全面実施となった新学習指導要領の学力観を検討するとともに、OECDが提唱する国際標準学力としてのキー・コンピテンシーやPISA型読解力についても解説を加える。<br>【キーワード】<br>21世紀型学力、総合学力モデル、キー・コンピテンシー、PISA型読解力 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | カリキュラムの統合 | 学校カリキュラムの領域を構成する原理として、「カリキュラム統合」という軸がある。これに沿って、今日のわが国の学校カリキュラムにおいては、総合的な学習の時間が設置されている。その歴史的・原理的な解説を行うとともに、今日的課題から見た総合的な学習の時間のカリキュラム編成のあり方を検討する。<br>【キーワード】<br>総合的な学習の時間、単元モデル、カリキュラムモデル | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 5 | 新教科創設のためのカリキュラム開発と研究開発学校制度 | 学校カリキュラムの編成の中でも最も大規模な作業となるのが、新教科の設立である。文部科学省指定の研究開発学校での様々な取り組みを紹介しながら、それぞれの新教科設置のねらいや特徴について幅広く検討する。<br>【キーワード】<br>カリキュラム開発、新教科、生活科、ドラマ科、研究開発学校 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 6 | 教科横断的な課題(1)言語活動の充実 | 今日のカリキュラム編成においては、学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の解決が求められている。その一つ目として、「言語活動の充実」という課題を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。<br>【キーワード】<br>言語活動の充実、言葉の力、話型、文型、サブ・カリキュラム | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 7 | 教科横断的な課題(2)活用を図る学習活動 | 学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の二つ目として、「活用を図る学習活動」を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。<br>【キーワード】<br>活用学習、型の活用、フィンランド・メソッド、創作表現 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 8 | 教科横断的な課題(3)学習スキルの育成 | 学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の二つ目として、「学習スキルの育成」を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。<br>【キーワード】<br>学習スキル、実践スキル、キー・スキル | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 9 | 人間関係スキルを育てるカリキュラムの編成 | 子どもの人間関係スキルを育てることが、今日の学校において喫緊の課題になっている。そこで、先進的な取り組みを行っている小学校と中学校のカリキュラムを紹介しながら、人間関係スキルの計画的かつ系統的な育成方法について検討する。<br>【キーワード】<br>人間関係スキル、社会的スキル | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 10 | クロス・カリキュラムの編成 | 教科横断的な課題をカリキュラム編成に生かす視点と方法に加えて、さらにカリキュラム統合の方法として、教科横断的なカリキュラム編成がある。これは、いくつかの教科・領域・時間を組み合わせて大単元を構成するものである。その意義と方法について事例を交えて具体的に解説する。<br>【キーワード】<br>クロス・カリキュラム、習得・活用・探究の連携 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 学級経営カリキュラムの編成 | 今日の学校教育で大きな課題である学級経営のあり方を改善し、子どもの集団づくりに効果を上げるために、学級経営カリキュラムを作成・実施することを提案する。ここで、学級力モデルを検討し、学級経営の新手法を具体的に解説する。<br>【キーワード】<br>学級経営、学級力、学級力向上プロジェクト | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 12 | カリキュラム開発のケース・スタディー | 第5章で検討した研究開発学校におけるカリキュラム開発の事例について、新教科「市民科」と「ドラマ科」を取り上げて、その具体像とカリキュラム開発の特徴について具体的に解説する。<br>【キーワード】<br>市民科、ドラマ科、研究開発学校 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 13 | 海外のカリキュラムに学ぶ | わが国の学校カリキュラムのあり方は、少なからず海外の影響を受けている。そこで、日本の学校カリキュラムに影響を与えているイギリスやアメリカの動向を紹介しながら、これからのカリキュラム編成について考える。<br>【キーワード】<br>21世紀型スキル、市民科、ドラマ科、トピック・ウェブ | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 14 | R－PDCAサイクルに基づくカリキュラム・マネジメント | 各学校で編成したカリキュラムを組織的・計画的に実施・改善するためには、R-PDCAサイクルによる学校を基盤とした編成手法、つまりカリキュラム・マネジメントが必要となる。その意義と方法について具体的に解説する。<br>【キーワード】<br>SBCD、R-PDCAサイクル、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |
| 15 | 漸進的カリキュラム編成法の意義と特徴 | 教科横断的なカリキュラムや総合的な学習の時間におけるカリキュラムは、年度当初に編成された詳細案を実施するのではなく、入手可能な教材や実施可能な学習活動、さらには子どもの実態や反応に基づいて、実践を伴いながら漸進的に編成されることが必要である。そのような漸進的カリキュラム編成の意義と方法について、実践事例に基づいて解説する。<br>【キーワード】<br>漸進的カリキュラム編成法、授業の再設計技法、食といのちの教育 | 田中博之（早稲田大学大学院教授） | 田中博之（早稲田大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920591 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 教育文化論特論 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：鈴木晶子（京都大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：住田正樹（放送大学教授）】



講義概要

人は経験なしに教育について語ることはできない。と同時に、経験だけで教育を語ることもできない。人と人との邂逅と対峙を通して、人は生成や変容を遂げる。そうした人間の生成変容を支えている文化 －教育文化の働きは広く、そして深い。この授業では、教育文化について、哲学的人間学、文化人類学、歴史学、詩学など教育学の隣接諸科学に基づく思考様式を用いて分析や解明を進めていくための基礎を学ぶことを目的としている。場がつくる教育文化、メディアとしての教育文化、伝承のなかの教育文化について、様々なフィールドワークの事例を通して、論究する。

授業の目標

教育文化を分析・解明するための観点や基本概念、分析枠組などを学ぶことを通して、自らがこれまで受けてきた教育を通して得た体験や経験や、日常の様々な場面をフィールドとして分析的に捉えることができる力の養成を目標としている。

履修上の留意点

広く教育に関係するものとしては、「人間発達論（’09）」の印刷教材を学んでおくことが望ましい。また、教育的日常をフィールドとして捉えたり、広く文化の観点から教育という営みを考える思考を鍛えるために、「文化人類学（’08）」も参照されることをおすすめする。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 教育文化とは | 科目全体の導入回として、教育文化の意義についての問題提起と科目（学習）の到達点を提示する。また、主要概念の定義や方法論を示す。<br>【キーワード】<br>教育文化、人間学、人類学、歴史人類学 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| | | Ⅰ 場と教育文化 | | |
| 2 | 1 場がつくる教育文化 | 教育文化は場においてつくられる。古くは古代ギリシアのアゴラから現代の学校教育現場まで、人間相互の関わりを生かす場の力の働きについて、事例を交えて紹介する。<br>【キーワード】<br>環境世界、場の働き、経験、徒弟制度 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 3 | 2 リテラシー（智）への誘い | 教育文化の基盤には、読み書き（リテラシー）の習得があった。だがリテラシーは単に識字能力にとどまらない。知識をそれぞれの状況や社会的文脈において活かす知恵（叡智）も広義のリテラシーである。リテラシー思想の系譜を追うとともに、現代における科学リテラシーの意義についても事例を交えて紹介する。<br>【キーワード】<br>読み書き、リテラシー、知恵、叡智 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 場と人間の変容 | 人の才を育てていくには、教育する側にも教育の才が求められる。人と人とが出会い、相互にその才を伸ばしていくには、人をみる目、事柄を見極める目が必要である。こうした才としての目（心眼）は、タクトとも呼ばれる。人育ての知恵や才、判断力としてのタクトの働きについて、その思想の系譜を追いながら論究する。<br>【キーワード】<br>才、タクト、ものを見る目、判断力 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 5 | 4 場・言葉・身体 | 人育ての知恵や才は、人生の極限において自己自身を超え出ていく力を必要とする。直観や勘の働きに関する思想の系譜を紹介するほか、仏教やキリスト教の修練の場を事例として取り上げながら、場における人間変容について考える。<br>【キーワード】<br>直観、勘、瞑想、言葉、身体、感情 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| | | II メディアと教育文化 | | |
| 6 | 1 展覧の教育文化 | 近代的な教育文化の特質は、世界を展覧できるメディアを開発することであった。ヨーロッパの驚異博物館（ヴンダー・カンマー）をはじめ、博物館、美術館、博覧会、動物園など展覧のメディアが果たした役割について、事例を紹介しながら示す。<br>【キーワード】<br>展覧、博物館、美術館、博覧会、一望のまなざし | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 7 | 2 文化・歴史・メディア | 新聞や映像はもちろん身近なメディアとしてすぐに思い浮かぶが、歴史的記録と想起の場として、記念塔や慰霊碑も教育文化にとってメディアと捉えることができる。教育文化のメディアとしての展覧のもつ功罪について、事例を手掛かりにしながら考える。<br>【キーワード】<br>イデオロギー、記念塔、慰霊碑、歴史モニュメント | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 8 | 3 メディアとしての「もの」 | 玩具、絵本、童話、童謡などは、教育文化を構成している重要なメディアである。子どもの日常に深く関わる「もの」は、時代の価値観を反映しつつ、これまでも子どもたちをその時代の子へとつくりあげてきた。「もの」を通して形成されてきた教育文化の仕組みについて、事例を交えて紹介する。<br>【キーワード】<br>玩具、絵本、童話、童謡、教育的配慮 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 9 | 4 メディアとしての儀礼 | 儀礼は教育文化のひとつである。儀礼には、宗教的な儀礼や成人に至るまでの通過儀礼、年中行事や祭事の儀礼、さらに、学校での入学式や卒業式、運動会といった行事での儀礼、誕生祝や結婚、出産の儀礼まで様々ある。こうした儀礼を通して人は何をどのように学んでいるのだろうか。事例を紹介しながら考える。<br>【キーワード】<br>儀礼、通過儀礼、反復、演出、ミメーシス | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 5 ミメーシス・学習・伝承 | 儀式や儀礼は伝統の様式をなぞりながらも、それぞれの時代の文化的・社会的条件に合うように、改変されながら伝承されてきた。儀礼の伝承メカニズムは、パフォーマンスを通した模倣的な反復（ミメーシス）である。儀礼のこの特質について事例を交えて紹介する。<br>【キーワード】<br>儀礼、パフォーマンス、模倣、学習、伝承 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| | | III　伝承のなかの教育文化 | | |
| 11 | 1　生存と伝承 | 人が生存のために伝承しているものは様々ある。親から子への伝承は古代より、もののやり方に関する伝承のうちにみることができる。また、家庭料理を通して伝わる家庭の味に代表されるように、感覚を通した伝承もある。伝承の様々な側面について事例を紹介しつつ、考える。<br>【キーワード】<br>もののやり方、感覚、日常実践のわざ、伝承の知恵 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 12 | 2　伝承とわざ | 伝統的な技芸やものづくりの場においては、どんな伝承の知恵が働いているのだろうか。わざを極める場で起きている事象を、フィールドとして研究する試みを紹介しながら、伝承とわざの関係について考える。<br>【キーワード】<br>技芸、芸道、ものづくり、修行、フロネシス | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 13 | 3　伝承の新しい地平 | 教育文化の伝承という広い観点から捉えるとき、学校教育を含めた学習・伝習・伝承は、今後どのような展開の可能性があるのだろうか。学校教育における学習だけに限定せずに、伝承というものを捉える観点から、異文化理解や異文化への寛容さを育むといった新たな課題について考える。<br>【キーワード】<br>練習、稽古、比較、異文化理解、寛容さ | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| 14 | 4　死と再生の教育文化 | 古来より、親はその死に際の姿を通して最も大切な事柄を子に伝えるものだといわれる。死生の文化は教育文化にとって重要な意義をもつ。個人の死、近親者の死、同胞の死、人類の死、その死をいかに受けとめ、いかに生きていくか　ー死と再生の循環としての教育文化の特質について事例を交えながら考える。<br>【キーワード】<br>死の習俗、死の舞踏、死生の文化、グリーフィング・ケア | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |
| | | | | |
| 15 | 教育文化論の可能性 | 教育文化論は、人類学や詩学の思考方法を通して、人間の生成変容の歴史的、文化的な違いを明らかにするという学際的・国際的な研究領野である。これまでの回を振り返りつつ、教育文化論の意義や今後の可能性について考える。<br>【キーワード】<br>人類学的思考、学際、国際、領域横断 | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） | 鈴木晶子（京都大学大学院・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8920605 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 現代教育改革論 －世界の動向と日本のゆくえ－ （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：江原武一（立命館大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：南部広孝（京都大学大学院准教授）〕

【本学担当専任教員：岡崎友典（放送大学准教授）】



## 講義概要

現在、日本も含めて各国の教育は、経済協力開発機構（OECD）やユネスコなどの国際機関が示す提案や国際的な改革動向の影響を受けながら改革されている。しかし、各国の改革はそうした国際的な動向と必ずしも同調しているわけではない。なぜなら、それぞれがもつ伝統やそれを支える社会のあり方、教育観の違いなどによって多様な取り組みが進められるからである。この授業では、幼児教育から生涯学習（生涯教育）までを対象として、国際的な改革動向を整理し、欧米諸国やアジア諸国における対応について分析・考察を行うとともに、日本の教育改革のあり方を探ろうとするものである。

## 授業の目標

日本の教育改革には、国際機関から示される提案や国際的な改革動向を参考にして進められる側面と、これまでの歴史的経緯や日本社会の現状をふまえて進められる側面とがある。この授業では、主として前者に注目して、世界的な改革動向や各国の対応を理解し、それらをふまえて日本の教育改革のあり方を考える手がかりを得ることを目的とする。

## 履修上の留意点

現代日本の教育が直面する諸課題について、性急に処方箋を求めるのではなく、国際的な動向や各国の対応をふまえてそれを相対化しつつ解決策を考えることが望まれる。履修生は、日本の教育改革の状況とともに、諸外国の社会や教育に対して幅広い興味・関心を有していることが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 教育改革の国際比較 | 現在、世界の多くの国ぐにで大規模な教育改革が進められている。そこには共通の動向が見られる一方で、個別課題への対応が国によって異なることも珍しくない。そうした現代教育改革の共通性と個別性が生じる背景について考察し、日本の教育改革のあり方を国際比較の視点から考える意義について明らかにする。<br>【キーワード】<br>教育改革　共通性　個別性　グローバル化　知識基盤社会 | 南部広孝（京都大学大学院准教授） | 南部広孝（京都大学大学院准教授） |
| 2 | ユニバーサル化する幼児教育・保育 | 幼児教育・保育は、教育を重視する幼稚園、養護を重視する保育所の二元的なシステムとして発展してきたが、幼児教育・保育の需要が拡大する中で、システムの一元化を図る動きが世界各国で進められており、アクセス性や質を高めることへの関心も高まってきている。これらの動向を整理して、日本の幼児教育・保育のあり方について考察する。<br>【キーワード】<br>幼保一元化　アクセス性　質保証　就学準備　発達保障 | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） |
| 3 | 教育システムの変容 | 今日、様々な教育問題の発生やグローバル化の進行により、先進国のみならず発展途上国においても公教育システムの弾力化・多様化が進んでいる。多様な社会的文脈の中で同時進行する教育改革の国際的動向を整理し、その特質をとらえることを通じて、現代日本における学校教育の社会的役割と公教育の意味を問い直す。<br>【キーワード】<br>公教育改革　弾力化　義務教育の多様化　国民教育 | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 才能児の教育ニーズへの対応 | 才能教育は、学習スタイルが標準とは異なる児童生徒の学習権を保障するための教育上の例外措置である。標準カリキュラムを高速で履修する早修、より発展的なカリキュラムを履修する拡充などの方法で、多様な組織形態をもって提供されている。その特徴を整理して、日本の才能教育のあり方について検討する。<br>【キーワード】<br>早修　拡充　飛び級・飛び入学　高大接続　エリート教育 | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） |
| 5 | いじめ問題への対応 | 現在の学校教育は様々な問題を抱えていて、その早急な対応や解決が求められている。そうした問題の一つであるいじめ問題を取り上げ、諸外国における問題状況や対応策を分析することを通じて、いじめ問題の日本的特質を明らかにするとともに、その解決の方策について考える。<br>【キーワード】<br>教育病理　bullying　ゼロ・トレランス方式　ワン-タ　サイバーいじめ | 南部広孝（京都大学大学院准教授） | 南部広孝（京都大学大学院准教授） |
| 6 | 公教育と価値教育 | 今日の学校教育では、基礎的な教科の学習だけでなく、生徒が多文化社会にふさわしい知識や考え方、態度などを学ぶ価値教育を充実することも求められている。この価値教育について市民性教育や宗教教育などを中心に考察し、その意義や課題を考える。<br>【キーワード】<br>公教育　価値教育　多文化社会　市民性教育　宗教教育 | 江原武一（立命館大学教授） | 江原武一（立命館大学教授） |
| 7 | 教師教育の高度化 | 教員の質を高めることはどの国でも教育改革における重要な課題となっており、教員養成と教員研修を含む教師教育のあり方の再検討が進められている。教員の専門職化や養成・研修システムの高度化という視点からその国際的な動向を整理し、日本における改革のあり方を考察する。<br>【キーワード】<br>教員養成　高度化　専門職化　教職大学院　教員研修 | 南部広孝（京都大学大学院准教授） | 南部広孝（京都大学大学院准教授） |
| 8 | 知識基盤社会における高等教育 | 知識基盤社会への移行に伴って、高等教育の量の拡大と質の維持向上は多くの国でますます重視されるようになっている。量的拡大と高等教育の多様化、大学の自律性の拡大や質保証システムの導入といった改革動向を具体的な事例を通じて検討し、日本における改革の方向性と課題を考察する。<br>【キーワード】<br>知識基盤社会　高等教育　量的拡大　多様化　大学の自律性　質保証 | 南部広孝（京都大学大学院准教授） | 南部広孝（京都大学大学院准教授） |
| 9 | 生涯学習理念の展開 | 1960年代に登場した生涯学習（生涯教育）という考え方は、世界の多くの国ぐにで教育改革を進めるよりどころの一つとなっている。生涯学習の理念と、それが諸外国の学校教育を含む教育のあり方に対して与えたインパクトを明らかにし、日本での改革の現状と課題を考察する。<br>【キーワード】<br>生涯学習　リカレント教育　学習社会　生涯教育　学校教育 | 南部広孝（京都大学大学院准教授） | 南部広孝（京都大学大学院准教授） |
| 10 | 国際学力調査の拡大 | グローバル化が進展する中で、諸外国の教育水準への関心が世界的に高まっている。日本では、国際教育到達度評価学会（IEA）によるTIMSSや経済協力開発機構（OECD）によるPISAなどの国際学力調査が、教育政策に重要な影響を及ぼしてきた。それらが測定しようとする学力、それらの意義と課題について考察する。<br>【キーワード】<br>TIMSS　PISA　到達度 リテラシー | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） | 深堀聰子（国立教育政策研究所総括研究官） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ジェンダーと教育 | ジェンダーと教育は、個々の社会の文化的特質や経済発展と密接にかかわっており、是正に向けた改革も多様である。ジェンダーと教育にかかわる理論的な動向、ジェンダー問題解決に向けての国際的な改革動向、発展途上国における課題を整理し、日本におけるジェンダーと教育問題を再考する。<br>【キーワード】<br>ジェンダー・バイアス　開発の中の女性　ジェンダーと開発 | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） |
| 12 | 国際教育協力の課題 | 今日の国際教育協力は、教育格差の是正と共通する教育問題の解決のため、「万人のための教育(Education for All)」の普及とともに、教育の地方分権化や参加型学校運営など新たな支援の方向性を模索している。各国及び国際機関による国際教育協力の課題と発展途上国の教育改革動向を整理し、これからの国際教育協力に果たす日本の役割を考える。<br>【キーワード】<br>教育格差　万人のための教育　教育の地方分権化　発展途上国への教育支援 | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） | 服部美奈（名古屋大学大学院准教授） |
| 13 | 教育の国際化 | 現行の教育制度を前提として、日本の教育をどのように国際化すればよいのか。この問題を、国際化のための教育（国際理解教育、外国語教育など）と教育システムの国際化（教育システムの標準化、在日外国人教育など）を中心に分析し、国際化時代における日本の教育のあり方を考える。<br>【キーワード】<br>教育の国際化　国際理解教育　外国語教育　日本語教育　在日外国人教育 | 江原武一（立命館大学教授） | 江原武一（立命館大学教授） |
| 14 | 国際的な教育流動 | 教育に関する国境を越える人や教育プログラム、教育機関などの移動は近年ますます盛んになってきている。そうした国際的な教育流動をめぐる改革課題を、海外留学や教育プログラムの国際移動などに焦点を絞って考察し、国境を越えて展開するトランスナショナル教育のあり方を探る。<br>【キーワード】<br>社会のグローバル化　トランスナショナル教育　海外留学　外国大学分校 | 江原武一（立命館大学教授） | 江原武一（立命館大学教授） |
| 15 | 日本の教育改革のゆくえ | 世界の多くの国ぐにでは現在、教育改革が同時進行の形で進められている。この最終回では、これまでの講義の内容をふまえて、幼児教育から高等教育までの教育システム、女性と教育、教育の国際化などをめぐる改革課題を国際比較の観点から明らかにし、今後の日本の教育改革のあり方を展望する。<br>【キーワード】<br>国際比較　教育改革　教育システム　ジェンダーと教育　教育流動 | 江原武一（立命館大学教授） | 江原武一（立命館大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度（第２学期） | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920613 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 道徳性形成・徳育論 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：押谷由夫（昭和女子大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：住田正樹（放送大学教授）】



## 講義概要

現代の家庭、学校、地域社会がかかえる大きな教育課題に道徳教育がある。道徳教育は「人間としていかに生きるべきか」を正面から取り上げ、「人間として自分はどう生きるか」を主体的に考え「具体的に追い求めていけるようにすること」を主とするために、きわめて広い視野と、深い人間的洞察力が必要になる。本講義では、道徳性の形成と徳育という視点から、我が国の道徳教育が大きな影響を受けている中国の道徳思想（徳育論）、江戸時代及び明治期から戦前にかけての我が国の道徳思想（徳育論）を押さえて、今日の道徳教育（徳育）の在り方を、欧米や中国、韓国の動向、そして戦後の我が国の道徳教育の動向をもとに探っていこうとするものである。

## 授業の目標

道徳教育の基本的問いである「人間としていかに生きるべきか」は、人間としての自覚にかかわって常に問われ続けるものである。それを「どのように追い求めていくか」は個人的な課題であると同時に、社会的課題でもある。本講義では、「人間としていかに生きるべきか」と、それを個人的課題及び社会的課題として「どのように追い求めていくか」という視点から、歴史的・国際的視野のなかで、我が国の道徳教育の特徴と課題を理解し、これからの道徳教育について、自らの生き方とかかわらせて、具体的展望をもてるようにすることを目標とする。

## 履修上の留意点

学部科目「道徳教育論」を履修していることが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 「私にとっての道徳教育」とは何かを考えてみよう | 本科目の概要と基本的コンセプトをお話したい。基本的コンセプトとしては、「私にとっての道徳教育」という視点からこの講義が聴けるようにしたい。それは、各講師がそれぞれの道徳性形成を講義の内容を通して受講者に伝えていくことでもあるかと思う。その導入として、「私」自身の道徳性の育成を振り返ることから始めていきたい。<br>【キーワード】<br>私にとっての道徳教育　人格と自己形成　生きがい観 | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） |
| 2 | 「心ということばの一般的用法」から道徳教育を考えてみよう | 「私にとっての道徳教育」という視点をさらに広げて、「社会からみた道徳教育」について、「心ということばの一般的用法」から探っていきたい。大きく、「道徳的価値の総合体としての心」「社会的性格としての心」「意識的・感覚的存在としての心」の3つについて説明していく。それらを次の回からの講義へとつなげていけるようにしたい。<br>【キーワード】<br>心の一般的用法　道徳的価値の総合体　社会的性格　意識的・感覚的存在 | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） |
| 3 | 中国における道徳思想（徳育論）について考えてみよう（1）-『論語』に見える道徳の問題- | 孔子の言行録である『論語』には、人の心の問題をはじめ、家族、職場、国家など、現代社会にも通ずる諸問題が多く取り上げられている。その中から、特に「人はどう生きるか」「どう社会と関わっていくべきか」という課題を取り上げる。また、それが広く東アジア文化圏に共通する思想となっている点についても解説する。<br>【キーワード】 孔子、論語、孝、仁 | 湯浅邦弘（大阪大学大学院教授） | 湯浅邦弘（大阪大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 中国における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(2)－諸子百家の道徳論－ | 近年中国で発見された戦国時代の儒家系の新資料(竹簡)には、すでに道徳論を明確に説く文献が複数含まれていた。そうした新資料を紹介しながら、古代中国において、「夫・婦・父・子・君・臣」という人倫関係がどのように考えられていたのかを明らかにする。また、儒家以外の諸子百家がこうした問題をどう考えていたのかについても解説する。<br>【キーワード】儒家、人倫、諸子百家 | 湯浅邦弘(大阪大学大学院教授) | 湯浅邦弘(大阪大学大学院教授) |
| 5 | 江戸時代における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(1)－経済活動と町人倫理－ | 江戸時代は、活発な経済活動で繁栄した時代であった。それゆえ経済を支える町人には、倫理的な行為が求められた。その徳目の中核は、倹約と正直である。また経済活動と並行して教育に対する関心も盛んになり、藩校・寺子屋などの教育施設がつぎつぎとつくられ、生活習慣を中心に指導がなされた。<br>【キーワード】<br>町人倫理、倹約、正直、藩校、寺子屋 | 高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授) | 高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授) |
| 6 | 江戸時代における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(2)－儒教倫理と人倫－ | 町人倫理から子どもの生活習慣まで、また士農工商のそれぞれ生き方について、原理的に説明するものが儒教であった。江戸時代の儒教は、たんなる前近代の封建思想ではない。日本儒教の多様な機能を考え、ここにはたらく「人倫」という観念、また人間を理解する普遍な思索方法について考えてみたい。<br>【キーワード】<br>儒教、生生、人倫、仁、愛 | 高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授) | 高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授) |
| 7 | 近代日本における道徳教育(徳育論)について考えてみよう(1)―修身科の歴史と教育勅語の渙発― | 近代教育では道徳教育を担う教科として修身科が設置された。本章では、近代教育の出発にあたって、修身科を中心とした道徳教育の理念と目的がどのように模索され形成されたのかを歴史的に辿りながら、特に1890(明治23)年の「教育ニ関スル勅語」(教育勅語)渙発が道徳教育(徳育論)に果たした役割と意義について考えていきたい。<br>【キーワード】<br>修身科、徳育論争、教育ニ関スル勅語(教育勅語)、徳目主義、人物主義 | 貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授) | 貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授) |
| 8 | 近代日本における道徳教育(徳育論)について考えてみよう(2)―国定修身教科書の特徴と修身教授の改革論― | 1903(明治36)年に国定教科書制度が確立し、1949(昭和24)年の学校教育法の制定までに全5期にわたる国定修身教科書が使用された。本章では、各期の国定修身教科書の特徴を整理しながら、特に大正新教育運動期における修身教授改革論についても検討することで、近代教育に果たした修身科の役割と修身科研究の今後の課題について考えていきたい。<br>【キーワード】<br>国定修身教科書、大正新教育運動、国民学校、天野貞祐 | 貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授) | 貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授) |
| 9 | 戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(1)―「道徳の時間」が特設されるまで― | 戦後の道徳教育について、1958(昭和33)年に道徳の時間が特設されるまでを概観し、その基本的な流れを押さえる。特に「公民教育構想」「社会科を中心とする道徳教育」「天野貞祐の提案」「道徳の時間の設置」に絞って、戦後の道徳教育の動向の実際を明らかにしたい。<br>【キーワード】<br>公民教育構想　社会科　天野貞祐　道徳の時間 | 押谷由夫(昭和女子大学大学院教授) | 押谷由夫(昭和女子大学大学院教授) |
| 10 | 戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(2)―「道徳の時間」特設以降― | 「道徳の時間」設置以降の動向について、特に「道徳の時間設置から1989(平成元)年の学習指導要領改訂まで」「1989(平成元)年の学習指導要領の改訂」「2002(平成14)年の心のノート配付事業」の3つをポイントにして探っていく。その中で、今日の道徳教育の課題も明らかにしたい。<br>【キーワード】<br>学習指導要領　幼・小・中・高一貫の道徳教育　心のノート | 押谷由夫(昭和女子大学大学院教授) | 押谷由夫(昭和女子大学大学院教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | アメリカにおける道徳教育の動向を探ってみよう―大統領が主導するアメリカの徳育― | アメリカにおける道徳教育を特徴づける3つの要素、①民主主義の理念と道徳的価値の教育、②実践性と科学的実証性、③地域社会との連携、を中心に、各州、各学校区および各学校での具体的な取り組みを紹介する。<br>【キーワード】<br>キャラクターエデュケーション、サービス・ラーニング | 伴　恒信（鳴門教育大学大学院教授） | 伴　恒信（鳴門教育大学大学院教授） |
| 12 | ヨーロッパにおける道徳教育の動向を探ってみよう―ヨーロッパの宗教教育とシティズンシップ教育― | ヨーロッパでは、第二次世界大戦後の1949年から欧州評議会が民主主義及び人権の教育に係る活発な研究・普及活動を進めてきたが、1992年の欧州連合（EU）の発足を契機に、さらに国家枠を超えた民主主義的人格の涵養を目指すシティズンシップ教育が緊要かつ現実的な課題となってきた。具体的に英・独・フィンランドなどの教育状況を踏まえながら考察していきたい。<br>【キーワード】<br>シティズンシップ教育、欧州評議会、PSHE | 伴　恒信（鳴門教育大学大学院教授） | 伴　恒信（鳴門教育大学大学院教授） |
| 13 | 中国、韓国における道徳教育の動向を探ってみよう―道徳教育教科による道徳教育― | 現在の中国では学校における道徳教育を、品徳と生活、品徳と社会、思想品徳、思想政治という教科を中心として行っている。韓国においても教科の道徳を設けて計画的・発展的な道徳教育を行っている。その具体と、社会における道徳教育の取組をあわせてみていくことによって、道徳教育のあり方を探っていきたい。<br>【キーワード】<br>品徳と生活、思想社会、思想品徳、教科道徳、社会における道徳教育、家庭における道徳教育 | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） |
| 14 | 我が国の特質を生かした道徳教育をいかに進めるかを考えてみよう | 講義の全体を振り返りながら、我が国の特質を生かした道徳教育をどのように展開していけばいいのかについて考えてみたい。また、59年ぶりに改正された教育基本法や2008（平成20）年に告示された新学習指導要領における道徳教育の重視や推進方策について明らかにしながら、これからの道徳教育の推進方策について考えていきたい。<br>【キーワード】<br>改正教育基本法、人格の完成、人格の基盤としての道徳性、新学習指導要領、人間としての生き方、特別教科「道徳」） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） |
| 15 | 「これからの私にとっての道徳教育」について考えてみよう | 最初の講義で考えた「私にとっての道徳教育」が本科目をとることによってどのように変わってきたかを確認し、「これからの私にとっての道徳教育」を各自で考えられるようにしたい。それは、これから自分自身といかに向き合っていくかということでもある。自分の未来に対する意識のもち方や相手の立場に立つことの大切さ、日本国民が大切にしてきた心などを探りながら、考えていく。<br>【キーワード】<br>幸福への道しるべ、よさに目を向ける、感謝・報恩、自他への絶対的信頼、相手の立場に立って考える力、日本の心 | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） | 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920575 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　生涯発達心理学研究　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：星　薫　（放送大学准教授）　〕



## 講義概要

生涯発達心理学は人の受精から老年期までの個人的発達について研究する学問である。その核となる仮定は、発達が青年期に完了してしまうものではなく、全生涯を通じて続く適応過程であり、そこには心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退が含まれているとするものである。今回の授業では、アメリカで行われた、複数の個人を、その子ども時代から老年期まで追跡したいくつかの研究の成果を軸に、発達における個人間の共通性、個人差、個人内変化について見ていく。

## 授業の目標

我々は、高齢者と出会って話をすると、つい、その人がどんな人生を歩んできて、現在の姿に至ったのかを知りたくなる。特に、我々の心を引きつける、魅力あふれる老人に出会うと、どうやったら、この人のようになれるのだろうかと考える。人が幸福な老年期（サクセスフル・エイジング）を迎えるために、そこまでの道のりはどのように関係しているのかという、問いへの答えを、追跡研究の成果から探ってみたい。

## 履修上の留意点

特になし

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生涯発達心理学とは | 生涯発達心理学では、人の誕生（あるいはもっと遡って受精）から死までの間に生じる個人の変化について考える。だから当然ながら、その人がどういう時代に生まれ、どのような環境で育ち、生活したかが重要な要因になっていく。本章では、生涯発達心理学（あるいは生涯心理学）の基本的な考え方を紹介していく。<br>【キーワード】<br>生涯変化　獲得　喪失　維持　衰退 | 星　薫 | 星　薫 |
| 2 | ライフコース研究と生涯発達心理学 | ライフコース研究では、ライフコースを人間行為力（ヒューマン・エージェンシー）、社会関係、時空間上の位置、年齢・時代・コーホートの交差という4要素から観察する。このうち人間行為力は、遡及的に観察できるものではなく、追跡的観察からその効果やライフコースの形成全般にわたる累積的効果を捉えることができる。というのは、人間行為力それ自体が、社会的環境、状況に応じて発達的に変化するためである。本講義では、ライフコース研究の枠組みを概観したうえで、人間行為力に焦点をあて、生涯発達心理学での活用について考える。<br>【キーワード】<br>ライフコースの構成要素、人間行為力、発達研究 | 嶋﨑尚子（早稲田大学文学学術院教授） | 嶋﨑尚子 |
| 3 | 生涯発達心理学の先駆者たち | 人の発達を子ども時代に限定せず、長いスパンで考えようとした研究者が、数は少ないがいる。その中で、シャーロット・ビューラー、カール・G・ユング、ダニエル・レビンソン、ロバート・ハヴィガースト、エリク・エリクソンの発達論を紹介する。<br>【キーワード】<br>ビューラー、ユング、レビンソン、ハヴィガースト、エリクソン | 星　薫 | 星　薫 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | ある生涯発達−福沢諭吉を例として— | 慶應義塾大学の創設者である福沢諭吉は、生涯良く笑う、快活な人物であったという。明治維新前後の激動期を生き、多くの業績を残した彼の生涯を、エリクソンの発達漸成論との関係で見ていきたい。<br>【キーワード】エリクソン　心理社会的発達論　福沢諭吉<br>基本的信頼、自我同一性獲得、生殖性、統合 | 星　薫 | 星　薫、ゲスト 平山洋・静岡県立大学助教 |
| 5 | 身体の生涯変化 | 人間の身体は、誕生から、発育、成熟、衰退、死亡するまでつねに加齢変化を経験する。これを広義の老化という。身体的変化と心理的・精神的な変化は表裏一体であり、互いに大きく影響を及ぼし合う。老化の進行する機序には遺伝子のレベルと生命の維持機構そのものが関わっており、老化を完全に回避することは不可能である。生理的な加齢と、さまざまな疾患がもたらす病的な加齢が引き起こす身体的な変化について概観し、いわゆるサクセスフルエイジングとは何かについて学習する。<br>【キーワード】<br>ライフサイクル、加齢変化、老化、生活習慣病、老年病、年代別死因 | 三上　洋（大阪大学大学院教授） | 三上　洋 |
| 6 | 運動能力の生涯変化 | 健康な生涯を送るためには、それぞれの時期に必要で十分な身体活動が求められる。本章では、生涯にわたって変化する運動機能の特徴を提示するとともに、各年齢期に求められる適切な運動実施の重要性やその方法について概説する。<br>【キーワード】<br>体力、運動能力、運動習慣 | 臼井永男（放送大学教養学部教授） | 臼井　永男 |
| 7 | 生涯発達心理学研究法 | 人の生涯の間に生じる変化を知ると言っても、その方法は必ずしも簡単ではない。その際に根拠とする事実は、どのような方法によって得たものが、信頼の置けるデータと言えるのか、どのような記述法が望ましいのかといった問いに対する答えを考えておくことも、必要になる。また、50年以上にわたって行われた縦断研究で採用された方法についても紹介する。<br>【キーワード】<br>横断法、縦断法、ハーバード縦断研究 | 星　薫 | 星　薫 |
| 8 | 生活の生涯変化 | 生活の仕方は、生まれてから老いて死に到るまでの間に、大きく変わっていくと考えられる。そして、その生活の仕方の総体として我々自身が作られていくと言ってもあながち間違いではないだろう。我々が一生の時間の多くを割いて行う「遊ぶ」「働く」という活動を、年代の変化の中で眺め、それが我々の発達とどう関わっているのかを見てみることにしよう。<br>【キーワード】<br>遊び、学校、職業選択、仕事、隠居 | 星　薫 | 星　薫 |
| 9 | 知覚の生涯変化 | 感覚や知覚あるいは注意の年齢による変化は比較的、身体の変化と連動している要素が強いと思われる。すなわち、乳幼児期には身体的成熟に伴って、機能の上昇方向への変化が見出され、青年期から成人期を通じて比較的高いレベルが保たれ、老年期には、生理学的衰退に伴って、機能の低下が見られる。本章では、こうした感覚、知覚あるいは注意の働きの年齢変化について見ていくことにしよう。<br>【キーワード】<br>視覚、乳児の知覚、選択的注意、認知スタイル | 星　薫 | 星　薫 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 乳児期から成人期に到る認知発達 | 乳児期から青年期までの、ピアジェによる認知発達段階を紹介すると共に、成人期の思考の特徴を、子どもや青年のそれと比較しながら考えてみることで、人の生涯に亘る思考の変化について考えてみたい。<br><br>【キーワード】<br>ピアジェ、感覚運動期、操作、論理、脱形式的操作 | 星 薫 | 星 薫 |
| 11 | 道徳観の生涯発達 | 道徳観は、生後の学習経験の産物だと考えられる。従って人によってその強さには、差があると思われるし、生涯の中でも変化していくものと思われる。本章では、道徳観の生涯変化について見てみたい。<br><br>【キーワード】<br>コールバーグ、道徳の発達段階、許し | 星 薫 | 星 薫 |
| 12 | 成人初期から老年期までの変化―生活スタイル | 一人の人物が時間経過の中で示す生活スタイルの変化あるいは不変化について検討した研究を紹介していく。本章で紹介するのは、その種のものの中では古く、1977年に出版されたものである。これからの4つの章はこうしたデータのいくつかを紹介することに当てる予定である。<br><br>【キーワード】<br>生活スタイル、男女差、成人期 | 星 薫 | 星 薫 |
| 13 | 成人初期から老年期までの変化―人格の変化 | 前章で紹介したマースとキュイパース著「30から70まで」で行われた、同一人物についての40年間に生じた変化に関する調査のうち、本章ではもう一つの調査項目である、人格について、その変化、不変化の様相を紹介する。<br><br>【キーワード】<br>Q分類、ハーン自我機能尺度、成人期、男女差 | 星 薫 | 星 薫 |
| 14 | 健康的な加齢 | 本章と次章とでは、第7章で紹介したハーバード成人発達研究で得られた知見の一部を紹介してみたい。健康な状態で老年期を生きる人々とそうでない人々との相違を、彼らの若いころの状態に関するデータから探っていき、両者の相違を明確化しようと試みる。<br><br>【キーワード】<br>肯定的な老化、身体的健康、教育歴、適応的コーピング | 星 薫 | 星 薫 |
| 15 | 心理学的サクセスフル・エイジングを目指して | 人生の最後の10年ないし20年が実り豊かで、幸福であることは、誰にとっても望ましいことである。それは、身体的に健康であるというだけでも、また経済的に安定しているというだけでも達成されるものではないだろう。サクセスフル・エイジングを遂げた高齢者が生きる姿は、後に続く世代の人々にとっての役割モデルであり、人が生きる意味を教えてくれるものでもあるかもしれない。<br><br>【キーワード】<br>成熟、サクセスフル・エイジング、生殖性、意味の守護者、統合 | 星 薫 | 星 薫 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920583 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　現代社会心理学特論　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：　森　津太子　　放送大学准教授　　〕



## 講義概要

本科目では、社会心理学領域の様々な知見について、2つの“現代的な視点”から解説を試みる。1つは、“現代的な研究アプローチ”を紹介するということである。社会心理学では、認知革命以来、特に情報処理モデルをベースとした社会的認知アプローチが発展したが、それに加え、最近では、さらに進化論や脳神経生理学などの知見を踏まえた新たなアプローチが導入されている。そこで、これらのアプローチを紹介しながら、社会心理学の新しい潮流を探っていくことにする。またもう一つの“現代的視点”として、経済、政治、司法といった“現代的なトピック”にも着目する。これらの領域に関わる問題を取りあげることにより、現代の社会心理学の知見を幅広く見ていきたい。

## 授業の目標

心理学を構成する分野は数多くあるが、その中でも社会心理学は特に日常生活との接点が多い。本講義で扱う社会心理学は、“現代的なアプローチ”、“現代的なトピック”を採用しているため、「社会心理学」ということばから直感的に連想されるイメージとは若干異なる内容も含まれているかもしれない。しかし、すべてその本質においては日常的な事象と密接に関係している。本講義を受講することで、受講生が自分自身の生活空間（家庭、職場、その他の対人関係）にある問題ついて、社会心理学的に省みることができるようになることが、本講義のねらいである。

## 履修上の留意点

「教育心理学特論（’12）」を併せて履修すると、さらに理解が深まる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 現代社会心理学の動向 | 社会心理学はまだ歴史の浅い学問であるが、実に多様な内容をその研究テーマとしてきた。初回である今回は、社会心理学がどのような学問であり、またどのような内容をその研究テーマとしているかを概観する。また20世紀後半以降、社会心理学は、情報処理アプローチと呼ばれる認知心理学的な手法を導入したことにより飛躍的に発展してきた。このような社会心理学は社会的認知研究と呼ばれ、現代の社会心理学を特徴づけるものとなっている。社会的認知はそれまでの社会心理学と何が違い、何をもたらしたのか、概説していく。<br>【キーワード】<br>心理学的社会心理学、認知革命、情報処理アプローチ、社会的認知研究 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 2 | 対人認知（1） | 私たちは日々、多くの人々と交流を重ねているが、その際、他者をどのように知覚、理解するかは、円滑な社会生活を営んでいく上で極めて重要な問題である。こうした関心から「対人認知」は、社会心理学研究の中核を担うトピックとして、数多くの研究が蓄積されてきた。対人認知過程を説明する代表的理論・モデルの変遷を見ながら、対人認知研究の歩みを概観し、同時に、情報処理アプローチを採用する社会的認知研究が対人認知研究や社会心理学全体に何をもたらしたかを考えていく。<br>【キーワード】<br>対人認知、印象形成、社会的認知過程モデル、認知的倹約家、動機を持つ戦術家 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 3 | 対人認知（2） | 対人認知は、対象人物の特徴によってのみ規定されるのではなく、むしろ対象を認知する側の要因に大きく影響する。中でも、認知者の既有知識は、他者を認知する際、一種の期待として働くことで対人認知の結果を強く規定することが知られている。そこで今回は、前回の講義に引き続き対人認知を取り上げ、特に対人認知における既有知識の役割について、偏見やステレオタイプの問題も踏まえながら概観していく。<br>【キーワード】<br>スキーマ、ステレオタイプ、ネットワーク・モデル、確証バイアス、自己成就的予言、アクセスビリティ効果 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 社会的推論 | 対人認知の基盤となっている心的なしくみは、種々の社会的事象を理解する際にも機能している。様々な社会的事象に対し、原因や意味を求める過程のことを「社会的推論」というが、ここでは、その社会的推論の代表である原因帰属を中心に、人が身の回りの事象を理解する際に行っている推論の傾向について概観していく。基本的帰属の誤りなどの認知バイアス（推論の歪み、偏り）についても触れる。<br>【キーワード】<br>社会的推論、原因帰属、基本的帰属の誤り、ヒューリスティックス | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 5 | 自己 | 社会心理学には、「自己」の研究も含まれる。我々は、常に他者との関係性の中で自己を定義したり、評価したりしており、社会から完全に孤立した自己というものは存在しえないからである。自己はまたその複雑さゆえに、最も身近でありながら、いまも尚、最も神秘に包まれた存在でもある。現代の社会心理学研究によって、「自己」の何がわかったか。最新の成果を紹介したい。<br>【キーワード】<br>自己概念・自己知識、自尊感情・自己評価、自己中心性バイアス | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 6 | 態度 | 私たちは、パブリックなものからプライベートなものまで、身の回りのあらゆる人、事物、事象に対して、良い－悪い、好き－嫌い、といった評価を下している。なぜ私たちはこうした態度をもっているのだろうか。また、態度は、他者からの働きかけによって変容する場合もある。態度変化はいつどのように生じるのか。態度の機能と、態度変化の過程や、行動への影響について考えていく。<br>【キーワード】<br>態度の機能、精緻化見込みモデル、態度と行動の一貫性 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 7 | 感情 | 第7回から第9回は、現代社会心理学のトピックの中でも、特に最近、高い関心がもたれるようになったものを取り上げる。感情は合理的な思考を阻害するものとしてとらえられることが多く、人間の心をコンピュータの情報処理になぞらえる社会的認知研究においては、感情は、長らく研究対象として取り上げられなかった。しかし、現実には、感情を抜きにしては説明がつかない社会現象が多く、最近ではむしろ感情の問題を積極的に取り込んだ研究がなされている。代表的な知見を概説する。<br>【キーワード】<br>温かい認知、気分一致効果、気分と情報処理方略、情動二要因理論 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 8 | 自動性と無意識 | 科学研究における21世紀最大の課題は意識の解明といわれる中、社会心理学においても、意識・無意識に関する研究がここ最近、爆発的に増えている。20世紀終盤から飛躍的に発展した自動性研究と潜在的認知研究を中心に、私たちの日常生活に無意識的な心理過程と意識的な心理過程がどのように関与しているかを考えていく。<br>【キーワード】<br>自動性革命、潜在的認知、潜在連合テスト、二過程モデル | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 9 | 身体化された認知 | 認知革命以降に発展した認知主義的な心理学においては、抽象化された知識とその操作が私たちの知覚や推論、判断、行動を導くと考えられてきた。そこでは心と身体は切り離され、まるで外界の環境とは独立したところで心が働いているかのように扱われてきた。しかし最近の研究ではむしろ人間の心の働きは身体活動と密接な関わりを持つことが示されている。身体化された認知についての社会心理学的知見を概観する。<br>【キーワード】<br>身体化された認知、認知主義、心身二元論 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 進化論的視点の導入 | 第10回と第11回は、近年、社会心理学の研究に積極的に取り入れられるようになった2つの視点を紹介する。今回取り上げるのは、進化論的視点である。進化論では、人間の身体的特徴が進化的適応の産物だと考えるが、最近では、人間の心の働きもまた進化の産物と考える進化心理学という学問が発展している。進化心理学とはどのような学問で、社会心理学にどのような影響を与えているか、概観する。<br>【キーワード】<br>進化論、進化心理学 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 11 | 脳神経生理学的視点の導入 | 進化論と並び、近年の社会心理学に強く影響を与えているのが、脳神経生理学である。特にPETやfMRIといった新たな技術の開発により、人間の思考・行動時の脳の働きが以前より詳細にわかるようになってきたことにより、従来的な手法によって明らかにされてきた社会心理学の知見の妥当性を確認したり、脳というハードウェアをベースに、これまで蓄積されてきた数々の知見の統合をはかろうとする研究などが増えつつある。現在、まさに進行中のこれらの研究について、主だった成果をまとめる。<br>【キーワード】<br>脳神経生理学、PET、fMRI、脳機能画像 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 12 | 経済・消費行動への応用 | 本講義で紹介してきた社会心理学の知見は、私たちの日常生活に重要な意味を持つさまざまな問題に応用的に利用され、人間行動の幅広い理解に役立っている。第12回から第14回は、こうした応用研究を順に紹介する。今回紹介するのは、経済・消費行動への応用である。この領域の研究は以前より社会心理学において数多くの研究がなされてきたが、特に最近は経済学からの参入によって、「行動経済学」という新たな学問領域にもなっている。代表的な研究を紹介する。<br>【キーワード】<br>行動経済学、プロスペクト理論、フレーミング効果、ヒューリスティック | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 13 | 政治・投票行動への応用 | 現代の政治学において一大潮流を形成している政治行動論においては、社会心理学の理論や方法論が数多く取り入れられいる。特にマスメディアが一般市民の政治的認知や投票行動に与える影響については、社会的認知研究の知見が数多く応用されている。この領域の研究の歩みと代表的な研究を概観する。<br>【キーワード】<br>マスメディアの効果論、議題設定効果、プライミング効果、フレーミング効果 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 14 | 司法・裁判場面への応用 | 2009年から始まった裁判員制度により、一般市民に法的判断が求められるようになった。そこで行われる判断は、一般市民の日常的な感覚に基づく判断であり、これは私たちが日常生活の中で行っている社会的な推論や判断が法廷に持ち込まれることを意味している。裁判の場において、私たちはどのような判断をしがちだろうか。また、そこで予測されるバイアスにはどのようなものがあるだろうか、考えていく。<br>【キーワード】<br>裁判員制度、責任帰属、公正世界仮説、ヒューリスティック | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |
| 15 | まとめと今後の展開 | 社会心理学は、一方では頑なにその拠り所となる考えを保ちつつも、他方では新たな考えや研究手法を常に貪欲に取り入れてきた。最終回の今回は、現代社会心理学の数々の知見に通底する考え方をまとめながら、社会心理学の来し方、行く末について議論していくことにする。<br>【キーワード】<br>社会心理学における人間観、人間の主観性、二過程モデル、進化と文化 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 | 放送大学<br>准教授<br>森　津太子 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920630 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 教育心理学特論 （’１２）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：三宅芳雄（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】



## 講義概要

教育心理学研究の中心的な課題は学習の心理過程を解明し、よりよい教育の実現に資することである。この科目では学習過程の深い理解に基づいて、自ら教授学習の研究を行うための実力を養う。特に、学習を広く文化、社会の中で捉え、意識的、無意識的な認知過程が引き起こすさまざまな相互作用の解明を基軸にして、教育心理学の研究が現実社会の中で起きている学習に関わる諸問題の解決にどのように寄与するのかを取り上げる。例えば、学習の困難が協調的な学習活動でどのように乗り越えられるかなど、実際の問題の解決にどのように学習研究の知見が生かされるのかを学んでいく。

## 授業の目標

学習過程の解明に関するこれまでの研究成果を学ぶことで、現実生活の中での複雑な学習の実態を把握し、適切な教育に繋げる力を養う。また、学習過程の解明とそれに基づく教育の研究を学ぶことで、教育心理学の研究を自ら構築し遂行するための基礎を身につける。

## 履修上の留意点

心理学、教育学の素養があることが講義を効果的に履修する上で役に立つが、特定の予備知識を前提としない。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 学習と認知過程 | 教育心理学研究の中心的な課題は学習の過程を解明し、よりよい教育の実現に資することである。第一回目の講義では、学習過程を認知過程として捉える際の中心的な概念である表象の概念を取り上げ、認知過程を捉える理論的な枠組みで理解するための準備をする。特に、イメージや音声表象などの表象が認知過程にどのように関わるのかを現実の学習事例で検討する。<br>【キーワード】<br>認知過程　表象 | 三宅芳雄<br>放送大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 2 | 表象と認知過程 | 学習の諸問題を検討するための基礎として、人の活動を実現している認知過程をどのように捉えて行けばよいのかを論じる。特に、表象の概念を中心にして、多様な認知過程がどのように構成されていくのかを明らかにするための基本的な枠組みの準備をする。<br>【キーワード】<br>認知過程　表象　活動 | 三宅芳雄<br>放送大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 3 | 問題解決 | 学習は問題解決の積み上げの上に成立していく。ここでは、問題解決の事例を取り上げ、その認知過程を発話記録を基に分析し、学習の過程を明らかにするために、問題解決の過程を認知過程としてどのように捉えて行くのかを検討する。<br>【キーワード】<br>問題解決　認知過程 | 三宅芳雄<br>放送大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 理解 | 理解とはどのような認知過程なのか、特に学習という活動の中で理解がどのような認知過程として成立しているのか、理解の事例の検討を中心に取り上げ、学習と理解の関わりの実態を捉え、多様な学習の過程がどのようにして成立するのかを検討していく。<br>【キーワード】<br>理解 | 三宅芳雄<br>放送大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 5 | 長期に渡る学習 | 熟達者の高い能力の特徴を論じ、それがどのような長期に渡る日々の学習の積み重ねによって実現するのかをとりあげる。<br>【キーワード】 | 三宅芳雄<br>放送大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 6 | 発達の過程 | 最近の発達研究では、小さな子どもの持つ「本質的な」世界の見方、わかり方についての知見、子どもが経験を積んで「できること」を先行させ、そこから「説明できること（わかっていることの表出）」を作り出す仕組みなど、示唆に富む研究成果が生まれいてる。その一部を紹介する。<br>【キーワード】<br>本質主義、表象書き換え理論 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 7 | 概念の発達 | 子どもは小さい頃から、周りの世界に働きかけながら素朴理論を作り上げる。素朴理論とはどのようなものか、また素朴理論がどのようにして抽象的な科学的理論に変化するのかを解説する。<br>【キーワード】<br>生物学素朴理論、天体の理解に関する概念変化、概念発達の枠組み | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 8 | 日常的な概念発達 | 人は、日常経験の中から、経験則に基づくだけではない「科学的」概念変化のための考え方を抽象する。その様子を、動物の飼育を通して生物概念を発達させる例、日常計算における有能性の限界と可能性について解説する。<br>【キーワード】<br>日常経験による生物概念の発達、日常計算、ストリート・マス | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 9 | 文化と制約 | 文化によって思考の仕方は違うのだろうか？弧の問いに答えようとしたさまざまな研究を振り返り、文化に埋め込まれた思考の実態を探ることの難しさを浮き彫りにする。<br>【キーワード】 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 10 | 状況と学習 | 人は、置かれた状況の判断によって、できることが異なる。この事実を、主に計算能力の状況依存性を扱った研究によって解説し、状況をうまく使うことによって学習がうまく進むことを示す。<br>【キーワード】 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 学習への動機付け | 学習がうまく進むための要因として、知的好奇心、内発的動機付けを取り上げ、外発的動機付けの働きと対比した上で、内発的動機付けが社会的な起源を持つことを示す。<br>【キーワード】 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 12 | 協調的な学習 | 文化の中での学習過程の形として不可欠な協調学習を取り上げ、その背後にある複雑な認知過程の分析を通して、協調学習過程がどのように学習を促進するのか、特に学習の多様性から検討する。<br>【キーワード】 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 |
| 13 | 評価 | 学習評価を、学習者に内在する認知過程をうまく観察し、そこで観察されたものを解釈する過程と捉える見方を紹介する。このような視点に立つと、学習評価が本質的に形成的な特徴を持っていることが明らかになる。<br>【キーワード】 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 14 | 学校と社会の連携—ITの活用 | 学習者中心型の学びでは、話合いなど学習経過が外化されやすい。協調的な学習を促進するためにこのような学習経過の記録を取り、活用する方法を解説する。このような学習支援のためには、ITが活用される。このような基盤の上で教室で起きる学習成果は、日常生活や学校を卒業してからの生活に役立つことが望ましい。そのためのITを使った新しい学習方法とその成果を紹介する。てるためのにITが使われる。<br>【キーワード】<br>学校の情報化、認知過程の記録と分析 | 三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅なほみ<br>東京大学教授<br>三宅芳雄<br>放送大学教授 |
| 15 | 教育心理学の研究方法—21世紀の教育へ向けて | 最近の学習研究の特徴として、デザイン研究を紹介する。学習プロセスの分析を重視する具体的な取り組み方についても解説し、教育実践研究を論文としてまとめるための留意点を解説する。<br>OECD PISAなど国際的な学力比較では、21世紀型スキルの活用に向けた教育の必要性が重視される。今回の講義全体を振り返り、学習の認知過程を重視する立場から21世紀の教育と教育研究を論じ全体のまとめとする。<br>【キーワード】<br>21世紀型スキルを含む新しい学習ゴール | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 | 三宅芳雄<br>放送大学教授<br>三宅なほみ<br>東京大学教授 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920524 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　学校臨床心理学特論　　（’０９）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：滝口俊子（放送大学名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：高石浩一（京都文教大学教授）〕



講義概要

我が国における学校臨床心理学の発展は、1995年の公立中学校に対するスクールカウンセラーの試験的配置に始まり、現在小中高校など約10000校にスクールカウンセラーが配置されていることによって示されている。またその活動内容についても、特別支援教育や適応指導教室、緊急支援などにまで多岐にわたり、ますますその幅を広げつつある。これまでの学校臨床心理学の成果を概観すると同時に、今後のそのあり方を諸外国の例や識者の意見をもとに探っていきたい。

授業の目標

全15回の講義を通して、多岐にわたる学校臨床心理学の活動を概観し、特にスクールカウンセラーが具体的にどのように関わっていけるかを理解すると共に、今後目指すべき方向性を模索する姿勢を学ぶことを目標にする。学校現場で単に受身に起こってくる事態に対処するだけでなく、自ら能動的に動くことができる臨床心理士の養成を最終目標とする。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 我が国の学校臨床心理学 | 我が国の学校臨床心理学が、どのように発展してきたか、その推移と、スクールカウンセラーのシステム作りの工夫について、紹介する。さらに学校臨床心理学の今後について考える。<br><br>【キーワード】<br>教育と心理臨床、文部科学省、学校臨床心理士専門委員会 | 滝口俊子（放送大学名誉教授） | 滝口俊子（放送大学名誉教授） |
| 2 | 学校臨床心理学の実践～小・中学校の場合 | 子どもの成長の課題について、小学生・中学生の問題や昨今の子どもの傾向などを紹介する。問題の低年齢化、家庭環境の変化などに伴い、幼児期のカウンセリングの要請も多いので、保育カウンセリングについても取り上げる。<br><br>【キーワード】<br>スクールカウンセリング、保育カウンセリング、発達課題、発達障害、家庭環境、友人関係 | 滝口俊子（放送大学名誉教授） | 滝口俊子（放送大学名誉教授） |
| 3 | 学校臨床心理学の実践～高校・大学の場合 | 義務教育以降の高校・大学における学校臨床は、その進学率の高さから、小中学校の義務教育機関と同様の問題を抱えながら、同時に機関の特殊性に基づいて休退学の容易さ、その後のフォローのあり方など、対応に微妙な違いがある。そうした機関の特殊性を考慮した学校臨床のあり方を論じる。<br><br>【キーワード】<br>休退学、学生相談 | 高石浩一（京都文教大学教授） | 高石浩一（京都文教大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 不登校をめぐる支援 | 近年、不登校状態の子どもたちの背景となる心理的・社会的な状況が多様化してきている。この現状について整理した上で、学校教育システムの中での多面的な不登校支援の仕組みについて、適応指導教室、別室登校、スクールカウンセラーからの支援の役割について論じる。<br>【キーワード】<br>不登校、適応指導教室、別室登校 | 香川克（京都文教大学准教授） | 香川克（京都文教大学准教授） |
| 5 | いじめ・非行をめぐる支援 | 昨今、教育現場で起こる自殺などの、大きな引き金として注目されているいじめ、非行といった問題に対して、どのように考え、具体的に対処していけばよいかを考える。とりわけ、加害者・被害者双方の支援のありかたといった観点から、単なる悪者探しに終わらない支援の方向性を探求していきたい。<br>【キーワード】<br>いじめ、加害者・被害者支援 | 吉田圭吾（神戸大学准教授） | 吉田圭吾（神戸大学准教授） |
| 6 | 発達障害をめぐる支援 | 落ち着かない子ども・対人関係に問題を抱える子ども・学習に困難を抱える子どもに、LD・ADHD・高機能広汎性発達障害など発達障害の観点から、「特別支援教育」が学校教育の中で始められている。学校臨床心理士は発達障害やその周辺の子どもたちに対して、どのような支援が出来るかについて論じる。<br>【キーワード】<br>発達障害、特別支援教育 | 香川克（京都文教大学准教授） | 香川克（京都文教大学准教授） |
| 7 | 危機介入と緊急支援 | 事件・事故・災害など、学校システム全体が揺らぐような事態が生じる場合、システム全体を視野に入れながら心理的な支援活動を行うことを“緊急支援”と呼ぶ。また、暴力被害や非行など、当該の児童生徒や家族に対して、個別的ではあるが緊急性の高い“危機介入”を求められる場合もある。このような際のスクールカウンセラーの活動について論じる。<br>【キーワード】<br>学校システム、緊急支援、危機介入 | 香川克（京都文教大学准教授） | 香川克（京都文教大学准教授） |
| 8 | 諸外国の学校心理臨床 | 諸外国、とりわけ学校臨床の先進国である欧米の学校臨床心理学的支援の展開、現状について学習すると同時に、実際の学校臨床心理学的支援について、体験者などのお話をもとに、我が国でも導入可能な学校現場における心理臨床の方向性を探る。<br>【キーワード】<br>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー | 高石浩一（京都文教大学教授） | 高石浩一（京都文教大学教授） |
| 9 | 教師との連携・支援体制づくり | スクールカウンセラー制度はかなり定着してきたが、スクールカウンセラーと教師との連携は学校ごとに大変難しい場合もある。教師とスクールカウンセラーがお互い十分納得して連携するために必要な条件や校内教育相談システムについて議論し、合わせて学校の保護者・子どもへの支援体制づくりについて考察する。<br>【キーワード】<br>スクールカウンセラー、教育相談、教師との連携 | 吉田圭吾（神戸大学准教授） | 吉田圭吾（神戸大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 保護者への対応 | 近年学校を揺るがす保護者からの教育現場への過剰な要求、それに対応する教師の悩みが数多く報告されている。“困った親”にはどのようなタイプがあるのか、タイプごとの教師の対応の仕方、“困った親”に対する基本的な態度などを論じながら、保護者との連携の基本原則について多面的に考察していく。<br><br>【キーワード】<br>“困った親”、保護者の罪悪感、保護者との連携 | 吉田圭吾（神戸大学准教授） | 高石浩一（京都文教大学教授） |
| 11 | 学校を越えて―家庭訪問、メール | 教育現場は学校だけではない。教育委員会や適応指導教室、さらには地域の不登校児を受け入れるNPOなどさまざまな団体、病院や保健所との連携もまた、学校臨床の視野に入りつつある。インターネットの利用や家庭訪問など、学校という枠を越えるスクールカウンセラーの活動について考察する。<br><br>【キーワード】<br>家庭訪問、メール、適応指導教室 | 高石浩一（京都文教大学教授） | 高石浩一（京都文教大学教授） |
| 12 | 学校臨床のアセスメント | 学校臨床心理学におけるアセスメントとは、児童生徒のアセスメント、保護者や教師のアセスメントに加えて、学校システム全体に関するアセスメントも含まれる。その具体的な方法や姿勢、さらには学校臨床への活用の仕方について、守秘義務との関連も視野に入れながら考察する。<br><br>【キーワード】<br>学校アセスメント、心理テスト | 高石浩一（京都文教大学教授） | 高石浩一（京都文教大学教授） |
| 13 | スクールカウンセラーの研修 | 学校臨床心理士（スクールカウンセラー）は、面接室で児童・生徒・保護者・教職員に面接すると共に、面接室外での諸活動がある。多様な要請に応えられるスクールカウンセラーとして不可欠な研修、心理臨床の力量をあげるために不可欠なスーパーヴィジョンについても、詳述する。<br><br>【キーワード】<br>大学院教育、事例検討会、研修会、スーパーヴィジョン | 滝口俊子（放送大学名誉教授） | 滝口俊子（放送大学名誉教授） |
| 14 | スクールカウンセラーへの期待（1） | 学校臨床心理学は研究も大切であるが、子どもたちの成長・発達に役に立たなくては意味がない。子どもの関係者の声に耳を傾ける。<br><br>【キーワード】<br>信頼関係、連携、広い深い視野 | 滝口俊子（放送大学名誉教授） | 滝口俊子（放送大学名誉教授） |
| 15 | スクールカウンセラーへの期待（2） | 教育に深くかかわる方に、スクールカウンセラーへの期待と要請を語っていただく。<br><br>【キーワード】<br>教育の未来、教育委員会、学校文化、宗教性 | 滝口俊子（放送大学名誉教授） | 滝口俊子（放送大学名誉教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920516 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　心理・教育統計法特論　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：福田　周　（東洋英和女学院大学教授）　〕
〔主任講師（現職名）：卯月　研次　（大正大学教授）　〕
【担当専任教員：大場　登　（放送大学教授）　】



## 講義概要

臨床心理学研究や発達・教育研究において、その研究法には、「数量的」研究と「質的」研究の2つの枠組みで捉えられることが多い。特に臨床心理学では、事例研究を中心とした質的研究がその主たる研究法として取り上げられることが多いが、「数量的」研究法もまた臨床心理学研究になじまない方法では決してない。あくまでも臨床実践に生かされるような「数量的」研究を行うにはどのような統計法が有効であるのか、実際的な研究事例を用いながら解説していく。具体的には調査研究で多く用いられる多変量解析法、実験を用いた仮説検証型の臨床研究などを取り上げて考察していく。

## 授業の目標

全15回の講義を通じ、心理学における統計法の手法を身につけるとともに、臨床実践の中での数量的研究視点のもち方、仮説検証型の研究方法の利点と欠点などを理解し、実際の研究アイデアに生かせるようになることを目標とする。さらに、理論的理解だけではなく、実際に演習を行いながら、数量的分析を行えるようにしていく。

## 履修上の留意点

研究法の全体的な基礎を習得するために、「臨床心理学研究法特論」を学んでおくことが望ましい。また、発達研究や質的研究に関しては、「発達心理学特論」を合わせて学んでおくことが望ましい。統計法そのものの基礎的な知識に関しては、学部「心理学研究法」、「心理統計法」などを参考にするとよい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 数量的研究とは | 統計学の歴史を概観しながら、臨床心理学研究に統計学がどのように取り入れられてきたかを解説する。さらに仮説検証型の研究方法を用いた研究スタイルの特徴を説明し、数量的分析の基本的手順について理解を深める。<br><br>【キーワード】<br>統計学、確率論、仮説検定、推測統計、帰無仮説、対立仮説、検定力、標本集団、母集団 | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） |
| 2 | 基礎統計 | ここでは、心理・教育統計法で扱う「データ」について理解を深める。尺度の種類による数値の性質の違いを理解した上で、統計の基礎概念である平均値や標準偏差、正規分布などの考え方を確認しておきたい。<br><br>【キーワード】<br>尺度の種類、記述統計、代表値、標準偏差、不偏分散 | 卯月　研次（大正大学・教授） | 卯月　研次（大正大学・教授） |
| 3 | 推測統計 | 推測統計における帰無仮説の意味を説明し、さらに推測検定の仕組みを解説する。その上で統計学における確率、推測といった基本概念についてt検定を例に取り、理解を深める。<br><br>【キーワード】<br>推測統計、標準化、有意差、帰無仮説、対立仮説、第1種の過誤、第2種の過誤、t検定、t分布 | 卯月　研次（大正大学・教授） | 卯月　研次（大正大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | t検定 | 推測統計の中でも基礎的な検定であるt検定を取り上げ、その種類や留意点などを説明する。また、対応のあるデータと対応のないデータの違いやF検定についても説明する。<br><br>【キーワード】<br>対応のあるデータ、対応のないデータ、対応のあるt検定、ウェルチの法、F検定 | 卯月　研次（大正大学・教授） | 卯月　研次（大正大学・教授） |
| 5 | 分散分析 | 分散分析の基本的な考え方と使い方を説明する。まず実験・研究計画の種類や要因・水準について説明し、一要因の分散分析で計算の仕組みと結果の見方を学ぶ。さらに、二要因の分散分析と交互作用についても理解を深める。<br><br>【キーワード】<br>分散分析、要因、水準、被験者間計画、被験者内計画、多重比較、交互作用 | 卯月　研次（大正大学・教授） | 卯月　研次（大正大学・教授） |
| 6 | 名義尺度の検定―$\chi^2$検定 | 臨床心理学の研究においては、得られるデータが名義尺度であって、それぞれのカテゴリーにあてはまる人数の比率の差を統計的に検定したい場合が多くある。この回では、このような場合の検定法として、最も一般的な$\chi 2$検定について解説する。<br><br>【キーワード】<br>名義尺度、期待度数、観測度数、Fisherの直接法 | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） |
| 7 | 順序尺度の検定 | 臨床心理学の研究においては、厳密な間隔尺度や比率尺度を用いた測定にはそぐわない性質の変数を扱うこともよくあり、その場合は用いられる質的データの分析に有効となる統計的検定はノンパラメトリック法である。名義尺度については、第6回の$\chi 2$検定がその方法であるが、この回ではおもに順序尺度を用いた場合のノンパラメトリック法を解説する。<br><br>【キーワード】<br>マン・ホイットニーのU検定，ウィルコクソンの順位和検定，ウィルコクソンの符号付き順位検定，クラスカル・ウォリスの検定，フリードマンの検定 | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） |
| 8 | 相関研究 | 相関は、2つの変数どうしの関連を探る指標である。人間の営みにおけるさまざまな行動や反応は普通、ひとつの変数の要因だけで決定されることはない。その背後にあるさまざまな要因がお互い関連しあった結果としてひとつの反応が生じる。ここでは、相関に関する基本的な概念とその計算方法、そして相関の結果の解釈の仕方について解説する。<br><br>【キーワード】<br>相関図、ピアソンの積率相関係数、順位相関、無相関検定、擬似相関 | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） |
| 9 | 多変量解析の概説 | 臨床心理学における研究では、ある事象に関係する多様な要因を同時に分析し、その複雑な関係からある一定の傾向や因果関係を推測していく研究スタイルがとられることが多い。その際によく用いられる解析手法として多変量解析法について説明し、その有効性と留意点を理解していく。<br><br>【キーワード】<br>外的基準，目的変数，説明変数，外生変数，内生変数 | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 重回帰分析 | 臨床心理学の研究においては、例えば、子供や成人の不安や精神健康などの適応の水準を調査し、適応に影響を与える複数の要因を同時、あるいは別に調査して、適応の水準と要因との関係を分析することがよくある。この回では、このような場合の分析方法として、最も一般的に用いられる重回帰分析について解説する。<br>【キーワード】<br>ダミー変数、標準偏回帰係数、重相関係数、決定係数 | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） |
| 11 | 因子分析 | 因子分析は，複数の観測された変数の背後にある共通の要因を探る統計技法であり，心理学では頻繁に使用されている多変量解析の一つである。この回では，因子分析の研究例を紹介した上で，因子分析の基本的な考え方や分析の手順について解説する。<br>【キーワード】<br>因子分析，潜在変数，共通因子，独自因子，因子負荷量，単純構造，因子得点 | 堀井俊章（横浜国立大学・准教授） | 堀井俊章（横浜国立大学・准教授） |
| 12 | 主成分分析 | 主成分分析は，多くの変数を縮約し，新しい合成変数を作り出すための手法である。この回では，主成分分析の研究例を紹介した上で，その基本的な考え方や分析の手順について解説する。また，因子分析との違いについても説明する。<br>【キーワード】<br>主成分分析，合成変数，主成分，主成分負荷量，固有ベクトル，主成分得点 | 堀井俊章（横浜国立大学・准教授） | 堀井俊章（横浜国立大学・准教授） |
| 13 | 共分散構造分析 | 臨床心理学の研究においては、質問票などで調べた複数の構成概念について、やや複雑なモデルを仮定して構成概念間の因果関係を明らかにしたい場合がある。このような場合に使われる、共分散構造分析について解説する。<br>【キーワード】<br>観測変数、潜在変数、パス係数、適合度、パス解析 | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） |
| 14 | 質的変数の多変量解析 | 臨床心理学の研究においては、質問票などにより、質的データを数多く集め、変数間の関係を同時に分析したい場合が、比較的多くある。このような場合に利用可能な分析方法である、ロジスティック回帰分析、判別分析、コレスポンデンス分析について解説する。<br>【キーワード】<br>ロジスティック回帰分析、判別分析、多重コレスポンデンス分析、数量化Ⅲ類 | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） | 藤田悟郎（科学警察研究所・室長） |
| 15 | 総括－数量的研究法の活用の際の留意点 | これまでの研究手法を総括しながら、臨床実践における数量的研究方法の活用の際、実際に気をつけるべき点を考えていく。特に、実証的研究のデータ収集方法に関する配慮を中心に解説する。<br>【キーワード】<br>因果関係、実験的研究、相関的研究、実験計画、剰余変数、被験者配置、無作為配置、ワーディング | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） | 福田　周（東洋英和女学院大学・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8920567 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　発達心理学特論　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：子安増生（京都大学大学院教授）　　〕

【本学担当専任教員：小野けい子（放送大学教授）　　】



講義概要

生物的存在でありかつ社会的存在である人間の発達について、生涯発達の視点から包括的に考える。最初に、発達心理学の基礎的課題について、心の進化、愛着、自己理解、学校環境、多重知能、メディア等をキーワードとして解きほぐし、その後、周産期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期のそれぞれの心の発達の課題と発達支援の在り方について検討する。

授業の目標

人間は、生物としてのさまざまな制約を受けつつも、家族、地域、社会の中で人間的な触れ合いを通じて、日々成長し、自己実現をはかっている。人間は、生涯発達し続け、自己をつくりかえていく存在である。人間の発達の可塑性の大きさを実感すると共に、自己の生き方を省察し、生きることの意味を再考する契機となることが本講義の目標である。

履修上の留意点

本講義は、人間発達プログラムと臨床心理学プログラムの共通開設科目であり、日本臨床心理士資格認定協会の認定する選択必修科目群B群のうちの1科目である。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 発達心理学の基礎 | この章では、本書全体の導入として、発達の定義、発達期と発達段階、発達曲線、遺伝と環境、個人差と個性、知情意の機能とパーソナリティなど発達心理学の基礎的概念、ならびに発達研究の基本的方法などを学ぶ。<br><br>【キーワード】発達、発達段階、発達曲線、遺伝と環境、個性、パーソナリティ、発達研究法、観察、実験、心理検査、面接 | 子安増生（京都大学大学院教授） | 子安増生（京都大学大学院教授） |
| 2 | 心の進化と発達 | ヒトらしい心を特徴づけるものは何か。それはいつ、どのように、なぜそうなったのか。ヒトの形態的な特徴と同様に、目にはみえない心のはたらきも、ヒトが長い時間をかけて獲得してきた進化的淘汰の産物である。「進化」と「発達」、2つの時間軸の物差しを使って、ヒト特有の心のはたらきの成立過程を考察する。<br>【キーワード】心の進化、適応的意義，霊長類、比較認知発達科学、見つめあい、表情 | 明和政子（京都大学大学院准教授） | 明和政子（京都大学大学院准教授） |
| 3 | 愛着の発達 | 発達の基礎としての愛着に関して、愛着の形成過程、愛着の個人差について述べるとともに、愛着の個人差から見た親子関係・仲間関係を概観し、愛着から愛情ネットワークへ、また生涯発達における愛情ネットワークの役割についても学ぶ<br><br>【キーワード】愛着、基本的信頼感、情動、ストレンジシチュエーション法、しつけ、剥奪事例、アダルトアタッチメントインタビュー | 小野けい子（放送大学大学院教授） | 小野けい子（放送大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 自己理解の発達 | 自分が自分という1つの存在であることを知るようになる自己意識の成立について、また、特に生後から青年期までの変化過程に焦点をあてながら、自分が自分を知るという客体的自己を理解する自己理解の発達の様相について学ぶ。<br><br>【キーワード】自己意識、鏡像的自己認知、自伝的記憶、ナラティヴ、認知発達、自己概念、自己評価 | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） |
| 5 | 学校環境と発達 | 学校環境での他者（友人や教師）との関わりは、子どもの認知や社会性の発達に影響を及ぼす。また環境への適応という点では、集団生活を通じて子どもは学校や教室のルールや価値観を身につけていく。本章では、他者や集団と関わる中での発達の様相を学ぶ。<br><br>【キーワード】学校の誕生、社会的相互作用、最近接発達領域、スキャフォルディング、学校適応、教室文化、学習観 | 藤村宣之（東京大学大学院教授） | 藤村宣之（東京大学大学院教授） |
| 6 | 多重知能理論と教育 | 人の能力が相対的に独立したいくつかのモジュール（機能単位）から成り立つとする多重知能理論では、人間の能力を学校知能、社会的知能、芸術的知能に大別する。多重知能理論を学ぶことは、教育のあり方を考える上で大きな示唆を与えてくれる。<br><br>【キーワード】多重知能理論、モジュール、学校知能、社会的知能、芸術的知能、全人教育 | 子安増生（京都大学大学院教授） | 子安増生（京都大学大学院教授） |
| 7 | メディアと発達 | 子どもたちは、生まれたときからテレビ、ビデオ、テレビゲーム、携帯電話などさまざまなメディアに取り囲まれて生活している。子どもたちは、このようなメディアからどのようなことを学んでいるのだろうか。さまざまなメディアと発達の関係について考えてみる。<br><br>【キーワード】メディア、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、実行説、代行説、映像文法の発達 | 子安増生（京都大学大学院教授） | 子安増生（京都大学大学院教授） |
| 8 | 周産期の心の発達 | ヒトの新生児は、精緻な知覚、応答能力をもって生まれてくる。最近の医療技術の進歩は、そうした能力の発達的起源を「生まれつき」ではなく、胎児期からの学習という連続性に見出そうとしている。最新の知見を学ぶことにより、ヒトの心のはたらきの発達的起源について考える。<br><br>【キーワード】胎児、新生児、生得性、感覚運動学習、連続性 | 明和政子（京都大学大学院准教授） | 明和政子（京都大学大学院准教授） |
| 9 | 乳児期の心の発達 | 生後1年半にわたるヒトの心のはたらきの成立過程とその特徴を学ぶ。この過程では、2度の飛躍期が存在する。生後2カ月（2か月革命）と9カ月（9カ月革命）である。とくに生後9ヶ月目には、他者の視点を通して物事にかかわるという、ヒト特有の心のはたらきが顕著に発達する。<br><br>【キーワード】新生児微笑、社会的微笑、模倣、三項関係、社会的参照、共同注視、視線追従、意図理解、教育 | 明和政子（京都大学大学院准教授） | 明和政子（京都大学大学院准教授） |
| 10 | 幼児期の心の発達 | 幼児期は身辺の自立とことばの発達が進むと同時に、それと軌を一にして他者の心の理解が少しずつ進んでいく。近年、「心の理論」というテーマで研究が進展してきたが、子どもたちは幼児期の4歳から6歳の間に、心を読み取る能力獲得の最初のステップに立ち、そのことが子どもの思考や行動を豊かにしていく。<br><br>【キーワード】幼児期、身辺の自立、ことばの発達、他者視点の理解、心の理論、うそ | 子安増生（京都大学大学院教授） | 子安増生（京都大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 児童前期の心の発達 | 児童前期（小学校低・中学年）には、具体的な事柄に関する論理的な思考が発達するとともに、他者に向けた説明のためのことばが用いられるようになる。また小学校中学年頃には自律意識が芽生え、仲間集団が成立する。認知と社会性の関わりについて考えてみる。<br><br>【キーワード】リテラシー、ニュメラシー、読字/読書障害、具体的操作、二次的ことば、脱中心化、視点取得、仲間集団、ギャングエイジ、学童保育 | 藤村宣之（東京大学大学院教授） | 藤村宣之（東京大学大学院教授） |
| 12 | 9歳の壁を乗り越える | 児童後期（小学校高学年）には、現実を可能性の一つとみる抽象的思考が始まるが、その発達に学校教育が果たす役割は大きく、それをめぐるつまずきの問題が「9歳の壁」として指摘されてきた。児童後期の発達過程と、9歳の壁を乗り越えるための教育を考える。<br><br>【キーワード】形式的操作、9歳の壁、発達の質的転換期、学力、メタ認知、友人関係、自己概念 | 藤村宣之（東京大学大学院教授） | 藤村宣之（東京大学大学院教授） |
| 13 | 青年期の心の発達 | 青年期に人は、自身の身体や社会的地位など、内外の様々な変化の過程を生きることになる。その中で、自己や生き方に向き合い、大人になっていく。本章では、青年期に訪れる様々な変化の中で展開される自己の問い直しの過程に焦点をあてながら、青年期の心の発達について考えていく。<br><br>【キーワード】自己意識、身体発達、ボディ・イメージ、摂食障害、認知発達、自己への否定的感情、人間関係、アイデンティティ、社会変動 | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） |
| 14 | 成人期の心の発達 | 成人期になると、次世代を育てる心が発達し、より成熟した人格へと向かうとされる。だが同時に、新たな役割を獲得する上での困難や、予期せぬライフイベントに遭遇することもあり、心理的危機状況に陥ることもある。ここでは、特に成人期に訪れる自己の変化に焦点をあてながら、成人期の心の発達について考えていく。<br><br>【キーワード】自己受容、親子関係、キャリア発達、中年期の危機、時間的展望、アイデンティティ、パーソナリティの成熟 | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） | 中間玲子（兵庫教育大学大学院准教授） |
| 15 | 老年期の心の発達 | 老年期となっても維持される能力は多様で、技能の更なる熟達化の認められることも少なくない。高齢者の認知機能の変化と個人差について、自己概念や対人的ネットワークの変化と役割について、喪失体験の受容と老年期の人格発達について論じる。<br><br>【キーワード】流動性知能、結晶性知能、熟達化、作品のピーク、喪失体験・コスモロジー | 小野けい子（放送大学大学院教授） | 小野けい子（放送大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8950520 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 臨床心理学特論 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅（放送大学教授）〕

## 講義概要

臨床心理学特論では心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方や心理臨床において必要な基本的な知識や技法を述べる。心理臨床には多様な領域があるが（たとえば教育臨床や病院臨床、職域臨床、司法臨床など）、それぞれの対象領域による相違はあるものの、こころの専門家として基本的な共通する視点が存在する。このような観点から、臨床心理学的知識や技法が心理臨床活動にどのように生かされるのか、心理臨床行為の特異性は何か、また倫理の重要性について論ずる。

## 授業の目標

本講義では、心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方や心理臨床において必要な基本的な知識を習得することを目標とする。

## 履修上の留意点

日本臨床心理士資格認定協会の第2種指定校となっている関係上、この科目は修士全科生には必修科目である。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 臨床心理学とは | 臨床心理学の定義、心理臨床家の実践の場、教育と訓練、臨床活動における倫理の問題、研究などについて論ずる。<br><br>【キーワード】<br>臨床心理学の定義、心理臨床家の実践の場、教育と訓練、倫理、研究 | 齋藤　高雅（放送大学教授） | 齋藤　高雅（放送大学教授） |
| 2 | 臨床心理学の歴史と展開：臨床心理学と精神医学 | 臨床心理学の歩みと精神医学との関係について触れ、臨床心理学が確立した過程について述べる。<br><br>【キーワード】<br>臨床心理学の歴史、精神医学の歴史、異常心理学、精神病理学、臨床心理学の近接領域 | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅 |
| 3 | 精神疾患1：統合失調症と気分障害 | 精神障害の分類について学び、主要な精神障害である統合失調症、気分障害について述べる。<br><br>【キーワード】<br>操作的診断、ICD、DSM、統合失調症、気分障害 | 石丸 昌彦（放送大学教授） | 石丸 昌彦（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 精神疾患2:<br>神経症と関連事項 | いわゆる神経症と関連事項について、概念やその特徴、発症機制、治療について述べる。<br><br>【キーワード】<br>神経症、パニック障害、強迫性障害、転換性障害、解離性障害 | 石丸 昌彦 | 石丸 昌彦 |
| 5 | 精神疾患3:<br>ストレス反応と心身症 | 心理的なストレスによって生ずる適応障害やストレス反応について述べる。また、心身症の概念とメカニズム、摂食障害などについて学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害 | 石丸 昌彦 | 石丸 昌彦 |
| 6 | 臨床心理学パラダイム | 臨床心理学に関わる主要な4つのパラダイム、生物学的、精神分析学的、認知・行動学的、人間学的パラダイムについて述べる。さらに、包括的な人間理解のとらえ方として、生物ー心理ー社会モデルがあるが、それと臨床実践におけるこれらパラダイムと折衷主義、ないしは統合的心理療法の動向について述べる。<br>【キーワード】<br>生物学的、精神分析学的、認知・行動学的、人間学的パラダイム | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅<br>ゲスト:<br>橘 玲子(新潟青陵大学教授) |
| 7 | 心のはたらき1<br>無意識の発見 | フロイト,S.による無意識の発見, 精神分析療法の起源と成立, 自由連想, 抵抗, 解釈, 心的外傷体験, 夢, 象徴などについて述べる。ユング,C.G.の無意識論については, 放送授業で大場が担当する。印刷教材と放送授業を別の講師にすることで、多角的・多面的な理解を試みる。<br><br>【キーワード】<br>深層心理学, 無意識論, 自由連想法, 抵抗, 転移, 解釈, 洞察, 夢, 象徴, 抑圧, コンプレックス, 失錯行為 | 齋藤 高雅 | 大場 登(放送大学教授) |
| 8 | 心のはたらき2<br>自我と無意識の関係 | 心のはたらきでは、特に自我と無意識との関係が重要になってくる。不安と防衛、自我の防衛機制、症状形成などについて述べる。放送授業は大場が担当する。大場の放送授業では、「自我と無意識の関係」に関して、ユング心理学の視点からの理解を試みる。<br><br>【キーワード】<br>無意識、自我、自我の防衛機制、自我と無意識の関係 | 齋藤 高雅 | 大場 登 |
| 9 | 心のはたらき3<br>イメージと身体 | 無意識には意識に至るさまざまなチャンネルがある。その中からイメージと身体感覚を取り上げ、心理臨床との関連を述べる。<br><br>【キーワード】<br>ボディイメージ、身、身体言語 | 佐藤 仁美(放送大学准教授) | 佐藤 仁美(放送大学准教授)<br>ゲスト:<br>橘 玲子 |
| 10 | ライフサイクル論1 ライフサイクルと心理臨床 | 人生の各時期にはその時期の発達的特徴と発達課題が存在し、各時期に特徴的な臨床心理学的問題が生じる。本章ではライフサイクルに関する代表的理論を紹介すると共に、ライフサイクルと心理臨床について概説する。<br><br>【キーワード】<br>ライフサイクル | 小野 けい子(放送大学教授) | 小野 けい子(放送大学教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ライフサイクル論2<br>乳幼児期 | 乳幼児期の発達的特徴と発達課題、この時期の臨床心理学的問題について論じる。<br><br>【キーワード】<br>基本的信頼感、アタッチメント、エディプス・コンプレックス | 小野　けい子 | 小野　けい子 |
| 12 | ライフサイクル論3<br>児童期 | 児童期はほぼ小学生の時期にあたる。この時期の、特徴的な知的発達、親子関係、友人関係、社会性の変化をとりあげ、それが児童期の子どものこころに、どのような影響を与えるのかをみていく。<br><br>【キーワード】<br>児童期　小学生 | 山口　義枝<br>（日本大学准教授） | 山口　義枝<br>（日本大学准教授） |
| 13 | ライフサイクル論4<br>思春期・青年期 | 思春期・青年期の臨床心理学的特徴について述べる。<br><br>【キーワード】<br>思春期　青年期　移行期　第二次性徴　アイデンティティ | 佐藤　仁美<br>（放送大学准教授） | 佐藤　仁美<br>（放送大学准教授） |
| 14 | ライフサイクル論5<br>成人期 | 成人期の心身の特徴と、臨床心理学的課題について述べる。<br><br>【キーワード】<br>働き盛り、中年期の危機、個性化、更年期、うつ病、自殺防止 | 齋藤　高雅，<br>滝口　俊子<br>（放送大学名誉教授） | 滝口　俊子<br>（放送大学名誉教授） |
| 15 | ライフサイクル論6<br>高齢期 | 高齢期の心身の特徴と臨床心理学的課題、旅立つ準備について述べる。<br><br>【キーワード】<br>自我の統合性 対 絶望，ターミナル・ケア，回想法，認知症，サクセスフル・エイジング | 齋藤　高雅，<br>滝口　俊子 | 滝口　俊子<br>ゲスト：<br>橘　玲子 |
| 16 | 心理アセスメント1<br>心理アセスメントとは | 心理臨床とアセスメント活動について、アセスメント面接、観察、心理検査について述べる。特にアセスメント面接を中心にその目的、進め方など具体的に概説する。<br><br>【キーワード】<br>アセスメント、アセスメント面接、観察、心理検査 | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅<br>ゲスト：<br>橘　玲子 |
| 17 | 心理アセスメント2<br>心理検査 | 心理検査によるアセスメントについて述べる。心理検査の基礎と、心理アセスメントの目的、進め方、報告書、フィードバックについて概説する。<br><br>【キーワード】<br>アセスメント，心理検査，信頼性，妥当性，心理検査の目的，テストバッテリー，アセスメントの報告，フィードバック | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 18 | 心理アセスメント2<br>心理検査:<br>知能検査・発達検査 | 知能検査、発達検査作成の歴史、知能の概念、代表的検査の特徴を概観し、実施の目的や利点、使用上の注意について述べる。<br><br>【キーワード】<br>知能検査、発達検査 | 山口 義枝 | 山口 義枝 |
| 19 | 心理アセスメント3<br>心理検査:<br>投映法 | 臨床場面でよく使用されるパーソナリティ検査の中、投映法について概説する。投映水準、投映法の種類とその特徴などについて述べる。<br><br>【キーワード】<br>パーソナリティ、投映法、投映水準、投映法の種類、ロールシャッハ・テスト、TAT、SCT、描画法、心理検査状況 | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅<br>ゲスト:<br>橘 玲子 |
| 20 | 心理アセスメント4<br>心理検査:<br>質問紙法・評価尺度 | 臨床場面でよく使用されている質問紙法の種類や評価尺度と使用、それらの効用と注意点について述べる。<br><br>【キーワード】<br>質問紙法、評価尺度, YG性格検査, MMPI ,TEG, Big Five Test | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅 |
| 21 | 心理療法1<br>精神分析と精神分析的療法 | フロイト (Freud, S.) に始まる精神分析療法について概説する。治療者関係、抵抗、転移、逆転移、行動化、その他の重要な概念について述べる。<br><br>【キーワード】<br>精神分析、精神分析的療法、治療者関係、抵抗、転移、逆転移、解釈、行動化、ワークキング・スルー, 洞察 | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅<br><br>ゲスト:池田政俊(帝京大学大学院教授) |
| 22 | 心理療法2<br><br>分析心理学的心理療法 | ユング,C.G.に始まるユング派の心理療法は、日本では河合隼雄の努力によって、非常に幅広い理解を得るまでになった。本章では、ユング派心理療法のもっとも基本的な理解を試みてみたい。<br><br>【キーワード】<br>ユング派心理療法 | 大場 登 | 大場 登 |
| 23 | 心理療法3<br><br>認知行動療法 | 学習理論を基盤とする行動療法と認知理論を基盤とする認知療法がそれぞれ発展したが, 次第に学習理論に認知理論を統合する形で認知行動理論が提唱されるようになった。行動療法の諸技法, 認知行動療法の理論と実際について述べる。<br><br>【キーワード】<br>認知行動療法, 認知療法, 行動療法, 系統的脱感作, スキーマ, 自動思考, 認知の歪み, 認知的再体制化 | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅<br><br>ゲスト:堀越勝(駿河台大学大学院教授) |
| 24 | 心理療法4<br><br>パーソン・センタード・アプローチ | ロジャーズに始まるクライエント中心療法とパーソン・センタード・アプローチについて解説するとともに、ジェンドリンのフォーカシング技法・エンカウンター・グループについてもその理論と技法について概説を行う。<br><br>【キーワード】<br>来談者中心療法、パーソン・センタード・アプローチ | 小野 けい子 | 小野 けい子 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 25 | 心理療法5<br><br>森田療法・内観療法・臨床動作法 | 日本で生まれ発展した3つの心理療法、森田正馬が確立した森田療法、吉本伊信が創始した内観療法、さらに成瀬吾策らが開発した臨床動作法について紹介する。<br><br>【キーワード】<br>森田療法、内観療法、臨床動作法 | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅<br><br>ゲスト：中山和彦（東京慈恵会医科大学教授）<br>橘　玲子（新潟青陵大学教授） |
| 26 | 心理療法6<br><br>ブリーフ・セラピー | ブリーフ・サイコセラピーおよびブリーフ・セラピーについて概説する。ブリーフ・セラピーとは、わが国では「短期療法」と訳され、さまざまなモデルがあるが、ここでは主に「解決志向ブリーフセラピー」モデルを中心に紹介する。<br><br>【キーワード】<br>ブリーフ・サイコセラピー，ブリーフ・セラピー，解決志向ブリーフセラピー | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅<br><br>ゲスト<br>森　俊夫<br>（東京大学大学院助教） |
| 27 | 心理療法7<br><br>児童の心理療法 | 児童を対象として行われることの多い遊戯療法について、基本概念、実際の設定の仕方について述べる。そして、遊戯療法の特徴の一つである非言語的交流についての理解を深める。<br><br>【キーワード】<br>遊戯療法、遊び | 山口 義枝 | 山口 義枝 |
| 28 | 心理療法8<br><br>芸術・表現療法 | 言語的な心理療法に対極する形が非言語的な心理療法と思われがちだが、クライエントの表現が非言語的であるからこそ、セラピストは受け止めたことを伝えるために言葉を磨かなくてはならず、ある意味、非常に言語的なものである。言語－非言語のかかわりをはじめ、芸術・表現療法について概説する。<br>【キーワード】<br>表現　芸術療法　コミュニケーション | 佐藤　仁美 | 佐藤　仁美 |
| 29 | 心理療法9<br><br>集団心理療法 | 集団で行われる心理療法について、その考え方と実施の方法、個人療法との違い、適応範囲、今後の展開などについて述べる。<br>集団心理療法の歴史，構造、機能、さまざまな集団心理療法について概説する。<br><br>【キーワード】<br>集団心理療法、集団の力(治療的因子)，グループ現象 | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅<br><br>ゲスト：<br>武井　麻子<br>（日本赤十字看護大学教授） |
| 30 | コミュニティと心理療法 | 地域臨床活動場面、さらに学校臨床、犯罪被害者支援など、コミュニティの中で展開する心理療法は、これまでの心理療法とは異なる視点が必要になってくる。連携、ネットワーク、コンサルテーションなどについて考える<br><br>【キーワード】<br>コミュニティ・アプローチ、連携、危機介入、コンサルテーション | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅<br><br>ゲスト：<br>箕口　雅博<br>（立教大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開設年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8950555 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 科目名（メディア）＝臨床心理面接特論　（‘１３）＝（Ｒ）
## －　心理療法の世界　－

〔主任講師（現職名）：大場　登　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：小野　けい子（放送大学教授）〕

**講義概要**

心理療法を行う臨床心理士には、外科手術のためのメスも、化学的に身体（脳）に働きかける薬も与えられていない。基本は、クライアントの心身が訴える声に耳を傾けること・セラピストの心身で受けとめること。しかし、この「心身が訴える声に耳を傾けつづけること」が如何に困難な営みであるか、そして、逆に、「一人の生きた人間（セラピスト）が、長期間にわたって耳を傾けつづける・受けとめつづけること」によって、クライアントの心身がゆっくりとではあるが、確実に「変容」の歩みを始めるものであることを、30章（４単位）にわたって詳細に論じる予定である。

**授業の目標**

実際の心理臨床の現場で臨床心理学的面接、ないし、心理療法を行ってゆくにあたって、臨床心理士にとって、もっとも基本となる姿勢・留意点、そして、心理療法技法論の基礎について体系的に学習することを目的とする。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | はじめに：心理療法とは？ | 「心理療法とは一体どのようなものであるのだろうか？」　本科目３０章を通して学ぶことになるが、第１章では、その基本について検討してみることにしたい。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）<br>小野けい子（放送大学教授） |
| 2 | 耳を傾ける | 悩みや問題をもって来談した方に、忠告や説得をしても、それが効を奏するのは、よほど問題の軽い場合である。心理療法において、サイコセラピスト（以下セラピストと略）は、クライアントの話にまず耳を傾け、そこに示される感情を受け入れてゆく。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 3 | 心理療法の器（１） | 「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピストの守秘義務から始まって、面接時間・面接室・面接頻度・料金といった、いわゆる「面接構造」について述べ、立場の相違による「器」の個性についても論じる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 心理療法の器（2） | 「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピスト自身もまた、心理的変容過程を守り保護する「心理療法の器」であるということができる。前章で述べた面接室、面接時間等に続き、本性では,「心理療法の器としてのセラピスト」について述べる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 5 | トピックス：心理臨床の現場から―①児童相談所＋児童養護施設 | 本講義では、トピックスとして、様々の心理臨床現場での実際の心理療法、個々の現場固有の特徴・経験・感動・困難さについても紹介してゆくことにしている。第１回の今回は、印刷教材では児童相談所における臨床心理士の仕事を、そして、放送授業ではゲストをお招きして、児童養護施設における臨床心理士の業務を紹介してみることにしたい。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：菅原惠（児童養護施設 錦花学院 臨床心理士） |
| 6 | 初回面接 | 「初回面接」はその後の長い心理療法の第一歩である。クライアントにとっても、このセラピストとやってゆくことができるかどうかを見極める機会であると同時に、もちろん、セラピストにとってもクライアントを「見立て」、そして、心理療法を引き受けることにするか否かを決定する大切な面接である。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：川戸圓（大阪府立大学名誉教授・ユング派分析家） |
| 7 | 心理療法とアセスメント（1）-成人の場合 | 心理アセスメントは心理療法を開始するにあたって必要不可欠である。アセスメントが確実になされることが、その後の心理療法にとっての基盤となる。 | 小川俊樹（放送大学教授） | 小川俊樹（放送大学教授） |
| 8 | 心理療法とアセスメント（2）-子どもの場合 | 何らかの困難を抱えた子どもに必要な援助を提供していくためには、アセスメントが欠かせない。子ども本人への面接や心理検査、行動観察を行うとともに、保護者からも情報を得て、多方面から総合的にアセスメントをする。また幼少の子どもの場合は、遊びを通してアセスメントを行うこともある。 | 小林真理子（放送大学准教授） | 小林真理子（放送大学准教授） |
| 9 | 連携と協働 | 医療機関で心理療法を行う場合に限らず、医師を始めとする他職種との「連携と協働」は一つの大きなテーマである。心理臨床の場には、様々な領域があり、それぞれの領域の場を基点に連携と協働がなされている。本章では、医療機関及び学校領域、特に学生相談における連携と協働について、その重要性と留意点について述べる。 | 齋藤　高雅（放送大学教授） | 齋藤　高雅（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | トピックス：心理臨床の現場から―②医療機関 | 医療機関における臨床心理士の業務について、大学病院神経精神科・心療内科と、大学病院に附属する「こどものこころクリニック」における臨床心理士の業務を学ぶとともに、放送授業では実際の現場の臨床心理士をゲストにお迎えしてインタヴューを行う。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授）＋ゲスト：庄野伸幸（埼玉医科大学助手） |
| 11 | セラピストによる「読み」 | クライアントの姿・語ること・症状に「耳を傾け」ることがセラピストのひとつの決定的に大きな仕事だとすると、もう一方で、クライアントの語ること・症状・問題・内的イメージから、そして、クライアントと出会っている際にセラピストが抱く印象や気持ちから、クライアントのことを「読む」こともセラピストの重要な仕事であると言えるだろう。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：森さち子（慶応義塾大学准教授） |
| 12 | セラピストの「問いかけ」と「語りかけ」 | 第１１章・第１１回に学んだ「読み」に基づいて、今度は、クライアントの反応を慎重に見守りつつも、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこともセラピストにとってとても大切な仕事と言えるであろう。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：森さち子（慶応義塾大学准教授） |
| 13 | セラピストとクライアントの関係性（１） | 心理療法という営みは、基本的にはセラピストとクライアントの間で生起する。セラピストとクライアントの関係性について、今回は、特にクライアントが、セラピストに向ける気持ち・感情について取り上げる。 | 大場　登（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 14 | セラピストとクライアントの関係性（２） | 今回も心理療法におけるセラピストとクライアントの関係性について論じるが、今回は、クライアントとの関係において、セラピストの側が経験する気持ち・感情について取り上げる。 | 大場　登（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 15 | トピックス：心理臨床の現場から―③緩和ケア | 「緩和ケア」における臨床心理士の仕事とはどのようなものであるのだろうか？がん医療の現状や緩和ケアについて説明し、臨床心理士の役割について考える。放送授業では、現場の臨床心理士をお迎えしてインタヴューを行う中で、「緩和ケア」における臨床心理士の業務、関わりの視点や特徴について検討してみたい。 | 小林真理子（放送大学准教授） | 小林真理子（放送大学准教授）＋ゲスト：井上実穂（国立病院機構四国がんセンター臨床心理士） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 16 | 意識と無意識 | 心理療法に携わる中で、人間の心には、意識している部分の他に、無意識の領域が存在すると仮定したほうが理解しやすいという経験に遭遇する。治療論的にも、意識の統制力をやや弱めることによって、内面的なものに向かい、自己治癒力を活性化する方法がとられることについて論じる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 17 | 箱庭療法 | 内面的なものを言語に頼らず自由に表現する方法として、描画法、遊戯法などがあるが、ここでは箱庭療法を取り上げて、この方法を紹介するとともに、箱庭の中で自己表現をすることによる自己治癒力の働きについても論じる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 18 | 家族面接 | 心理療法においては、様々な問題を顕在化しておられる本人ではなく、そのご家族が面接にみえることも多い。また、本人とご家族両方への面接が求められることも多い。それらをどう考え、どうすれば良いのかについて取り上げる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 19 | 若者たちと心理療法 | 思春期～青年期にあたる若者たち特有の心性と、いくつかの臨床現場でのセラピストとのやり取りを中心に論じていきたいと思う。思春期～青年期と出会う臨床現場での実際を織り込む予定である。 | 佐藤仁美（放送大学准教授） | 佐藤仁美（放送大学准教授） |
| 20 | トピックス：心理臨床の現場から―④犯罪被害者支援 | 「犯罪被害者支援」の立場で警察という職場で活動をしておられる臨床心理士の業務、犯罪被害者の心理について学ぶとともに、放送授業では、実際の現場の臨床心理士をゲストにお迎えして、インタヴューを行いたい。 | 小野けい子（放送大学教授）ゲ | 小野けい子（放送大学教授）＋ゲスト：上田鼓（警察庁犯罪被害者支援室職員・臨床心理士） |
| 21 | 夢と癒し | 古代ギリシャで、人々が心身の病に見舞われると、人々はアスクレピオス医神の神殿を訪ねた。斎戒沐浴の後、彼らは神殿最奥の小部屋で眠り、「癒しの夢」の訪れを待った。日本の古代・中世においても、人生の困難や病に出会った人々は、「貴船」や「石山」に詣でたり、「観音」さんに籠って、「癒しの夢」の到来を待った。 | 大場登（放送大学教授） | 大場登（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 心理療法と夢（1） | 古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で当時の人々が夢による癒しを求めた営みはインキュベーションと呼ばれるが、Meier,C.A.によれば「このインキュベーションが2000年の眠りを経てFreud,S.の診察室・自由連想のカウチで復活した」と言われる。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授） |
| 23 | 心理療法と夢（2） | たしかに心理療法で、我々がクライアントの話に耳を傾けていると、「そう言えば今朝こんな夢を見ました」と報告されることが多い。「耳を傾ける」とは、この意味で、「心の最奥からの声」あるいは、「人間の意識を超えた領域からの声」に対してのことでもあるのかもしれない。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授） |
| 24 | 心理療法とコンステレーション（布置） | 心理療法の面接でクライアントの語ることを注意深く聴いていると、クライアントの内界で問題となっているテーマと見事に対応する外界の出来事が、クライアントの周囲で生じていることをよく経験する。だからこそ、一見「外的・日常的」だけと思われるクライアントの経験にも我々は、大きな関心を寄せて傾聴することができるとも言えよう。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授） |
| 25 | トピックス：心理臨床の現場から―⑤ＨＩＶカウンセリング | 今回のトピックスでは、いわゆるHIVカウンセリングにあたっている心理臨床の現場を紹介したい。HIV心理臨床の実際・チーム医療・仕事の困難さ・セクシュアリティ・日頃感じていること・いわゆるＨＩＶ感染者の方々やエイズ患者の方々との出会いを通して考えさせられたことなどが紹介される予定である。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：安尾利彦（国立病院機構大阪医療センター　臨床心理士） |
| 26 | 困難な事例との出会い | 心理療法の営みを続けていると、セラピストは、必ずといってよいほど圧倒的な難しさ・無力感・不安を感ぜざるを得ないようなクライアントに出会うものである。人間の心の闇は恐ろしい程に圧倒的で、且つ深いものである。印刷教材・放送授業を通して、この「難しい」テーマと正面から向き合ってみることとしたい。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：川戸圓（大阪府立大学名誉教授・ユング派分析家） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 27 | 心理療法の面接と記録 | 心理療法の面接は、なぜ記録に残さなければならないのだろうか。「面接記録」は何時書くのだろうか？「面接記録」はどのように「保管」するのだろうか？そして、そもそも面接記録には、一体どのようなことを、どの程度書いたらよいのだろうか。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授） |
| 28 | スーパーヴィジョン | 心理臨床の研修にとって不可欠な体験として、スーパーヴィジョンがある。個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンの比較、スーパーヴァイザーの選び方や、スーパーヴィジョンの料金、期間について。さらに個人分析との異同についても述べる。 | 小野けい子（放送大学教授） | 小野けい子（放送大学教授）＋ゲスト：山中康裕（京都大学名誉教授） |
| 29 | トピックス：心理臨床の現場から―⑥心理療法機関 | 臨床心理士が企画運営する心理療法機関を紹介し、臨床心理士をゲストに迎えてインタヴューを行う。開業心理臨床とも言われるこの分野では、臨床心理士に自由度が高くある一方、責任という面での重さも並々ならぬものがあると言えよう。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）＋ゲスト：桑村かすみ（山王教育研究所臨床心理士） |
| 30 | おわりに：講師からのメッセージ | 30回にわたる授業の最後は、今後さらに心理臨床の勉強を続け、将来的に心理臨床領域において臨床心理士として仕事をしてゆこうとする受講生に向けた主任講師からのメッセージとなる予定である。 | 大場　登（放送大学教授） | 大場　登（放送大学教授）<br>小野けい子（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8950547 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　臨床心理学研究法特論　　（’１２）＝（R）

〔主任講師（現職名）：齋藤　高雅　（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：元永　拓郎　（帝京大学大学院准教授）〕
【本学担当専任教員：】

## 講義概要

臨床心理学領域における研究を行う上でのさまざまな方法論，量的研究と質的研究について解説する。具体的な研究法として，質的研究法，調査法，面接法・観察法，投映法，実験法，事例研究法，効果研究について説明し，さらに臨床心理学領域として，心理療法，アセスメント，家族研究，高齢者研究，コミュニティ・アプローチについて解説する。臨床心理学研究の特徴として、クライエントの利益を優先すること，プライバシーを含む倫理的な問題を常に念頭におくことが重要である。

## 授業の目標

臨床心理学領域におけるさまざまな研究を行う上での方法論と，研究の重要性，および困難さを理解することを目標にする。臨床心理学においては、臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマとなるが，究極的には、クライエントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら、臨床心理学研究法について解説する。

## 履修上の留意点

臨床心理学特論（’11）は，本科目の全体的な基礎となるものである。各自の関心領域により，臨床心理学プログラムが開講している他の科目は研究を遂行する際の基礎知識となる。たとえば，量的研究を行う際には，「心理・教育統計法特論」は履修の必要がある。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 臨床心理学の領域と研究法 | 本特論では、臨床心理学の5領域、心理療法・アセスメント・家族・高齢者およびコミュニティを取り上げる。研究として重要なことは、研究目的を明確にすることである。それにより何をどのように達成するかという研究方法が自ずと絞られてくる。臨床心理学研究の特徴として、クライエントの利益を優先すること、プライバシーや倫理的な問題を常に念頭におくことを十分理解しておくことがあげられる。<br>【キーワード】<br>臨床心理学の研究領域，臨床研究 | 齋藤　高雅（放送大学教授） | 齋藤　高雅（放送大学教授） |
| 2 | 研究の基礎－　研究のプロセス | 臨床現場で問題を感じ、その問題意識を研究として遂行していく研究のプロセスについて概説する。文献検索、文献レビュー、対象・方法の選定、特に研究計画の立案、作成などについて述べる。<br>【キーワード】<br>研究のプロセス，研究計画書，先行研究，文献検索，文献レビュー | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅 |
| 3 | 研究法①<br>質的研究法 | 近年、研究対象の現象の背後にある重要な鍵概念を抽出したり、現象の構造的特徴を記述できるモデルや仮説を構築することに主眼をおいた「質的研究」への関心が高まっている。「質的研究」の方法論上の特徴を研究例を通して概説する。<br>【キーワード】<br>質的研究 | 名取 琢自（京都文教大学教授） | 名取 琢自（京都文教大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 研究法②<br>量的研究法－ 調査法 | 量的研究とは、単に数字を用いて記述し統計的に検定するものではない。現象の背後にある‘真実’に迫るための種々の取り組みに、普遍性や実証性を与えようとする手続きである。そのため量的研究においても、数字では示されない事象にも関心を持ち、時にその考察も行う。ここでは、量的研究の一例として、質問紙を用いた調査法による研究を取り上げ概説する。<br>【キーワード】<br>量的研究，数量化 | 元永 拓郎<br>（帝京大学大学院准教授） | 元永 拓郎<br>（帝京大学大学院准教授） |
| 5 | 研究法③<br>面接法・観察法 | 面接法、観察法による研究法を概説する。面接、あるいは観察することによってどのように臨床的な資料を収集することが可能であり、どのような研究があるのかについて概説する。<br>【キーワード】<br>臨床的面接，調査面接，構造化面接，半構造化面接，仮説生成，仮説検証，参与観察 | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅 |
| 6 | 研究法④<br>投映法（投影法） | 投映法の特徴を、質問紙法や面接法など他の方法と比較しながら説明し、その意義について考察する。代表的な投映法を用いた研究（ロールシャッハ法と描画法など）、また投映法自体に関する研究について紹介する。<br>【キーワード】<br>投映法（投影法），ロールシャッハ法 | 小川俊樹（放送大学教授） | 小川俊樹（放送大学教授） |
| 7 | 研究法⑤<br>実験法 | 臨床心理学においても、実験による研究は重要である。実験研究を実施する際の基本概念（実験群・統制群など）についても説明する。<br>【キーワード】<br>実験法，実験計画法，仮説，検定 | 小川俊樹 | 小川俊樹 |
| 8 | 研究法⑥<br>事例研究法 | 事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の1つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがい、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。<br>【キーワード】<br>事例研究，臨床の知，事例検討 | 名取 琢自 | 名取 琢自 |
| 9 | 研究法⑦<br>評価(効果)研究 | 心理療法の効果を明らかにすることは、臨床心理学にとって重要な課題の一つである。心理療法の効果研究、メタ分析について概説するとともに、心理療法も含めたより包括的な心理学的支援について、プログラム評価の観点から評価研究を論じる。<br>【キーワード】<br>メタ分析，無作為化比較臨床試験（RCT），ケースコントロール研究，EBM,プログラム評価，プロセス研究 | 元永 拓郎 | 元永 拓郎 |
| 10 | 領域と研究法①<br>心理療法 | 心理療法における研究のトピックスとして、治療の場における治療構造の問題、見立てにおける異常心理学の役割、セラピストークライエント関係、プロセス研究、スーパービジョン・教育、などについて概説する。<br>【キーワード】<br>心理療法，治療構造，異常心理学、プロセス研究、セラピストークライエント関係、スーパービジョン・教育 | 齋藤 高雅 | 齋藤 高雅 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 領域と研究法②<br>アセスメント | 臨床心理学におけるアセスメントについて説明し、その必要性を述べる。アセスメントの諸方法を紹介したうえで、それらの信頼性・妥当性について考える<br><br>【キーワード】<br>アセスメント，評価尺度 | 小川俊樹 | 小川俊樹 |
| 12 | 領域と研究法③<br>家族研究 | 本格的高齢社会の到来とともに，高齢者と家族をめぐる様々な問題が起こっている。特に，介護ストレスや虐待など，高齢者を介護する家族の心理的ストレスをめぐる問題は大きな社会問題となっている。こうした現状を鑑み，本章のねらいは，要介護高齢者と家族介護をめぐる諸問題に関する臨床心理学研究の現状と課題について考える。<br>【キーワード】<br>高齢社会　家族システム　要介護高齢者　家族のストレス　介護ストレス | 松田　修（東京学芸大学准教授） | 松田　修（東京学芸大学准教授） |
| 13 | 領域と研究法④<br>高齢者研究 | 本格的高齢社会の到来に伴い，高齢者の心の健康とその支援に関する臨床心理学的研究の重要性が高まっている。しかしながら，臨床心理学における高齢者研究は，いまだ十分とはいえず，取組みねばならない研究課題は依然として多い。こうした現状を踏まえ，本章では高齢者を取り巻く臨床心理学研究の現状と課題について考える。<br>【キーワード】<br>認知症，非薬物療法　横断的研究　縦断的研究　準実験 | 松田　修 | 松田　修 |
| 14 | 領域と研究法⑤<br>コミュニティ・アプローチ | 近年、学校や地域社会における心の問題が社会的に関心を集めている。臨床心理学はこの領域に様々な接近を試みている。実際にそのコミュニティに介入し、その実践活動と並行して研究を行う場合もある。それらの接近法から明らかにされる諸側面を概説する<br><br>【キーワード】<br>コミュニティ・アプローチ，介入研究 | 元永 拓郎 | 元永 拓郎 |
| 15 | 臨床心理学研究の倫理－まとめにかえて | 臨床心理学研究法のまとめとして、倫理問題について述べる。臨床心理学研究の難しさは、しばしばクライエントのプライバシーや利益など研究において二律背反性に直面することがあげられる。これらの点について考える。<br><br>【キーワード】<br>倫理，インフォームド・コンセント，プライバシー保護 | 齋藤　高雅 | 齋藤　高雅 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8950512 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　家族心理学特論　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：亀口憲治（国際医療福祉大学大学院教授）〕
〔主任講師（現職名）：〕
【本学担当専任教員：大場登（放送大学教授）】

## 講義概要

近年の少子高齢社会、高度情報化社会の中で、私たちを取り巻く社会環境は大きな変貌を遂げようとしている。こうした時代背景の中で、現代の家族には、これまでにない新たな課題が生じている。その一方で、いかなる時代、文化においても普遍的な課題を有してもいる。本講義では、まず今日の家族が抱えるさまざまな課題について検討し、次に、この課題が果たせなかった場合に生じうる諸問題について取り上げることにする。そして、このような諸問題に対する家族療法を始めとする最新の援助法の理論的背景と具体的な技法について概説する。

## 授業の目標

家族関係の心理的な仕組みについて、その発達の初期から生涯に及ぶ長い変化の過程として理解できるようになることを目標とする。また、家族がかかえるさまざまな心理的問題の社会的背景との相互影響についても見識を深めることが期待される。さらに、家族療法の理論と技法を学ぶことにより、具体的な家族への心理援助の専門的基礎を形成することが目標となる。

## 履修上の留意点

発達心理学や臨床心理学、あるいは社会心理学については、本講義の受講前後に学習することが望まれる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 家族心理学の役割 | 家族心理学は、主に個人の心理を対象として発展してきた心理学に、家族関係などの「関係」の心理的メカニズムを解明する新たな専門領域を確立しつつある。さらに、既存の臨床心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、あるいは老年心理学等の領域で得られた知見を、「関係系」の視点から統合する役割も期待されている。<br>【キーワード】<br>関係の心理　複合的視野　統合的役割 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 2 | 家族人生周期 | 個人の発達が新生児期から老年期までの生涯にわたる視点で探求されるようになってきている。さらに、個人の心理的発達の過程を人生という時間軸で捉えるだけでなく、家族関係というある種の空間軸を取り入れた総合的な人間発達についての認知的枠組みが紹介される。<br>【キーワード】<br>生涯発達　人生周期　家族人生周期 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 3 | 家族システム論 | 「家族システム」は、家族を単に個人の寄せ集めとみるのではなく、固有の関係性や特徴をもつ特異な集団（ペットも含む）として理解する家族心理学の基礎をなす概念である。この回では、理論的基盤である家族システム論が詳しく解説される。<br>【キーワード】<br>家族システム論　入れ子構造　関係系の心理学 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 家族内コミュニケーション | 家族心理学の強みは、日常生活に密着した家族成員間の情緒的コミュニケーションの仕組みを解明し、さらにその問題点を解決する実践的な手法を積極的に開発し、普及することを目標にしている点にある。ここでは、具体例を踏まえながら、家族内コミュニケーションの病理や解決法について解説する。<br>【キーワード】<br>コミュニケーション　情緒的コミュニケーション　家族内コミュニケーションの病理　コミュニケーションの改善 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 5 | 家族関係の心理査定 | 心理的問題を正確に把握するために各種の心理査定法が存在するものの、家族関係の心理査定法は数が少ない。そこで、代表的な家族心理査定法を紹介し、その実践上の問題点を明らかにする。<br>【キーワード】<br>心理査定法　家族心理査定　家族イメージ法（FIT） | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 6 | 家族心理の深層構造 | 個人心理の深層に家族関係の問題が潜むことは、フロイトによる精神分析の創始以来、一般にも良く知られた事柄である。家族心理学の隣接領域である家族臨床心理学は、個人のみならず、家族全体の深層心理のメカニズムを解明し、さらに具体的な心理援助の手法を提案してきている。<br>【キーワード】<br>家族臨床心理学　深層心理　家族の情動システム | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 7 | 社会の中の家族 | 個人やその集合体としての家族にとって、心理的環境としての現代社会から受ける影響を無視することはできない。そこで、激変する社会環境の視点から家族を見た場合の問題点と、逆に個人や家族の側から見た少子高齢化などの社会的問題を対比させる試みを提示する。<br>【キーワード】<br>心理的環境　少子高齢化　社会と家族 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 8 | 個人の中の家族イメージ | 個人の内界における「内なる家族像」の果たす役割については、多くの検討がなされてきた。家族心理学の立場からこの問題を再考すれば、どのような新局面が浮上するのだろうか。ここでは、幼児期に複雑な家庭環境を体験した夏目漱石の人物像と作品を手がかりに、個人にとっての幼児期からの家族体験の影響を深く掘り下げる。<br>【キーワード】<br>自己形成と家族システム　家族イメージ　夏目漱石　心理描写 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 9 | 家族療法の理論 | 1950年代に欧米で誕生した家族療法は、家族心理学の成立に大きな影響を与えた。ここでは、家族療法の成立に関わった主要なパイオニアや理論を概観し、その時代背景についても言及する。また、わが国における家族療法や家族カウンセリングの発展の過程や現状の課題についても触れる。<br>【キーワード】<br>家族療法　家族療法の開拓者　家族カウンセリング | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 家族療法の技法Ⅰ | 家族療法は1980年代以降、世界的な広がりを見せている。その原動力となったのが、構造的家族療法であり、わが国を含め、家族療法の基礎を学ぶ上で、必須とされている。そこで、構造的な面接技法を中心とする主要な技法を紹介する。悪循環に陥っている家族の関係が、どのような援助的介入によって改善されるのであろうか。<br>【キーワード】<br>構造的家族療法　ジョイニング技法　エナクトメント技法 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 11 | 家族療法の技法Ⅱ | 1990年代以降の家族療法は、それまでのシステム論に忠実な理論的枠組みにこだわらず、むしろ物語論的なアプローチへと大きく軌道修正した。ある点では、家族支援における歴史的側面の再評価がなされたともいえる。この変化によって、対立的であった個人療法の各学派との対話が促進されるようになった。<br>【キーワード】<br>物語的家族療法　物語的（ナラティヴ）アプローチ　物語的アプローチの事例 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 12 | 家族療法の技法Ⅲ | 家族療法が世界的に広がるにつれ、多文化的あるいは多世代的な側面への関心が高まっている。同時に、個人療法との統合を図る動きが活発となりつつある。さらに、多様な専門職間の協働の必要性も指摘されるようになり、この面でも統合的視点に立った技法の重要性が増している。<br>【キーワード】<br>統合的家族療法　多文化　多世代　協働 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 13 | 夫婦療法の理論と技法 | 夫婦療法は、家族療法ともに発展を遂げつつあるものの、わが国では未開拓の分野である。しかし、少子高齢化によって、その必要性が高まりつつあるのも事実である。夫婦という親密で独特な人間関係の問題を理解し、解決するための実証的で具体的な知見を紹介する。<br>【キーワード】<br>結婚の深層　夫婦療法　夫婦療法の技法 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 14 | 家族療法の実際 | 家族療法の有効性が期待される不登校、家庭内暴力、ひこもり、摂食障害などの事例を紹介し、危機に立つ家族の具体的な支援の実際に関わる実践過程について解説する。また、家族相談士や家族心理士などの専門家の資格や養成についての情報も提供する。<br>【キーワード】<br>不登校　ひきこもり　家族相談士　家族心理士 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |
| 15 | 家族心理学の未来 | 家族心理学は、激変する現代社会において人間が直面する諸課題を真正面から受け止め、狭義の心理学に留まらず、学際的な知見を取り込み、あるいは発信することが求められる先端的な学問領域として発展することが期待されている。そのいくつかの萌芽について、最新の情報を提供する予定である。<br>【キーワード】<br>家庭生活　ワーク・ライフ・バランス　心理教育的アプローチ | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 | 亀口憲治<br>国際医療福祉大学大学院教授 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8950563 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　障害児・障害者心理学特論　　（’１３）＝（R）

〔主任講師（現職名）：田中　新正（大分大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：古賀　精治（大分大学教授）〕
【本学担当専任教員：齋藤　高雅（放送大学教授）】

講義概要

様々な障害のある人に臨床心理学的援助を提供するに当たって必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。各障害について理解するために、先ず、障害の概念（状態像）やアセスメントの方法について説明し、さらに、発達的視点からみた障害のもつ意味、社会的視点からみた障害のもつ意味について説明し、障害のある人の心理学的援助のあり方について講義する。

授業の目標

全15回の講義を通じて、各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。また、このことを通して人にとっての障害の意味について考えることを目標としたい。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 特殊教育から特別支援教育へ | 2007年4月より「特殊教育」から「特別支援教育」に法改正が行われ施行された。この改正により転換された理念や、見直しされた学校制度や教育職員免許制度について、従来の理念・制度と比較しながら解説する。<br><br>【キーワード】<br>特殊教育・特別支援教育・特別支援学校・センター的機能 | 田中 新正（大分大学・教授） | 田中 新正（大分大学・教授） |
| 2 | 乳幼児における障害とその支援 | 乳幼児期における障害への気づきとその支援を取り上げ、早期発見と療育の重要さを解説する。また、保育所や幼稚園における支援体制と就学に向けての相談や支援について述べる。<br><br>【キーワード】<br>母子保健、乳幼児健康診査、早期発見と療育、保育所・幼稚園での支援、就学相談 | 徳永 豊（福岡大学・教授） | 徳永 豊（福岡大学・教授） |
| 3 | 視覚障害児・者の理解と心理的援助 | 視覚障害の概念、分類について概説した後、心理的特性として、触覚の発達、言語発達、行動等について説明し、様々な困難に対する心理的援助のあり方について述べる。<br><br>【キーワード】<br>視覚障害、盲、弱視、点字、歩行、バーバリズム、ブラインディズム | 大内 進（国立特別支援教育総合研究所・教育支援部上席総括研究員） | 大内 進（国立特別支援教育総合研究所・教育支援部上席総括研究員） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 聴覚障害児・者の理解と心理的援助 | 聴覚障害の概念、分類について概説した後、心理特性として、コミュニケーション、認知、学習、社会性等について説明し、様々な困難に対する支援のあり方について述べる。<br><br>【キーワード】<br>聴覚障害、ろう（聾）、難聴、聴力レベル、伝音難聴、感音難聴、コミュニケーション、早期発見、言語発達、書記言語、聴能訓練、補聴器、人工内耳、手話、情報保障 | 藤本 裕人（国立特別支援教育総合研究所・教育支援部総括研究員） | 藤本 裕人（国立特別支援教育総合研究所・教育支援部総括研究員） |
| 5 | 知的障害児・者の理解 | まず知的障害にかかわる用語について整理する。次に米国精神遅滞協会における知的障害の定義と分類について述べた後、わが国の医学、教育、福祉における知的障害の定義と分類について解説する。<br><br>【キーワード】<br>AAMR（2002）、AAMR（1992）、DSM-Ⅳ-TR、就学基準、療育手帳、知的機能、適応行動 | 古賀 精治（大分大学・教授） | 古賀 精治（大分大学・教授） |
| 6 | 知的障害児・者への心理的援助 | 米国精神遅滞協会のマニュアルに基づいて知的障害のある人に必要な援助の全体像について概説した後、臨床心理の専門家に求められる援助としての心理アセスメント、心理療法、発達援助法について解説する。<br><br>【キーワード】<br>支援、知能検査、適応行動の検査、行動障害 | 古賀 精治（大分大学・教授） | 古賀 精治（大分大学・教授） |
| 7 | 肢体不自由児・者の理解 | 肢体不自由の定義、分類、主な起因疾患について概説した後、脳性まひの運動発達の特徴、そして認知と学習、発語と言語の問題、身辺自立、情緒・社会性等の発達上の特徴について解説する。重複障害についても解説する。<br><br>【キーワード】<br>脳性まひ、随伴障害、重複障害、重症心身障害 | 田中 新正（大分大学・教授） | 田中 新正（大分大学・教授） |
| 8 | 肢体不自由児・者への心理的援助 | 肢体不自由のある人の発達過程における心理的援助について解説する。早期発見について紹介した後、早期療育について医学的立場と心理学的立場について解説する。重複障害児の理解と心理的援助についても解説する。<br><br>【キーワード】<br>早期療育、動作法、自立活動、医療的ケア、訪問教育 | 田中 新正（大分大学・教授） | 田中 新正（大分大学・教授） |
| 9 | 病弱児・者の理解と心理的援助 | 病弱者の定義と、病弱・虚弱児教育の歴史及び病気の概要について解説し、2002年に改正された就学基準と、病弱教育対象児童生徒の病気の種類の推移について解説する。ホスピタリズムやターミナル期について解説する。<br><br>【キーワード】<br>病弱教育の歴史、病気の推移、ホスピタリズム | 田中 新正（大分大学・教授） | 田中 新正（大分大学・教授） |
| 10 | 情緒障害児の理解と心理的援助 | 情緒障害の定義について整理し、情緒障害児教育の対象について述べる。情緒障害児への心理的援助の代表的な考え方について解説する<br><br>【キーワード】<br>情緒障害、不登校、選択性かん黙、心理療法 | 田中 新正（大分大学・教授） | 田中 新正（大分大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 発達障害児・者の理解と心理的援助－ADHD（注意欠陥／多動性障害）－ | 発達障害の概念について整理した後、医学と教育におけるADHDの定義と分類について解説する。それからADHDの原因や併存障害などについて概説し、最後にADHDのアセスメントとADHDのある人への基本的な援助のあり方、家族への支援等について論じる。<br>【キーワード】<br>不注意、多動性、衝動性、自尊心の低下 | 古賀 精治（大分大学・教授） | 古賀 精治（大分大学・教授） |
| 12 | 発達障害児・者の理解と心理的援助－自閉症－ | 医学と教育における自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群の定義、自閉症と他の障害との鑑別等について述べた後、自閉症のある人に特有の物の見方や考え方に応じた専門的な援助方法のいくつかについて解説する。<br>【キーワード】<br>対人的相互反応の質的な障害、コミュニケーションの質的な障害、反復的で常同的な行動や興味、構造化、ソーシャルスキルトレーニング | 古賀 精治（大分大学・教授） | 古賀 精治（大分大学・教授） |
| 13 | 発達障害児・者の理解と心理的援助－LD（学習障害）－ | LDの概念に関する歴史的経緯、そしてわが国の教育と医学におけるLDの定義と分類について解説した後、LDのある人の学習上の諸問題に対する心理学的アセスメントに基づく教育・心理的な援助の方法について述べる。<br>【キーワード】<br>読む、書く、計算する、認知処理特性 | 古賀 精治（大分大学・教授） | 古賀 精治（大分大学・教授） |
| 14 | 家族支援と障害の理解・受け止め | 障害の理解・受け止めは、家族及び障害のある人にとって最も大きな課題である。家族や本人が直面するライフステージごとの課題を紹介するとともに、地域社会における家族支援について考える。<br>【キーワード】<br>告知、障害の理解・受け止め、親・本人、ライフステージにおける課題、家族支援 | 徳永 豊（福岡大学・教授） | 徳永 豊（福岡大学・教授） |
| 15 | 地域社会と障害<br>－社会参加－ | 障害のある人々の社会参加は、今日の大きな課題である。障害とは何かを考える上で、環境因子の大切さを取り上げる。障害者への対応の歴史や人々の意識を踏まえて、社会参加のひとつとして、「働くこと」を考える。<br>【キーワード】<br>障害、国際生活機能分類、環境因子、障害者施策、障害者観、社会参加、働くこと | 徳永 豊（福岡大学・教授） | 徳永 豊（福岡大学・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8950539 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　臨床心理地域援助特論　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：箕口　雅博（立教大学教授）　〕

【本学担当専任教員：齋藤　高雅（放送大学教授）　】



## 講義概要

社会（コミュニティ）とのかかわりのなかで生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考える。本講義では、「臨床心理アセスメント」「臨床心理面接」に次いで、心理臨床実践の第三の柱と位置づけられる「臨床心理地域援助（コミュニティ援助）」の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追求する。

## 授業の目標

講義の前半では、臨床心理地域援助の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法などについての概論的な解説をおこない、後半では、予防的介入、危機介入、コンサルテーション、社会的支援とネットワークづくり、他職種との協働などに焦点を当て、臨床心理地域援助の実際について、さまざまな領域における実践例を通して体験的理解を得ることを課題とする。

## 履修上の留意点

放送大学大学院で開講している関連領域科目「学校臨床心理学特論」などを学ぶことは、理解の一助となる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 現代社会と心の問題―臨床心理地域援助の視座 | 「社会（コミュニティ）の変化に呼応する形で噴出している今日のさまざまな心理社会的問題の解決に心理臨床家がどのように応えられるか」について、コミュニティ心理学の立場から検討する。<br>※現場インタビュー<br>①中堅心理臨床家<br><br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授） |
| 2 | 臨床心理地域援助とは何か―定義・理念・発想・独自性― | 「心理アセスメント」「心理面接」に次いで心理援助活動の第三の柱である「臨床心理地域援助（コミュニティ援助）」の定義・理念・発想・独自性について質疑応答形式で概説する。<br><br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授）<br>ゲスト：若手心理臨床家／大学院生 |
| 3 | 予防の概念と予防的介入 | コミュニティ・アプローチと伝統的心理臨床のそれとの大きな違いは、「治療より予防を重視する」点にある。ここでは、精神保健領域における予防の概念について明らかにし、予防的介入の実際について概説する。<br><br>【キーワード】 | 久田　満（上智大学・教授） | 久田　満（上智大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 危機理論と危機介入 | 日常生活で危機に直面している個人や集団に迅速で即効的な援助的介入をおこなうことは、独自の理論と目的をもった心理援助の方法のひとつであり、コミュニティ援助を進めていくうえで欠かすことのできないものである。ここでは、「脅威査定・管理」という新たな危機介入の枠組みも紹介しつつ、危機介入の理論と実際について概説する。<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授）<br>ゲスト：毛利元貞（モリインターナショナル） |
| 5 | コンサルテーションによる介入と援助 | コミュニティ援助を進めていくうえの基本的な介入方法であり、実践上の重要な戦略のひとつである、心理コンサルテーションの理論と実践について、事例を交えながら概説する。<br>※現場インタビュー：<br>①児童福祉施設職員（コンサルティとして）<br>②スクールカウンセラー（コンサルタントとして）<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授） |
| 6 | ソーシャル・サポート・ネットワーキング―連携と協働による援助― | コミュニティのなかで、どのような人びとと手をたずさえ、どのような人びと対象に、どのような方法でアプローチすれば、心理臨床が役に立つのかについて、「ソーシャル・サポート・ネットワーキング」、「連携」と「協働」をキーワードとしながら検討する。<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授）<br>ゲスト：丹羽郁夫（法政大学・教授） |
| 7 | 学校臨床における臨床心理地域援助 | 今日、学校現場では、不登校・いじめ・学級崩壊・切れる子ども・LD・ADHDなどの問題が起こるだけでなく、学校内外での子どもの安全も脅かされる状況が発生している。このような学校コミュニティへの多様なアプローチをどのように展開していくかについて、スクールカウンセラーの立場から検討を加える。<br>※現場インタビュー　①スクールカウンセラー　②学校関係者<br>【キーワード】 | 藤後悦子（東京未来大学・講師） | 藤後悦子（東京未来大学・講師） |
| 8 | 発達障害の子どもへのコミュニティ援助―特別支援教育を中心として― | LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動障害）、高機能自閉障害など、いわゆる「軽度発達障害」あるいは単に「発達障害」と呼ばれる子どもたちを、学校・地域ぐるみでどのように支援していくかは、今日、心理臨床家が取り組むべき重要課題のひとつとなっている。これらの課題について、応用行動分析および行動コミュニティ心理学の立場から述べる。<br>【キーワード】 | 大石幸二（立教大学・教授） | 大石幸二（立教大学・教授） |
| 9 | 子育て・保育支援におけるコミュニティアプローチの実際 | 育児をめぐる不安と子どもを虐待する母親の増加、家庭内離婚と夫婦（異性）間暴力の問題などにみられるように、家庭の機能は孤立化し、親と子は閉ざされた環境の中で向かい合っている。多くの親たちは、子育てに関して体験的な知識をほとんどもてず、苦労や喜びを分かち合う仲間も少ないなかで悪戦苦闘している。こうした問題への多様かつ予防的介入として、子育て・保育支援におけるコミュニティ・アプローチの実際をとりあげる。<br>※現場インタビュー：　①保育園職員　②子育て支援ボランティア<br>【キーワード】 | 藤後悦子（東京未来大学・講師） | 藤後悦子（東京未来大学・講師） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 暴力・犯罪に関するコミュニティ問題へのフェミニスト・アプローチ | 暴力・犯罪の関与する心理社会的問題のうち、児童虐待、異性間暴力（DV）など、ミクロレベルの家族コミュニティに起こる暴力・犯罪問題の解決と予防について、「フェミニスト・アプローチ」の枠組みにもとづき、コミュニティ援助のあり方を検討する。<br>※現場インタビュー　①シェルター支援ボランティア<br>【キーワード】 | 高畠克子（東京女子大学・教授） | 高畠克子（東京女子大学・教授） |
| 11 | グローバル社会に生きる人びとへのコミュニティ援助 | 近年、グローバル化の動きが活発になり、国境を越えた人の移動とモノや情報の交流が人びとの価値観や生き方の多様さを生んでいる。同時に、多様な文化を担った人びとの共生支援をどのように進めていくか、紛争・テロなど長期的かつ多面的な危機状況のもとで生活している人びとへの心理社会的支援にどのように取り組むかなどは、グローバル社会に生きる私たちにとってきわめて現実的で重要な課題となっている。こうした問題の解決と予防の実践例として「中国帰国者・留学生に対するコミュニティ援助活動」および、「コミュニティ・アプローチにもとづくパレスチナ難民への後方支援活動」をとりあげ検討する。<br>※現場インタビュー：①パレスチナ難民支援NGOスタッフ<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授） |
| 12 | 精神障害者へのコミュニティ援助 | 精神障害者が地域コミュニティで生活するためには、「生活する場」「仲間づくりの場」「働く場」が保証されていなくてはならない。ここでは、地域精神保健の現場で展開されているコミュニティ援助活動の実際について述べるとともに、そこで働く心理臨床家の他職種との連携と協働のあり方について検討する。<br>※現場インタビュー：　①精神科デイケア心理職<br>【キーワード】 | 高畠克子（東京女子大学・教授） | 高畠克子（東京女子大学・教授） |
| 13 | 保健・医療・福祉領域におけるコミュニティ援助 | 保健・医療領域におけるコミュニティ援助として、ターミナルケア・HIVカンセリングをとりあげ、心理臨床家の活動の実際を述べる。福祉領域におけるコミュニティ援助の実際として、児童相談所・児童福祉施設それぞれの場における児童虐待問題へのアプローチをとりあげる。<br>※現場インタビュー：　①児童相談所心理職　②児童福祉施設心理職　③保健・医療領域心理職<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授） |
| 14 | 産業領域におけるコミュニティ援助―EAP活動を中心として― | 産業領域におけるコミュニティ援助として、主にEAP（従業員支援プログラム）活動の実際をとりあげ、その効用と意義について述べる。<br>※現場インタビュー　①EAP心理職<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 箕口雅博（立教大学・教授）<br>ゲスト：松本桂樹（ジャパンEAPシステムズ） |
| 15 | 臨床心理地域援助の課題と展望―研究と実践の統合をめざして― | 臨床心理地域援助（コミュニティ援助）を今後どのように展開していくかについて座談会形式で検討する。主なテーマとしては、「対象と領域ごとの展望」「理論と実践方法の検討」「教育と訓練」「職業倫理」「研究と実践の統合」などを扱う予定である。<br>【キーワード】 | 箕口雅博（立教大学・教授） | 座談会：<br>箕口雅博<br>高畠克子<br>久田　満<br>大石幸二<br>藤後悦子 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930562 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　公共哲学　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：山岡　龍一（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：齋藤　純一（早稲田大学教授）〕

## 講義概要

現代社会における「公共性」の諸問題を、新たに問い直し、新たな解決法を考えていく方法を検討する。「公共哲学」という、近年再定義・再考察が試みられている視角・考え方を、理論的なレベルで紹介・解説しつつ、さらには、いくつかの具体的な問題に関する公共哲学的なアプローチを紹介・解説する。狭義の「哲学」ではなく、社会科学的な知のあり方の刷新の方法を、批判的に紹介することで、講義全体が公共哲学の展開の事例となる予定である。

## 授業の目標

本講義の目標は、公共性に関する特定の教義を提供したり、公共的な問題を取り扱う特定の方法を教え込むことではない。むしろ、「公共性」を再考察する可能性を示し、学生が自らの具体的な問題を基に、独自でありかつ他に開かれた仕方で、「公共性」に関する考えを身につけられるようにすることが目標である。社会・人文科学的な知の基礎を提供することも目標であるが、それ以上に、すでに何らかの学問を習得した学生が、それを批判的に展開し、他の学問や実践的課題との連関を理解、もしくは創造できるような知の提供を目指している。

## 履修上の留意点

履修の上で、特に必要な知識はない。もちろん、既に何らかの社会科学になじみをもっているなら、より理解が容易になるであろう。社会経営科学プログラム以外のプログラムに属する学生にも、その学習の成果を公共的な仕方で生かすために、積極的に履修してもらいたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 公共哲学とは何か | 「公共哲学」という視角・考え方の概要を示す。「哲学」に関する一つの考え方を紹介しながら、批判的な学問としての公共哲学の可能性を考える。「公共性」概念の多様性を、思想史的な説明を使って検討し、現代社会における公共哲学のあるべき姿を、各人が批判的に考えていく準備をする。<br>【キーワード】<br>「公共性」の概念、「哲学」の概念、批判としての公共哲学、歴史的文脈、公と私 | 山岡龍一（放送大学・教授） | 山岡龍一（放送大学・教授） |
| 2 | 公共哲学の原像：リップマンとデューイ | 公共哲学という問題提起の原初的形態として、W. リップマンとJ. デューイの論争を取り上げる。古典古代の理想である公共性の概念を、20世紀アメリカのような社会において追求する際に生じる問題性と可能性を考えることで、非国家的公共性の現代的意義を検討する視点を獲得する。<br>【キーワード】<br>民主主義、大社会、世論、ステレオタイプ、暫定協定、トランザクション、大コミュニティ、自由民主主義の危機 | 山岡龍一（放送大学・教授） | 山岡龍一（放送大学・教授） |
| 3 | 公共哲学の提唱：アーレントとハーバーマス | 公共哲学にとっての古典的なテキスト、H. アーレントの『人間の条件』とJ.ハーバーマスの『公共性の構造転換』を取り上げ、意見の複数性を重視する公共性の理解と市民による意思形成と国家の活動に対する批判的監査を重視する公共性の理解を検討する。<br>【キーワード】<br>意見交換、複数性、市民的公共性、批判的公開性 | 齋藤純一（早稲田大学・教授） | 齋藤純一（早稲田大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 公共哲学の展開（Ⅰ）：ロールズとサンデル | 社会を統合する原理として社会正義を論じたJ. ロールズの『正義の理論』を取り上げる。その上で、ロールズ批判の文脈から新たな公共哲学を共和主義の伝統に依拠しながら提示するM. サンデルの試みを検討し、後期ロールズの政治的リベラリズムにおける公共性の概念を評価する。<br>【キーワード】<br>公正としての正義、格差原理、負荷なき自己、共和主義、理に適った多元性 | 山岡龍一（放送大学・教授） | 山岡龍一（放送大学・教授） |
| 5 | 公共哲学の展開（Ⅱ）：テイラーとコノリー | 一方で人々の価値観が多様であることを認め、それを推し進めさえしながら、他方で一つの社会としての統合が果たされることを可能にするのは、はたしてどのような「公共性」なのだろうか。現代の二人の哲学者、Ch. テイラーとW. コノリーの論争を手がかりにして探究する。<br>【キーワード】<br>アイデンティティ、差異、承認、穏やかな専制、民主制下の当事者能力 | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） |
| 6 | 公共哲学の展開（Ⅲ）：経済学のアプローチ | 経済学の視点から公共性について論じる。合理的に行動する個人が構成する社会において、公共的な価値の実現や集団的意思決定をめぐって生じる諸問題について考察する。従来の経済学の考え方を超える方向性にも言及する。<br>【キーワード】<br>合理的選択理論、公共経済学、公共財、社会的選択理論、ケイパビリティ・アプローチ | 神事直人（京都大学・准教授） | 神事直人（京都大学・准教授） |
| 7 | 憲法と公共性 | 立憲主義と民主主義とを同時に標榜する近代国家は近代的憲法によって構成されている。その憲法は、世俗化と善の多様性を前提とした政治の運営の原則を示すものである。その前提として、市民の対等な関係によって成り立つ私的な領域と、市民が国家権力と対峙する関係にある公的な領域の区別がなされている。純粋に私的でもなく、また国家権力自体でもない公共的なものを憲法理論はそもそも想定しているのであろうか。<br>【キーワード】<br>主権、人権、近代立憲主義、表現の自由、公私区分論、市民社会、公共の福祉 | 川岸令和（早稲田大学・教授） | 川岸令和（早稲田大学・教授） |
| 8 | マス・メディアと公共性 | 自由で民主的な社会においてマス・メディアが果たしている、あるいは果たすべき役割を通じてその公共性の問題を考える。現代の社会においては影響力のある表現主体としてマス・メディアの果たす役割は大きい。報道機関は、世界で起きている事実を人々に伝え、人々の意見の形成にかかわる。新聞を中心とした印刷メディアとテレビを中心とした電波メディア、さらに伝達技術の発達により、通信と放送が融合している最近の状況を法的観点から検討する。<br>【キーワード】<br>表現の自由、マス・メディア、新聞、放送、通信と放送の融合、インターネット | 川岸令和（早稲田大学・教授） | 川岸令和（早稲田大学・教授） |
| 9 | 生命・身体と公共性 | 何にもまして「私的」に思われる生命・身体――しかしそれらをめぐる「生命倫理」が目指すのは、「公共政策における基準策定」でもある。こうした「公」と「私」の交錯は、私たちの生命・身体にとって何を意味するのだろうか。過去と未来の間で検討してゆく。<br>【キーワード】<br>自己決定権、生命倫理、生権力、生政治、生命科学技術 | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 労働と公共性 | 急増する「ワーキング・プア」と後を絶たない「製品偽装」――労働をめぐりこうした問題が起きたのは、労働をたんなる「商品」、消費のための「私的な手段」とみなしてきたことに関係があるのではないだろうか。労働とは何かを「公共性」の観点から再考する。<br>【キーワード】<br>労働の義務と権利、贈与と交換、市場、貧困、自己責任 | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） | 田中智彦（東京医科歯科大学・准教授） |
| 11 | 社会保障と公共性 | 社会保障は人びとが相互の生活を支え合うための公共の制度である。社会保障制度の意義を明らかにするとともに、今後慎権されるべき社会保障制度の条件と方向についても検討を加えたい。<br>【キーワード】<br>社会保障、社会的連帯、福祉国家 | 齋藤純一（早稲田大学・教授） | 齋藤純一（早稲田大学・教授） |
| 12 | デモクラシーと公共性 | 公共性とデモクラシーは不可分の関係にある。排除のない公共の議論は、政治的な意思形成-意思決定が正統であるための条件であり、また、政府に説明責任を求め、その活動を批判的に監査するための条件でもあることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>討議デモクラシー、民主的正統性、民主的統制、公共的理由 | 齋藤純一（早稲田大学・教授） | 齋藤純一（早稲田大学・教授） |
| 13 | ローカルな公共性 | 地域や地方自治体が直面する公共的価値をめぐる問題について考察する。廃棄物処理場や原子力発電所の立地など、いわゆるNIMBY (Not In My Back Yard) 問題を取り上げる。また「共有地の悲劇」や協調ゲームの含意についても論じる。<br>【キーワード】<br>NIMBY問題、迷惑施設の立地、共有地の悲劇、協調ゲーム | 神事直人（京都大学・准教授） | 神事直人（京都大学・准教授） |
| 14 | グローバルな公共性 | グローバルな公共性の問題として、温暖化をはじめとする地球環境問題を取り上げる。社会的ジレンマを手がかりに、その発生メカニズムと問題の構造を考察し、個人の立場と政府の立場の両面から解決方法を模索する。<br>【キーワード】<br>地球温暖化、生物多様性、社会的ジレンマ、多国間環境協定 | 神事直人（京都大学・准教授） | 神事直人（京都大学・准教授） |
| 15 | 公共哲学の課題と展望 | 14回の講義内容を踏まえ、国際社会が直面している諸問題に公共哲学がどのようにアプローチしうるかを明らかにするとともに、親密圏やインターネットなど現代の公共性にとって重要なピックスにも言及する。<br>【キーワード】<br>親密圏、インターネット、国際社会、政治的責任 | 齋藤純一（早稲田大学・教授） | 齋藤純一（早稲田大学・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930635 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　日本の技術・政策・経営　　（’１３）＝（R）

〔主任講師（現職名）：東　千秋（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：柴山　盛生（放送大学客員准教授）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

日本は、科学・技術立国を国の経営方針として、科学・技術により産業を振興し、国民生活の向上を図ろうとしている。国の政策は、どのような分野を推進し、それに関して基礎科学や基盤技術が、大学や産業においてどのように整備されていくのか、その現状を知るとともにその課題を考える。この科目は、日本の産業技術の歴史と現状からこれからの技術のための政策とそれを実現するための経営について、大学院で研究する上での手がかりを提供するものである。そこでは、科学・技術政策と産業の重点分野の動向及び研究開発支援体制を主に、政策から推進体制さらにその成果までを総括的に扱う。

授業の目標

現在世界は、経済や産業におけるイノベーションの創出に大きな期待と努力を注いでいる。特に日本では、科学・技術立国にふさわしい人材の育成のみならず一般市民の理解力の向上が急務である。そのための知識の獲得と政策の考え方やその成果が社会にどのように波及するのか、科学論や技術論をふまえて理解するとともに、政策を実現するための企業におけるに技術経営の現状を知り、将来を考える力を養う。

履修上の留意点



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | はじめに | 科学・技術政策によって経済や産業の成長が促進されるが、その成果をどのように国民生活、組織、社会などの中に浸透させていけばよいか。この科目は、技術経営の観点から技術革新、科学・技術政策、技術管理などにおける様々な課題について考えるための題材を提供するものである。開講に際し、授業の目標や科目の構成を解説するとともに、本プログラムにおける研究の進め方や論文の作成について指導する。<br>【キーワード】<br>授業の目標、技術社会の現状、経営戦略の視点、研究の進め方 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 2 | 科学・技術政策－1<br>米国の動向 | アメリカにおける科学・技術政策の概要を理解する。建国以来、経済的な繁栄を目指していたが、近年において産業競争力を推進する政策をとり、バイオ産業、情報技術産業などの技術が成長している現状を学ぶ。さらに、研究開発に投入する資源が他の国に比べ圧倒的に大きいこと、ベンチャー企業の比重が高く、産業と大学との連携が多くみられるなどの特徴を知る。<br>【キーワード】<br>1980年代までの政策、1990年代の政策、21世紀の政策 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 3 | 科学・技術政策－2<br>欧州の動向 | EU加盟各国にはそれぞれの国情や歴史的経緯によって、それに応じた科学技術政策を立案している。一方、経済のグローバル化に対応するため、EU全体としての政策「フレームワークプログラム」が策定されている。これにより、産業技術開発や研究開発インフラを改善するための協力、競争力の維持・強化、科学技術領域での各加盟国間の不均衡の是正、欧州経済発展のための結束の促進などの推進を図っている。<br>【キーワード】<br>ドイツの政策、フランスの政策、イギリスの政策、欧州連合の政策 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 科学・技術政策－3<br>アジアの動向 | 中国では、高い経済成長を支えるため様々な科学技術政策を実施しているが、特に技術移転と市場メカニズムによってイノベーションを図っている。また、韓国、台湾のように外国から直接投資を受けず自国の技術力を育成することによって成長してきた例と、インドネシア、タイ、マレーシアのように欧米や日本から直接投資を受け入れ急速に拡大した例などがあり、これらの動向を知る。<br>【キーワード】<br>中国の動向、韓国の動向、東南アジア諸国の動向 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 5 | 科学・技術政策－4<br>日本の動向 | 政府の科学技術政策を総合的かつ計画的に推進するため「科学技術基本法」が成立された。この基本法に基づく5カ年計画の「科学技術基本計画」では研究水準の引き上げ、新産業の創出などを念頭においた独創的・革新的技術の創成に資する研究が強調された。本章から第10章にかけては、平成23年からの5ヵ年を対象とする第4期科学技術基本計画をもとに、日本の科学政策の現状や経緯について、その重点と課題を読み解く。<br>【キーワード】<br>成長の時代、科学技術基本計画、最近の科学技術政策 | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 6 | 重点分野の動向－1<br>ライフサイエンス | ライフサイエンスは、生命現象を解明する科学である。その成果は、医療の発展、食糧問題・環境問題の解決につながるものである。そのテーマにはゲノム研究、脳科学などの生命科学技術から医薬品、再生科学などの臨床研究、微生物研究、食品の安全などの食料生産・供給技術などがあり、それらの技術を概観するとともに人間社会の未来を展望する。<br>【キーワード】<br>ゲノム研究、食糧技術、先進医療、ライフイノベーション | 東　千秋（放送大学教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 7 | 重点分野の動向－2<br>情報通信 | 情報通信は、産業のインフラ技術として役割の他に電子商取引、電子政府、在宅勤務、遠隔医療など社会生活に重要な基盤となっている。主な研究領域にネットワーク、デバイス、セキュリティ、ヒューマンインタフェース、ロボットなどがある。情報通信政策は国民生活に直接影響する事柄が大きくその影響を考える。<br>【キーワード】<br>研究開発領域の概要、海外の情報通信の動向、情報通信政策 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 8 | 重点分野の動向－3<br>環境 | 環境分野は、次回のエネルギー利用とも密接に関係している。多様な生物種が生存する自然環境を保全し、人類の生活基盤を維持していくために必要な研究分野である。その中には、地球観測、気候変動予測などの地球環境問題、水・物質循環や流域研究、生態系の管理、省資源・省エネルギー技術の現状、3R技術、バイオマス活用などが含まれている。それらの現状と将来を展望する。<br>【キーワード】<br>地球環境問題、自然共生型技術、グリーンイノベーション | 東　千秋（放送大学教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 9 | 重点分野の動向－4<br>エネルギー | 我が国では「エネルギー政策基本法」に基づく「エネルギー基本計画」を定め、エネルギーに関して総合的な計画を進めている。平成23年3月に発生した東日本大震災を踏まえて原子力を含むエネルギー政策の再検討が急務となってる。ここでは、今後想定される電力需給の逼迫と地球温暖化対策のための低炭素化、エネルギー利用の高効率化、スマート化ならびに社会基盤のグリーン化について、研究開発から事業化、社会の普及まで各ステップの具体的な推進方策などの現状を知るとともに、今後の政策や課題を考察する。<br>【キーワード】<br>エネルギー基本計画、新エネルギー開発、グリーンイノベーション | 東　千秋（放送大学教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 重点分野の動向－5<br>ナノテクノロジーと材料 | ナノテクノロジー・材料分野は、ライフサイエンス、情報通信、環境などの社会の進展を支える重要な基盤分野である。産業の振興や安心・安全な生活の実現の基盤となる技術である。この物質・材料の研究開発の動向を知るとともに、今後の政策や課題を考察する。<br>【キーワード】<br>物質・材料、ナノテクノロジー技術、環境調和材料技術、ライフイノベーションとグリーンイノベーションの基盤 | 東　千秋（放送大学教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 11 | 重点分野の動向－6<br>社会基盤 | 豊かで安全・安心な社会を実現するため、社会におけるリスクや利便性に関する研究や技術が必要である。社会基盤分野には、地震・噴火などの自然災害の防災、国際的なテロや犯罪などの治安、交通の安全、輸送機関の整備などが含まれている。この分野における最近の話題と産業や技術に関する課題を検討する。<br>【キーワード】<br>生活の安全、社会基盤とその整備、交通・輸送システム | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 12 | 技術管理－1<br>研究開発支援体制 | 従来、政府の技術開発プロジェクトが、大企業を中心とした研究組合により行われることが多かったが、現在は、公募型の研究によって新規産業の創成につながる研究への助成が増えている。新規産業、ベンチャー育成の中で注目されているのが産学連携である。このような政策の転換とともに、技術経営としての研究開発管理について学習する。<br>【キーワード】<br>人材育成、研究基盤、産学連携 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 13 | 技術管理－2<br>国の政策と地域振興策 | 地域のイノベーションを促進する施策として注目されているものに地域クラスター政策がある。これは、特定分野における関連企業、関連機関が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態を意味する。欧米アジアでは、これを国のイノベーションの推進政策と位置づけ、戦略的に展開されているが日本ではまだ十分発達していない。このような地域振興策の動向を知る。<br>【キーワード】<br>地域振興施策の経緯、最近の地域振興施策、海外のクラスター | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 14 | 技術管理－3<br>研究開発の管理と評価 | 新しい製品を企画するために、研究開発を担当する人材の管理や事業策定を行う計画管理に関連する事柄について考える。新事業の計画にあたっては、技術の発展状況を示す技術ロードマップの作成などが技術経営の手法として用いられている。高度な技術社会では、特許に代表される知的財産が競争優位性に大きな役割を演じる。このような研究の管理や評価方法について考える。<br>【キーワード】<br>技術戦略、研究開発の評価の考え方、知的財産・技術情報の整備 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） |
| 15 | おわりに | 政策、産業の動向、技術経営に関連して、組織における技術管理の進め方、技術管理者にとっての知識、意思決定の方法などを考える。そのための技術動向、技術予測、技術情報管理などの最近関心が高い話題と今後の科学や技術あり方を探る。<br>【キーワード】<br>知的財産に関する政策、政策と産業、特許出願の考察 | 柴山　盛生（放送大学客員准教授） | 東　千秋（放送大学教授）<br>柴山　盛生（放送大学客員准教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930546 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 社会経済組織論（’１０） （R）

〔主任講師（現職名）：坂井　素思（放送大学教授） 〕

## 講義概要

本書の目指すテーマは、なぜ、いかに人間は「協力」を行うのかという問題です。ここでいう協力とは、人と人を結びつける相互作用のことです。交換、支配、信頼などの社会的協力という、根本的ではあるがきわめて日常的な問題を扱っています。わたしたちは、日常生活のなかで、他者との協力ということを無数に行っています。多くは意識されることなく、互いの力を出し合って、また自らの欠点を補い合って、社会的協力関係を結んできています。ところが、いざそれ以上の協力を取り付けようとすると、なかなかうまくいかない、という問題が存在します。このように異なる者同士が社会で協力し合うには、表面的な相互の力だけでは成り立たちません。その裏で働いている潜在的な力を必要としています。社会全体のなかで活動する社会組織体がどのように組織化され、社会構造全体がどのように成り立っているのかを知ることが必要です。

## 授業の目標

この科目は、なぜ現代の社会組織が変化を遂げているのかを学ぶための講座です。近年、組織間の境界領域があいまいになってきています。このような状況のなかで、「社会経営」分野を学ぶ場合に対象となる「組織体変化」の認識が必須となってきています。そこで、社会組織個別の専門認識も必要ですが、それに加えて、組織体相互の間の関係についての全体認識も重要です。このような全体を見通す考え方を整理する必要があります。従来、個別の企業、政府組織、家族組織については、「企業論」「公共システム論」「家族社会学」などですでに取り上げられていますが、公私部門などの組織間の問題や組織の体制・秩序の問題については、既存科目ではあまり取り上げられていません。「社会組織の連関」を考えるという特色を生かした講義を目指しています。家族、企業、政府などの伝統的な社会組織体に関して組織論の見地から比較検討するだけでなく、近年急速に発達を見た、「社会ネットワーク論」「組織社会学」「中間組織論」などの知見を盛り込みながら、講義を進めます。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 社会組織とは何か | 社会組織とは、人びとの「社会的協力（social cooperation）」を結集する仕組みのことを意味している。組織における協力が結集されると、複数の人びとが集まるので、一人では出来ないような作業が可能になる。ここに、組織がネットワークを組んで、集団的な活動するのはなぜかという、根本的な理由が存在するといえる。個人が個々の楽器を演奏するだけでなく、オーケストラの一員としても活動するような集団効果について注目したい。<br>【キーワード】<br>社会的協力、組織、個人、社会、アノミー、不確実性、秩序、ルール、オーケストレーション効果 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 2 | 近代社会と公式組織 | 社会組織は、近代社会の動輪たる労働や資本や技術などをつなぎとめながら活動してきたが、この活動に当たっては「公式と非公式」というコインの表裏のような不思議な関係を必要としていた。近代社会特有の公式化という動きは企業組織においてばかりでなく、政府組織さらには市場組織においても、同じように図られてきた。この章では、このようなフォーマル化（公式化）という近代社会特有の動きがなぜ生じたのか、ということを考えてみたい。<br>【キーワード】<br>公式化、非公式組織、ルール、近代化、標準化、大規模組織、動機付け、科学技術、アソシエーション、コミュニティ | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 3 | 社会組織と個人化 | 近代になって、封建的な人間関係のネットワークから解放されると、個人は新たな問題を抱えるようになった。個人が従来の古い絆から自由になるという面と、同時に都市生活や国際的な関係のなかで、親密でない、より希薄なネットワークを形成するという面との両方の特性が含まれ、そのことが個人過程には作用する。この章では、このような個人化傾向と社会組織との関係について考えていく。<br>【キーワード】<br>個人化、ブーメラン効果、反省、アノミー的自殺、再帰的近代、第二の近代、軽い近代 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | エージェンシー化と組織 | エージェンシーあるいはエージェントは、組織で演じられる役割としては、常に二面性のあるものとして考えられてきた。二面のうち、一方では、本体から切り離されて、自由に活動を羽ばたかせるための「活動媒体」としての面があり、もう一方では、本体から切り離されたのち、その本体たる依頼人との関係を担う役割を持った「代理人」としての面である。この章では、なぜ組織のなかにエージェント、あるいはエージェンシーという考え方が表れるのかを見ていきたい。<br><br>【キーワード】<br>エージェンシー、組織人格、個人人格、能動性、代理性、依頼人、代理人、契約 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 5 | ヒエラルヒー組織と近代的支配 | 近代になって、人びとの協力は、きわめて大掛かりな制度的装置としての「市場」や「政府」が発達したために、いわば協力の「大量生産」が可能な状態になっていた。近代組織では、ルールを定め、それに則って組織化が進められるという「公式化」が進んだが、この過程でヒエラルヒー組織が必要とされた。この章では、このようなヒエラルヒー組織の生成について見ていくことにする。<br><br>【キーワード】<br>ヒエラルヒー組織、支配、服従、統制、集権、合法的支配、官僚制、専門性、分業、弱い権力 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 6 | 企業家機能と時間要素 | なぜ組織には、トップと呼ばれる者が存在するのか、という点である。ヒエラルヒーは空間配置の問題で、上下関係における協力を示していたのだが、じつはもうひとつ、時間配置の問題がここには同時に含まれていた。この章では、時間問題としての企業家機能という興味深い問題を考察してみたい。<br><br>【キーワード】<br>企業家機能、リーダーシップ、監督、不確実性、リスク、革新、新結合 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 7 | 近代組織と大規模経済 | 大量生産方式による工場体制は、製品生産という物的な生産においてはもちろんのことであるが、人びとの結合が大量に進む仕組みに関しても、ひとつの頂点を示すものであった。この章では、なぜこれほどの大量の協力関係を結集させることが可能になったのであろうかという点を考察することにある。<br><br>【キーワード】<br>規模の経済、範囲の経済、互換性、組立ライン、テーラー主義、大量生産、企業結合 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 8 | 近代組織の限界 | 18世紀に工場制が整備され、19世紀の後半から、企業組織においても大量生産方式が意識されるようになってきた。これに対して、経営組織のなかでも、大企業体制の発達の中で官僚制の弊害を危惧する批判が相継いで出されることになる。官僚主義化は、大企業ではとくに避けることのできないものであり、組織内のネットワークに深刻な影響を与えてきている。組織原理に絞って、近代組織の特性と限界について考えて行きたい。<br><br>【キーワード】<br>官僚主義化、労働意欲、ルーティン化、硬直性、セクショナリズム、柔軟性、バッファ効果 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 9 | 社会組織変容とマネジャー問題 | 企業組織は、現代の市場経済のもとでは、「営利性」に特化した組織としての特徴を持っている。それは、株式会社制度のもとにおいて、利害関係者の了解事項であった。ところが、実際には、企業組織の利害関係者はきわめて多様であり、組織の内外ではさまざまな利害が渦巻いている。組織原理に絞って、企業という組織の特性と限界について考えて行きたい。<br><br>【キーワード】<br>マネジャー、ミドル・マネジメント、トップ、ボトム、リエゾン機能、コンフィギュレーション | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 社会組織とあいまいさ | 目標を定め、手段を準備し、成果物の評価を行う、という、古典的で合理的な戦略モデルについては、さまざまな批判が提出されている。また、ウェーバーやテーラーなどの単一の視点による合理モデルにも欠陥があるとされる。この章においては、現代の社会組織に適合した「非合理」を含んだモデルを追求すべきとする考え方を検討する。<br>【キーワード】<br>合理性、あいまいさ、ゴミ箱理論、弱い連結、組織化 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 11 | 影響力と組織 | 人間社会には、影響力を行使して、縦社会の関係を形成する傾向が存在する。つまりは、人を動かすには、どのような方法があるのかということである。他者を「協力」に導くためには、単に交換や支配などの方式だけでは十分ではない。影響力などの潜在的な力を必要としている。どのようにしたら、影響力が生ずる可能性があるのか。この章で検討したい。<br>【キーワード】<br>影響力、権威、信頼、ハロー効果、期待 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 12 | フラット化と組織の革新 | 現代において組織を考える場合に、1つの焦点になっているがフラット化という現象である。1990年以降、現代社会の中でとりわけ顕著な特徴を持っている考え方である。人間の協力関係で横の繋がりが増大してきていることを表現している。この章では、このようなフラット化という現象は何かということを考えてみたい。<br>【キーワード】<br>フラット化、アウトソーシング、ダウンサイジング、分業、協業、柔軟性 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 13 | 家族的協力関係とプーリング | なぜ家族組織は生計をともにするのか、という普遍的な協力関係が、家計組織を中心に見ることができる。ここで、家計の外部と内部とでは、所得を分配する協力関係について、適用される方法に違いのあることが注目に値する。所得分配をめぐる協力関係について、この章では注目していきたい。<br>【キーワード】<br>プーリング、危険分散、凝集性、必要原則、労働スラック、家内性、互酬性、弱い絆 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 14 | 公式組織と非公式組織の境界問題 | 非公式組織とは、個人的な接触や相互作用の総合、および人びとの集団の連結を意味する。社会において、あるいは組織内において、このような非公式組織は社会や組織の統合機能を発揮し、潜在的な価値の安定化を図るために有効な部門として存在してきている。近代組織の中で、インフォーマル（非公式）部門とはどのような領域のことをいうのか、そしてなぜこのインフォーマル部門の問題が組織内の協力関係を要請するのかということをこの章で問題として取り上げたい。<br>【キーワード】<br>インフォーマル、ケア、配慮、世話、標準化 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |
| 15 | 社会的協力と組織 | 組織は協力を結集する作用であり、その仕組みである。社会組織が「組織化」されるためには、それに参加する個人の意欲や組織の目的が存在するだけではうまくいかない。個人の中で起こる「組織との葛藤」を調整したり、個人間の信頼性を確保する、ソーシャル・キャピタルのような社会的な潜在力が必要であり、時間をかけてこのような仕組みが醸成される必要がある。<br>【キーワード】<br>組織化、個人意欲、葛藤、ソーシャル・キャピタル、社会的潜在力 | 坂井素思（放送大学教授） | 坂井素思（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930589 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 行政裁量論 （’１１）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：原島　良成（熊本大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：筑紫　圭一（上智大学准教授）〕
【本学担当専任教員：來生　新（放送大学副学長）】

## 講義概要

行政裁量の法的コントロールは、行政法学の主要な理論的関心対象であると同時に、行政実務に携わる者、また過剰・過少な行政的規制に直面しその問題性を追及する者にとって、現実の関心事である。行政裁量論が関係する社会問題の裾野は広く、原子力発電や鉄道事業の認可といった大規模なものから、外国人に対する在留特別許可、産業廃棄物処分場の立地に関する住民運動等、およそ行政的規制の妥当性が問題とされるあらゆる場面に及ぶ。本科目は、そのような具体的関心と結びつけながら、行政法学が蓄積してきた基礎理論を提供し、主要な裁判例を解説し、国内外の最新の話題について分析を加える。

## 授業の目標

行政法理論を現実の社会問題に適用して、自ら思考する能力を養う。

## 履修上の留意点

法学一般に関して、大学教養課程で講じられる程度の基礎知識が求められる。また、行政法理論については、受講前に小型の入門書を読了していることが望ましい。藤田宙靖『行政法入門[第5版]』(有斐閣)が好適である。



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 行政法の基礎理論 | 行政活動を法的に統制する必要性から生まれた「行政法総論」の意義を確認する。「法」による統制ではなく「法律」による統制が行政法総論の基本原理とされていることの意味とその限界を探る中で、行政裁量論の目的と方法を明らかにしていく。<br>【キーワード】<br>法律による行政　法の支配　権力分立　行政裁量　適正な行政過程 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）<br>筑紫圭一（上智大学・准教授）<br>ゲスト：阪本昌成（立教大学・教授） |
| 2 | 行政裁量の概念 | 行政裁量とは何か。また、行政裁量はなぜ存在するのか。行政裁量の意義と存在理由を、具体例を挙げて説明する。<br>【キーワード】<br>専門技術的裁量、政治的裁量、地域的裁量、時の裁量 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 3 | 行政裁量に対する制約―行政裁量の有無を中心に | 行政裁量は、何を手がかりとして、どのような場合に認められるのか。行政裁量が「法律による行政」の原理の例外に当たるとすれば、どういった場合に「例外」を認めるかは、重要な問題である。①行政裁量の発見方法に関する学説の変遷を示した上で、②実際の紛争事例を取り上げ、行政裁量の有無が問題となる場面を具体的に分析する。<br>【キーワード】<br>公共の福祉、許可基準、要綱行政 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 行政処分と裁量 | 行政処分は、原則として、法律が提示する一定の基準のもとでなされるべきである。しかし、一般的、抽象的な書き振りの法律は、個別具体の案件に適用するに当たり、疑義が生じることがある。すなわち、法律の示すところを一義的に劃定できないことがある。結果として、行政がある枠内で自由に判断しているように見えることがある。それは本当に「自由」なのか。具体例を挙げて検証する。<br>【キーワード】<br>行政行為、自由裁量と羈束裁量 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 5 | 行政立法と裁量 | 法律の指示するところが曖昧である場合にも、行政処分は一定の基準の下で公平に行われなければならないことに、変わりはない。政令、省令といった行政立法のかたちで、法律の規範内容が充填されることは、時に、法律で明示的に予定されているところでもある。行政処分の場面と対比しながら、また国会の立法裁量との相違も意識しながら、行政立法裁量の特殊性を把握する。<br>【キーワード】<br>行政立法、裁量基準、立法裁量 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 6 | 行政計画と裁量 | 複雑かつ不確実な世界で公益を擁護する現代行政には、法律から行政立法が生まれ行政処分に到る、という、シンプルなモデルでは説明しきれない事象が多い。長期的な展望の下、規制、誘導に関する諸手法を組み合わせた計画としての法政策に対する需要が、行政国家化を後押ししている。そのような政策立案主体としての役割は、必然的に広範な裁量を要求する。<br>【キーワード】<br>行政計画、パブリック・インヴォルヴメント | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授）<br>ゲスト：川合敏樹（國學院大學・専任講師） |
| 7 | 行政指導と裁量 | 行政活動を法行為のみで語りつくすことは、到底できない。法的効果を伴わない「事実行為」に対する行政法学の対応は、比較的簡素なものであったが、今日では、行政指導の適法性を中心に裁判例の充実が見られる。行政処分、行政立法における裁量との関連で、行政指導の実際を眺め、その限界を考察する。<br>【キーワード】<br>行政指導、法行為と事実行為 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 8 | 行政裁量概念の再検討（講義前半のまとめ） | 行政過程を法律家の問題意識をもって眺めるということは、行政裁量の現象を学びその適正なあり方を構想することにほかならない。行政には、機械的な法律の執行を超えて、公共の福祉を擁護し増進させるという、実に「裁量的」な振る舞いが求められている。行政を縛るはずの法は、そのことをどのように受け止めているか。これまでに見た具体例を整理し、行政裁量概念を再確認する。<br>【キーワード】<br>行政過程論　行政の行為形式 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 9 | 行政裁量統制の仕組み | 行政裁量がどこまで認められているのか。これは行政現場で法を執行する職員にとっての切実な関心事であるが、行政裁量の影響を受ける市民の視点からすると、行政裁量をどのように統制し、恣意的専断的な行政にいかに歯止めをかけるか、ということに、関心が向けられる。そのための手続について、法整備と裁判例蓄積の経緯を踏まえながら、概説する。<br>【キーワード】<br>行政手続法、行政不服審査法、行政事件訴訟法 | 原島良成（熊本大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 行政立法の司法審査 | 従来、行政立法の適法性を訴訟で争う機会は、限定されていた。しかし2004年の改正行政事件訴訟法は、公法上の当事者訴訟として確認訴訟を明記し、行政立法を争う途を拡大したものと期待されている。こうした動向と今後の展望について論じるとともに、行政立法の裁量論を深化させる必要性について述べる。<br>【キーワード】<br>白紙委任禁止原則　委任範囲の逸脱　適用前審査　確認訴訟と確認の利益 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授）<br>ゲスト：野口貴公美（中央大学・教授） |
| 11 | 行政立法の手続的統制 | 行政手続は、行政機関が裁量を行使する過程に影響を及ぼし、慎重な考慮を確保して恣意的な権限行使を防止したり、国民の意見を反映した合理的な意思決定を促進したりする。2005年に行政手続法の改正で実定法化されたパブリック・コメント手続（行政手続法第6章38-45条）は、行政立法の制定過程に影響を与える、一つの重要な裁量統制手段である。<br>【キーワード】<br>パブリック・コメント（意見公募手続）　命令等　恣意抑制機能　争訟便宜機能　市民の参加権　手続的瑕疵 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 12 | 行政立法の議会統制と行政内部統制 | 行政立法に対しては、司法的統制以外にも、様々な統制が及ぶ。たとえば国会は、法律の制定改廃や各種手続の整備を通じ、行政立法の制定に関与している。また行政内部においても、様々な調整活動が行われており、個々の行政立法もその影響を受けている。ここでは、①国会の統制と行政内部の統制について整理した上で、②今後の展望について若干の検討を加える。<br>【キーワード】<br>法律の規律密度　国会の事後承認手続　行政の内部統制 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 13 | アメリカにおける行政立法の司法審査 | 行政立法の司法審査は、他国でも重要な問題である。米国では、行政立法の適用前審査を早くから認め、厳格な統制を加えてきた。日本と事情が異なる外国の例を学ぶことは、日本行政法の特徴を把握することに役立つであろう。<br>【キーワード】<br>APA（連邦行政手続法）　略式規則制定手続　審査基準（審査密度）　行政記録 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授）<br>ゲスト：古城誠（上智大学・教授） |
| 14 | 行政立法統制の課題（講義後半のまとめ） | 行政立法に対する司法審査は、どうあるべきか。第10回から第13回の授業内容を踏まえつつ、今後の課題について論じる。<br>【キーワード】<br>厳格な裁量審査の是非　行政過程の機能不全（硬直化） | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |
| 15 | 行政裁量論の展望 | これまでの講義内容を総括し、行政裁量を論じる上で必要な視点を整理する。<br>【キーワード】<br>無瑕疵裁量行使義務　説明責任 | 筑紫圭一（上智大学・准教授） | 原島良成（熊本大学・准教授）筑紫圭一（上智大学・准教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930597 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　２０世紀中国政治史研究　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：西村成雄（放送大学教授）　　〕

## 講義概要

21世紀に入り、内外ともに政治経済的存在感を高めている中国について、20世紀史的な歴史的視点と現状認識的視点を基軸とし、政治的正統性の磨滅流出過程と新たな正統性構築過程の交錯する局面を分析する。さらに、その制度的基盤との関係性のなかで、政治的正統性の中国的特質を再定義し、今後の政治的変容の諸条件を解明する。

## 授業の目標

アジアの中の日本が、中国という政治的存在をどのように認識してきたのかを含め、100年中国の政治史を一望のもとに俯瞰しうる論理を提起したい。第一に、政治的支配の正統性問題からみた100年中国の変容過程と、第二に、正統性の対外的資源としての国際的地位の変容過程をあきらかにしたい。

## 履修上の留意点

政治学、国際関係論および世界の地域研究に関連する講義の受講を期待する。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 20世紀中国の政治空間<br>―その国民国家形成と正統性原理― | 21世紀に入り、内外ともにその政治経済的存在感を高めている中国について、20世紀史的な歴史的視点と現状認識的視点という複眼的視野のなかに位置づけなおし、現代中国の再認識を試みたい。それは、近代国民国家体制の生成と展開過程、さらに変動過程を、国家の政治的支配の正統性原理と制度化がどのように社会の側に受容され抵抗を受けたのかという分析課題にほかならない。つまり、対内的正統性の磨滅流出、あるいは社会内部からどのように新たな正統性が構築されたのかという政治史としての諸局面をあきらかにしたい。とともに、そうした政治体制変動に影響を与えた国際的条件と対外的正統性の内部化過程についても視野に入れて、20世紀中国政治をとらえなおすことにある。<br><br>【キーワード】<br>国家と社会の政治空間、正統性(legitimacy)、近代国民国家形成、立憲共和制、政党国家(党国)体制、歴史的経路依存、25年周期説、国際的条件 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 2 | 長い20世紀のはじまり<br>―国際的条約の内部化と清朝正統性の再調達― | 中国世界が世界の中の中国へと移行する中で、1895年の日清戦争の敗北は清朝中枢権力の構造的変容をもたらした。1898年の戊戌変法は長い20世紀の起点であった。清朝は20世紀初頭の10年をかけて、その政治的支配の正統性を再編し、1907年には立憲主義の導入にふみきった。資政院という国会も開設したが、その正統性はもはや社会に受容されないほどの政治的矛盾のなかにあった。立憲君主制導入の歴史的意味をとらえなおしたい。<br><br>【キーワード】<br>日清戦争、戊戌変法、義和団運動、辛丑和約、新政・憲政、欽定憲法大綱 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 立憲共和制の国家正統性 —中華民国北京政府の政治変動— | 清朝の支配の正統性は、1911年武昌起義のなかで崩壊した。あらたな政治的正統性を提起したのは孫文を中心とする革命派であり、1912年1月南京に中華民国を樹立し、2月には清朝皇帝を退位させた。ここにアジアで最初の立憲共和制国家の誕生があり、1913年には議会が開設された。その後1925年頃までは総統制、議会制、さらに北京政府の対外的対内的正統性が承認されていた。<br><br>【キーワード】<br>辛亥革命、中華民国臨時政府、孫文、袁世凱、1913年国会、袁世凱帝制、議会制、「護法政府」、連省自治、「軍閥混戦」、1923年「中華民国憲法」、曹錕、北伐戦争 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 4 | 中華民国再生への道 —新たな国家・政府正統性構築— | 袁世凱死後の北京政府の正統性を否認して、孫文らは1917年広州に中華民国臨時約法の回復を主張する政府を樹立した。中国国民党による国民政府樹立の1928年までの約10年間は、政府レベルの正統性は事実上の分裂状態となった。1924年国共合作のもとで北京政府打倒をめざし、その後広州、武漢、南京の国民政府が組織され、1926年には対外的にもその正統性を獲得した。<br><br>【キーワード】<br>国共合作、北伐戦争、広州・武漢・南京国民政府、農民運動、蒋介石、4・12中国共産党弾圧事件、張作霖北京政府 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 5 | 中華民国「党国体制」の正統性—政治統合ともう一つの「党国体制」— | 1928年10月、国民党は「訓政綱領」を決議し、国民党訓政下の中華民国国民政府の樹立を明確にした。国民党が政府と一体化するという「党国体制（政党国家ともいう）」の政治的経路が創出された。その実施過程には中国共産党鎮圧作戦も含め曲折があったが、蒋介石への権力集中がすすみ、「南京の10年」といわれる国家建設と国民統合政策が展開した。この間、1931年満満洲事変後の民族的抵抗は中国政治のあらたな正統性根拠となった。他方、中国共産党は1931年中華ソビエト共和国を樹立し、中華民国と対抗した。<br><br>【キーワード】<br>訓政綱領、中華民国訓政時期約法、党国体制、「囲剿」、満洲事変、国際連盟、「南京の10年」、中華ソビエト共和国 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 6 | 「党国体制」下の憲政移行プログラム —「五五憲法草案」と西安事件— | 1928年10月の中国国民党「訓政綱領」と31年6月の国民会議制定になる「訓政時期約法」は、中華民国憲法に準じる根本法の制定であった。それらは、国民の政治的代表をア・プリオリに中国国民党を等置した「政党国家体制＝党国体制」を法的に確認したものであった。訓政時期約法は「人民」自身が主権を行使しえない「党治」（訓政論）として規定された。中国国民党を「国民代表」として擬制することによってその支配の正統性を確保しようとした。しかし、約法そのものが、「憲政への準備段階」にあることを明文化していたこともあって、1932年12月には立法院院長孫科を責任者とする「憲法起草委員会」が国民政府内に組織され、1936年5月5日に「憲法草案」が公布された。これは、憲政運動のひとつの到達点であった。「憲法草案」第4条の領土規程に、東北四省の回復を明記したことは「西安事件」の契機でもあった。<br><br>【キーワード】<br>憲法起草委員会、孫科、憲政運動、「五五憲草」、国民大会代表選挙、西安事件、張学良 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 7 | 日中戦争と国民政府正統性のゆらぎ —「国民参政会」の新経路— | 日中戦争が本格化したもとで、国民政府を指導する国民党にとって、全民族的抵抗をどう組織するかが重要な政治的課題となった。1937年には第二次国共合作を実現した。1938年設置された国民参政会は、中国共産党などの党派も参加しうる事実上の政治的なプラットフォームとして機能した。と同時に、国民参政会は、国民党訓政そのものの基盤をゆるがし、連合政府樹立プランすら提起され、これが新たな中国政治の正統性の創出につながった。<br><br>【キーワード】<br>第二次国共合作、国民参政会、1944年連合政府論 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 戦後中国における二つの正統性の相克<br>―その政治的帰趨― | 第二次世界大戦の終結とともに、中国政治空間には「三国五方関係」という構造が生まれた。アメリカ、中華民国、ソ連の三ヵ国と、中華民国内の中国国民党、中国共産党、第三政治勢力という三方関係がアメリカやソ連と関係する五方関係の政治的対立が明確となった。この政治的構図は、1945年10月の重慶会談、46年1月の政治協商会議を経た多党派による聯合政府論と、46年11月国民党による訓政下の国民大会開催によって、明瞭に対立する二つの正統性として示された。国共内戦の軍事的帰趨は、中共軍の48年11月の東北解放を契機に、中国共産党指導下の、新国家建設のための新政治協商会議路線が推進され、中華民国とは異なる新たな国家・政府正統性を獲得することになった。<br>【キーワード】<br>ヤルタ会談、ポツダム会談、重慶会議、政治協商会議、憲法制定（制憲）国民大会、中華民国憲法、三大戦役、新政治協商会議 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 9 | 中華人民共和国の国家正統性構築 ―「冷戦」から「中ソ対立」への17年― | ソ連社会主義圏の一員として参入した中華人民共和国は、朝鮮戦争への動員を通じて、社会主義圏内および国内的にその政治的正統性を確立した。1957年以降、スターリン死後のソ連とは異なる社会主義への道を主張し中ソ対立にまですすんだ。この間の社会主義的経済建設によって国有経済の優位するシステムの構築と、政治権力の中国共産党への集中をはかった。建国当初の民主党派を含んだヘゲモニー政党制から事実上の一党制へと転換した。さらに政治的に毛沢東個人の優越的地位を認める段階へと移行した。<br>【キーワード】<br>中華人民共和国、朝鮮戦争、54年憲法、社会主義的改造、中共八全大会、大躍進、人民公社、中ソ対立 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 10 | 「文化大革命」の正統性資源とその崩壊 ―毛沢東政治の臨界点― | 1966年にはじまる「プロレタリアート文化大革命」は、党というより毛沢東個人への忠誠を前提とした一元的政治支配体制に移行し、政治経済的、さらには社会的混乱を生みだした。国際的にはソ連に対抗する必要性のなかで、1972年には対米国交回復へ転換した。その前年、中華民国に替わって国際連合の常任理事国として国際社会に復帰した。しかし、毛沢東の国内政治は、その極限にまでゆきつくなかで、毛沢東派と、中共党組織の回復をはかる現実主義的政治勢力の対抗を生みだした。76年9月毛沢東の死を契機に、その個人に集中した政治支配の正統性は崩壊し、現実主義的な党の担い手が復活し、新たな支配の正統性を再調達することになった。<br>【キーワード】<br>プロレタリアート文化大革命、紅衛兵、革命委員会、林彪事件、国連議席回復、中米・中日国交回復、四人組、周恩来、鄧小平、毛沢東の死、三中全会 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |
| 11 | ポスト毛沢東・鄧小平時代の幕開け ―華国鋒からの実権奪取と改革・開放路線のスタート― | 毛沢東後の最高指導者に就いた華国鋒だが、毛沢東を絶対化し、固守することで、政権掌握の正統性の根拠としたが、自ずと限界があった。逆に毛沢東を否定することで、台頭したのが鄧小平だった。軍権を掌握し、「2つのすべて」を論破したことで、鄧小平は1978年の11期3中全会で実権を奪取した。そして後に高度経済成長へとつながる改革・開放路線がスタートした。鄧小平は、「4つの基本原則」を提唱し、「党と国家の指導制度の改革について」で政治制度改革の方針を明らかにした。この2つは、その後の党の指導の基礎をなすものとなった。<br>【キーワード】<br>「2つのすべて」、「真理の基準」論争、名誉回復、11期3中全会、改革・開放、4つの基本原則、「党と国家の指導制度の改革について」「歴史決議」 | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 改革・開放の進展と六四天安門事件 —鄧・胡・趙のトロイカ体制と長老の抵抗— | 改革・開放が進展し、市場か計画かのイデオロギー対立が生起すると、改革派は胡耀邦や趙紫陽らの推進派と長老らの慎重派に分かれた。そして社会からの民主化要求がおこると、改革派内の分裂に党の指導の是非をめぐる対立が反映され、政治闘争にエスカレートした。それはさらにポスト鄧小平をめぐる権力闘争へと転化したのが、1986～1987年のブルジョア自由化反対闘争と1989年の六四天安門事件であり、胡耀邦と趙紫陽が失脚の憂き目を見たのである。<br>【キーワード】<br>ブルジョア自由化反対、精神汚染一掃、政治体制改革、六四天安門事件 | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） |
| 13 | 六四天安門事件の後遺症と市場経済化の進展 —鄧小平時代の終焉— | 六四天安門事件後、趙紫陽を失脚させた慎重派の攻勢が続き、さらに国際的な対中制裁も加わり、改革・開放は一時的にストップした。鄧小平は1992年初頭の南巡講話を機に流れを改革・開放の加速に転じた。総書記就任当初はリーダーシップにかけた江沢民だったが、第14回党大会で社会主義市場経済を掲げ、改革路線の継承を宣言し、最高指導者としての権威の確立に邁進した。そして1997年2月、鄧小平が死亡し、改革・開放を突き進んだ鄧小平時代は終焉を迎えた。<br>【キーワード】<br>平和的転化、南巡講話、社会主義市場経済、中央の権威、軟着陸、国有企業改革、WTO加盟、鄧小平理論 | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） |
| 14 | 新たな一党支配の正統性の模索 —江沢民「三つの代表」と胡錦濤「調和社会」— | 新たな最高指導者、江沢民と胡錦濤は、市場経済化、グローバリゼーション、社会階層の変化に対応した新たな一党支配の正統性の模索を迫られた。江沢民は「3つの代表」重要思想を提示し、階級政党から国民政党への転換を打ち出したかに見えたが、政権安定のために台頭する私営企業家の共産党への取り込みを図り、エリート政党色を強めた。胡錦濤は「調和社会」の構築を掲げ、社会の不安定要素となっている格差の縮小を政権の至上命題としている。この弱者重視の「調和社会」の実現が共産党の新たな一党支配の正統性になりうる可能性を有している。<br>【キーワード】<br>三大改革、三つの代表、格差、調和社会、科学的発展観、党内民主、エリート、非エリート | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） | 佐々木智弘（日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員） |
| 15 | 21世紀中国における政治的正統性変容の諸条件 | 2001年12月のWTO加盟承認が、鄧小平政治の経済的配当として国際的に振り込まれたとすれば、それは20世紀、100年中国の政治的帰結点でもあった。第4四半世紀段階の中国政治空間は、経済的中間層の生成と蓄積を社会的基盤として、新たな政治的正統性を制度化する可能性を内在させている。と同時に、この間の経済的格差の増大に象徴される社会的経済的矛盾の激化が、どのような新たな政治的課題を生みだしているのかに注目したい。もちろん、政治共同体内の民族問題や台湾との関係が国際問題化する条件もあり、それらを含めた総合的かつ内在的中国理解が必要となっている。<br>【キーワード】<br>中華人民共和国の歴史的位置、政治的正統性の変容、「党政関係」、WTO加盟 | 西村成雄（放送大学教授） | 西村成雄（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | 平成20年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930392 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 大学のマネジメント （’０８）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：山本 眞一 （桜美林大学大学院教授） 〕

〔主任講師（現職名）：田中 義郎 （桜美林大学大学院教授） 〕

講義概要

近年、大学を巡る諸環境は大きく変化し、とくに18歳人口の減少は私学経営に大きな影を投げかけ、また国公立大学においては法人化後の大学運営に格段の工夫が求められている。さらに雇用構造の変化や科学技術の高度化、大学マーケットのグローバル化などに対応するためには、従来の大学事務処理を遥かに超えるマネジメントの革新が求められている。本科目では、これらの変化に対応するための知識や考え方を、大学事務職員を始めとする関係者に身に付けさせることを目的とする。

授業の目標

受講者が現職の大学職員あるいは管理職にある教員であることが多いとの前提の下、できる限り実践的かつ実際的な教育内容を提供するよう努める。このことにより、受講者に広く大学マネジメントに関する知識を提供するとともに、彼らが現実に直面している大学マネジメントの諸課題を適切に解決するための問題設定、解決に至るための複数の代替案の策定、採用すべき解決案の決定、実際のマネジメントへの応用など、幅広い実践力を身につけさせるようにする。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 大学を巡る環境変化 | 今、わが国では、18歳人口の減少や国際化、知識基盤社会の到来などの社会変化の中で、大学を巡る諸環境は大きく変化してきている。その変化が大学にどのような影響を及ぼすか、とりわけ大学経営にとってどのような意味を持つのかを考察する。<br>【キーワード】<br>18歳人口減少、国際化、外国大学との競争、知識基盤社会、大学教育の大衆化、科学技術、競争的環境の進展、国立大学の法人化 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 2 | 大学という組織の特性 | 大学は、教育・研究を任務とする教員という専門職を多数抱えている組織である。彼らの活動の活性化を図り、かつ大学が社会に説明責任(アカウンタビリティー)を果たすには、どのようにすればよいのか、大学という組織の特性および経営体としてのあり方を念頭に論じる。<br>【キーワード】<br>高等教育、学術研究、学問の自由、大学の自治、アカウンタビリティー、教授職、政府と大学、学校法人、国立大学の法人化、市場、意思決定 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 3 | 大学事務職員の現状と能力開発の必要性 | 近年、大学経営を支える事務職員の役割に関心が高まっている。これまでのアンケート調査等から見た彼らの現状を紹介するとともに、これからの大学経営とって重要な職員の能力開発について論じる。<br>【キーワード】<br>事務職員、大学の意思決定、教授会、大学経営、職員の役割、職員の能力開発、学長のリーダーシップ、国立大学の法人化 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 4 | 外国の大学マネジメント(アメリカ) | 大学のマネジメントをより効果的にするには、外国の大学事例にヒントを求めることも意味がある。ここではアメリカ大学のマネジメント事例を取り上げ、組織化、意思決定、管理運営の方策など大学経営の諸側面について論じる。<br>【キーワード】<br>CEO学長、エグゼクティブズ、理事会、職務記述書、大学経営、大学組織、多様性、競争的環境、アドミニストレーター、ファンドレイジング、大学の大道具 | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 外国の大学マネジメント（イギリス、そしてヨーロッパ高等教育圏） | ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパにおける雇用可能性と移動性を高め、高等教育の競争力を強化するために、ヨーロッパ高等教育圏を模索している。ここでは、イギリスの大学、特にオックスフォードの昨今の経営改革を事例に上げつつ、ボローニャ・プロセスへの参加によって期待される大学の活性化について論じる。<br>【キーワード】<br>オックスフォード大学、ボローニャ・プロセス、経営組織改革、競争的環境、雇用可能性、移動性、学位の互換性、学部・大学院構造、ヨーロッパ高等教育圏 | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） |
| 6 | 大学広報・学生募集戦略 | 競争的環境が進む中で、大学経営にとって重要なことは、大学の認知度を高め、優秀で意欲ある学生を多数集めることである。ここでは、1980年代にアメリカの大学で広まったマーケティングとエンロールメント・マネジメントの手法の導入とその後、そして今日的課題について、我が国の大学事情に照らして論じる。<br>【キーワード】<br>学生募集、大学広報、戦略的思考、個性的大学、競争的環境、多様性、優秀性、大学教育のユニバーサル化、マーケティング、エンロールメント・マネジメント、大学のブランディング | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） |
| 7 | 国公立大学の人事・労務・財務 | 国公立大学の人事・労務および財務は、これまで公務員制度や国の予算決算システムの制約下にあったが、法人化を機にそれぞれの大学の自主自律に基づく判断と業務の効率的実施が求められるようになった。その新しい制度の枠組みとその実際の運用を解説する。<br>【キーワード】<br>公務員法制、労働法制、公的規制と大学の特性、教職員人事、運営費交付金、中期計画、経営の効率化 | 工藤敏夫（木更津工業高等専門学校長） | 工藤敏夫（木更津工業高等専門学校長） |
| 8 | 私立大学の人事・労務・財務 | 前回取り上げた国立大学に続いて、私立大学について、その経営にとって欠かせない人事・労務・財務の知識とその運用の実際を、専門的・実務的立場から眺め、実務者として必要な知識やノウハウについて教授する。<br>【キーワード】<br>労働法制、学校法人会計、教員人事、職員人事、私学経常費補助、運営費交付金、企業会計、経理事務、資金運用、募金戦略、監査 | 井原 徹（実践女子学園理事長・前早稲田大学理事） | 井原 徹（実践女子学園理事長・前早稲田大学理事） |
| 9 | 大学の教務・学生サービス | 近年の大学教育を巡る環境変化の中で、大学教育の質的向上や学生支援の充実がますます重要性を増している。ここでは、大学経営の根幹である教務および学生サービス・プロフェッションについて、その現状と今後のあり方を論じる。<br>【キーワード】<br>教育活動支援、アカウンタビリティー、成績管理、履修管理、カリキュラム管理、研究活動支援、学修指導、学生生活支援、職務記述書、大学の小道具、教育者マインド、大学教育のユニバーサル化、プロフェッショナル化 | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） |
| 10 | 大学の研究管理 | 科学技術の振興が重要な国家戦略となる中、大学における研究活動の役割に注目が集まるようになってきた。産業界との連携、知財関係なども含めて、効率的な研究管理のあり方について実態を踏まえて考える。<br>【キーワード】<br>研究資金、大学院、研究室運営、インキュベータ、知財法制、研究マネジメント、産業界との連携、イノベーション | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 評価と大学経営 | 認証評価の制度化に伴い、大学教育の質保証が求められている。また、資源確保のためにはさまざまな評価を経なければならない。このようにさまざまな評価が始まった今日の大学環境の中で、これにどう対処すればよいのかを論じる。<br><br>【キーワード】<br>大学評価、認証評価、質保証、学位の国際的通用性、国立大学法人、専門職大学院 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 12 | 大学の危機管理 | 大学マネジメントにとって危機管理のノウハウは必要不可欠である。各種の不祥事、教育・研究上の事件・事故、また長期的には財務上の問題など、大学経営を脅かす各種の要因を如何に軽減し、解決するかについて論じる。<br><br>【キーワード】<br>理事長・学長のリーダーシップ、迅速な意思決定、管理運営組織、広報、危機管理のノウハウ、問題認識 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 13 | 大学改革の実際（国公立大学） | 近年、法人化に伴いその変化の著しい国公立大学について、その改革の実際を関係者へのインタビューなども交えて紹介し、またその改革の背景や今後の課題について、さまざまな観点から分析しつつ受講者に紹介する。<br><br>【キーワード】<br>法人化、中期目標・計画、運営費交付金、外部資金、経営マインド、学長のリーダーシップ、社会貢献 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |
| 14 | 大学改革の実際（私立大学） | 18歳人口の減少に伴う学生マーケットの縮小、大学教育のユニバーサル化とそれに伴う質の維持の要請など、私立大学を巡る環境は大きく変化している。ここでは、優れて、固有と思われる教育改革の事例を私立大学に求め、担当者へのインタビューなども交えて紹介し、その背景や今後の課題について論じる。<br><br>【キーワード】<br>18歳人口の減少、大学教育のユニバーサル化、全入時代、教育接続、教育プログラム、GPグッドプラクティス、リーダーシップ、競争的環境、個性が輝く大学、教育改革 | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） | 田中義郎（桜美林大学大学院教授） |
| 15 | 21世紀知識社会と大学のマネジメント | これからの知識社会において大学は、知識の生産（研究）・伝達（教育）・活用（社会貢献）において大きな役割が期待されている。経営環境の変化の中で先行き不透明な側面があるが、これらの側面を克服しつつ役割を果たすべき大学の将来とそのマネジメントについて論じる。<br><br>【キーワード】<br>知識社会、生涯学習、雇用環境、科学技術、グローバル社会 | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） | 山本眞一（桜美林大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930570 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　地域の発展と産業　　（’１１）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：河合明宣（放送大学教授）　　〕

## 講義概要

私たちの生活や生産活動にとっての地域の役割が重要度を増している。これは、グローバル化の中で大きな影響を被った個々の生活及び生産活動の見直し、建て直しを図ることが主要な背景の一つとなっている。地域経営、地域産業、内発的発展、発展途上国における参加型農村開発等に関する先行研究の論点の整理を通して、地域の形成に関わるアクター（担い手）に注目し、持続可能な開発が求められる21世紀における地域像を考察する。

## 授業の目標

地域に関わる研究は、幾つかの流れがある。デシプリン(方法論)の違いに分けて先行研究をサーベイする。地域は、地球、国際、世界さらに国家や経済、産業、社会等のように広大で抽象度が高く、見えない存在ではない。関心と方法を持てば、地域を把握しうる。地域は、私たちが一員として生活し、地域のあり方を決める決定に参加しうる身近な単位である。紹介する幾つかの事例から、地域にどのように関わるかについても学んで欲しい。

## 履修上の留意点

学部科目の「アグリビジネスの新たな展開（’10）」や「NPOマネジメント（’11）」等を復習することが望ましい。



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 地域研究とは | わが国における地域研究は、戦後復興を経て1960年代にアジア経済研究所や国立大学に新設された研究所等で始まった。こうした地域研究の背景、その後の成果、提起された課題等をサーベイする。<br>【キーワード】<br>地域研究、日本の地域研究、地域研究対象 | 河合明宣（放送大学・教授） | 河合明宣（放送大学・教授） |
| 2 | 地域の研究・地域の再生 | 戦後日本の地域研究は、外交や通商政策上の必要性から推進された側面を持っている。一方、こうした戦後地域研究の広がりと深まりから地理学、歴史学、水利学、農学等を基礎に発展途上国への国際協力研究に一定の蓄積が見られた。こうした研究動向を踏まえて本科目構成を概説する。<br>【キーワード】<br>共同問題、地域研究、地域社会 | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 3 | 日本における地域史研究と「地元学」の展開 | 1970年代以降、県史、次いで町村史刊行事業と資料収集及び文書館創設という行政主導の地域研究が展開した。他方で、水俣の反公害闘争や過疎の農村地域再生という切実な課題解決を指向する「地元学」や「地域学」等が各地から生まれている。1990年代には、市町村レベルで郷土資料館等、地域をよく知るための場が生み出されるようになる。この動向を見る。<br>【キーワード】<br>地方史編纂、郷土資料館、地元学、地域文化 | 河合明宣 | 河合明宣 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 内発的発展論と環境論 | 海外を対象とした地域研究の進展と、並行する形で国内では東北学等を先駆して「地域学」や「地元学」が提唱されてきた。内発的発展論は、海外と国内の地域研究において注目される。鶴見和子による内発的発展論の主要な課題を整理する。<br>【キーワード】<br>地域、内発的発展論、漂泊定住、地方自治 | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 5 | 地域発展の方法論とその応用 | 地域の経済発展をどう捉えるべきか。発展・変化の観点から地域の把握、何を基準にした発展の目標であるのか。発展を担う主体をどう把握するか。地域経済論の方法論を述べる。<br>【キーワード】<br>地域経済創生の自治、新しい自治、地域本体形成の自治、農業の六次産業化、新しい農の価値 | 小倉行雄（放送大学・教授） | 小倉行雄（放送大学・教授） |
| 6 | 自治体の実践からの検証 | 地域発展計画策定に関わった国内の事例を基に、具体的に、論述する。経済構造の相違、国、地方行政の施策、担い手等における相違に注目する。また、その成果の評価法にも言及する。<br>【キーワード】<br>地域経済の基盤づくり、行政における事業部的組織、新しいまちの創生 | 小倉行雄 | 小倉行雄 |
| 7 | 地域研究の方法論：地理学 | 地域の把握において空間的広がりを地形図上に描くことが基本になる。地理学は、気候、植生、土壌、産業、都市・農村、民族、政治等の分布を空間として捉えるのみならず、空間的相違の構造、時間的変化の把握においても研究を積みあげている。地理学による地域研究について述べる。<br>【キーワード】<br>地域の把握、重層的な空間の把握、歴史的変化の把握 | 月原敏博（福井大学教育地域科学部・教授） | 月原敏博（福井大学教育地域科学部・教授） |
| 8 | マングローブ林の地域生態史 | 森林は人間に様々な物資を提供している。また多くの野生生物の生息地でもある。地域レベルでの森林利用と地球規模での森林の重要性について森林生態学の研究を概説する。今日における森林の減少と保全の問題にも触れる。<br>【キーワード】<br>熱帯雨林、里地・里山、生態史、マングローブ林、エビ養殖、生物資源利用、地域の履歴 | 竹田晋也（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授） | 竹田晋也（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授） |
| 9 | 地域研究の方法 | 日本を含めアジアモンスーン気候下では、稲作を中心にした家族農業によって多くの人口が支えれれている。稲作及び畑作、さらに家畜や森林の利用、漁業との結びつき方等から多様な生業と土地利用、集落景観が広がる。農学の観点からの地域の把握方法を学ぶ。地域のまとまり（固有性）と外部世界との関係に注目した「在地性」が重視される。<br>【キーワード】<br>公益型環境問題、実践型地域研究、社会的ソフトウェア、当事者性 | 安藤和雄（京都大学東南アジア研究所・准教授） | 安藤和雄（京都大学東南アジア研究所・准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 農村研究の視点－在地の絶対肯定－ | 内発的発展論と関連させて、「在地」論を述べる。農村地域における「在地性」が地域の発展にいかなる意義を有するかに注目する。<br><br>【キーワード】<br>絶対肯定の哲学、在地の自覚、過疎と離農、宮本常一 | 安藤和雄 | 安藤和雄 |
| 11 | 地域研究の方法論:歴史学 | 地域研究における歴史的把握の意義を述べる。土地や災害、環境等について歴史的記述は可能である。ここでは、地域が継承している制度として集落、最も住民に近い地方行政(基礎的単位)について、バングラデシュを事例として説明する。<br><br>【キーワード】<br>ユニオン、集落形成史、集落組織、バングラデシュ | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 12 | 地方行政・地方自治体 | 基礎的単位としてのユニオンの歴史的変遷を軸に、郡―県―国に編成される中央―地方関係を論ずる。<br><br>【キーワード】<br>バングラデシュのユニオン、住民参加型農村開発、リンクモデル | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 13 | 開発の理念 | ブータンが国際社会に登場した1960年代から2008年成文憲法発布、総選挙実施による地方議会(県/郡二議会)制導入にいたる半世紀を概観する。国家統治体制整備と住民参加による地方自治が段階的、並行的に進行した経緯を述べる。環境保全重視の発展理念と政策決定におけるリーダーシップに注目する。<br><br>【キーワード】<br>国民総幸福(GNH:Gross National Happiness)、地方議会、ブータン | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 14 | 地域発展の基礎単位 | 国家レベルでの資源配分は様々な配慮を経て、地方に渡る。地方で得た資源と中央から配分された資源の利用は地域の発展計画に基づいてなされる。環境や貧困等のグローバルな課題を含め、住民参加型政策決定のあり方を考える。<br><br>【キーワード】<br>経済発展計画、キャパシティ・ディベロップメント、基礎的自治体 | 河合明宣 | 河合明宣 |
| 15 | 地域産業論 | 現代において生活するために必要な活動は産業である。地域における産業のあり方は、生活の質、生活し消費する住民の満足感に影響を与える。この点に関連させて地域の持続性を論ずる。<br><br>【キーワード】<br>日本の発展、アジアの発展、持続的発展、学習する社会 | 河合明宣 | 河合明宣 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930627 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　産業立地と地域経済　　（’１２）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：松原　宏（東京大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：原田　順子（放送大学准教授）】

講義概要

産業立地と地域経済に関する基礎理論を解説するとともに、現代の産業立地と地域経済の特徴を整理し、新たな検討課題を考える。講義の前半では、農業、工業、商業・サービス業の順で産業立地論の基礎理論と現代的な立地への応用、地域経済や地域経済循環の捉え方について、事例をあげながら検討する。後半では、グローバリゼーションとローカリゼーションの局面に分けて、それぞれ産業立地や産業集積の特徴、地域経済への影響を論じ、最後に立地政策と地域政策の理論・歴史・課題を検討する。

授業の目標

産業立地の基礎理論である古典的立地論と、経済地理学による地域経済や地域経済循環の捉え方を修得する。その上で、最近の産業立地や地域経済の実態を取りあげ、それらの理解を深めるとともに、政策的課題を構想し、政策を立案する力を養成する。

履修上の留意点

特になし

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 産業立地と地域経済の課題 | 科目全体の導入回として、産業立地と地域経済の課題について、論点を提示するとともに、科目の到達点の提示を行う。同時に、科目の構成と授業の進め方を示しておく。<br><br>【キーワード】<br>地域問題、地域間格差、地域の自立、地域の競争力 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 2 | 農業立地の基礎理論 | 農業立地の基礎理論として、チューネンの農業立地論の内容を紹介する。あわせて、現代農業の立地に関する新たな観点を整理し、農業立地論の今後の課題を提示する。<br><br>【キーワード】<br>チューネン圏、距離、輸送費、地代、複数市場、農産物自由化、産直、食の安全性、フードシステム | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 3 | 工業立地の基礎理論 | 工業立地の基礎理論として、ウェーバーの工業立地論の内容を紹介する。あわせて、現代工業の立地に関する新たな観点を整理し、工業立地論の今後の課題を提示する。<br><br>【キーワード】<br>立地因子、立地条件、輸送費指向、原料指数、労働費指向、集積、立地原則、次最適立地、立地単位、企業の地理学 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 商業・サービス業立地の基礎理論 | 商業・サービス業立地の基礎理論として、クリスタラーの中心地論およびレッシュの経済立地論の内容を紹介する。あわせて、現代商業・サービス業の立地に関する新たな観点を整理し、商業・サービス業立地論の今後の課題を提示する。<br>【キーワード】<br>中心地、財・サービスの到達範囲、上限、下限、階層規定財、市場原理、交通原理、行政原理、消費者行動論、ドミナント戦略 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 5 | 地域経済の理論と地域経済循環 | 地域経済に関するこれまでの諸説を検討し、それらに代わる経済地域の考え方を紹介する。あわせて、ヒト・モノ・カネ・情報の地理的流動に関する議論を紹介し、それらを総合化した地域経済循環モデルについて解説する。<br>【キーワード】<br>自治体経済論、地域経済論、地域経済循環、局地的市場圏、地域社会論、マネーフロー、情報拡散理論 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 6 | 雇用・労働の経済地理学 | 欧米の経済地理学では，これまで副次的な扱いであった雇用・労働に焦点を当てた新たな研究潮流が生まれている。こうした「労働の地理学」の骨子を解説したのち，それを踏まえて戦後日本の労働市場を高度成長期，安定成長期，低成長期に分けて分析する。<br>【キーワード】<br>労働の地理学、労働市場の社会的調整、労働力移動、企業内地域間分業、地域労働市場、間接雇用 | 中澤高志（明治大学教授） | 中澤高志（明治大学教授） |
| 7 | グローバリゼーションと立地 | グローバル競争の下での産業立地、とりわけ多国籍企業の立地について、理論と実態の解説を行う。多国籍企業と場所の関わりについて検討する。<br>【キーワード】<br>多国籍企業、プロダクトサイクル論、折衷理論、相互浸透論 | 宮町良広（大分大学教授） | 宮町良広（大分大学教授） |
| 8 | グローバリゼーションと地域経済 | 地域経済統合の進展、グローバル化による地域経済の変化について、理論と実態の解説を行う。多国籍企業が受け入れ地域の経済に及ぼす影響についても説明する。<br>【キーワード】<br>地域経済統合、レギュラシオン理論、グローバル・ローカル関係論、「グローカル化」 | 宮町良広（大分大学教授） | 宮町良広（大分大学教授） |
| 9 | ローカリゼーションと産業集積論 | 古典的産業集積論から新産業集積論にいたる代表的な理論を紹介するとともに、現代産業集積に関する新たな観点を整理し、産業集積論の今後の課題を提示する。<br>【キーワード】<br>産業地区、柔軟な専門化、ミリュー、新産業空間、取引コスト論、産業クラスター、ダイヤモンドモデル、文化産業集積、都市集積 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 10 | 立地調整論 | 新設、閉鎖、移転、現在地での変化に着目する立地調整論の内容を紹介するとともに、最近の日本の工場立地動向や機能変化について、解説を行う。<br>【キーワード】<br>組織論的立地論、企業文化、スクラップ・アンド・ビルド、研究開発機能、空洞化、国内回帰 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 先端産業の立地と集積 | 産業構造、生産システム、企業組織の変化をふまえ、先端産業の立地と集積について、実態を紹介するとともに、理論的課題を提示する。<br><br>【キーワード】<br>R&D、知的財産、オープン化とブラックボックス化、設備投資競争、共立地 | 近藤章夫（法政大学准教授） | 近藤章夫（法政大学准教授） |
| 12 | 情報・知識の地理的流動と地域イノベーション | 情報経済、知識経済の下でのサービス業の立地やオフィス立地の変化について、理論と実態を紹介する。あわせて、知識の地理的流動に関する諸説を紹介し、地域イノベーションの問題点や課題について考える。<br><br>【キーワード】<br>生産者サービス、消費者サービス、CBD、都市システム、暗黙知、形式知、知識ベース | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 13 | 産業立地政策・地域政策の基礎理論 | 地域政策に関する諸理論を解説しつつ、産業重視の地域政策論から地域重視の地域政策論に理論内容が変わってきたことを示す。あわせて、今後の理論的検討課題を提起する。<br><br>【キーワード】<br>移出ベース理論、開発経済学、成長の極理論、新産業地域論、産業クラスター政策 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 14 | 日本の産業立地政策・地域政策 | 日本の産業立地政策と地域政策の歴史的展開を整理するとともに、広域ブロック政策を中心に、今後の政策的課題を提示する。<br><br>【キーワード】<br>新産業都市、テクノポリス、産業クラスター計画、企業立地促進法、全国総合開発計画、国土形成計画、広域ブロック政策 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |
| 15 | 産業立地と地域経済の展望 | これまでの授業をふりかえり、産業立地と地域経済に関する理論・実態・政策のまとめを行う。あわせて産業立地と地域経済を総体として扱うことの重要性を指摘し、今後の検討課題を提示する。<br><br>【キーワード】<br>経済地理学、地域構造 | 松原　宏（東京大学大学院教授） | 松原　宏（東京大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8930651 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　自治体ガバナンス　　（’１３）＝（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：稲継裕昭（早稲田大学教授）〕

【本学担当専任教員：山岡龍一（放送大学教授）】

講義概要

分権改革後の自治体は、自治体運営（ガバナンス）の主体としての責任がますます大きくなりつつある。他方で、財政悪化という条件の下で自治体の取り得る政策選択肢も無制限ではない。こうした状況にあって、自治体がいかなる住民サービスをどの程度提供するか、その政策システムを構築するかは、自治体の政策当局のガバナンスの課題である。政治学・行政学の研究成果を活かしつつ、現場の実験的試みも紹介しながら、この主題に取り組む。

授業の目標

自治体のガバナンスを分析するための様々な知見を紹介し、そうした分析方法を理解し身につける。そのため、多くの研究者へのインタビューを想定している。また、先進的自治体で試みられている様々な自治体ガバナンスの取り組みを紹介し、新たな自治体間のネットワークの構築を試みる。

履修上の留意点

自治体の直面する諸課題について、性急な回答やノウハウを求めることよりも、理論的・歴史的な考察を踏まえつつ検討することが望まれる。その意味では、学部の政治学・行政学関係の諸科目を履修していることが望ましい。



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 自治体ガバナンス | 講義全体のイントロダクション。住民とその公選代表である首長やその他の執行機関、もう一つの住民代表である議会。自治体の活動は誰がどのように行っているのか、誰がガバナンスの責任者なのか、ひいては、自治体は誰のものなのかを考える。また、自治体の活動はあるサイクルを持って展開される。4年毎に行われる選挙のサイクルと、1年毎に編成される予算のサイクル、個別政策のサイクルがある。これらがどのように交錯するのかについて検討する。<br>【キーワード】<br>ガバナンス、ネットワーク、自治体の役割、協働、政治サイクル、予算サイクル | 稲継 | 稲継 |
| 2 | 国と地方の関係 | 国と地方の関係は、1990年代以降大きく変わりつつある。包括的地方自治ガバナンス改革としての分権改革の実績と課題について検討する。今後の国と地方の在り方を考える。<br>【キーワード】<br>国と地方の行政事務の分担、天川モデル、地方分権推進委員会、地方分権一括法、政策の窓、三位一体改革、未完の分権改革 | 稲継 | 稲継 |
| 3 | 自治体の制度 | 憲法と地方自治法にある現行の自治体の制度とその歴史的背景を説明する。とくに、都道府県と市町村の制度とその特例、中央政府と自治体の関係などを中心とし、自治体制度と民主主義の発展の関連について考える。<br>【キーワード】<br>二層制、市町村合併、融合型と分離型、内務省ー府県システム、画一化と多様性、西尾私案 | 稲継 | 稲継 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 議会と議員 | 自治体議会の制度と議員の役割などについて考える。これとの関連で自治体の選挙制度やその実際、法律と条例の関係、住民投票や直接請求などの制度的な直接参加の仕組みについても考える。<br><br>【キーワード】<br>議会の役割、標準規則、議員報酬、議会と住民参加、地方議会改革 | 稲継 | 稲継 |
| 5 | 首長と執行機関 | 自治体の首長と執行機関の関係について考える。公選首長の意義と実際について説明し、内部部局の編成原理や自治体の政策過程、意思決定プロセスなどについても言及する。<br><br>【キーワード】<br>首長制、執行機関多元主義、自治体の統轄・代表、多選、マニフェスト、行政委員会法定主義、教育委員会制度 | 稲継 | 稲継 |
| 6 | 自治体の組織 | 首長を支える行政機構について考える。組織編制はどのような観点からなされるのか。県や市の実例を示すと共に、県レベルにおける組織が多様化していることを見る。<br><br>【キーワード】<br>制限列挙主義、概括例示主義、自治組織権、標準局部例、縦の職務階層、組織のフラット化、グループ制 | 稲継 | 稲継 |
| 7 | 二元代表制 | 二元代表制のもとで、首長と議会はどのような抑制・均衡の関係にあるのかをみる。また、首長選挙では国政与野党の相乗り候補が多いことを、上の抑制・均衡の観点から考える。さらに、議会代表を首長にするような議会内閣制の議論を紹介する。<br><br>【キーワード】<br>二元代表制、機関対立主義、再議制度、不信任議決、専決処分、議会内閣制 | 稲継 | 稲継 |
| 8 | 人事行政 | 自治体職員の採用・研究・昇進・退職など、人事全般に関する問題を、自治体職員と国家公務員との対比などを盛り込みつつ考える。自治体職員に必要な専門能力との関連で、政策法務の問題なども扱う。<br><br>【キーワード】<br>地方公務員の種類、職員採用、配置と異動、昇進制度、人事交流、給与体系 | 稲継 | 稲継 |
| 9 | 税財政構造と予算管理 | マクロな税財政構造を説明した上で自治体の予算編成をめぐる問題を考える。歳入と歳出について基本的な理解を得ると共に、予算編成のスケジュールと決算過程、および最近の自治体における予算改革について理解する。<br><br>【キーワード】<br>地方交付税、国庫支出金、地方税、地方債、予算編成、自治体財政健全化法 | 稲継 | 稲継 |
| 10 | 自治体改革 | 分権改革と並行して進められた自治体自体の改革の諸様相を考える。NPM理論に基づく考え方、エージェンシー化、指定管理者制度などの具体的事例についても検討する。<br><br>【キーワード】<br>行政評価、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、NPM（ニュー・パブリック・マネジメント） | 稲継 | 稲継 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 自治体と市民参加、コミュニティ | 自治体とコミュニティの関係を、住民組織やNPOの役割、住民参加と情報公開のあり方、などについても検討する。<br>【キーワード】<br>直接民主主義、市民参加、住民運動、参加のレベル、協働、NPO、新しい公共、コミュニティ、町内会、中間団体、ソーシャル・キャピタル | 稲継 | 稲継 |
| 12 | 福祉 | 自治体の福祉行政をめぐる問題を考える。これからの高齢社会と少子社会における福祉政策の中心となる、地域福祉計画と介護保険事業との関係を考える。さらに、福祉におけるガバナンス改革とボランタリズムについて理解を深める。<br>【キーワード】<br>福祉の磁石、福祉政策の展開、生活保護、第一線公務員 | 稲継 | 稲継 |
| 13 | 自治体のネットワーク | 自治体の近隣自治体との関係、市長会や議長会など自治体間の水平的全国組織や国際組織など、自治体の「ネットワーク」と政策との関連をめぐる諸問題を検討する。<br>【キーワード】<br>広域行政、地方六団体、姉妹都市、国際協力、政策ネットワーク、政策波及、政策革新 | 稲継 | 稲継 |
| 14 | 地方自治の歴史 | 「地方自治は民主主義の学校」という理念が語られるが、実際の地方自治の歴史はどうであったのか。地方自治の歴史をたどりながら、理念と現実について検討する。<br>【キーワード】<br>大区小区制、三新法、市制町村制、府県制一郡制、占領改革、内務省解体、シャウプ勧告、逆コース、新中央集権、革新自治体、行政の守備範囲論 | 稲継 | 稲継 |
| 15 | 国際比較 | 日本の地方自治のあり方の特質を明らかにするには、諸外国の地方自治との比較検討が必要である。ヨーロッパにおける地方自治をめぐる動きやアジアでの動きと比較しながら、日本の自治体の特質を考える。そのうえで、最終回として自治体ガバナンスは誰の責任か、誰のものかについて改めて考える。<br>【キーワード】<br>英米型と大陸型、自治体機構の国際比較、連邦制国家と単一主権国家、分離型・融合型、内政の総括官庁、活動量、ウルトラ・バイレースの法理 | 稲継 | 稲継 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930619 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　パーソナル・ネットワーク論　（’１２）＝（R）

〔主任講師（現職名）：森岡清志　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

諸個人の意識や行動を理解するために、長い間、社会学は集団の中の個人の地位と役割に焦点をあててきた。しかし1960年代以降、人びとは次第に集団への帰属を薄め、集団から離れて、他者とのつながりの中で生活を営む場面を増大させてきた。パーソナル・ネットワーク論は、このような事態に対応して、人と人とのつながり、すなわちパーソナル・ネットワークに注目し、その構成や規模、接触頻度や密度などの構造が、諸個人の態度や行動を規定する側面と、社会構造的特性がネットワークを規定する側面との両面を対象として実証的研究を展開させている。この科目では、パーソナル・ネットワーク論に特有の視点とアプローチ、研究成果を紹介し、今後の発展の可能性について論じる。

授業の目標

パーソナル・ネットワーク論の視点と方法を学習することによって、受講生一人一人が自身をとりまくパーソナル・ネットワークを全体的に捉え、ネットワークからの影響や自身のネットワークへの働きかけを相対化し、自身の態度や行動への内省的理解を深めるための一つのきっかけとなることを目標とする。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | パーソナル・ネットワーク論の視角 | 1960年代に、社会的ネットワーク論が急速な展開を見せる。この中から、やがて人と人とのつながりに対象を限定するパーソナル・ネットワーク論が台頭するのであるが、第1回では、この間の経緯を含め、特有の視角やアプローチの特色について説明する。<br>【キーワード】<br>社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、初期シカゴ学派、第一次的関係 | 森岡清志（放送大学教授） | 森岡清志（放送大学教授） |
| 2 | 日本の「家」と親族関係 | 戦前・戦後にかけて、特に日本の農村では1970年代まで、親族関係を中心に生活が営まれていた。日本の親族関係は、「家」を単位とする同族的関係と、個人を単位とする親類（親戚）関係の二つの関係から成立していた。現在では、同族的関係は大幅に衰退しているが、このようなかつての日本の親族関係を理解しておくことは、現代日本のパーソナル・ネットワークを理解するために、きわめて重要である。<br>【キーワード】<br>「家」、同族、親類、親族圏、機能分担 | 森岡清志（放送大学教授） | 森岡清志（放送大学教授） |
| 3 | 産業化と家族変動 | 産業化・都市化による職業的・地理的移動は家族のあり方に大きな影響を与えてきた。ここでは核家族をめぐり、家族は孤立しているのか、それとも新たなネットワークの中にあるのかをみてゆく。また都市度という居住地の特性（村落か都市か）によって、人々のもつ親族ネットワークのあり方に違いがあることにも注目する。<br>【キーワード】<br>産業化、都市化、職住一致、職住近接、職住分離、自営家族、雇用家族、「孤立した核家族」、伝統的拡大家族、修正拡大家族、キンドレッド、親族ネットワーク、選択的親族関係 | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 現代日本における家族の変容 | 国勢調査のデータから近年の日本家族の変容を家族形態、家族構成の両面から確認する。またこうした家族の変化を「家族の個人化」や家族意識の変化などの質的な面からも考察する。また家族をネットワークの視点から見る、「ネットワークとしての家族」と「ネットワークの中の家族」という分析視点の意義にふれる。<br>【キーワード】<br>世帯類型、世帯分離、家族意識、家族機能、「家族の個人化」、「ネットワークとしての家族」、「ネットワークの中の家族」、家族・コミュニティ問題、資源としてのネットワーク、拘束としてのネットワーク | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |
| 5 | 夫婦役割とネットワーク | 夫婦はなぜ家事や育児、余暇などを別々に（または一緒に）行おうとするのか。ここではE．ボットの示した家族外ネットワークが夫婦役割関係を決定してゆくという研究を紹介する。ボットの研究は家族研究とコミュニティ研究の双方をつなぐ意味で多くの示唆を与えたが、その意義についても述べる。<br>また日本の夫婦関係とコミュニティとの間にどのような関連があるのかを考察したい。<br>【キーワード】<br>夫婦役割関係、分離的夫婦役割関係、合同的夫婦役割関係、社会的ネットワーク結合度、競合説と両立説、夫婦選択説、ネットワーク規定説、コミュニティの解放化、コミュニティの私化、世帯ニーズ、磁場としてのネットワーク | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |
| 6 | 都市空間の中の家族 | 都市度という居住地の特性が家族のあり方とどのように関連をもつのか。国勢調査などの客観的データから、世帯類型や就労スタイルは都市空間の中で一定のパターンを描いて分布していることを理解したい。またこうした一連の確認作業から、都心・郊外・村落のそれぞれにおいて特徴的な家族形態が分布していること、ならびに都市度という概念を紹介する。<br>【キーワード】<br>都市度、社会地図、同心円型分布、都心家族、郊外家族、村落家族 | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |
| 7 | 都市とパーソナル・ネットワーク | 都市という環境の中で、人はどのようなパーソナル・ネットワークを形成するのか。ここでは都市度とネットワーク保有量の関係、空間分布に注目した研究成果を紹介する。<br>【キーワード】<br>コミュニティ問題、喪失論、存続論、解放論、パーソナル・コミュニティ、選択ー制約モデル、同類結合、都市度、下位文化理論、非通念性、選択的ネットワーク、近隣の友人化、修正下位文化理論 | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |
| 8 | ネットワークから見た子育て | 近年、注目される子育ての困難さはどこにあるのか。母親の持つ家族内・家族外の子育て環境をネットワークの視点でとらえた研究成果とそのネットワーク戦略を紹介する。また子育てネットワークの国際比較から、パーソナル・ネットワークの多様性や可能性、またセーフティ・ネットとしての意義を考える。<br>【キーワード】<br>ネットワークの中の子育て、世帯内ネットワークと世帯外ネットワーク、中庸なネットワーク、ネットワーク戦略 | 立山徳子（関東学院大学教授） | 立山徳子（関東学院大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 就職（転職）手段としてのネットワーク | 「縁故」という言葉に象徴されるように、就職（転職）のさいに当事者を取り巻く人間関係は少なからぬ影響を発揮してきた。この回では、人々が就職（転職）するさいにネットワークがどのような影響を及ぼすのか、日米の研究を踏まえながら解説する。<br>【キーワード】<br>弱い紐帯、ブリッジ、セーフティネット、就職、転職 | 石田光規（大妻女子大学・准教授） | 石田光規（大妻女子大学・准教授） |
| 10 | 仕事の手段としてのネットワーク | 産業社会の流動化とともに、働く人々は自らの仕事ネットワークを主体的に構築することを求められるようになった。そのさい有効なネットワークとはどのようなものなのか、さまざまなパーソナル・ネットワーク調査の知見を踏まえて解説する。<br>【キーワード】<br>構造的隙間、ネットワーキング、昇進 | 石田光規（大妻女子大学・准教授） | 石田光規（大妻女子大学・准教授） |
| 11 | 企業社会における人間関係 | 現在の企業社会の特徴を示す言葉の一つが「ネットワーク化」である。この回では、ネットワーク化が進行する企業組織において、人々が取り結ぶ人間関係はどのような変化を遂げているのか解説する。<br>【キーワード】<br>ネットワーク型組織、ネットワーキング、個人化、集団主義 | 石田光規（大妻女子大学・准教授） | 石田光規（大妻女子大学・准教授） |
| 12 | 女性の仕事とパーソナル・ネットワーク | 女性が働くさいには、就業継続や家庭と仕事の両立といった問題が強く意識される。そうした問題に対して、彼女たちの保有するパーソナル・ネットワークがいかなる影響を与えているのか解説する。<br>【キーワード】<br>M字型就労、ワーク・ファミリー・コンフリクト | 石田光規（大妻女子大学・准教授） | 石田光規（大妻女子大学・准教授） |
| 13 | 年賀状からみたパーソナル・ネットワーク | パーソナル・ネットワークに関する実証研究は、その多くが統計的標本調査の結果に基づくものである。この調査では、対象者にとって親しい人びととの現在のネットワークに関する情報しか得ることができない。年賀状を手がかりとした事例調査によって、より拡い範囲のネットワークを捉え、またライフコースに伴う再編・変容の過程を捉えうることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>拡大パーソナル・ネットワーク、ネットワークの再編、生活戦略、事例分析 | 森岡清志（放送大学教授） | 森岡清志（放送大学教授） |
| 14 | 社会関係にひそむ資本 | 近年、社会関係を「資本」とみなす研究が幅広い範囲で行われている。この回では、社会関係資本論の研究視角を概説し、そうした研究の知見および問題点について解説していく。<br>【キーワード】<br>資本、社会関係資本 | 石田光規（大妻女子大学・准教授） | 石田光規（大妻女子大学・准教授） |
| 15 | 「住民力」の効果 | 第14回の社会関係資本、ソーシャル・キャピタルに関する説明を踏まえ、住民が保有するパーソナル・ネットワークと、地域社会への参加度との相関が高いことをまず指摘する。次いで、これらを合わせて「住民力」とする時、この「住民力」がコミュニティ・モラール、投票行動、環境配慮行動と有意に高い関連を示すことについて説明を加える。<br>【キーワード】<br>ソーシャル・キャピタル、住民力、コミュニティ・モラール、町内信頼度 | 森岡清志（放送大学教授） | 森岡清志（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8930643 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　環境工学　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：岡田光正　（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

## 講義概要

環境工学は、環境問題の解決手法開発の学問である。環境問題そのものは、過去半世紀の間に大きく変化し、従ってその問題解決のための考え方も変化し、従来の工学という枠にとどまらず、理学、農学、医学のような理系学問のみならず、社会学、経済学、法学のような人文系の学問も含めた総合的な解決策が求められるようになってきた。この意味では、環境工学には単なる個別の技術開発のみではなく、望ましい環境像を実現するための総合的なシステムの確立までもが求められている。本講義では、環境問題の認識方法から始まり、現在重要と思われているいくつかの分野における最先端の研究がどのように行われているか紹介し、総合的な見方を身につける助けとしたい。

## 授業の目標

地球上の限られて資源の量、また、限られた自然環境の恩恵という制限の中で、ますます人間活動が増大していく現在、人類が活動を持続していくためには何が必要とされるのか、何が可能なのかが問われている。本講義を通じて、この答えを見出すための「考え方」を学んでほしい。

## 履修上の留意点

学部の講義である 環境と社会、エネルギーと社会などを学んでおくことが望ましい。



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 環境問題と環境工学 | 環境問題とは何か？問題の本質にある人口増加の歴史とその背景、すなわち文明の発達、資源の消費と枯渇の影響を探るとともに、現代社会が直面している環境問題について考えてみる。また、環境問題の解決をめざしている環境科学と環境工学の意義について考えてみるとともに、本講義全体の意図と各回の講義の流れについて解説する。<br>【キーワード】<br>人類の歴史、環境問題、環境の収容力、エコロジカル・フットプリント、持続可能な社会、環境工学 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |
| 2 | 水環境保全の目標設定～水質環境基準～ | 我々が望ましいとしている環境像はどんなものであろうか？環境保全の目標設定の一例として、日本の水質環境基準を例として考察する。水質環境基準は人の健康の保護と及び生活環境の保全を目的として設定された。しかし、その達成状況は必ずしも満足できる状態にない。水質環境基準自身に関する問題点と科学技術的な背景を探ってみよう。<br>【キーワード】<br>水質環境基準、人の健康保護、人の水利用、富栄養化、モニタリング | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |
| 3 | 水環境保全技術(1)～排水処理と発生源対策～ | 水質環境基準という環境保全目標を例にとり、その目標の達成手法、すなわち、日本における排水規制の仕組みと排水処理技術との関係を探るとともに、排水処理技術そのものの基本的考え方を探ってみる。また、排水の発生原因である我々の生活や生産プロセスを見直すことにより、排水そのものを削減しようとする発生源対策のあり方についても考えてみる<br>【キーワード】<br>排水基準、暫定排水基準、排水処理技術、分離、分解、発生源対策 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 水環境保全技術（2）～水質総量削減と水域内対策～ | 排水規制に加え、水域の側から見た望ましい水環境の目標達成につながるような手法について考える。一つは、日本の総量削減制度を例として、全汚濁負荷量の削減方法とその基本的考え方を考察する。もう一つは水域内で行われる様々な目標達成手法である水域内対策について探ってみる。<br>【キーワード】<br>物質収支、汚濁負荷解析、水質総量削減制度、非特定汚染源、水域内対策 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |
| 5 | 水生生物・生態系の保全と再生 | 水生生物の保全を目的とする目標の必要性を考える。その一例として底層の溶存酸素濃度と透明度に関する目標設定の考え方や手法を学ぶ。さらに、生態系の保全や再生など人間活動と生態系との係り方の違いを考えてみる。そして、生態系の保全や再生のための目標のあり方現と工学的手段、生体工学について学ぶ。<br>【キーワード】<br>水生生物、溶存酸素、透明度、生態系の保全と再生、生態工学 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |
| 6 | 藻場・干潟の保全と再生の技術 | 環境再生技術の一例として、沿岸域生態系で失われつつある干潟や藻場生態系の構造や機能を理解するとともに、このような生態系を保全し、再生するための手法として、生物系の制御、及び環境系の制御の在り方について考えてみよう。<br>【キーワード】<br>藻場、干潟、生物系の制御、環境系の制御、再生技術 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |
| 7 | 脱温暖化社会（1）～地球温暖化の動向と世界的取り組み～ | 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出源と影響および長期的な見通し，ならびにエネルギー由来の二酸化炭素排出の要因の分析について学ぶ。後者については、炭素強度とエネルギー強度を低下させる方策について考える。また、世界的な協調についても学ぶ<br>【キーワード】<br>気候変動、温室効果ガス、低炭素社会 | 花木啓祐（東京大学教授） | 花木啓祐（東京大学教授） |
| 8 | 脱温暖化社会（2）～脱温暖化社会形成のための戦略～ | 日本における二酸化炭素排出の状況を学ぶと共に，脱温暖化社会に向けた対策と持続可能な社会のあり方について考える。再生可能エネルギーを中心としたエネルギー供給対策、業務、家庭、運輸部門のエネルギー需要対策および都市構造の対策を考える。<br>【キーワード】<br>エネルギー効率、再生可能エネルギー、バイオマス、コンパクトシティ | 花木啓祐（東京大学教授） | 花木啓祐（東京大学教授） |
| 9 | 循環型社会（1）～資源消費と環境負荷を量る指標と分析～ | 資源・エネルギー消費と環境負荷を指標とし、人間活動に必要な機能を過不足なく提供できる持続可能社会の実現に向けて、新たな物質・資源の循環利用システムのあるべき姿とその具体化の方策を工学的視点から検討してみよう。<br>【キーワード】<br>資源生産性、持続可能社会、機能提供、評価指標、ロードマップ | 藤江幸一（横浜国立大学大学院教授） | 藤江幸一（横浜国立大学大学院教授） |
| 10 | 循環型社会（2）～循環型社会の実現に向けた取り組みと評価～ | 物質・エネルギーフロー解析の結果や地域の状況に応じて、資源・エネルギーの効率的利用と環境負荷低減を目指した各地での取り組みとその評価を紹介し、合わせてプランテーションにおけるバイオマス生産における課題と地域に貢献できる対策について考えてみよう。<br>【キーワード】<br>資源循環ネットワーク、地域適合性、システム設計と評価、プランテーション、バイオマス | 藤江幸一（横浜国立大学大学院教授） | 藤江幸一（横浜国立大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 自然共生社会(1)～生態系サービスの考え方と自然共生社会～ | 生態系の賢い利用は，自然環境を保全するという効果だけでなく，農林水産業や人間生活にさまざまな利益（生態系サービス）をもたらす。生態系サービスの基本的考え方を学び，生態系や生物多様性の持続的利用のために，必要な社会システムを考えてみよう。<br>【キーワード】<br>生態系，生物多様性，持続的利用，生態系サービス | 中静 透（東北大学大学院教授） | 中静 透（東北大学大学院教授） |
| 12 | 自然共生社会(2)～生態系・生物多様性の持続的利用と保全～ | 森林のさまざまな利用方法と，その一環としての森林認証制度の考え方，「途上国における森林減少・劣化からの排出削減（REDD）」，生物多様性オフセットなどの例を紹介する。<br>【キーワード】<br>持続的森林利用，森林認証制度，REDD，生物多様性オフセット | 中静 透（東北大学大学院教授） | 中静 透（東北大学大学院教授） |
| 13 | 安全が確保される社会(1)～化学物質の環境リスク評価～ | 科学の進歩はあらゆる面で私たちの生活を支えているが、効率性・利便性・快適性などを追及するモノづくりの視点のみから次々と新たな化学物質が産出されてきた。こうした化学物質およびその製品の製造・使用・廃棄等に伴い、環境汚染を引き起こし、人の健康や生態系に及ぼすリスクが懸念されている。そこで、化学物質による環境汚染が人の健康に及ぼすリスクの特徴やその評価方法について学ぶ。<br>【キーワード】<br>環境リスク、化学物質、有害性、発がん性、生態系 | 細見正明（東京農工大学大学院教授） | 細見正明（東京農工大学大学院教授） |
| 14 | 安全が確保される社会(2)～化学物質のリスク管理～ | 化学物質の環境リスクを適切に管理するには、問題となるリスクを見つけ出し、その大きさを評価する必要がある。さらにそうしたリスクのメカニズムを解明し、適切な対策を提案し、行政、事業者、市民、研究者などの利害関係者の双方向のリスクコミュニケーションにより、効果的な対策を講じていく必要がある。その際、リスクの大きさの評価ばかりでなく、その他のリスクや便益などと比較することで、化学物質の適切なリスク管理の方向性を探ることが大事である。その例を学ぶ。<br>【キーワード】<br>ストックホルム条約、PCB、ダイオキシン、リスクコミュニケーション | 細見正明（東京農工大学大学院教授） | 細見正明（東京農工大学大学院教授） |
| 15 | 問題解決型から着地点誘導型へ | 今までの講義の総括を行うとともに、持続可能性社会の定義とその基礎となる環境倫理について考える。また、着地点誘導型の環境管理における目標設定とその実現可能性、ならびにその達成手法を検討する手段として数理モデルの考え方と限界、さらには順応的管理手法について考える<br>【キーワード】<br>持続可能性、環境倫理、数理モデル、再生目標、順応的管理 | 岡田光正（放送大学教授） | 岡田光正（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8930554 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　都市環境デザイン論　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：仙田　満　（東京工業大学名誉教授）〕
〔主任講師（現職名）：佐藤　滋　（早稲田大学教授）〕
【本学担当専任教員：梅干野　晃（放送大学教授）】
【教材作成協力教員：矢田　努　（愛知産業大学大学院教授）】

## 講義概要

地球環境時代の都市環境デザインは、サステイナブルシティ、コンパクトシティ、防災・復興、そして急速に進む少子高齢化への対応などの現代都市の課題にいかに解答し、その魅力を高められるか問われている。そこで、これらの課題とともに、交通、観光、水・緑、都市の空間演出装置、そして多様性と回遊性といった都市の魅力、そして関係性、統合性、参加性、調和性を持続可能性とともに実現し現代都市を創造する都市環境デザインの手法について論究し、21世紀の都市環境デザインを展望する。
第1編（第1回～第5回）　現代都市の課題
第2編（第6回～第10回）　現代都市の魅力
第3編（第11回～第15回）　現代都市の創造

## 授業の目標

地球環境時代におけるまちづくりの中心的な課題の一つとして位置づけられる都市環境デザインについて、その理念、歴史、事例、手法などに関する知識を広く習得し、21世紀にふさわしい人間的で環境に優しい都市環境デザインを実現するために社会的に求められる分析力、調整力、組織力、開発力、戦略性などへの理解を深め、現代日本の都市環境デザインを構想する高い企画力と批評性を養う。

## 履修上の留意点

環境デザイン論（’09）等を履修することが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 都市再生と都市環境デザイン | 第二次産業を中心とした都市の時代は終焉した。都市再生の思想は、単なる荒廃した産業都市の復興を越え、ヨーロッパにおいては「アーバンルネッサンス」、我が国では「中心市街地活性化」あるいは「都市・地域再生」として、新たな方向を目指し始めている。高松市の事例を示しながら都市再生における都市環境デザインの果たす役割を講義する。<br>【キーワード】<br>アーバンルネッサンス、都市再生、中心市街地活性化、まちづくり三法<br>【事例】<br>高松 | 仙田　満<br>佐藤　滋 | 仙田　満<br>佐藤　滋 |
| 2 | サステイナブルシティと都市環境デザイン | サステイナブルシティあるいはその実現をめざすサステイナブル（持続可能）なまちづくりは都市環境デザインにおいてとりわけ重要な理念である。モデル的事例よりサステイナブルシティの条件とこれを実現する地球環境時代の都市環境デザインの課題を考える。<br>【キーワード】<br>サステイナブルシティ、サステイナブル（持続可能）なまちづくり、地球環境時代<br>【事例】<br>クリチバ、ポートランド、フライブルク、ハイデルベルク、IBA エムシャーパーク、流山市 | 仙田　満<br>矢田　努 | 仙田　満 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 3 | コンパクトシティと都市環境デザイン | 20世紀に郊外に急速に拡大した都市は、現代の都市問題の根源的な課題である。これに対応して現れた考え方が「コンパクトシティ」である。持続可能でコンパクトな都市の在り方は、それぞれの地域の歴史・文化、地理的風土的条件のもとで、当然のことながら、さまざまな方法があり得る。日本型コンパクトシティのあり方を考える。<br>【キーワード】<br>郊外化、歴史的都心、都市骨格、地域性、コミュニティの保全、城下町都市<br>【事例】<br>熊本 | 佐藤　滋 | 佐藤　滋 |
| 4 | 都市環境デザインと防災・復興 | 阪神淡路大震災以来、中越、中越沖、岩手・宮地大震災など、大きな地震被害が続いている。また、気候変動の影響とも言われる集中豪雨や台風による大災害も顕著である。しかし、災害に対する防災や、復興まちづくりは新たな都市環境デザインを実践する舞台でもある。歴史と現代の実践、今後の展望を講義する。<br>【キーワード】<br>震災復興ビジョン、復興まちづくり、協働復興協議会、防災まちづくり<br>【事例】<br>関東大震災、阪神淡路大震災復興まちづくり | 佐藤　滋 | 佐藤　滋 |
| 5 | 少子高齢化と都市環境デザイン | 少子高齢化社会における都市環境デザインについて、子どもが育ちやすい都市、高齢者も元気に暮らすことのできる都市のあり方を中心に論考する。誰もが安全、健康で心身ともに解放される都市空間を創造するユニバーサルデザインの展開可能性についても考察する。<br>【キーワード】<br>少子高齢化、ユニバーサルデザイン、子どもに優しい都市、豊かな成育空間、バリアフリー、安全・安心の都市環境デザイン、都市の中間領域 | 仙田　満 | 仙田　満 |
| 6 | 交通と都市環境デザイン | 自動車交通がこれまでの都市の交通計画の基本であったが、近年、本来の人間的で環境に優しい都市の移動手段、そしてこれらを組み立てる斬新な都市環境デザインの方法が世界各地で取り組まれている。公共交通を充実させ、歩行者主体の環境デザインにより魅力的な都心環境を創出し、自転車や各種の乗り物が調和した豊かな都市環境をデザインする方法を解説する。<br>【キーワード】<br>公共交通、LRT、トランジットモール、交通結接点<br>【事例】<br>広島、ストラスブール | 望月　真一（アトリエUDI都市設計研究所）<br>佐藤　滋 | 佐藤　滋 |
| 7 | 観光と都市環境デザイン | 都市の観光は、都市の魅力にふれることをその原点とするが、近年、その概念を大きく広げ、最先端の人々を都市に引きつけ、交流をうながし、新たな産業を生み出す。これを都市観光と位置づけ、その特徴、成立条件および都市環境デザインとしての展開の可能性を考える。<br>【キーワード】<br>都市の集客性、遊環構造、観光ポテンシャル、観光満足、グレートスポット<br>【事例】<br>フライブルク、IBAエムシャーパーク、広島、北九州、黒川温泉（熊本県阿蘇郡南小国町） | 仙田　満<br>矢田　努 | 仙田　満 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 水・緑と都市環境デザイン | 水と緑は都市のうるおいの要素として大切にされてきた。近年、生態学的環境の回復という視点からも、都市環境デザインの中心的な対象の一つとして位置づけられる。近代化の中で破壊された水・緑の環境システムを回復する都市環境デザインの方法と試みを解説する。<br>【キーワード】<br>環水都市、緑地の機能、緑地確保の戦略、緑地の創造<br>【事例】<br>サンアントニオ、富山県富岸運河環水公園、ポートランド、柳川 | 仙田　満<br>矢田　努 | 仙田　満 |
| 9 | 都市の空間演出と都市環境デザイン | 集積して都市空間の魅力をつくる都市環境デザイン要素を都市の空間演出装置とし、ストリートファニチャー、照明デザイン、公共交通機関、パブリックアート、音環境、舗装、広告などを取り上げ、黒子としての節度、調整の重要性など、そのあり方を論考する。<br>【キーワード】<br>都市の空間演出装置、ストリートファニチャー、照明デザイン、公共交通機関、パブリックアート、音環境、舗装、広告<br>【事例】<br>みなとみらい21地区（横浜市）、プラハ 、滝川（北海道） | 仙田　満 | 仙田　満 |
| 10 | 多様性と回遊性の都市環境デザイン | 都市環境デザイン要素の多様性とそれらをつなげてその体験を可能とする回遊性が魅力ある現代都市の創造には不可欠である。空間的序列と融合性などの多様性の条件、回遊性のある空間の構成理論および事例などより、これを実現する都市環境デザインの手法を探る。<br>【キーワード】<br>多様性、回遊性、空間的序列、機能的融合性、遊環構造、テレビを消してまちに出よう<br>【事例】<br>広島、ポートランド、クリチバ | 仙田　満 | 仙田　満 |
| 11 | 参加のまちづくりと都市環境デザイン | 都市環境デザインの主体は公共セクター、民間益利セクターだけではなく、NPOや社会的企業など、多主体が連携することにより達成出来る。その基礎として市民参加と協働の方法は、普遍的なものになりつつある。具体的実践例を通して参加のデザインの到達点を解説する。<br>【キーワード】<br>参加のデザイン、ワークショップ、グラウンドワーク、まちづくりゲーム、地域協働<br>【事例】<br>三島市源兵川の再生、鶴岡、東向島一寺言問防災まちづくりの会 | 佐藤　滋 | 佐藤　滋 |
| 12 | 事業手法と都市環境デザイン | 公共事業による都市環境整備は限界が見えており、民間や市民セクターと連携する事業方法が新たな時代の要請になっている。Public Private Partnershipなどによる共同事業方式、関係者による事業組合方式,市民主体のまちづくり市民事業、あるいは複数のプロジェクトを地域として運営するエリアマネイジメントなども含め、多様な事業手法が生み出されている。具体的な事例を通して最先端の方法を講義する。<br>【キーワード】<br>PPP、エリアマネジメント、多主体協働、社会的企業、LLP、まちづくり市民事業<br>【事例】<br>仙台、高松丸亀商店街、鶴岡 | 佐藤　滋 | 佐藤　滋 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 設計者・コンサルタントの選定 | 都市環境デザインの質を高めるには創造性を喚起する社会システムが欠かせない。設計者・コンサルタントの選定方式はその中核をなすものであり、これが都市環境デザインの成否を分けるといってよい。最先端の方式を事例より学び、今後の可能性を検討する。<br>【キーワード】<br>コンペティション（設計競技）、プロポーザル、設計者選定委員会、随意契約、QBS方式、設計入札方式の問題、発注方式<br>【事例】<br>横浜 | 仙田　満 | 仙田　満 |
| 14 | マスターアーキテクト・マスタープランナー | 都市の生き生きとした魅力をつくる多様性、継続性の実現には長期的なマスタープランあるいは全体的な理念の共有、デザインの調整などに関して責任を負う体制が欠かせない。ここにマスターアーキテクト、マスタープランナーの意義があり、その役割を整理する。<br>【キーワード】<br>マスターアーキテクト、マスタープランナー、田村明、宮本忠長、ジェレミー・ハリス、ジャイメ・レルネル<br>【事例】<br>横浜、小布施、ホノルル、フライブルク、クリチバ | 仙田　満 | 仙田　満 |
| 15 | 現代都市環境デザインの展望 | 現代都市の課題、魅力、これを創造する都市環境デザインの方法について講義全体のまとめとなる総括的論考を行う。魅力的な都市をつくる総合的な戦略をもつ人、組織、社会的システムを生み出すための将来的な戦略として次世代のための都市環境デザインを展望する。<br>【キーワード】<br>機能と生活、健康と意欲、歴史と創造、マスタープランと都市環境デザインの構成要素、継承と変革、サステイナブルなまちづくり、節度と展望、次世代育成環境都市 | 仙田　満<br>佐藤　滋<br>矢田　努 | 仙田　満<br>佐藤　滋<br>矢田　努 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940576 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 国語国文学研究の成立 （’１１）＝ （R）

※この科目は「言語文化研究Ⅰ（’０７）」を一部改訂した科目です。
改訂回は、第1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：長島　弘明　（東京大学大学院教授）〕

【本学担当専任教員：島内　裕子　（放送大学教授）】

## 講義概要

江戸時代の国学は、日本古来の精神のあり方を考究する学問であったが、その一方で、古語や古典文学を文献を通じて明らかにする学問であった。その意味で、国学は、今日の国語学研究・国文学研究の先蹤と見なすことができるが、幕末・明治という変動の時代の中で、その国学的な語学研究・文学研究が、西欧文化をはじめとする様々なものの影響のもとに変容を重ねつつ、近代的な国語学研究・国文学研究として成立していった過程を明らかにする。

## 授業の目標

この授業では、国学から国語学研究・国文学研究への学問的方法の変化を考察するだけではなく、国学・国語学研究・国文学研究が研究対象にしている、ことば（国語）や文学（国文学）自体が幕末・明治期にどのような変化を遂げているかを併せて考察し、研究対象の変容が、それを研究する方法の変容や革新と、密接に関わっていることを理解してもらうことを目標としたい。

## 履修上の留意点

各回の放送教材を聞く前に、その回に当たる印刷教材を読んでおくこと。印刷教材はくり返し読むことがのぞましい。また、印刷教材の中にに出てくる本がどのようなものか、いくつかでよいが、実際に手にとって見てみることがのぞましい。この授業では主として明治期を扱うので、明治時代の文学史についても高校生程度の知識を持っていることが、前提として必要である。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 歌学・国学・国文学研究<br>※改訂回 | 伝統的な歌学を基盤として、江戸時代に入って契沖・真淵・宣長らによって確立した国学が、明治時代に至り新たな近代的国文学研究へと変化するまでの経緯と、それを促した歴史的な状況について考察する。<br><br>【キーワード】<br>和学、国学、契沖、本居宣長、平田篤胤 | 長島　弘明（東京大学大学院教授） | 長島　弘明（東京大学大学院教授） |
| 2 | 大学の設置と国文学研究<br>※改訂回 | 江戸時代の幕府の学問所から、明治政府による大学設置にいたる高等教育の学制改革と、和漢文学科から和文学科へ、さらに国文学科へという改組について触れながら、初発期の国文学研究が抱えていた問題について考察する。<br><br>【キーワード】<br>皇学、漢学、洋学、皇学所 、「大学規則」 | 同上 | 同上 |
| 3 | 文献学の成立<br>※改訂回 | 留学してドイツ文献学を学び、国文学に近代文献学の方法を取り入れたとされる芳賀矢一の業績に焦点を当て、江戸時代の国学者や漢学者による、本文批判や注釈等の文献学的方法との共通性・異質性を検証する。<br><br>【キーワード】<br>考証学、芳賀矢一、ドイツ文献学、日本文献学、国民性 | 同上 | 同上 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 文学史の成立<br>※改訂回 | 国文学の時代性に鋭い感性で切り込み、「国文学全史」を構想した藤岡作太郎の業績を中心に、文学史の概念の成立について考察する。<br><br>【キーワード】<br>『国文学読本』(芳賀矢一他著)、『日本文学史』(三上参次他編)、『近世列伝体小説史』、藤岡作太郎、『国文学全史 平安朝篇』 | 長島 弘明<br>(東京大学大学院教授) | 長島 弘明<br>(東京大学大学院教授) |
| 5 | 国文学と民俗学・歴史社会学・文芸学 | 文献学と文学史の方法を基本として進んできた国文学研究も、時代の変化に伴って、隣接する学問領域の方法から大きな影響を受けることとなるが、その中でも、特に大きな影響を与えている民俗学的方法・歴史社会学的方法・文芸学的方法について解説する。<br><br>【キーワード】<br>岡崎義恵、唯物論的歴史観、反映論、民間伝承、柳田国男 | 林 廣親<br>(成蹊大学教授) | 林 廣親<br>(成蹊大学教授) |
| 6 | 詩歌論の近代Ⅰ<br>※改訂回 | 古典的な和歌・俳諧が近代詩歌としての短歌・俳句に生まれ変っていく様相を、佐佐木信綱・与謝野鉄幹と晶子・正岡子規らを中心に考察する。<br><br>【キーワード】<br>ポエトリー、文学改良運動、新派和歌、『明星』、写生説 | 猪狩 友一<br>(白百合女子大学教授) | 猪狩 友一<br>(白百合女子大学教授) |
| 7 | 詩歌論の近代Ⅱ<br>※改訂回 | 『新体詩抄』に始まる新体詩(近代詩)の展開を、落合直文・大和田建樹ら国文学者とともに、上田敏・徳富蘇峰ら洋学者、ジャーナリストの詩歌論も含めて考察する。<br><br>【キーワード】<br>新体詩、翻訳詩、象徴主義、自然主義、口語自由詩 | 同上 | 同上 |
| 8 | 漢詩文の近代<br>※改訂回 | 江戸時代後期の漢詩文と明治時代の漢詩文の継承と断絶に注目しつつ、新しい時代への対応を様々に模索しながらも、最終的には近代文学から脱落し、古典化への歩みを進めていった漢詩文について考察する。<br><br>【キーワード】<br>「外国詠史」、成島柳北、洋詩の漢詩訳、「詩月旦」、中野逍遙 | 長島 弘明<br>(東京大学大学院教授) | 長島 弘明<br>(東京大学大学院教授) |
| 9 | 小説論の近代Ⅰ<br>※改訂回 | 江戸時代の戯作から近代小説への転換の様相を、『小説神髄』や没理想主義論争など、明治初期から中期の小説論や文学論争を中心に考察する。<br><br>【キーワード】<br>戯作、美術、写実主義、浪漫主義、言文一致体 | 猪狩 友一<br>(白百合女子大学教授) | 猪狩 友一<br>(白百合女子大学教授) |
| 10 | 小説論の近代Ⅱ<br>※改訂回 | 高田半峰『当世書生気質の批評』をはじめとする近代的な文学評論(批評)の成立とその展開、および島村抱月ら自然主義の小説論を中心に考察する。<br><br>【キーワード】<br>文学批評、合評形式、社会小説、自然主義、平面描写 | 同上 | 同上 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 演劇の近代 | 演劇の近世が演劇の近代に至る過程を、歌舞伎における活歴の試み、演劇改良運動の時代、新派劇の発生等の動きを押え、時々の演劇論の展開に留意しつつ、具体的に検討してゆく。<br><br>【キーワード】<br>演劇改良、新派劇、自由劇場、新劇、築地小劇場 | 林 廣親（成蹊大学教授） | 林 廣親（成蹊大学教授） |
| 12 | 国語学の成立<br>※改訂回 | 明治時代において、国学が近代的学問に脱皮する過程において、語学研究がどのような位置を占めたかを構築論的に解説する。その中において、近代の言語文化の様相を検討する。<br><br>【キーワード】<br>国語学、日本語学、言語学、国学、上田万年 | 近藤 泰弘（青山学院大学教授） | 近藤 泰弘（青山学院大学教授） |
| 13 | 文法研究の近代化<br>※改訂回 | 明治期の文法研究がどのような過程をたどって、西洋文典と和文典との折衷を果たし、また、それ以上のものになっていったかを実例を検討しつつ考え、「文法」というものの日本における構築のあり方を提示する。<br><br>【キーワード】<br>てにをは、活用、『語学新書』、『広日本文典』、大槻文彦 | 同上 | 同上 |
| 14 | 表記論と近代の表記<br>※改訂回 | 外国語との出会いから生じた日本語表記への自覚と表記改良への意欲がどのような研究を呼びおこしたか、またそれが近代的な日本語表記の成立にどのように関わったかを検証する。<br><br>【キーワード】<br>歴史的仮名遣い、「近世かな表記」、一意的表記、唯一表記、送り仮名法 | 屋名池 誠（慶應義塾大学教授） | 屋名池 誠（慶應義塾大学教授） |
| 15 | 外国人の日本語研究<br>※改訂回 | 明治時代の帝国大学の外国人教師などの実例を調査し、外国人による日本語研究が果たした役割の重要性を述べ、その研究がその後どのような形で日本の学術に影響を与えたかについても考察する。<br><br>【キーワード】<br>来日欧米人、比較言語学、方言研究、話しことばの史的研究、連濁 | 同上 | 同上 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940533 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 人類学研究 （’１０）＝ （ＴＶ）

－環境問題の文化人類学－

〔主任講師（現職名）：内堀基光（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：本多俊和（スチュアート ヘンリ）（放送大学客員教授）〕

## 講義概要

環境問題を文化の文脈のなかで考えていこうというのがこの講義の眼目である。世界の多様な環境のなかで暮らす人々の伝統的生活様態とその価値観が当該環境の保全に寄与してきたことはよく指摘されているが、外的要因によって環境変化が起きた場合、こうした文化はどのような変容をこうむるか。あるいは文化そのものに環境変化に対処する可能性がひめられているか。これらのことを考えることは、環境問題を単に物質的状況として見るのではなく、人々の生活に意味づけを与える文化の問題として見ることに通じる。これを生態環境の多様性、問題の性質に応じて具体例を示しつつ講義する。

## 授業の目標

本講義は文化人類学の講義なので、講義の眼目としている環境問題のみならず、この具体的トピックをとおして人類文化というものがいかなる特性をもっているか、その機能はいかなるものかを考えられるようにしたい。大学院の科目としては本講義が文化人類学としては唯一のものなので、自学を促進しうる方向で、受講者に問いかけをおこなうような授業を考えている。この問いかけは、とりあげる多様な生態系と環境の個別性のなかで問題意識を拡散させることを避けるためでもある。

## 履修上の留意点

授業の目標で述べたとおり、自学を進める意欲をもってほしい。放送教材、印刷教材だけでなく、授業の中で示される文献資料、および文化人類学の基礎的な文献について、一定程度の自習が必要とされる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 環境問題への文化人類学的アプローチ | 環境問題に文化人類学はどのように接近できるかについて導入の講義。文化の中核である生についての価値、生活様式と自然（生態）環境との関係、相互のフィードバックについて考え、文化にとっての環境変化の意味を探る。<br>【キーワード】<br>文化、生活様式、環境変化、生態 | 内堀基光 | 内堀基光<br>本多俊和 |
| 2 | 列島の両端：沖縄の自然環境、北海道アイヌ民族の文化環境 | 比較的身近な日本の環境問題を具体例としてとりあげ、課題の全体像を描く。地域（北海道、沖縄）からの視点を生かす。二風谷地域のアイヌ民族伝統的生活空間イオルを主題に戦前環境の「復元」と、イオルをめぐる社会的環境考察する。沖縄で気候変動の変動が珊瑚礁におよぼす生物学的な影響と、珊瑚礁の変化による地元の生業活動や観光という社会的な側面を取りあげる。<br>【キーワード】<br>アイヌ、沖縄、地域文化、イオル、珊瑚礁 | 本多俊和 | 本多俊和 |
| 3 | 都市環境と都市文化 | 都市は現代の人類にとって重要な生活環境である。人類文明史における都市の意義から論をはじめ、南アジア、アフリカの都市生活の環境問題を取りあげる。都市の生活形態そのものがもたらす環境汚染と、それを解決するための生活実践を見る。<br>【キーワード】<br>都市、文明、アフリカ、アジア、衛生 | 内堀基光 | 内堀基光 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 生活用水および大気と居住環境 | 飲用水と生活用水の確保は、生存にとって重要な問題である。水は環境中の自然循環に由来するために、病原性をもつ微生物や化学物質を含む可能性がある。人類はそれぞれの社会ごとに、飲用あるいは生活に利用するのに「適した水」と「適さない水」を区別し、生物学的・文化的に安全な水を利用できるような仕組みを作り上げてきた。大気は、温暖化・オゾン層の破壊などによって人類全体の環境問題となりつつある。この問題に人類学はどのような貢献ができるだろうか。<br>【キーワード】<br>飲料水、生活用水、温暖化、大気、共有地の悲劇 | 梅崎昌裕（東京大学医学系研究科・准教授） | 梅崎昌裕 |
| 5 | 自然災害と環境激変にたえる生活と文化 | 地震、火山噴火などの大自然災害による環境の激変に住民はどう対処したか。そのなかで文化はどういう役割を果たしえたのか、あるいはこうしたカタストロフィックな事態のなかで、文化はどのような変容を強いられたか。古代における自然災害への対応や、自然災害と文明の盛衰についても考察する。<br>【キーワード】<br>地震、火山噴火、自然災害、アエタ、文化の自覚化 | 稲村哲也（愛知県立大学国際文化研究科・教授） | 稲村哲也 |
| 6 | 極北地帯の環境：イヌイト社会と気候変動 | 極北の事例として、北部グリーンランドの採集狩猟社会と、南部グリーンランドの農業・ヒツジ放牧に気候変動（「温暖化」）がおよぼす影響を比較する。この章では、自然環境と文化・社会的な環境を歴史的な視点から現代の気候変動を考える。<br>【キーワード】<br>極北、気候変動、文化・社会環境、経済 | 本多俊和 | 本多俊和 |
| 7 | 病気と環境 | 近代では、地球上における人の流れが加速されたことにより、地域生態系ごとの問題であった感染症は地球規模の疾患となった。食生活および身体活動パタンの変容により、心血管疾患など生活習慣と強い関連をもつ疾患が増加した。本章では、極北イヌイトと南太平洋住民に焦点をあてながら、人類が経験してきた近代化あるいは近代医療の受容と疾病構造の変化のプロセスを紹介する。<br>【キーワード】<br>健康、病気、近代化、近代医療、南太平洋、極北 | 本多俊和<br>梅崎昌裕 | 本多俊和<br>梅崎昌裕 |
| 8 | 河川と湖沼をめぐる環境問題と生活文化 | 河川と湖沼という陸水をめぐる環境問題と住民の社会文化の変容を、利水、治水という人間の経済活動との関連を中心に論ずる。歴史的に長い視野を含みつつ、現代の文脈では途上国における開発問題との関連で、東アジア、東南アジア、アフリカなどの地域における事象を具体例として取りあげる。<br>【キーワード】<br>陸水、アラル海、灌漑、水力社会、開発環境 | 内堀基光 | 内堀基光<br>梅崎昌裕 |
| 9 | 山岳地域の文化と環境問題 | アンデスとヒマラヤを取りあげ、多様な環境を内部に有する山岳地域の伝統的な環境利用システムの特徴、複雑で多様な背景を有するグローバルな環境問題、ローカルな環境問題、その相互関係などを検討する。<br>【キーワード】<br>山岳、熱帯高地、アンデス、ヒマラヤ、ラクダ科動物、ヤク | 稲村哲也 | 稲村哲也 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 草原と砂漠における社会文化と環境問題 | 国境をはさんで隣接し、異なる社会体制と歴史をもつモンゴル国と中国内モンゴル自治区をとりあげ比較する。乾燥地域に適合した持続的な生業としての遊牧が、近代化や国の政策によって変化し、それが環境問題にどのような影響を与えたか。また環境問題に対処する政策が社会にどのような影響を与えたかを考察する。<br>【キーワード】<br>草原、砂漠、モンゴル、内モンゴル自治区、遊牧、生態移民 | 稲村哲也 | 稲村哲也 |
| 11 | 森林の環境と文化 | 森林の保全と地球環境全体の関連を概括し、また人類と森林の関係史を概略する。そこから、熱帯林と北方林に居住する狩猟採集民、農耕民の生態環境利用に論を進め、森林の減退がその生活文化に与えている影響を考える。森林資源の利用に関わる政治的諸主体と現地社会との交渉に着目する。<br>【キーワード】<br>商業伐採、焼畑、狩猟採集民、熱帯林、亜寒帯林、政治生態学 | 内堀基光 | 内堀基光 |
| 12 | エコツーリズムと地域社会 | 自然資源を維持しながら地域の経済にも貢献するエコツーリズムは、現地の社会の伝統的知識を生かしつつ展開されてきたが、外部者からの当該社会と文化への直接的な影響がみとめられる。世界のエコツーリズムを事例にして、その裏面にある現地社会の具体相を考察する。<br>【キーワード】<br>エコツーリズム、伝統的知識、環境保全、生態資源、地域経済 | 池谷和信（国立民族学博物館・教授） | 池谷和信 |
| 13 | 野生生物と人びとの暮らし | 人類はこれまで食肉用を中心として毛皮や薬など、様々な形で野生動物を利用してきた。その結果、絶滅したり、稀少動物となった種も少なくない。その一方、世界中で獣害も問題となっている。ここでは野生動物と地域住民、ひいては人類との共存の可能性を、住民の視点から考える。ここから環境としての生物界と、生き物にとっての環境としての人間存在という対称性の観点に導く。<br>【キーワード】<br>野生動物、獣害、毛皮交易、食文化、狩猟 | 池谷和信 | 池谷和信 |
| 14 | 環境保全をめぐる政治と社会 | 環境破壊、環境劣化を引き起こす諸活動に対抗して、その保全をめざす諸主体のあり方を探る。地域社会の文化に対して、イデオロギーの面を含め、国際組織、NGO、政府機関など組織体の文化というべきものがそこにある。<br>【キーワード】<br>政府、国際組織、NGO、住民コミュニティ、環境イデオロギー | 池谷和信 | 池谷和信 |
| 15 | 人類の生存圏と人類文化 | まとめ：主任講師2名と担当講師1名による鼎談を軸に講義全体を総括する。環境を、人間にとっての環境としてだけでなく、他の生物種にとっての環境としても見るという拡大した視野をも取り入れることにより、地球上における人類の生存圏のあり方に注目し、現在の環境問題が人類の将来にどのような意味をもつかを考える。<br>【キーワード】<br>地球環境、生存圏、人類文化、生物種としての人類 | 内堀基光<br>本多俊和 | 本多俊和<br>池谷和信<br>内堀基光 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940568 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　哲学史における生命概念　　（’１０）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：佐藤康邦（放送大学教授）　　〕

## 講義概要

今日、学問の世界に限っても、様々な領域で生命、生、命という言葉が問題とされている。分子生物学を初めとした生命科学の新たな展開、臓器移植技術の開発、また、生命を脅かす環境問題の深刻化等の現象がそのきっかけとなっているとも考えられる。しかし、それとは別に、古代以来、生命の問題は哲学の重要な領域であった。とりわけ、近代においては、哲学的生の概念が、学問の世界における近代科学の支配に対する何らかの反発の文脈で主張されてきたということもある。そのことをふまえて、生の概念を軸として、哲学というものを捉え直してみる。

## 授業の目標

生概念を中心に据えた上で、西洋哲学史に関する基本的理解を得られることを目指す。たとえば、近代哲学を代表するカントの哲学の体系を構成する批判哲学の場合、第三番目の『判断力批判』になってようやく生命の問題が出てくるが、それはどのような理由からなのかの理解を目指す。また、ニーチェやベルクソンにおける生の概念の近代科学にとっての挑戦的意義を明らかにするとともに、それら哲学的生概念の科学論的意義の理解を目指す。

## 履修上の留意点

この科目で、哲学的生の概念が検討される際、今日の生命にまつわる諸問題は意識されているとは言え、授業の基本は、あくまでも正統的な哲学の研究を目指すものである。したがって、近代哲学を中心にした哲学一般に関する興味と基礎的な知識が必要となる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 序章と古代ギリシア哲学における生命概念（1）－神話から哲学へ | 序章では、生命という主題を哲学の立場から取りあげることの意義について考察する。それに続いて、古代ギリシア人がいかなる形で生命を捉えたのかを見る。ホメロスの神話から始め、ソクラテス以前の古代ギリシアの生命観の検討が行われる。<br>【キーワード】<br>神話、有機体論、プネウマ、アナクシメネス、ヘラクレイトス、プシュケー、アトム論 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 2 | 古代ギリシア哲学における生命概念（2）－プラトンとアリストテレス | まず、プラトンにおけるイデア論に着目する。次にアリストテレスの形相因、目的因、エンテレケイア等の概念に即して、その有機体論的性格を検討する。最後にガレノスに言及する。<br>【キーワード】<br>イデア論、霊魂、ピロソフィア、ピュシス、形相因、資料因、作用因、目的因、エンテレケイア | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 3 | 近世哲学における機械論と有機体論（1）－レオナルドとデカルト | ガリレオ、デカルト、ベーコンの時代は科学革命の時代であり、機械論に先導された近代科学の登場の時代であった。そこでは、生命も、また、機械論の原理によって探究され、その成果がいわゆる「動物機械論」として現れた。ここではそれに先行するレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖学も検討する。<br>【キーワード】<br>解剖学、絵画、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミクロコスモス、動物機械論、デカルト、延長実体、還元主義 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 近世哲学における機械論と有機体論(2)<br>－機械論への反駁 | 機械論的自然観への反駁の例をパスカルとライプニッツに見る。あわせて、現代における、有機体論、目的論との関係についても考える。<br><br>【キーワード】<br>機械論、繊細な精神、幾何学的な精神、目的論、モナド、ニーダム、有機体論 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 5 | ヒュームからカントへ | ヒューム晩年の宗教論における目的論の扱いを見る。それとカントとのつながりを検討する。<br><br>【キーワード】<br>スコットランド倫理学、単純印象、想像力、自然宗教、自然神学、『純粋理性批判』、アプリオリな総合判断、悟性 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 6 | 目的論の観点から見た『純粋理性批判』と『実践理性批判』 | カントの批判哲学を、有機体の理論である目的論との関連の観点から検討する。ここでは、『純粋理性批判』と『実践理性批判』が検討の対象となる。<br><br>【キーワード】<br>理論理性、統覚、超越論的論理学、超越論的弁証論、アンチノミー、実践理性、徳と幸福、神の創造目的 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 7 | 『判断力批判』の研究(1)－美と構想力 | まず『判断力批判』の全貌が検討される。その上で、第一部、美的判断力の批判の検討に入る。とりわけ、構想力が検討の対象となる。<br><br>【キーワード】<br>判断力、美的(直感的)判断力、趣味判断、美、構想力、美的(直感的)規準理念、崇高 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 8 | 『判断力批判』の研究(2)－自然の合目的性 | 『判断力批判』における有機体論が検討される。とりわけ目的論との関わりで検討される。<br><br>【キーワード】<br>目的論的判断力、客観的合目的性、内的合目的性、自然目的、一個のシステムとしての全自然、根源的有機体、オートポイエーシス | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 9 | 『判断力批判』の研究(3)－反省的判断力 | 『判断力批判』における反省的判断力の問題が主題的に検討される。それを通して、ハイデッガーの解釈学的循環とのつながり等、後代の哲学との関わりについて考察する。<br><br>【キーワード】<br>反省的判断力、規定的判断力、アンチノミー、偶然、直観的悟性、全体、部分、解釈学的循環 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 10 | 『判断力批判』の研究(4)－世界の究極目的<br>ヘーゲルにおける生命概念(上) | 『判断力批判』の終結部分で論じられている世界の究極目的について検討する。それと並んで『判断力批判』の後代における継承の過程が検討される。美と生命が哲学の主題となることの意味を確かめる。ついで、ヘーゲルの成立過程と『自然哲学』が検討の対象となる。<br><br>【キーワード】<br>究極目的、最終目的、道徳神学、ドイツ観念論、シェリング、『エンチュクロペディー』、「自然哲学」 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ヘーゲルにおける生命概念（下） | ヘーゲル哲学における生命概念の意義が『精神哲学』の社会哲学に即して検討される。さらに、『論理学』についても生命の観点から検討される。<br><br>【キーワード】<br>「精神哲学」、家族、市民社会、国家、労働、教養、部分、分肢、「論理学」、推理、必然、偶然、自由 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 12 | ニーチェの生哲学（1）－力への意志 | ヘーゲルの体系を最後として、哲学は人文科学の一領域に閉じこもることになる。それ以降、哲学における生命概念は、物理学に指導された近代科学への反発という動機を伴って展開されることになる。その代表的例としてニーチェが扱われる。<br><br>【キーワード】<br>生哲学、ルサンチマン、パースペクティヴィズム、力への意志、永遠回帰、超人 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 13 | ニーチェの生哲学（2）－哲学と音楽 | ニーチェの哲学を、音楽との関係を通じて検討する。リヒアルト・ヴァグナーの芸術との関係が取りあげられる。<br><br>【キーワード】<br>リヒアルト・ヴァグナー、ディオニュソス的、バイロイト、『トリスタンとイゾルデ』、無限旋律、フルトヴェングラー、『カルメン』 | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 14 | ベルクソンの生哲学 | ベルクソンの生哲学を概観する。特に、生概念を進化論との関係のもとで扱う。また、ともすれば、反科学的と受け取られがちの生哲学と科学との対話を模索する。<br><br>【キーワード】<br>直観、時間、空間、純粋持続、創造的変化、生命の跳躍、エントロピー | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |
| 15 | 構造主義と生命科学 | 構造主義は、文化系の学問として展開された。しかし、その構造概念は、20世紀後半には、生物学者の注目するところとなった。ここでは、その構造概念を介しての、文化科学と自然科学の対話の例を追ってみる。<br><br>【キーワード】<br>構造主義、構造、形態、レヴィ＝ストロース、民族学、象徴、図式、言語、ネオ・ダーウィニズム | 佐藤康邦 | 佐藤康邦 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8940584 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　美学・芸術学研究　　（’１３）＝　（TV）

〔主任講師（現職名）：青山昌文（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

## 講義概要

美学は、美とは何か、を考える学であり、芸術学は、芸術とは何か、を考える学である。美は、芸術に限らず、自然にも存在している。本講義は、自然美にも言及するが、考察の主体を芸術美におき、芸術が、文化の総体と深く豊かに関わっていることを、具体的芸術作品に即しながら、詳しく考察する。前半においては、全体に亘る体系的な考察を行い、後半においては、世界史上初の本格的美術批評家であったディドロの美学・芸術学の深く豊かな意義を明らかにしてゆきたい。

## 授業の目標

美学が、芸術鑑賞のために役立つだけではなく、芸術創造にも寄与する、実践の学であることが、分かるようになることが、講義の目標である。また、芸術学が、芸術一般の本質についての原理的考察の学であるだけではなく、絵画・彫刻・音楽・演劇・文学・映画等の諸芸術の具体的芸術作品の解明に役立つ学であることが、分かるようになることも、講義の目標である。以上の点を踏まえて、美と芸術が、世界の素晴らしい本質の精華であることを、大学院レベルで厳密に理解することが、本講義の最終目標である。

## 履修上の留意点

放送大学では、学部の講義として、「芸術史と芸術理論（’10）」と「社会の中の芸術（’10）」、更には、「舞台芸術への招待（’11）」が開講されている。これらは、学部の講義ではあるが、本講義と密接に関連しているので、是非、これらの講義も、学んで戴きたい。なお、本講義は、1997年より開講された学部講義「芸術の古典と現代」と、前半において、重複している部分があるが、この講義は、大学院が設置されていなかった時代に開講された講義であり、内容的には、大学院に相当するレベルのものを多く含んでいた講義であった。もちろん、本講義は、この学部講義と異なるものを多く含んでおり、また、重複部分においても、多くの改訂・増補がなされている。かつての「芸術の古典と現代」を受講された方は、この点に留意されて本講義を受講して戴きたい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 美と芸術について | 始めに、「美」や「芸術」という言葉の語源を、日本語・ラテン語・ギリシア語において考察し、次に、「芸術」概念の誕生について述べ、その後、美学と芸術学の基本を語った後に、芸術と学問の深い関わりを明らかにし、現代芸術についても、その深い意味を明らかにする。<br>【キーワード】<br>美、芸術、美学、芸術学、学問、現代芸術、現代社会 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 2 | 美の本質 | 始めに、プラトンの美の階梯説について述べ、次に、アリストテレスの美学を考察し、その後、バウムガルテンの美学の転向について語り、デカルトに始まる近代の主観主義の問題点を明らかにして、そのデカルトと対立するライプニッツのモナド論美学を考察した後に、私自身の美学（青山美学）の一端を披瀝する。<br>【キーワード】<br>プラトン、アリストテレス、バウムガルテン、デカルト、ライプニッツ、青山昌文 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 3 | 芸術の本質 | 始めに、近代以前の時代における芸術の在り方の様々な特質について述べ、近代のイデオロギーでは古典芸術は理解できないことを明らかにする。次に、古典的芸術理論の深い意味を明らかにして、芸術と学問が、実は、同じ世界の本質に迫ろうとするものであることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>芸術、近代、芸術のための芸術、ミーメーシス、学問 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 自然美と芸術美 | 始めに、ヘーゲルの自然美を低く見る立場の限界を指摘し、次に、プラトンとアリストテレスにおける自然の哲学的位置を明らかにして、その後、ヨーロッパにおいて、山岳美が、いかにして認知されていったかについて語る。更に、廃墟の美と、＜無限性の美学＞について語る。<br>【キーワード】<br>ヘーゲル、プラトン、アリストテレス、山岳美、無限性の美学 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 5 | 美術 | 始めに、レオナルドの芸術論について語り、次に、古典主義における絵画の序列と、芸術作品の重層性について語る。その後、《ラオコーン》と《メディチのヴィーナス》を例に、古典彫刻における世界本質表現を明らかにする。<br>【キーワード】<br>レオナルド、古典主義、絵画の序列、古典彫刻、世界本質表現、《ラオコーン》、《メディチのヴィーナス》 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 6 | 場共生芸術――音楽・演劇―― | 始めに、ヨーロッパ中世の＜宇宙の音楽＞美学について語り、次に、ヴァーグナーの音楽の超近代主観主義を明らかにして、音楽のコスモロジーの現代性を明らかにする。モーツァルトと現代複製音楽についても語り、最後に、演劇について、《木六駄》を例に、その本質を明らかにして、舞踊についても語る。<br>【キーワード】<br>＜宇宙の音楽＞、ヴァーグナー、コスモロジー、モーツァルト、現代複製音楽、《木六駄》、舞踊 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 7 | 場超越芸術――文学―― | 始めに、スカリジェルの＜古代人の模倣＞理論について語り、次に、ダンテのミーメーシスについて明らかにして、その後、ゾラの自然主義について、その19世紀的側面と、正統的な古典的ミーメーシス理論の面を明らかにする。最後に、クンデラの反近代主観主義について語る。<br>【キーワード】<br>スカリジェル、＜古代人の模倣＞、ダンテ、ゾラ、クンデラ | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 8 | 場超越芸術――映画―― | 始めに、映画芸術の歴史の短さについて語り、次に、映画がかつて芸術とは認められなかったことの不当性を明らかにして、映画が芸術であることを述べ、パノフスキーの＜空間の動態化＞理論の紹介の後、《2001年宇宙の旅》と《アヴァター》を例に、映画芸術のもっている意味を明らかにする。<br>【キーワード】<br>映画、ランゲ、バザン、パノフスキー、＜空間の動態化＞、《2001年宇宙の旅》、《アヴァター》 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 9 | 建築 | 始めに、ウィトルーウィウスの建築美学について語り、次に、アルベルティの建築美学、ゴシック建築のスコラ哲学性、ロココ建築の現世性について語って、その後、モダニズム建築とポストモダニズム建築の本質を明らかにする。<br>【キーワード】<br>ウィトルーウィウス、ゴシック、モダニズム、ポストモダニズム、ヴェンチューリ、象設計集団、《名護市庁舎》 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 10 | 芸術の体系的分類 | 始めに、アリストテレスの芸術分類について詳しく語り、次に、ヘーゲル、カインツ、スーリオ、竹内敏雄、今道友信の芸術分類について語ったあと、私自身の芸術分類美学の一端を披瀝する。<br>【キーワード】<br>芸術分類、アリストテレス、ヘーゲル、カインツ、スーリオ、竹内敏雄、今道友信、青山昌文 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 美術館の政治性とルーヴル美術館の歴史 | 始めに、都市の本質と美術館の公共性・政治性について語り、次に、ルーヴル美術館の歴史を、ルーヴル宮殿の時代から述べ、ルーヴルにおける展覧会の歴史とディドロの美術批評について語ったあと、現代におけるルーヴル美術館の文化的表象装置としての意味を明らかにする。<br>【キーワード】<br>都市、公共性、帝冠様式、ルーヴル美術館、展覧会、ディドロ、美術批評、文化的表象装置 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 12 | ディドロ美学の始源 | 始めに、現代の或るフランス人研究者のディドロ美学解釈の誤りを指摘し、次に、最初期のディドロ美学を、シャーフツベリの著書のディドロによる自由訳において、詳しく厳密に考察する。ディドロ美学が、始めから、極めて一貫した、実在論的美学であり、＜全存在連鎖としての自然＞の哲学の上に立つ、深い、存在論的美学であることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>ディドロ、シャーフツベリ、実在論、＜全存在連鎖としての自然＞、存在論 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 13 | ディドロの関係の美学 | ディドロの＜関係の美学＞を、『百科全書』の項目＜美＞において、詳しく厳密に考察する。ディドロ美学の反主観主義を明らかにして、美の超認識主観的実在性を明らかにする。更に、ディドロ美学における、＜関係＞の深い意味を論じて、ディドロ美学が、実在論的な存在充実の美学であることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>ディドロ、＜関係の美学＞、超認識主観的実在性、存在充実 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 14 | ディドロの美術批評――シャルダンについて―― | 世界史上、最初の本格的美術批評を創始したディドロの美術批評が、ディドロ美学の上に立つ、首尾一貫した美術批評であることを明らかにする。シャルダンの作品についての、ディドロの鋭い分析が、シャルダン作品の本質を明らかにするものであり、自らの＜一における多の再現＞の美学に基づく、存在論的な美術批評であることを明らかにする。<br>【キーワード】<br>ディドロ、美術批評、シャルダン、＜一における多の再現＞、内なる声、ミーメーシス | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |
| 15 | ディドロの演劇美学 | 演劇美学史上に名高い、ディドロの『俳優に関する逆説』における演劇美学を、詳しく考察する。ディドロの無感受性演技論の真の意味を明らかにして、その演劇論が、＜理想的モデル＞のディドロ美学に基づくことを明らかにする。スタニスラフスキー・システムの真の意味をも明らかにして、ディドロ演劇美学の、現代性と実践性を明らかにする。<br>【キーワード】<br>ディドロ、無感受性演技論、＜理想的モデル＞、スタニスラフスキー・システム、演劇実践美学、創造の美学 | 青山昌文（放送大学教授） | 青山昌文（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940592 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　アフリカ世界の歴史と文化　（’１３）＝　(R)
ーヨーロッパ世界との関わりー

〔主任講師（現職名）：草光俊雄（放送大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：北川勝彦（関西大学教授）〕
【本学担当専任教員：】

講義概要

この科目は地域文化研究IIIを引き継ぐもので、前回ヨーロッパの歴史と文化という枠組みのなかで「旅」をキーワードとして考える科目であったが、今回は「ヨーロッパとアフリカ」という視点から、古代ギリシア・ローマの時代から現代まで、ヨーロッパとアフリカとの関係をさまざまなテーマで考えていきたい。地中海を挟んでヨーロッパとアフリカは古来、密接な関係を築いてきた。近代にはその関係が一方的な支配・被支配、奴隷制の展開、植民地化といった不幸な関係に変質していった。それぞれの時代にヨーロッパがアフリカをどう見ていたか、またアフリカがヨーロッパに対してどう関わってきたかを歴史学、文学、人類学などさまざまな分野の学問を動員して考察する。

授業の目標

大学院科目にふさわしく、広い視野から問題を考える、ときには当該のテーマについて深く探究する、という姿勢を学生たちが身につけてほしいと考えている。

履修上の留意点

学部の授業では、「地中海世界の歴史（’09）」;「ヨーロッパの歴史と文化（’09）」を履修することが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | アフリカ地域認識、アフリカ史研究のパラダイムの変遷、19世紀までのアフリカ史理解の枠組み、20世紀の研究動向、21世紀の新動向などを概観する。アフリカ史への導入。<br><br>【キーワード】<br>ヨーロッパ史中心史観、ナショナリスト史、アフリカ人ディアスポラ、ジェンダ史 | 草光、北川 | 草光・北川 |
| 2 | ギリシャ・ローマ時代のアフリカ | 北アフリカ（エジプトとカルタゴ）、北東アフリカ（ヌビアとエチオピア）が初期アフリカ史において果たしていた重要な役割を検討しながら、初期アフリカ文明が地中海、紅海、インド洋を舞台にして、南ヨーロッパ地域と相互に交流していたことを明らかにする。<br><br>【キーワード】<br>古典・古代、ローマ帝国、交易、 | 草光 | 草光・北川 |
| 3 | キリスト教とアフリカ～植民地化以前～ | アフリカでは初期キリスト教が根付いており、新たな宗教の最初の改宗者として、また神学者として中心的な役割を果たしてきた。しかし19世紀にミッショナリーの出現によってアフリカでのキリスト教の歴史も異なってくる。<br><br>【キーワード】<br>キリスト教、アウグスティヌス、修道院、エジプト、ヌビア、エチオピア | 石川博樹（東京外国語大学・助教） | 石川・草光・北川 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | イスラーム教の拡散とアフリカ | アフリカの多くの地域はムスリムがDar al-Ismal（平和の住むところ）と呼び、イスラームが人びとの暮らしを教え導く世界の一部となってきた。イスラームのアフリカへの拡大が宗教と文化と人びとをどれほどブレンドしてきたかを考える。<br>【キーワード】<br>ムハンマド、クルアーン、ベルベル人、サハラ越え交易、ラマダーン、シャリーア | 北川 | 北川・草光 |
| 5 | 「東方三博士の礼拝」図像におけるアフリカ・黒人の表象 | 《東方三博士の礼拝》という図像表現におけるアフリカ,あるいは黒人の出現について,歴史的に俯瞰し,ヨーロッパキリスト教文化にとっての必然性・必要性について考えてみる.<br>【キーワード】<br>マギ、キリスト教図像学（イコノグラフィー）、プレスター・ジョン伝説とオスマン帝国,ボス,ブリューゲル,「オリエンタリズム」 | 宮下志朗 | 宮下・草光・北川 |
| 6 | インド洋とアフリカ―スワヒリ都市の社会と文化― | インド洋交易は東アフリカをイスラーム世界の中心部に結びつけた。スワヒリ世界の都市国家は海洋交易で互いに競い合い、西インド洋の長距離交易を行っていた。そこには宗教と文化の統一性があった。<br>【キーワード】<br>インド洋世界、モンスーン、アザニア、ダウ船、スワヒリ、西インド洋、マダガスカル | 北川 | 北川・草光 |
| 7 | 大航海時代とアフリカ | アフリカはヨーロッパの世界進出の足がかりであった。ポルトガルは東アフリカで最初の沿岸帝国を建設しようとした。強大な軍事力を背景としたヨーロッパのアフリカの破壊により海岸部の生活は大きく変化した。次にアラブ人たちの帝国が出現する。アフリカはグローバルの覇権争いのなかで大きく変化していった。<br>【キーワード】<br>サハラ交易、金、塩金交易、エンリケ航海王子、アフリカ沿岸帝国、スワヒリ都市、インド洋交易、ヴァスコ・ダ・ガマ | 草光 | 草光・北川 |
| 8 | 奴隷制度とアフリカ（1）―大西洋奴隷貿易以前の奴隷制と奴隷貿易― | アフリカ人移動の歴史について大西洋奴隷貿易が注目されるが、それよりも長い歴史を持つサハラ砂漠越えとインド洋の奴隷貿易が存在していたことはあまり知られていない。二つの奴隷貿易の違いを検証し、アフリカ人にとっての奴隷貿易について考える。<br>【キーワード】<br>奴隷制、奴隷貿易、資産奴隷、 | 北川 | 北川・草光 |
| 9 | 奴隷制度とアフリカ（2）―大西洋奴隷貿易― | 奴隷化されたアフリカ人は1500年以降、新興の大西洋世界を建設する上で重要な役割を演じた。しかしアフリカにおける奴隷貿易の特質についてまだ検討の余地が残っている。それらの問題を考えていく。<br>【キーワード】<br>大西洋奴隷貿易、三角貿易、中間航海 | 北川 | 北川・草光 |
| 10 | 啓蒙ヨーロッパとアフリカ | ヨーロッパ啓蒙主義は宗教と古い因習を否定し相対的な文明観を近代的思考にもたらしたが、一方で歴史的段階論を唱え、未開社会から近代社会への歴史の進歩史観を定着させた。その際アフリカは未開社会の典型として描かれるようになる。啓蒙主義がアフリカ向けた眼差しを検証し、アフリカがそれから何を学んだかをあわせて考える。<br>【キーワード】<br>啓蒙主義、モンテスキュー、百科全書、ヒューム、スミス、博物学、リンネ、スパルマン、ビュフォン | 草光 | 草光・北川 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ヨーロッパによる植民地化（1）—ヨーロッパ人の征服とアフリカ人の対応— | 19世紀ヨーロッパの主要国による帝国主義的な世界介入・侵略の矢面に立ったのがアフリカであった。20世紀の初頭には「アフリカの略奪」が完成し、列強は制服から統治（ガバナンス）へとシフトしていく。植民地行政ののシステム確立とそれによるアフリカの経済的利用である。そのためのアフリカの「平和的利用」を樹立するプロセスを検討する。<br>【キーワード】<br>アフリカ分割、ミッショナリ、ベルリン西アフリカ会議 | 北川 | 北川・草光 |
| 12 | ヨーロッパによる植民地化（2）—植民地統治・植民地経済・社会変化— | 列強による植民地化は合法化のプロセスであり、そのため植民地支配を「愛他主義」の観点から正当化した。アフリカの文明化を実行するヨーロッパというイメージが作り上げられだ。この章では植民地統治のさまざまなモデルを検証する。<br>【キーワード】<br>間接統治、直接統治、移住植民地、プランテーション農業、小農生産、労働移動 | 北川 | 北川・草光 |
| 13 | アフリカの独立とヨーロッパの対応（1）—第二次世界大戦～70年代— | 第二次大戦の終了はグローバルな政治の新しい時代を開いた。ヨーロッパは疲弊し、それに変わるアメリカ合衆国とソ連という強国が台頭した。この2大強国を中心とした冷戦はアフリカにも壊滅的な影響をもたらした。一方第二次大戦は解放運動の時代の出現の契機ともなった。アフリカはその当事者でもあった。脱植民地化の動きである。アフリカ諸国はどのようにして独立の道を進んだのか。その過程を検証する。<br>【キーワード】<br>第二次世界大戦、民族解放、脱植民地化 | 北川 | 北川・草光 |
| 14 | アフリカの独立とヨーロッパの対応（2）—1980年代・1990年代— | 独立達成後、申請アフリカ諸国の指導者や市民は、自らが新しい挑戦すべき課題に直面した。冷戦の国際政治はアフリカ諸国をイデオロギー闘争に巻き込んでいった。新興国家はその内部で政治システムを開発するために苦闘していいた。20世紀後半のアフリカの歴史は20世紀後半の政治史の勝利と悲劇に象徴されている。<br>【キーワード】<br>ポスト冷戦、低開発、崩壊国家、アフリカ連合、アフリカ文化、ジェンダー | 北川 | 北川・草光 |
| 15 | アフリカ世界の歴史と文化を学び終えて—新世紀の新展望— | 1970年代80年代はアフリカにとって経済的には「衰退の20年」政治的には「困難の20年」であった。しかし冷戦の崩壊と共にアフリカには希望の兆しが現れる。民主化の波が押し寄せ独裁政権や軍事政権は相対的に弱体化し、自立した経済復興も見られるようになる。アフリカの今後はもちろんすべてが楽観的ではないが、将来のアフリカを展望することで講義を終える。<br>【キーワード】<br>経済発展、民主化 | 草光・北川 | 草光・北川 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940541 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　東アジアの歴史と社会　　（’１０）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：吉田光男（放送大学副学長）　　〕

講義概要

中国と朝鮮を舞台にして、4人の講師が、各自の研究テーマに基づいてオムニバス形式で講義を行う。学説史・研究動向・史料的状況を基礎として、史料を用いた研究の方法を、具体的な事例の読み解き方を基礎として展開する。定説や通説を無批判に自明の理とすることなく、史料に基づき、社会学・経済学・人類学・文学など隣接諸分野を含めた新たな理論や方法論を取り入れてより豊かな歴史像を描き出す道を探求する。

授業の目標

講師ごとに提示される、歴史研究の多様な方法や視点を学び、東アジア史研究の最前線がどのような研究をしているのかを理解するとともに、史料批判と史料読解に基づく歴史研究の方法を身につける。また、現代の国家的枠組みにとらわれない、時代的実態に合わせたフレキシブルな地域理解を目標とする。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 総説—東アジア史を研究する視点 | 本講座で検討対象とする東アジア（中国・朝鮮）史の研究方法について、中国史・朝鮮史を専門とする4人の講師がそれぞれの立場から論じる。従来の研究を基礎としながら、第2章から始まる各論を見すえて全体像を提示し、実際の東アジア史研究をどのように行うかについて示していく。<br>【キーワード】方法、史料、理論、環境 | 上田信（立教大学・教授）<br>鶴間和幸（学習院大学・教授）<br>橋谷弘（東京経済大学・教授）<br>吉田光男（放送大学・副学長） | 上田信（立教大学・教授）<br>鶴間和幸（学習院大学・教授）<br>橋谷弘（東京経済大学・教授）<br>吉田光男（放送大学・副学長） |
| 2 | 中国文明から東アジア文明へ—文明の多様性と多元性 | 中国文明の舞台は黄河と長江が作り出した平原にある。その自然環境の変化と地域文化の多様性に注目しながら、中国文明が東アジア文明として広がっていくことを見ていく。紅山遺跡の玉器と三星堆遺跡の青銅器を素材として取り上げる。<br>【キーワード】黄河、長江、良渚文化、紅山文化、星堆遺跡 | 鶴間和幸（学習院大学・教授） | 鶴間和幸（学習院大学・教授） |
| 3 | 古代中華帝国の成立—始皇帝の時代 | 中国史上最初の帝国と皇帝の誕生の歴史を資料に基づいて見ていく。始皇帝の秦時代の暗殺未遂事件の解明、統一後の巡行と刻石（顕彰碑）の検討を中心に進めていく。基本文献である『史記』への見直しでもある。<br>【キーワード】『史記』、画像石、統一、巡行、刻石、始皇帝陵 | 鶴間和幸（学習院大学・教授） | 鶴間和幸（学習院大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 隋唐帝国―東アジア世界における古代 | 秦漢帝国に続く隋唐帝国を東アジア世界から見ていく。内陸の帝都長安も実は東方の平原や東アジアの海域とつながっていた。遣隋使や遣唐使の海域の海路と中国の運河の水運ネットワークの結びつきなども解明していく。<br><br>【キーワード】関隴集団、長安、運河、遣唐使、張宝高、新羅、東アジアの海 | 鶴間和幸（学習院大学・教授） | 鶴間和幸（学習院大学・教授） |
| 5 | モンゴル帝国以後の海域アジア史 | 13世紀以降、中国の歴史を、東シナ海・南シナ海・インド洋と連なる海域アジアとの交流のなかで、大局的に把握する。そこに活躍する人々の姿を、歴史として見るためには、どのような方法があるのだろうか。科学を標榜する歴史学は「英雄史観」から脱却するために、人物を描くことに消極的であった。一個の人物の多様な側面を、史料を通じて客観的に把握するめための方法を提示する。<br><br>【キーワード】生態環境史、文明の生態史観、文明の海洋史観、人格の標識 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |
| 6 | 碑文を通してみる明初の世界―鄭和 | 七回にわたる大航海をしたことで知られる鄭和は、雲南のムスリムの家に生まれた。明軍の雲南攻略のなかで去勢され、明朝第3代の皇帝・朱棣（永楽帝）の宦官となった鄭和が、なぜ大航海の率いることになったのか。この航海がその後の中国に残したものは何だったのか。鄭和に関する碑文を読み解くことで、明らかにしてゆく<br><br>【キーワード】明朝、海禁政策、朝貢、宦官 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |
| 7 | 武装海洋商人の世界―王直 | 新安商人として知られる商人グループの故郷・徽州で生まれた王直は、なぜ倭寇の統領として名を歴史に留めることになったのか。王直本人が記したとされる上訴を読み解くことで、考察していく。明朝・ポルトガル人・日本人など、立場を異にする人々が記した史料から、日本に拠点をおいた王直の実像に迫る。また、今日における日中間の人物評価の違いにも目を向ける。<br><br>【キーワード】後期倭寇、、王直上訴、種子島への鉄砲伝来 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |
| 8 | 清朝の勃興と海域アジアの変容―鄭成功 | 日本人を母に持ち、中国海洋商人を父とする鄭成功がどのようなヴィジョンを持っていたのか、オランダ語史料に残された鄭成功が出した布告を手掛かりにして迫る。また、「実録」と呼ばれる史料の読み方を示す。<br><br>【キーワード】平戸、海洋商人、オランダ東インド会社、タイオワン、実録の読み方 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |
| 9 | 清代行政文書から見える社会―陳弘謀 | 清代を通じて最も有能な地方官僚の1人として知られる陳弘謀は、詳細な行政文書を後世に残した。この文書を読み解くことで、18世紀の人口爆発に清朝がどのように対応しようとしたのか、地方の情報を官僚がどのように把握していたのか、地方官は皇帝とどのような関係を持っていたのか、具体的に知ることができる。海域アジアに在住する華人への政策をめぐる公文書を読む。<br><br>【キーワード】科挙、地方官、人口爆発、食料輸入清代行政文書 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 近代世界システムと中国―ウィリアム=ジャーディン | アヘン戦争の仕掛け人として、中国史に悪名を残すジャーディンは、スコットランドで生まれ、イギリス東インド会社の船医からカントリー・トレーダーに転身、茶葉とアヘンの交易で活躍する。彼が創立したジャーディン・マセソン商会は、アジア有数の商社として、発展を遂げる。転機となったアヘン戦争を、書簡から読み解いていく。<br><br>【キーワード】イギリス東インド会社、アヘン戦争、ジェントルマン資本主義 | 上田信（立教大学・教授） | 上田信（立教大学・教授） |
| 11 | 高麗と元帝国・東アジア | モンゴルと高麗の間は、支配服属関係で語られる。しかし、高麗国王は元の王女を妻にむかえ、元王室の婿として駙馬高麗国王という特殊な地位を得た元王室の一員の地位にもあった。元の強大な軍事力による東アジアの変動の中で高麗のとった外交政策が可能だった背景を探り、朝鮮史料を中心として考察することによりし、日本・中国から見たのとは異なった東アジア史像を構想する。<br><br>【キーワード】モンゴル、元、高麗、元寇、支配、服属 | 吉田光男（放送大学・副学長） | 吉田光男（放送大学・副学長） |
| 12 | 東アジアの国際関係と近世の朝鮮 | 近世の日朝関係において、朝鮮王朝から江戸幕府に派遣されてきた通信使が注目されている。東アジアの外交現場で、お互いの利益をかけた戦いが繰り広げられていた。さらに朝鮮は清に燕行使を派遣し、北方の安定化もはかっていた。それぞれがどのような思惑で国際関係を結んでいったのか、日本・朝朝・中国の史料を対比しながら、同時代の歴史的リアリティーに迫る方法を探求する。<br><br>【キーワード】通信使、燕行使、外交、倭館、交隣、清 | 吉田光男（放送大学・副学長） | 吉田光男（放送大学・副学長） |
| 13 | 戸籍で見る朝鮮の近世社会 | 朝鮮王朝は14世紀末の創建以来、3年ごとに全国一律の住民調査を行い、戸籍大帳というかたちでまとめていた。この戸籍大帳を資料として用いて、朝鮮近世社会の実態を人口を通して探求する。また、歴史学における通説的理解のできかたと問題点、その批判と克服の方法について提示してみる<br><br>【キーワード】人口、身分、両班、通説、戸籍、歴史人口学 | 吉田光男（放送大学・副学長） | 吉田光男（放送大学・副学長） |
| 14 | 植民地期の朝鮮 | 朝鮮における植民地支配の歴史を取り上げ、欧米の植民地支配との比較、産米増殖計画、植民地工業化の意味、植民地都市の形成、皇民化政策などの問題について、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、解放後の歴史との関連や、現代からの視点も意識して取り入れる。<br><br>【キーワード】植民地　産米増殖計画　植民地工業化　植民地都市　皇民化政策 | 橋谷弘（東京経済大学・教授） | 橋谷弘（東京経済大学・教授） |
| 15 | アジアNIESとしての韓国 | 20世紀後半の世界史特徴づけるアジア工業化の一環としての韓国の工業化の歴史を取り上げ、欧米や日本の工業化との比較、アジアNIES（新興工業経済地域）の工業化プロセスの特徴などについて、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、「ポストアジアNIES」ともいえる80年代以降の展開についても考察する。<br><br>【キーワード】工業化　アジアNIES　輸出志向　外資導入　開発独裁 | 橋谷弘（東京経済大学・教授） | 橋谷弘（東京経済大学・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940509 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　日本の歴史と社会　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：五味文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉森哲也（放送大学教授）〕

## 講義概要

この講義は日本の歴史と社会を、都市という切り口から探ってみるものである。都市は政治・文化・社会の結節点にあることから、その都市の成立と展開の歴史を古代から現代にいたるまで探って、まず日本における都市社会の展開の道筋を追い、さらに建築空間の様相から都市の新たな展開の方向性をも捉える。

## 授業の目標

日本において都市がどのように形成されてきたのか、都市が歴史的社会のありかたをいかに映し出しているのか、都市に凝縮された様々な社会関係はどうあったのか、日本の都市はどのような特色を帯びているのか、また今後、都市はいかなる方向をめざしているのか。これらの課題を考える材料となることをめざす。

## 履修上の留意点

特にないが、学部の日本史関連の科目もあわせて学習することを希望する。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 総論－日本の都市と社会－ | 日本において都市がいかに形成され、どう展開していったのかという問題を考える。これにより都市の視点から歴史と社会・文化とのかかわりを多角的に探ることの意味を提示したい。<br>【キーワード】<br>都市論 | 五味文彦（放送大学教授） | 五味文彦（放送大学教授） |
| 2 | 日本古代の飛鳥 | 5～6世紀の日本はヤマト王権の勢力が各地に伸張し、朝鮮三国に対抗しうる存在となった。都城成立以前のこの時期はいわゆる歴代遷宮の時代であり、政権の拠点となる本格的都市は建設されていない。しかし7世紀になって宮が飛鳥に集中すると、飛鳥には次々に宮殿や寺院などの公的施設が造営され、次第に政権拠点としての形を整えていった。その姿は、天皇家と蘇我氏との間の権力抗争の姿でもあった。<br>【キーワード】<br>蘇我氏と飛鳥寺、飛鳥の諸宮、飛鳥浄御原宮、飛鳥の公的施設 | 北村優季（青山学院大学教授） | 北村優季（青山学院大学教授） |
| 3 | 平城京の成立 | 平城京の広さは、今日からみても驚くべき規模であるが、なぜそうした巨大な都市を日本古代の人々が造営したのか、その理由を考えるのが今回のテーマである。この時期の「律令」は、自国を唐と並立する国と位置づけたが、そのゆえにこそ日本に長安を再現する必要があった。また同時に、都城は畿内豪族を天皇の元に再編する空間ともなっていた。平城京は思想の産物であるとともに、天皇を中心とする権力再編の場でもあった。<br>【キーワード】<br>律令国家の世界観、長安の再現、宅地の班給、権力集中の場 | 北村優季（青山学院大学教授） | 北村優季（青山学院大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 平安時代の京都 | 8世紀末に造営された平安京はその後も朝廷によって維持・管理がなされたが、10世紀後半になると、右京の荒廃が顕著になり左右対称の構造が崩壊した。摂関時代には左京を中心として寝殿造による貴族邸宅や諸司厨町が展開したが、院政期になると、里内裏の造営が盛んになるのと平行して大内裏（宮城）が空洞化しさらに白河・鳥羽に上皇の政治拠点が作られるなどしたため、京都には左京域を中心とする新たな都市空間が展開した。<br><br>【キーワード】<br>右京の荒廃、大内裏と里内裏、庶民の祭礼、白河と鳥羽 | 北村優季（青山学院大学教授） | 北村優季（青山学院大学教授） |
| 5 | 中世都市の形成 | 11世紀から13世紀にかけて、博多や京都・奈良・鎌倉などの中世都市がいかに形成されてきたのかを探って、都市が中世社会にとってどのような位置を占めていたのかを考察する。<br><br>【キーワード】<br>政治都市、宗教都市、港湾都市 | 五味文彦（放送大学教授） | 五味文彦（放送大学教授） |
| 6 | 中世における都市社会の展開 | 12世紀から14世紀にかけての中世社会において、都市社会がどう展開していったのかを、東アジア世界との関わりや日本列島の新たな流れのなかから考える。<br><br>【キーワード】<br>市、宿、湊 | 五味文彦（放送大学教授） | 五味文彦（放送大学教授） |
| 7 | 中世の都市文化 | 15世紀から16世紀にかけて、中世の都市には新たな文化が成長したが、その動きをさぐって、現在につながる都市の諸要素がこの時期に用意されてきたことの意味を探る。<br><br>【キーワード】<br>町、祇園祭り、館 | 五味文彦（放送大学教授） | 五味文彦（放送大学教授） |
| 8 | 城下町の構造 | 城下町は、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で生まれた、新しい都市類型である。近世幕藩制国家における標準的な都市として、十六世紀末から十七世紀初頭頃までの比較的短期間に全国で一斉に展開した。城下町の成立は、日本の都市の歴史なかでも、画期的なことであった。そこで本章では、まず城下町を捉える方法を紹介するとともに、加賀藩の城下町である金沢を事例として取り上げ、その構造について具体的に検討する。次に近世日本が生み出した最大の巨大都市であり城下町でもある江戸を取り上げ、空間的にも社会的にも大きな比重を占めていた武家地の中の大名藩邸の構造について、加賀藩の江戸藩邸を事例として検討する。<br><br>【キーワード】<br>城下町、都市的要素、金沢、江戸、大名藩邸 | 杉森哲也（放送大学教授） | 杉森哲也（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 近世の京都 | 京都は、古代律令国家の都城・平安京として建設されて以来、1200年余の歴史を有する都市である。とりわけ古代から近世に至る前近代において、一貫して国家の中枢的機能を担い続けてきたことは、日本の都市の歴史を考えるうえで非常に重要な事実であると考えられる。第8章では、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する過程で城下町という新しい都市類型が生まれ、それが全国的に展開したことを述べた。それでは都城として成立して以来の歴史を有する京都にとって、近世という時代はどのように位置づけられるのだろうか。本章では、近世の京都に焦点を合わせ、その特徴の一端について検討する。<br><br>【キーワード】<br>京都改造、近世京都、町、町掟、町会所 | 杉森哲也（放送大学教授） | 杉森哲也（放送大学教授） |
| 10 | 札幌の建設 | 札幌は、北海道開拓の拠点として建設された都市であり、一般にその歴史は近代都市として始まるものとして理解されている。しかし、札幌の建設の過程を検討してみると、近世から引き継いだ要素も含まれていることがわかる。本章では、札幌の建設を日本の都市の歴史という文脈の中で捉え直し、再検討することを試みる。<br><br>【キーワード】<br>近世都市、近代都市、札幌、北海道開拓 | 杉森哲也（放送大学教授） | 杉森哲也（放送大学教授） |
| 11 | 開港場の形成 | 19世紀中葉における安政の5カ国条約の締結によって、5港が開港され、自由貿易が開始された。貿易の進展とともに、これらの開港場は、単に貿易港としてだけではなく、世界との接点として、日本の国際化（グローバル化）の尖兵として、経済・社会を中心に日本の近代化を推進する都市としての機能を果たした。横浜を中心に開港場の都市としての歴史的役割について考える。<br><br>【キーワード】<br>開港、開港場、交通革命、国際化 | 小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授） | 小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授） |
| 12 | 帝都の成立 | 明治維新後、江戸は東京と改称されただけでなく、幕藩体制における政治都市「江戸」から近代国家の首都「東京」への変化は、その都市機能を大きく変化させた。なにより日本の中心としての首都の位置を明確にする儀礼の展開と国民の受容による国民国家の成立は、近代日本史の展開と密接に関連していたのである。その構造を明らかにすることは、近代日本史を都市の視点から再考することにつながる。<br><br>【キーワード】<br>江戸から東京へ、憲法発布と東京、国家と国民の形成 | 小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授） | 小風秀雅（お茶の水女子大学大学院教授） |
| 13 | 町屋論（特論1） | 特論1～3では、空間的立場から日本の都市史を捉え直してみる。特論1の町屋論では、日本の伝統的な都市建築であった町屋の形成と展開のプロセスを追跡し、日本都市の歴史的変化を建築の側から考える。<br><br>【キーワード】<br>町屋、接道性、沿道性、地割 | 伊藤毅（東京大学大学院教授） | 伊藤毅（東京大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 境内論（特論2） | 日本の都市の空間的組成を分解してみると、「境内」と「町」という素朴な空間類型に還元できる。中世都市はこの二つの空間類型の複雑な組み合わせとみることができる。前者の代表例が宗教都市であり、後者は交易都市である。<br><br>【キーワード】<br>境内、町、宗教都市、交易都市 | 伊藤毅（東京大学大学院教授） | 伊藤毅（東京大学大学院教授） |
| 15 | グリッド論（特論3） | 格子状の道路パターン（グリッド）をもつ都市は古今東西を問わず、普遍的に存在しつづけてきた。本講では一見単純なグリッドがもつ多様な意味を探るとともに、そこに込められた時代の都市イデアを考える。<br><br>【キーワード】<br>グリッド、街区、都市計画、都市イデア | 伊藤毅（東京大学大学院教授） | 伊藤毅（東京大学大学院教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8940517 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　異文化の交流と共存　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：工藤庸子（東京大学名誉教授）〕

【担当専任教員：井口　篤（放送大学准教授）】

## 講義概要

国際政治、歴史、文学、言語など、多角的な視点から、異文化の交流と共存について考察する。対象となるのは大航海時代から現代まで。欧米とイスラム世界、そしてアジアを視野に入れることになるが、15回の講義を構造化するために「宗教と文明」「人種と民族とジェンダー」「言語と文化」という大枠を設けることにした。講義ごとに具体的なトピックを設定して問題構成とアプローチの手法を実践的に提示する。

## 授業の目標

歴史や地域の条件を背景として、現代世界の諸問題を解析することが、講義の目標である。履修者は、知識を習得するだけでなく、人文社会科学の方法論を学ぶこと、文献を引用し、これをふまえて論述を展開する手法を身につけることが重要な課題となる。

## 履修上の留意点

世界史概論の講義ではない。基礎知識の不足している履修者は、各自、しかるべき入門書で学んでおくこと。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Ⅰ　宗教と文明(1)「キリスト教文明vs.イスラム？」 | ヨーロッパのキリスト教世界とイスラムの出会いを概観し、啓蒙思想が生んだ「文明」の概念が、その後、変貌していくさまを見る。20世紀末、「宗教の復讐」（ジル・ケペル）として西欧の人々を驚かせたイスラム復興の運動に、いかなる歴史の必然があるのだろうか。<br><br>【キーワード】<br>文明と文化、啓蒙思想、ヨーロッパ、宗教と国家 | 工藤庸子（東京大学名誉教授） | 工藤庸子（東京大学名誉教授） |
| 2 | Ⅰ　宗教と文明(2)「アメリカのイスラム：マルコムXの旅」 | 1960年代にブラック・ムスリムの説教師としてマルコムXは世に出た。マルコムは1950年代にキリスト教からネーション・オブ・イスラムのイスラムへと改宗している。しかし、やがてマルコムは主流派のイスラムへと再改宗する。このマルコムの遍歴を通じて、アメリカのイスラムの意味を考える。<br><br>【キーワード】<br>イライジャ・ムハマッド、ムハマッド・アリ、怒りのイスラム、巡礼 | 高橋和夫（放送大学教授） | 高橋和夫（放送大学教授） |
| 3 | Ⅰ　宗教と文明(3)「ムスリム同胞団：スエズ運河のほとりで生まれたイスラム復興運動」 | スエズ運河沿いの町イスマイリーヤの教師であったハサン・アルバンナーが1920年代に創始したムスリム同胞団は世界最大のイスラム教徒の組織に成長した。イギリス支配下の運河地帯でイスラム復興運動が起こったわけだ。イスラム復興を欧米の浸透へのムスリムの反応という視点から、アルバンナーの時代と思想を振り返る。<br><br>【キーワード】<br>スエズ運河会社、ムスリム同胞団、バンナーの道 | 高橋和夫 | 高橋和夫 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | Ⅰ　宗教と文明(4)<br>「政教分離と共和国」 | 1989年フランスでおきた「スカーフ事件」はいかなる問題を明るみに出し、「ライシテ」（政教分離）をめぐる議論を巻きおこしたか。イスラムの国トルコ、イギリスやドイツなどプロテスタントの伝統に立つ国々と比較しながら、フランス共和国とカトリック教会との歴史的な関係を分析する。<br><br>【キーワード】<br>ライシテ、プロテスタント、カトリック、学校教育、法律 | 工藤庸子 | 工藤庸子 |
| 5 | Ⅰ　宗教と文明(5)<br>「寛容と不寛容のプロテスタンティズム」 | プロテスタンティズムの波及と諸問題<br>国教会の成立と分裂の歴史的過程<br>プロテスタントの異分子たち（非国教徒とその言説、ユニタリアンとメソディスト）<br>異端の文学<br>プロテスタンティズムの精神文化<br><br>【キーワード】<br>宗教、プロテスタント、非国教徒、カトリック、異端 | 大石和欣<br>（東京大学大学院准教授） | 大石和欣<br>（東京大学大学院准教授） |
| 6 | Ⅱ　人種と民族とジェンダー(1)<br>「奴隷貿易・奴隷制というトラウマ」 | 奴隷制の起源<br>イギリスの海外貿易と植民地政策<br>奴隷貿易の実態（イギリス、アメリカ）<br>奴隷制の実態（イギリス、アメリカ）<br>奴隷貿易廃止運動および奴隷制廃止運動とその言説<br>現代の人身売買<br><br>【キーワード】<br>奴隷制、奴隷貿易、植民地、人身売買 | 大石和欣 | 大石和欣 |
| 7 | Ⅱ　人種と民族とジェンダー(2)「傷と記憶と歴史」 | 奴隷制、植民地化、旧植民地の経済破綻……人類の過去におきてしまった悲劇、今日もおきている悲惨なドラマをいかに歴史にとどめるか。法律と文学テクストと無名の黒人少年たちの遺書という3つの素材を通し、記憶の問題を考える。アフリカの奴隷制と植民地化、そして独立後の現実にも目を向けよう。<br><br>【キーワード】<br>記憶、歴史叙述、証言、弱者、アフリカ | 工藤庸子 | 工藤庸子 |
| 8 | Ⅱ　人種と民族とジェンダー(3)「フランス人海軍士官の見た明治の長崎」 | 18世紀から20世紀初頭の植民地化の時代まで、ヨーロッパによるアジアの「発見」を概観する。さらに、明治維新後の日本に滞在したピエール・ロティの小説『お菊さん』をとりあげ、海軍士官でもあった作家の証言の中に読みとれる異文化理解のあり方を検討する。<br><br>【キーワード】<br>インド洋、アジア、鎖国、明治維新、女性、異国趣味 | 工藤庸子 | 工藤庸子 |
| 9 | Ⅱ　人種と民族とジェンダー(4)「西洋の衝撃/イランのジャラール・アーレ＝アフマドの『西洋かぶれ』を例として」 | 古代ペルシア帝国以来の栄光を誇るイランも近代に入り抗いがたい西洋の衝撃に直面した。自己のアイデンティティーを守りつつ、いかに西洋の技術を導入するか。日本が中国が直面した課題にイランも苦悩してきた。この問題を正面から扱ったアーレ=アフマドの評論を通して、近代化とアイデンティティーを考える。<br><br>【キーワード】<br>イスラム教シーア派、イラン革命、機械かぶれ | 高橋和夫 | 高橋和夫 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | Ⅱ 人種と民族とジェンダー(5)「トルコの苦悩/民主主義、民族主義、世俗主義」 | 建国以来のトルコ共和国の二つの国是は、世俗主義と一民族神話であった。しかしながら、この二つの原則は民主主義と矛盾していまいか。トルコは国民の多くはイスラム的な価値を反映した政治を望んでいるからである。またトルコ国内のクルド人は民族の権利を主張しているからである。トルコは民主主義、民族主義、世俗主義の間で苦悩している。<br>【キーワード】<br>オスマン帝国、「オスマン・トルコ」帝国、アタテュルク、トルコ軍、イスラム政党 | 高橋和夫 | 高橋和夫 |
| 11 | Ⅱ 人種と民族とジェンダー(6)「多文化（＝他文化）の表象としての移民へのまなざし」 | イギリスにおける移民の構成と歴史的過程<br>南アジア系移民<br>ブリティッシュ・ムスリムとラシュディー事件<br>移民法と錯綜するイデオロギー（同化主義、多文化主義、反人種主義、新人種主義）<br>他民族・外国人の表象<br>【キーワード】<br>移民、植民地、エスニック・マイノリティ、表象、人種主義、同化主義、多文化主義 | 大石和欣 | 大石和欣 |
| 12 | Ⅲ 言語と文化(1)「ディアスポラな英語の増殖」 | グローバル化する英語<br>『オックスフォード英語辞典』とジョンソン博士の『英語辞典』<br>英語の歴史とパクス・ブリタニカ<br>膨張する英語の不安<br>「英語帝国主義」という考え方は妥当か？<br>【キーワード】<br>英語帝国主義、英語辞書、パクス・ブリタニカ | 大石和欣 | 大石和欣 |
| 13 | Ⅲ 言語と文化(2)「多言語・多文化の国家 中国」 | 中国における二重の多様性<br>①漢民族・漢語／周縁諸民族・少数民族語<br>②漢民族の地域性と漢語内部の方言分岐<br>特に近代の文脈において、これらがどのように捉えられ、また乗り越えられようとしたか。<br>【キーワード】<br>漢語、少数民族語、共通語（普通話）、方言 | 宮本徹（放送大学准教授） | 宮本徹（放送大学准教授） |
| 14 | Ⅲ 言語と文化(3)「ケベックの試み」 | 「二言語・多文化主義」を掲げるカナダ。そのなかでフランス語のみを「公用語」に定めたケベック州。「ネイション」のアイデンティティを確立しつつ異文化との共存をめざす政治とはいかなるものか。「政教分離」論争を糸口に考察する。<br>【キーワード】<br>政教分離、多文化主義、ネイション、公用語、インターカルチュラリズム | 工藤庸子 | 工藤庸子 |
| 15 | Ⅲ 言語と文化(4)「多文化共生社会を求めて」 | 「国民」の統一と自立のシンボルとしての「国語」という概念は19世紀ヨーロッパで確立し、その後、世界に広まった。脱植民地化の時代におけるベトナムとインドネシアの言語政策を紹介し、最後に、外国語学習の問題もふくめて、グローバル化の時代における多文化共生という身近な課題について考える。<br>国語教育、言語政策、多言語主義、地域社会 | 工藤庸子 | 工藤庸子 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8940606 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ ことばとメディア （’１３）＝ （R）
－情報伝達の系譜－

〔主任講師（現職名）：宮本徹（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：大橋理枝（放送大学准教授）〕
【本学担当専任教員：】

## 講義概要

ヒトは、ことばによるやり取りに、様々なメディアを用いることで、その範囲を拡大・多様化してきただけでなく、本質的な変革を多岐にわたって成し遂げてきた。
ヒトが用いてきた、そして今用いている様々なメディアの実際例を取り上げ、それを、ことばによるやり取りという観点から分析・解説し、メディアとことばの関係を示すことによって、ヒトとヒトとの間の伝達の様々な容体の本質を考え、ことばによって支えられてきた、社会や文化の一端を考える手がかりを提供する。

## 授業の目標

様々な時代のメディアの実際例とその特質を理解し、そこで行われることばによるやり取りの本質を考え、ことばによって支えられてきた、社会や文化の一端を考える手がかりを提供することが、本科目の主なねらいである。

## 履修上の留意点

「メディア」という言葉が科目名に入っているが、マス・コミュニケーションを中心的に扱う科目ではなく、様々な媒体（＝メディア）とことばの関係を扱う科目である。



| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 様々な情報伝達メディア | この科目における「情報伝達メディア」の考え方を提示し、各回を担当する講師それぞれが情報伝達メディアをどのように捉えているかを示す。<br>【キーワード】<br>情報、伝達、メディア、文字、ことば、媒体 | 宮本徹（放送大学准教授）・佐藤卓己（京都大学大学院准教授）・井口篤（放送大学准教授）・大橋理枝（放送大学准教授） | 宮本徹（放送大学准教授）・佐藤卓己（京都大学大学院准教授）・井口篤（放送大学准教授）・大橋理枝（放送大学准教授） |
| 2 | 書物の「胚胎」 | 東洋の代表として、中国における書物誕生以前の状況について述べる。<br>メディアとしての書物が成立するより前、いかなるメディアによりどのような情報伝達がなされたかを考察する<br>【キーワード】<br>甲骨文、金文、口頭言語、書物化、押韻規則 | 宮本徹（放送大学准教授） | 宮本徹（放送大学准教授） |
| 3 | 書物の「誕生」 | 竹簡や帛書から始まった中国における書物化は、やがて紙へとそのメディアを変えていく。その中で誕生した韻書という書物と、それが持つ規範性の変容について考察する。<br>【キーワード】<br>紙、反切、五家韻書、切韻、規範性 | 宮本徹（放送大学准教授） | 宮本徹（放送大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 書物の「成長」 | 書物が写本から版本へとそのメディアを「成長」させる過程において、書物自身も成長を遂げた。その具体的な様相を切韻系韻書を例に考察する。<br><br>【キーワード】<br>写本、版本、韻書、切韻、広韻 | 宮本徹（放送大学准教授） | 宮本徹（放送大学准教授） |
| 5 | 中世ヨーロッパの写本文化 | 手書きの書物、とくに西洋中世における写本を見ることで、西洋の前近代におけるメディア・情報伝達の特質について考える。<br><br>【キーワード】<br>写本、句読点の導入、音読と黙読、修道院、ラテン語と母語、識字率 | 井口篤（放送大学准教授） | 井口篤（放送大学准教授） |
| 6 | メディアとしての大学 | 大学を知・情報を媒介するメディアととらえ、とくに中世ヨーロッパの大学に焦点を当てて、黎明期にあった大学における情報伝達のあり方について考える。<br><br>【キーワード】<br>大学の誕生、スコラ哲学、自由学芸、12世紀ルネサンス、ジョン・ウィクリフ | 井口篤（放送大学准教授） | 井口篤（放送大学准教授） |
| 7 | カトリック教会―神と人のメディア― | 中世ヨーロッパにおいて神と人間を媒介するメディアとして機能していたカトリック教会の特質について解説する。とくに説教と演劇について詳しく説明し、これらの情報伝達手段がどのようにして中世ヨーロッパのカトリック信仰を形成していたのかについて概観する。<br>【キーワード】<br>カトリック教会、説教、演劇、プロパガンダ、検閲、正統信仰の統制 | 井口篤（放送大学准教授） | 井口篤（放送大学准教授） |
| 8 | 印刷文化とヨーロッパ | 15世紀後半にヨーロッパにおいて導入された印刷技術が初期近代ヨーロッパの社会にどのような社会的・文化的影響を及ぼしたかについても概観する。<br><br>【キーワード】<br>印刷術、グーテンベルク、母語、識字率、宗教改革、愛国心、ヒューマニズム、ルネサンス | 井口篤（放送大学准教授） | 井口篤（放送大学准教授） |
| 9 | 書籍・雑誌 | 文字情報を大量発信する形態である書籍や雑誌の歴史を振り返りつつ、それらの在り方や影響について考える。<br><br>【キーワード】<br>書籍、雑誌、出版 | 大橋理枝（放送大学准教授） | 佐藤卓己（京都大学大学院准教授）<br>及び<br>大橋理枝（放送大学准教授） |
| 10 | 新聞 | 幾つかの国における新聞発達の歴史を概観しながら、一元化された情報を紙面上の文字を使って大量に発信する新聞の在り方を考える。<br><br>【キーワード】<br>新聞、文字情報、大量発信、政論、報道 | 大橋理枝（放送大学准教授） | 佐藤卓己（京都大学大学院准教授）<br>及び<br>大橋理枝（放送大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 電信・電話 | 19世紀末期頃以降、電気的な手段による情報伝達の技術が確立され、遠隔・同時・多数への同報、等々、情報伝達は質的に大きな変化を遂げた。有線電信・有線電話・無線電信・無線電話～放送、各々の基本的な構成と技術の特色をを概観し、送り手からの情報を核になる局に集約して受け手に再配信する情報伝達システムの本質を考える。<br>【キーワード】<br>電信、電話、有線、無線、放送、局 | 大橋理枝(放送大学准教授) | 大橋理枝(放送大学准教授) |
| 12 | ラジオ | 「声」から「文字」へと発展してきたメディア文化は、電気通信技術を媒介により二次的な「声の文化」を生み出した。この「ラジオ文明」の意義を1920年代の議論から考える。その上で、ラジオが黄金時代を迎えた1930−40年代を中心に音声メディアにおけることばの政治的機能とその効果を考える。<br>【キーワード】<br>ラジオ放送、ラジオ文明、場所感覚の喪失、ラジオ人、ファシスト的公共性、総力戦体制 | 分担講師<br>佐藤卓己(京都大学大学院准教授) | 佐藤卓己(京都大学大学院准教授) |
| 13 | テレビ | ラジオ放送は国境を越えたが「言葉の壁」までは超えられなかった。音声に映像が加わったテレビにおいて、ようやく「言葉の壁」は絶対的なものではなくなった。しかし、その代わりにテレビ方式による「政治の壁」が立ちはだかっていた。音声と映像が一体化した最後の「国民化メディア」における言葉を教育(国民再生産)の視点で考える。<br>【キーワード】<br>テレビ放送、教育型テレビ、一億総白痴化、ビデオ革命 | 分担講師<br>佐藤卓己(京都大学大学院准教授) | 佐藤卓己(京都大学大学院准教授) |
| 14 | インターネット | 電信電話からラジオ、テレビを経てテレ・コミュニケーションはインターネットに到達した。双方向性を重視して公共性を放棄した電話と、公共性を重視して双方向性を放棄した放送は、インターネット時代に再び融合する。情報が瞬時に国境を越える「地球村」において、ソーシャル・メディアと電子書籍の普及とは、ことばと文字テクストにどのような影響を与えるのかを考える。<br>【キーワード】<br>WWW、地球村、SNS、ウェブ2.0、ソーシャル・メディア、電子ブックス | 分担講師<br>佐藤卓己(京都大学大学院准教授) | 佐藤卓己(京都大学大学院准教授) |
| 15 | 情報の伝達 | 「情報を伝達する」ことの意味(歴史的観点、伝達の背後にある意図など)や、文字に記すことの意義と文字に記さないまま伝達することの意義を考えることを通じて、情報伝達媒体としてのことばを考える。<br>【キーワード】<br>情報、伝達、メディア、もの、西洋的(キリスト教的)観点、東洋的(儒教的)観点 | 宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授) | 宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8940550 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　２１世紀メディア論　　（’１１）＝　（ＴＶ）

〔主任講師（現職名）：水越　伸（東京大学大学院情報学環教授）　〕

講義概要

19世紀後半以降に登場した電話、ラジオ、テレビといった電気・電子メディアの数々は、20世紀を通じて著しく発達し、アメリカを中心とする先進資本主義諸国のマス・コミュニケーション型、大量生産大量消費型の社会様式を生み出した。私たちは現在、20世紀的な様式を部分的に引き継ぎつつ、インターネットやケータイに象徴される新たな様式をはらんだデジタル・メディアが環境化した21世紀のメディア社会を生きている。国家や共同体、文化やリテラシーのあり方が大きく変貌する混沌としたこの社会のなかで、メディアに焦点をあて、過去を振り返りつつ、未来を目指すための批判的で実践的な知を育むこと、すなわちメディア論的想像力を養うことが、この授業の大きな目的である。授業ではまずメディアの歴史や理論を踏まえ、次に現在進行形で展開する21世紀メディア社会の相貌をとらえた後、後半でその可能性と課題に対していかに取り組むかを具体的に検討していく。

授業の目標

(1)メディアに視点をおいて人間や社会をとらえていくというメディア論の基礎的素養を培うこと。(2)現代のメディア社会が抱えるさまざまな問題を構造的にとらえられるようになること。(3)メディア社会に積極的に参画し、そのあり方をデザインしていくための学際的で、実践的な知を身につけること。

履修上の留意点

日常生活で当たり前のように思われていることがら、微細なことがらを見出し、とらえなおすことができるセンスを持つ学生、および学問をたんなる勉強としてとらえるのではなく、現実社会に対して働きかけるための実践知、デザイン知としてとらえる覚悟を持つ学生、およびそれらの資質の基本として学際的な素養を持つ学生の履修を期待している。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | メディアに気づく、メディアを学ぶ | 講師の自己紹介などの後、メディアに視点をおく知の意義や、メディアをめぐる問題の所在をしめす。放送大学というメディアを通してメディア論を学ぶという特殊な状況を活かした授業の構成、スタイルや道具立てを説明する。<br><br>【キーワード】<br>日常生活、コミュニケーション、メディア、情報、社会 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 2 | メディア論の視座 | コミュニケーションの媒（なかだち）や媒介性に着目するメディア論のものの見方、すなわち理論的、思想的な「視座」をしめす。第7回、第8回とゆるやかに連動していく内容となる予定。<br><br>【キーワード】<br>情報技術、ソシオ・メディア論、市民参加、デザイン | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 3 | 19世紀の電気情報化爆発 | 19世紀半ば以降の電信、電話、無線、ラジオの発達を概説し、メディア史のパースペクティブを学ぶ。第3回ー第6回では歴史的想像力を養う。<br><br>【キーワード】<br>電気情報化、近代、電信電話、無線、ラジオ、放送 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>長谷川一（明治学院大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 20世紀型メディアの生成 | 19世紀後半に現れた情報技術が20世紀型マスメディアとして生成展開していく過程を、ラジオ、テレビを中心に概説する。第3回ー第6回では歴史的想像力を養う。<br><br>【キーワード】<br>ラジオ、テレビ、大衆消費社会、マス・コミュニケーション | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>長谷川一（明治学院大学・教授） |
| 5 | 20世紀型メディアの確立 | 新聞、放送など20世紀型マスメディアの形成と確立、それと平行するマスコミュニケーション研究の発達を、日本の状況を中心に概説する。第3回ー第6回では歴史的想像力を養う。<br><br>【キーワード】<br>新聞、放送、マスメディア、マス・コミュニケーション研究 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>小川明子（愛知淑徳大学・准教授） |
| 6 | 21世紀デジタル情報化の混沌 | ネットやケータイに代表される21世紀のデジタル・メディアが普及しつつある混沌とした社会状況から、トピックを取り上げて解説し、講師が議論を繰り広げて問題の構図を明らかにする。第3回ー第6回では歴史的想像力を養う。<br><br>【キーワード】<br>デジタル情報化、インターネット、ケータイ、デジタル・メディア、コスプレ | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>長谷川一（明治学院大学・教授） |
| 7 | メディア論の系譜 | 第2回の内容を受け、メディア社会を批判的にとらえつつ、能動的に実践に参画する、新しい時代に対応したメディア論の思想史的「系譜」をたどる。<br><br>【キーワード】<br>マス・コミュニケーション研究、トロント学派、カルチュラル・スタディーズ | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 8 | メディアの生態系をデザインする | 第7回の内容をさらに具体化する。新しい時代のメディアの生態系をデザインする意図を含んだメディア・ビオトープ（生態学の用語）という考え方の「構図」をしめす。<br><br>【キーワード】<br>ビオトープ、生態系、批判的メディア実践、リテラシー、遊び、デザイン | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 9 | メディア・リテラシーの覚醒 | メディア・ビオトープの中核には、メディアを批判的に受容すると同時に、メディアで能動的に表現する素養としてのメディア・リテラシーがある。新しいメディア社会を生み出すためのリテラシーの試みを紹介し、その可能性と課題を論じる。<br><br>【キーワード】<br>メディア・リテラシー、学び、批判、表現、ワークショップ | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 10 | メディア遊びの挑発 | メディア・ビオトープの基層には、メディアの体制的で当たり前のあり方を異化し、それをとらえなおすきっかけを与えるような営みとしての、メディア遊びがある。新しいメディア社会を生み出すための遊びやアートの試みを紹介し、その可能性と課題を論じる。<br><br>【キーワード】<br>メディア遊び、メディア・アート、異化、周縁、子ども | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | マスメディアと市民：対決と対話 | 第5回を受けるかたちで、新聞や放送など20世紀型マスメディアの構造的瓦解現象がもたらす光と影を指摘する。そのうえで市民参加型マスメディアへのリ・デザインの試みを紹介していく。<br><br>【キーワード】<br>マスメディア、産業、制度、パブリック・アクセス、メディア表現 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 12 | モバイル・メディアと身体、共同体 | 第6回を受けるかたちで、とくにケータイをはじめとするモバイル・メディアの普及がもたらす光と影を指摘する。そのうえで「情報があふれかえる社会」から「表現が編みあがる社会」へのメディア・デザインの試みを紹介していく。<br><br>【キーワード】<br>ケータイ、ネット、公共性、共同体、アイデンティティ、身体、物語 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授） |
| 13 | グローバルな「生態系」のデザイン | グローバル化する世界のなかで日本のメディアがいかなる位置づけにあるか、アニメ、ゲームをはじめとするポピュラー文化がどのように表象され、流通しているかを探る。そうした現状がはらむ課題を克服するための試みも紹介していく。<br><br>【キーワード】<br>グローバル・メディア、ナショナリズム、ポピュラー文化、ステレオタイプ、異文化コミュニケーション | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>小川明子（愛知淑徳大学・准教授） |
| 14 | ローカルな「生態系」のデザイン | 日本の中のローカルメディア、エスニックメディア、市民メディアなどに焦点をあてつつ、日本社会の内側からの変化を明らかにしていく。また日本に多様なメディアの生態系を育むための試みも紹介していく。<br><br>【キーワード】<br>ローカル・メディア、エスニック・メディア、市民メディア、多文化共生 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>小川明子（愛知淑徳大学・准教授） |
| 15 | 21世紀メディア社会をどう生きるか | 授業全体をふり返り、メディア論の構図を整理したうえで、残された課題を示す。そして最後に、21世紀メディア社会をいかに生きるか、そのための参考になる提言をおこなう。<br><br>【キーワード】<br>批判的メディア実践、メディア・ビオトープ、21世紀、市民参加 | 水越伸（東京大学・教授） | 水越伸（東京大学・教授）<br>長谷川一（明治学院大学・教授）<br>小川明子（愛知淑徳大学・准教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970033 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 音楽・情報・脳 （’１３）＝ (TV)

〔主任講師（現職名）：仁科エミ（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：河合徳枝（国際科学振興財団主任研究員）〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

情報学の進展は、音楽をはじめとする文化的事象を、科学的な研究の対象とすることを可能にした。とくに脳科学と連携したその成果は大きく、「音楽とは何か」といった本質的な問題を考察する新しい材料が多出している。そこで、この講義では、最先端の情報学と脳科学を応用して、音楽に対する情報学ならではのアプローチの成果を学ぶ。主任講師らがこれまで蓄積してきた音響映像資料を多用し、一部スタジオでの実演を取り入れ、体験性情報を重視した講義とする。

授業の目標

芸術とりわけ音楽に対する情報学的アプローチの有効性と射程距離について基礎的な知識を身につける。それに基づき、具体的な対象についてこの新しい研究の方法論とその効果を学ぶ。同時に、科学とりわけ脳科学に対する過度の信頼や期待、あるいは故なき不信感にまどわされることなく、氾濫する情報を適切に読み解く力を身につけることを目的とする。

履修上の留意点

この講義は、ラジオ番組「情報学の新展開（’12）」の内容の一部を発展させるものであり、「情報学の新展開」に続いて受講することによって、円滑な学習が期待できる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 音楽と情報学、音楽と脳科学 | 情報学や脳科学の著しい進展によって、音楽の情報構造を高い精度で分析して可視化したり、音楽が人間の脳に及ぼす影響を定量的に計測することが可能になりつつある。これらの客観性の高い研究手法は、音楽研究の新しい方法論として注目されている。情報領域から音楽にアプローチするこの講義の全体像を紹介する。<br>【キーワード】<br>音楽、情報学、脳科学 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授)<br>河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |
| 2 | 聴く脳・見る脳の仕組み | 脳神経系の構造と機能の基本と、ヒトの脳機能を傷つけることなく観察するさまざまな手法について学ぶ。音楽を含む感性情報を受容するときに必要な「音を聴く」「ものを視る」ための脳機能に着目し、聴覚と視覚の情報処理を対比しつつ、それぞれの神経系の仕組みについて学ぶ。<br>【キーワード】<br>神経細胞、シナプス、神経伝達物質、脳波、脳血流 | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) |
| 3 | 感動する脳の仕組み | 音楽、映像、パフォーマンス、芸術作品といった感覚感性情報によって導かれる「美と快と感動」の基盤となる脳の情動神経系の構造と機能、およびそれが生み出す情動・感情・感性の生命活動にとっての意義について学ぶ。<br>【キーワード】<br>脳幹、大脳辺縁系、情動、理性、感性、モノアミン神経系 | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 音楽を感じる脳は変化を感じる脳 | 生物学的な視点から音楽情報を捉え直すとともに、音楽に必須である音の変化を捉える脳内メカニズムについて学ぶ。音楽と人間の脳機能との関係という観点から注目すべき事例として、絶対音感を支える脳の仕組みについて学ぶ。これらを通して、音楽を感じるために必要な脳の情報処理のメカニズムについて、基本的な知識を身につける。<br>【キーワード】<br>楽音、非定常音、絶対音感 | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長) | 本田 学(国立精神・神経医療研究センター部長)、仁科エミ |
| 5 | 音の情報構造を可視化する手法 | 音のマクロな情報構造を可視化する古来の手法である楽譜、定常的な周波数構造を描き出す高速フーリエ解析、瞬間的に生起消滅する現象の周波数構造を捉えるウェーブレット解析、ミクロな時間領域での変化を描き出す最大エントロピースペクトルアレイ法等、音(音楽)の情報構造を可視化する手法について学ぶ。<br>【キーワード】<br>情報構造、楽譜、FFT、最大エントロピースペクトルアレイ法 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授) |
| 6 | 感性脳を活性化する超知覚情報 | 人間に聴こえる周波数の上限は20キロヘルツを超えない。ところがこの知覚限界をこえる超知覚情報が可聴音と共存すると脳深部を活性化し、心身にポジティブな効果をもたらす。音楽・情報・脳を結ぶ本格的な研究アプローチが稔った典型的な事例といえるこの現象＝ハイパーソニック・エフェクトの発見の経緯を辿りながら、脳を活性化する超知覚情報について学ぶ。<br>【キーワード】<br>高周波成分、ハイパーソニック・エフェクト、感性脳 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授) |
| 7 | 音楽に使われる音の多様性 | 音楽に使われる音の多様性を、音のもつ情報構造という新しい切り口から概観する。たたく、振る・ゆする、はじく、こする、吹く、歌うなど、さまざまな方法でつくりだされる地球上のさまざまな音を、人間の知覚閾をこえる物理構造をも視野にいれて俯瞰する視点を学ぶ。<br>【キーワード】<br>音分類、発音原理、周波数スペクトル | 八木玲子(東京成徳短期大学准教授) | 八木玲子(東京成徳短期大学准教授) |
| 8 | 日本伝統音楽の超知覚構造 | 日本伝統音楽では、音楽を構成する音そのものが独自の進化と成熟を遂げてきた。いくつかの日本の伝統楽器を対象に、その演奏音の情報構造を精密に可視化する。なかでも人間の知覚閾をこえる物理構造に着目し、西欧の楽器との比較を通じて、日本伝統楽器の変遷と楽器の進化、その基盤となる固有の音文化の表現戦略について考察する。<br>【キーワード】<br>日本伝統音楽、琵琶、尺八、超知覚情報 | 八木玲子(東京成徳短期大学准教授) | 八木玲子(東京成徳短期大学准教授) |
| 9 | 共同体を支える音楽 | 「音楽の形式は、それを生み出した社会の構造を映し出す」と言われる。緊密な絆で結ばれた優れた伝統的共同体では、音楽が共同体を成立させる土台となっている場合が多い。共同体を支える音楽の多様な姿を紹介し、共同体と音楽との間の一体性を築く仕組みの一端に、情報そして脳という切り口からふれる。<br>【キーワード】<br>音楽、共同体、インターメディア性、全員参加可能性 | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |
| 10 | 人類の遺伝子に約束された快感の情報 | 共同体の絆となってきた優れた音楽やそれと一体化している表現行動には、初めて触れる人をも感動させるものが存在する。感性情報を受容する脳の仕組みに注目しながら、文化伝搬の形跡が認められない共同体の間に共通して見いだされる、学習を必要としない快感のシグナルと推定される表現情報について学ぶ。<br>【キーワード】<br>脳の階層性、報酬系、快感誘起性情報要素、威嚇のシグナル | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 音楽による共同体の自己組織化 | 高等動物の行動は、脳の報酬系および懲罰系神経回路の働きによって制御されている。とりわけ、感性情報が働きかけ快感を発生させる脳の報酬系は、きわめて強く動物の行動を誘発誘導する。こうした神経回路の働きを活かし、共同体構成員の自律的行動を促してその自己組織化を実現させる叡智を、バリ島共同体の音楽を主題にして学ぶ。<br>【キーワード】<br>自己組織化、報酬系、ガムラン、ケチャ | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |
| 12 | トランスの脳科学ー感性情報は人類をどこまで飛翔させるか | 共同体の絆となる音楽の自己組織化力の射程は、脳の行動制御回路の中の報酬系をどこまで活性化し、いかに強力な快感と陶酔を共同体構成員に体感させるかにかかる。バリ島の共同体を事例に、祝祭の極致で発生するトランス(意識変容)とそれを誘起する音楽そして音の力を共同体の自己組織化に活かす叡智について学ぶ。<br>【キーワード】<br>祝祭、トランス、フィールド計測、脳波 | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) | 河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |
| 13 | コンピューターと音楽 | コンピューターとネットワークの発展によって、作曲・演奏・収録・配信など、音楽をめぐる技術環境は大きく変貌しつつある。コンピューターによる音楽制作システム、音楽情報を記述するMIDI言語、それらによって作られた音楽や音に関わるメディア規格について、これまでの講義を踏まえて概観する。<br>【キーワード】<br>コンピューター音楽、MIDI、デスクトップミュージック、メディア規格 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授) |
| 14 | 人類本来のライフスタイルと音楽 | 人類本来のライフスタイルを今日まで伝えているといわれる狩猟採集民ムブティ人は合唱をはじめとする音楽の達人として知られる。一方、調性を破壊した十二音技法による現代音楽は、その対極にあるものといえる。両者を対比することを通じて、音楽における"本来"と"適応"を論じる。<br>【キーワード】<br>狩猟採集民、十二音音楽、本来、適応 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授) |
| 15 | 情報学がひらく音楽の新しい可能性 | 今後の情報学や脳科学の発展が音楽にもたらす可能性を論じ、講義をまとめる。<br>【キーワード】<br>音楽、情報学、脳科学 | 仁科エミ(放送大学教授) | 仁科エミ(放送大学教授)<br>河合徳枝(国際科学振興財団主任研究員) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970041 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　ソフトウェア工学　　（’１３）＝（R）

〔主任講師（現職名）：玉井哲雄（法政大学教授）〕
〔主任講師（現職名）：中谷多哉子（筑波大学大学院准教授）〕
【本学担当専任教員：川合慧（放送大学教授）】

講義概要

今や情報システムは，電気・ガス・水道から交通システム，通信システム，あるいは経済関係の活動まで，ありとあらゆるものを支えるものとなっているが，その本質は，情報処理機械，すなわちコンピュータの中で稼動しているソフトウェアが担っている．ここでソフトウェアは一種の抽象概念であり，目に見えるものではないために，その存在は，その作成や運用に携わっている人々以外にはほとんど意識されることがない．ましてやその複雑さや構築の困難さに思いが及ぶこともないのが実情である．本科目では，このように特殊な存在であるソフトウェアをどのように作ればよいかという問題と対峙している「ソフトウェア工学」について学ぶ．
まず最初にソフトウェアの作成が「工学」を必要とする程に難しいタスクであることを学んだ後，ソフトウェア工学の概要をその発展の様子を含めて理解する．
情報学プログラムの学生を主なターゲットとするが，ソフトウェアやソフトウェア工学に関心を寄せる他コース・プログラムの学生も興味をもって理解できるように，先端的な内容も含めて平易に解説する．

授業の目標

情報システムの本質であるソフトウェアについて，その原理的な構成方法を通じてその性質を理解する．それから，ソフトウェアの構築についての様々な方法論を学び，ソフトウェア構築についての明確な視点を涵養する．

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ソフトウェアとは | ソフトウェアの基本的な性質とは何か．現代のさまざまなソフトウェアの特徴を，ビジネス系や組込み系などの種類とともに概観する．サービス指向，クラウド・コンピューティングなどの最近の話題にも触れる．<br><br>【キーワード】<br>ソフトウェアの語源，ビジネス・ソフトウェア，組込みソフトウェア | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 2 | ソフトウェアの不具合がもたらす社会的影響 | ソフトウェアが社会にもたらすインパクトを，とくに不具合が生じた場合にもたらされる影響の具体例を挙げて解説する．そしてソフトウェアに求められる信頼性や安全性について議論する．<br><br>【キーワード】<br>ソフトウェアの不具合，信頼性，安全性 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 3 | ソフトウェア工学の意義と方法 | ソフトウェアを体系的な方法に基づいて開発するためのソフトウェア工学について，その意義を明らかにし，またこれまでの歴史を概観する．<br><br>【キーワード】<br>ソフトウェア工学の歴史，ソフトウェア工学の方法 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | ソフトウェアプロセス | ソフトウェア工学の研究と実践の対象となるのは，プロダクトとぷプロセスである．そのプロセスに焦点を当て，ソフトウェアのライフサイクルという考え方や，プロセスモデルの記述と実行などについて学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>ライフサイクル・モデル，プロセス記述 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 5 | 要求分析 | ソフトウェアのライフサイクルの最初のフェーズとしての，要求分析の方法について学習する．要求についてはその抽出から要求仕様の記述，要求の管理と追跡まで幅広く扱う．<br><br>【キーワード】<br>要求工学，要求仕様 | 中谷多哉子（筑波大学准教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 6 | モデル化技法とUML | 本講座ではソフトウェア工学の中で中心となるモデル化技法について，統一的な視点で扱うことを一つの特徴とする．ここではモデルとは何かをまず議論し，さらにモデルの記述方法，とくに図式記法としてのUMLに焦点を当てる．<br><br>【キーワード】<br>モデル化技法，UML，グラフ表現 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 7 | 制御とデータのモデル | モデルの具体例としてデータの流れモデルと制御の流れモデルを取り上げ，さらにそれらのモデルを用いたソフトウェアの開発手法について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>データの流れ，制御の流れ，構造化分析 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 8 | 動的振る舞いのモデル | モデルの具体例として，ここでは状態遷移モデルを中心としたシステムの振舞いを記述するものを取り上げ，またそのモデルを用いたソフトウェアの開発手法について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>状態遷移モデル，メッセージ交換，並行動作 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 9 | オブジェクト指向開発 | オブジェクト指向モデルを取り上げ，オブジェクト・モデルに基づくソフトウェア開発手法を学ぶ．ユースケースを用いた分析から，オブジェクトの同定，オブジェクト間の関係と相互作用の明確化，などを扱う．<br><br>【キーワード】<br>オブジェクト指向，ユースケース，クラス図 | 中谷多哉子（筑波大学准教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |
| 10 | 形式手法 | 数学や論理学で使われる形式記述に基づいたソフトウェアの仕様定義と，それを用いた厳密な開発・検証手法を学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>形式仕様，正当性の証明，プログラムの自動生成 | 玉井哲雄（法政大学教授） | 玉井哲雄（法政大学教授），中谷多哉子（筑波大学准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 設計技法 | ソフトウェア・システムの設計手法として，アーキテクチャ設計，設計パターン，フレームワークの利用などを学ぶ．とくにWebシステムの開発を例として取り上げる．<br><br>【キーワード】<br>アーキテクチャ設計，コンポーネント，フレームワーク | 中谷多哉子(筑波大学准教授) | 玉井哲雄(法政大学教授)，中谷多哉子(筑波大学准教授) |
| 12 | 検証技術 | ソフトウェアのテスト，形式検証，見直し，などの検証技術を解説する．それにより，正しいソフトウェアが作られているか，およびソフトウェアが正しく作られているか，を検証する方法を学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>テストケースの生成，デバッグ，静的/動的解析 | 玉井哲雄(法政大学教授) | 玉井哲雄(法政大学教授)，中谷多哉子(筑波大学准教授) |
| 13 | 開発環境とツール | ソフトウェアの実装を含めた開発過程全般で用いられる環境を，代表的なツールとともに概観する．<br><br>【キーワード】<br>ソフトウェア開発環境，構成管理，ツール | 中谷多哉子(筑波大学准教授) | 玉井哲雄(法政大学教授)，中谷多哉子(筑波大学准教授) |
| 14 | 保守と発展 | ソフトウェアの保守・発展プロセスと，そこで必要となる技術について議論する．ハードウェアと比べた場合のソフトウェア保守の特徴と，スライシング，回帰テストなど保守に固有の手法について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>保守の分類，スライシング，回帰テスト | 玉井哲雄(法政大学教授) | 玉井哲雄(法政大学教授)，中谷多哉子(筑波大学准教授) |
| 15 | プロジェクト管理 | ソフトウェア開発プロジェクトの管理手法とそこで用いられるツールについて学ぶ．品質管理，コスト見積り，開発組織などを対象とする．<br><br>【キーワード】<br>ソフトウェアの品質管理，要員管理，コスト見積り，開発計画 | 中谷多哉子(筑波大学准教授) | 玉井哲雄(法政大学教授)，中谷多哉子(筑波大学准教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970050 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 研究のためのICT活用 （’１３）＝ (R)

〔主任講師（現職名）：高橋秀明（放送大学准教授）〕
〔主任講師（現職名）：柳沼良知（放送大学准教授）〕
【本学担当専任教員：】

## 講義概要

大学(院)の研究において、インターネット等の情報通信技術(ICT: Information Communication Technology)を活用することは必須の時代になっている。本科目では、情報学分野を中心に、研究の方法論を講ずる中で、研究のプロセスのさまざまな場面で役立つ情報通信技術を紹介する。研究とは何か？研究方法論とは何か？ということを絶えず意識しながら、各種の技術やツールの意味について考察を加えたい。

## 授業の目標

修士論文や卒業論文作成に役立つ情報通信技術ならびに研究方法論を習得する。

## 履修上の留意点

学部科目「デジタル情報の処理と認識('12)」・「情報機器利用者の調査法('12)」を履修しておくことが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 研究とは | 情報系の研究は学際的な領域に属している。研究は、問題意識を持つことから、論文を書いて公表するまで長く険しいプロセス(過程)を経る。そのプロセスにおいてさまざまな情報通信技術を利用することができる。それらの技術は、研究の理論と方法論との両方にかかわっている。以上を、本講義全体の狙いと内容とを紹介しながら説明する。<br>【キーワード】<br>研究のプロセス、情報通信技術、理論と方法論 | 高橋秀明・准教授<br>柳沼良知・准教授 | 高橋秀明・准教授<br>柳沼良知・准教授 |
| 2 | 論文とは | 科学は常に変化している。研究の成果は論文という形で結実する。研究は、大学(院)あるいは学会という組織によって正統化されており、論文も同様に、大学(院)あるいは学会によって決められた内容とスタイルとを有している。学会の査読について説明し、科学と非科学の違い、科学の理論と方法論との関係について考察する。<br>【キーワード】<br>論文、学会、論文のスタイル、査読 | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |
| 3 | 問題意識を持つ | 研究は問題意識を持つことから始まる。問題意識は、仕事や家庭での日常生活を営む中で育まれる。広く深く問題意識を持ち続けつづけると研究も豊かになる。問題意識は、科学で使われる用語や概念に読み替えることが必要になる。自分の研究の問題を導出し、研究計画を立ててから、第4回の先行研究調査に進むことを説明する。<br>【キーワード】<br>問題意識、日常生活、科学の用語・概念、研究計画書 | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 先行研究を集める | 先行研究とは、自分の研究が依って立つ基盤となるような過去の研究を指す。先行研究を調べることによって、自分の研究テーマに関して、すでに何が明らかにされており、どんな課題が解明されずに残されているのかを知ることができる。第4回では、学術文献の流通の仕組みを理解した上で、ICTを活用して自分の研究テーマに関連した文献を効率的・効果的に集める方法を学ぶ。<br>【キーワード】<br>先行研究、文献調査、図書館、データベース | 三輪眞木子・教授 | 三輪眞木子・教授 |
| 5 | 先行研究をレビューする | 研究論文を執筆する際には、その領域やテーマに関する過去の知見を要約し、自分の研究の必要性、意義、新規性を示すために、先行研究をレビューする。第5回では、先行研究レビューの目的と意義を考えながら、先行研究の評価方法と、先行研究レビューのまとめ方を学ぶ。先行研究レビューを効率的に進めるための、文献管理ソフトウェアの使い方も紹介する。<br>【キーワード】<br>先行研究レビュー、学術論文、批判的に読む | 三輪眞木子・教授 | 三輪眞木子・教授 |
| 6 | システムを開発し評価する | 特に情報系の論文を書く場合、新たにシステムやツールの開発を行い、その評価によって論文を書く場合もある。第6回では、このようなシステムの設計方法や、スタンドアロンで動作するアプリケーションの開発、Web上で動作するアプリケーションの開発などについて述べる。<br>【キーワード】<br>システム開発,スタンドアロンアプリケーション、Webアプリケーション | 柳沼良知・准教授 | 柳沼良知・准教授 |
| 7 | 多様なデータを扱う～多次元データとテキストマイニング～ | 第7回では、開発したシステムやツールなどを用いることで得られたデータの分析方法について述べる。具体的には、多次元データをどのように分析するかについて述べるとともに、多量のテキストデータを分析するためのテキストマイニングの概要などについて述べる。<br>【キーワード】<br>多次元データ、テキストマイニング | 柳沼良知・准教授 | 柳沼良知・准教授 |
| 8 | 多様なデータを扱う～テキスト・音声データ～ | 研究を進めるにあたって、テキストデータや音声、画像、映像など、様々な形式のデータを利用する場合もある。第8回では、文書やWebページの作成などの際に必要となるテキストデータの編集や、音声データを利用した実験やシステム開発などの際に必要となる音声データの処理について述べる。<br>【キーワード】<br>テキストデータ、音声処理 | 柳沼良知・准教授 | 柳沼良知・准教授 |
| 9 | 多様なデータを扱う～画像・映像データ～ | 研究を進めるにあたって、テキストデータや音声、画像、映像など、様々な形式のデータを利用する場合もある。第9回では、論文の図などを作成するための画像処理、実験やシステム開発などで必要となる映像編集や3Dデータの利用について述べる。<br>【キーワード】<br>画像処理、映像編集、3Dデータ | 柳沼良知・准教授 | 柳沼良知・准教授 |
| 10 | ユーザを調査する～データ収集～ | 情報系の研究においては、第6回で扱ったシステムやツールの開発とその評価だけでなく、そのシステムやツールを利用する人間（ユーザ）を対象にしたユーザ調査を行うことも必要になる。人間を対象にしたデータを収集する方法は、心理学の研究法が参考になる。そこで具体的に、観察、実験、質問紙、インタビューなどの方法とそれぞれに利用できるツールなどを紹介する。<br>【キーワード】<br>ユーザ、観察、実験、質問紙、面接 | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ユーザを調査する<br>～データ分析～ | ユーザ調査において得られたデータを分析する方法について紹介する。量的なデータと質的なデータとを分析する方法の初歩を説明する。あわせて、データ分析のためのツールについても述べる。<br><br>【キーワード】<br>量的分析、質的分析、データ分析ツール | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |
| 12 | 結果をまとめ考察する | データ分析の結果は、通常図や表の形で表現するのがわかりやすい。そのための方法や注意点、ツールについて述べる。研究の結果をまとめたら次には、研究目的に照らして研究の結果を考察する。そのための方法や注意点について説明する。<br><br>【キーワード】<br>図表、結果と考察 | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |
| 13 | 研究を発表する | 研究活動の過程では、論文として成果を公表する他に、研究会や学会の場で口頭発表やポスター発表を行う。このような活動は、発表者と聞き手の相互作用により、研究成果を深めたり、広げたりすることに役立つ。聞き手にわかりやすい研究発表の方法、およびプレゼンテーションソフトウェアの効果的な活用方法を説明する。<br><br>【キーワード】<br>研究発表、口頭発表、プレゼンテーション、プレゼンテーションソフトウェア、コミュニケーション | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |
| 14 | 論文を書く | 研究は論文という形になって初めて意味のあるものになる。論文を書くための方法や論文執筆支援ツールについて述べる。第2回で説明したとおり、論文のスタイルは大学（院）や学会が決めたスタイルがあるが、代表的な論文スタイルについても紹介する。<br><br>【キーワード】<br>論文執筆、論文スタイル | 高橋秀明・准教授 | 高橋秀明・准教授 |
| 15 | 研究を振り返る | 研究の最後には、研究を振り返ることが肝要である。そこで、研究プロセスを管理する方法について説明するとともに、科学コミュニケーション、研究倫理についても検討する。最後に、研究を円滑に進める方法について説明し、研究を振り返るための方法・観点を補足する。<br><br>【キーワード】<br>研究評価、研究倫理、科学コミュニケーション、研究を円滑に進める | 高橋秀明・准教授<br>柳沼良知・准教授 | 高橋秀明・准教授<br>柳沼良知・准教授 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970025 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　情報学の新展開　　（’１２）＝　(R)

〔主任講師（現職名）：川合慧（放送大学教授）〕
〔分担講師（現職名）：指宿信（成城大学教授）〕
〔分担講師（現職名）：松原仁（公立はこだて未来大学教授）〕
〔分担講師（現職名）：仁科エミ（放送大学教授）〕
〔分担講師（現職名）：近藤智嗣（放送大学准教授）〕

## 講義概要

情報社会と呼ばれる現代社会は，情報科学，情報工学という基盤の上に，情報システム学，情報社会学，情報経済学といった人間社会を扱う学問体系と，認知科学，生理学，人間科学などの人間の行動と特性を扱う学問，さらに国際社会や法体系，芸術分野の学問までの，幅広い知識体系に支えられている．現実的には，これらを基礎とした多種多様な情報環境が構築されてきており，私達の生活や社会を変えつつある．本科目ではこのような状況についての偏りのない教養を身につけるために，種々の事例を基本原理とともに解説し，広義かつ高度な情報リテラシーを学ぶ．

## 授業の目標

情報社会を支える種々の要素を可能な限りブラックボックスとしてではなく理解するとともに，相互の関連性を把握し，社会全体の動きを主体的に理解することを目的とする．具体的な理解軸としては，情報処理技術の基礎，人工知能の考え方と応用，情報メディアと人間社会・法，人間の認知作用と情報システム，情報と現実との融合，生命・生体科学と情報のそれぞれについて基本的な理解と認識とを目指す．

## 履修上の留意点

基礎情報科学（‘09），情報ネットワークとセキュリティ（‘10），情報の世界（‘10）などが強く関連する科目である．

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 情報学とその動向 | コンピュータはもともとは数値的な計算を高速かつ正確に実行することを目的として発明されたが，実世界を符号化する柔軟かつ汎用的な方式の使用により，人間が扱うほぼすべての領域にその処理を適用することができるようになった．この状況を情報処理技術の発展を交えて概観的に学ぶ．<br>【キーワード】<br>情報，情報の表現，符号化，情報の処理，情報学 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授） |
| 2 | 情報処理技術とシステムの進展 | 現代のコンピュータが社会に応用されている主な要因について，情報処理の社会応用の観点から考察する．具体的には，処理の速度と装置の小型化，符号化と計算方法のくふう，通信と入出力などについて見る．また，機械と人間の思考方法の違い，情報システムの有効性と限界についても学ぶ．<br>【キーワード】<br>処理速度，装置の小型化，機械と人間の情報処理，システムの有効性と限界 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授） |
| 3 | 人工知能の展開<br>－歴史と概要－ | 人工知能はコンピュータを人間のように知的にする，あるいはコンピュータを道具として知能について探求することを目指した研究領域である．人工知能研究のこれまでの経緯，提唱された理論，人工的に知能を実現する際の難問などについて学ぶ．<br>【キーワード】<br>チューリングテスト，論理，物理記号仮説，フレーム問題，記号接地問題 | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 人工知能の展開<br>－実際の応用－ | 人間のような知能を持ったコンピュータを作るという人工知能の究極の目標はまだ達成されていないが，いくつかの領域ではコンピュータが人間の専門家を越える能力を持つにいたり，人工知能の成果が世の中で広く使われるようになっている．その応用の様子について学ぶ．<br>【キーワード】<br>エキスパートシステム，ゲーム，ワープロ，情報検索，データマイニング | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） |
| 5 | 知能ロボットの展開 | 人間のような知能をコンピュータに持たせるためには身体が必要であることがわかり，一方でロボットの技術が進んで以前はソフトウェアの研究であった人工知能と連携が進んで知能ロボットの研究が盛んになってきた．知能ロボットは知能を持った（動く）コンピュータであるという立場から知能ロボットの基礎と応用を学ぶ．<br>【キーワード】<br>身体性，行動に基づく知能，ロボカップ，不気味の谷，ヒューマノイド | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） | 松原仁（公立はこだて未来大学教授） |
| 6 | 人間の認知作用と情報システム | 情報システムやデジタルコンテンツ等を開発する際には，人間の認知作用を理解し，それに基づいたインタフェースを設計する必要がある．このことは，誰もが情報発信できる今日では学生の基礎知識としても必須であるため，人間の認知作用をシステムデザイン，ヒューマンインタフェースと関連づけて学ぶ．<br>【キーワード】<br>認知作用，情報システム，ヒューマンインタフェース | 近藤智嗣（放送大学准教授） | 近藤智嗣（放送大学准教授） |
| 7 | 情報と現実との融合 | バーチャルリアリティ技術は，既に幅広い分野に応用されつつあり，その技術が実空間と融合したミクストリアリティも身近な技術となりつつある．これらの技術の主要な応用例とそのシステムを構成する要素技術を取り上げ，これまでの研究成果が人間生活の向上に寄与していることを学び，今後の動向について考察する．<br>【キーワード】<br>バーチャルリアリティ，ミクストリアリティ，拡張現実感 | 近藤智嗣（放送大学准教授） | 近藤智嗣（放送大学准教授） |
| 8 | 生命と情報 | 生命現象からみると，生命を生命たらしめるソフトウェアこそ「情報」だといえる．私たちの生存は体内における情報活動によって維持されており，情報を抜きにして生命の本質を知ることはできない．遺伝子発現，ホルモン伝達，神経伝達など，生体内での情報のはたらきと，それにもとづく新しい生命概念について考察する．<br>【キーワード】<br>遺伝子，化学伝達，神経伝達 | 仁科エミ（放送大学教授） | 仁科エミ（放送大学教授） |
| 9 | 脳と情報 | 情報処理の中枢である脳は，精神活動を司ると同時に，生体制御の中枢でもある．しかも脳では，精神活動と生体制御とが密接に連関していることがわかってきた．このような新しい観点から脳の理解を深めるとともに，脳における感覚感性情報処理についての新しい知見を紹介する．<br>【キーワード】<br>基幹脳，言語脳・非言語脳，視聴情報処理 | 仁科エミ（放送大学教授） | 仁科エミ（放送大学教授） |
| 10 | 文化芸術と情報 | 情報技術によって私たちは世界各地の多様な文化芸術に接することが可能になった．さらに，コンピュータの普及は芸術のあり方そのものを大きく変えつつある．それら多様化する文化芸術情報を受容する人間の側から捉え直し，美と快を発生させる感性情報とその文化ごとの特徴について考察する．<br>【キーワード】<br>感性脳，文化の多様性，メディアアート，ハイパーソニック・エフェクト | 仁科エミ（放送大学教授） | 仁科エミ（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 情報メディアと人間 | 人類の文化や歴史と情報メディアがいかに密接に結びついているかについて，活版印刷技術と宗教革命のかかわり，電子テキストと図書館や学問のあり方，検索技術によるビジネスへの影響，電子メールとコミュニケーションのあり方など様々な例を用いて学ぶ．<br>【キーワード】<br>グーテンベルグ，グーグル，電子テキスト，検索，コミュニケーション | 指宿信（成城大学教授） | 指宿信（成城大学教授） |
| 12 | 情報と法・政策 | ネットワーク社会の登場によって生まれたサイバースペースと財のデジタル化は，既存の法体系を揺るがす問題を生みだし，国境を越えて広がるネットワークは法的解決をおこなうことを困難にしている．情報の収集・保有・発信・媒介にかかわる法的問題を例に，情報化社会の進展と法的対応の重要性を理解する．<br>【キーワード】<br>インターネット，サイバースペース，デジタル化，P2P，著作権 | 指宿信（成城大学教授） | 指宿信（成城大学教授） |
| 13 | 情報と政治・社会 | 様々な社会問題をICTの力によって解決し，経済や社会の発展にICTを利活用するためには，情報政策が重要である．他方で，グローバルなネットワーク環境によって登場した仮想的な社会は国際政治にも大きな影響を与えている．そうしたICTに関わる政策形成のあり方やグローバル社会と情報コミュニケーションについて学ぶ．<br>【キーワード】<br>ネットワーク，ガバナンス，通信政策，u-Japan，仮想地球社会 | 指宿信（成城大学教授） | 指宿信（成城大学教授） |
| 14 | 教育と情報 | 従来の視聴覚機器に代わり，さまざまな情報技術が教育に取り入れられている．その取り入れられ方は，学習理論の歴史的な変遷および情報技術の革新によっても変化してきた．特にインターネットやモバイル技術は，学習環境を大きく進展させている．こうした教育の情報化と期待される効果などについて学ぶ．<br>【キーワード】<br>e-Learning，LMS，オーサリング，携帯電話，博物館展示 | 近藤智嗣（放送大学准教授） | 近藤智嗣（放送大学准教授） |
| 15 | 情報学の新展開 | 情報学の現状とその将来動向について，各講師がそれぞれの立場から述べる．具体的な項目は，機械の利用と責任，現実の拡張，芸術と情報，クラウドコンピューティングと法，などである．<br>【キーワード】<br>情報学 | 川合慧（放送大学教授） | 松原仁（公立はこだて未来大学教授）・指宿信（成城大学教授）・近藤智嗣（放送大学准教授）・仁科エミ（放送大学教授）・川合慧（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970017 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　データベースと情報管理　（’１２）＝　(TV)

〔主任講師（現職名）：三輪眞木子(放送大学教授)〕
〔主任講師（現職名）：柳沼良知(放送大学准教授)〕
【本学担当専任教員：】

講義概要

テキスト・画像・音声・映像を含む多様な形態の電子情報が、インターネット等のネットワークを通じて広く流通しており、こうしたマルチメディアの電子情報を効率よく蓄積・検索できるデータベースの構築と活用が重要になってきている。本科目では、多様な形態の電子情報を効果的・効率的に活用するために必要な知識と技術の習得と、テキスト・画像・音声・映像を含むマルチメディア・ドキュメントの電子化・蓄積・組織化・検索を含むデータベース構築技術の習得を目指す。

授業の目標

多様なメディアの電子情報をデータベースとして管理する方法と、それらの電子情報を効果的・効率的に活用する方法、およびデータベース・サービスの評価方法を学ぶ。

履修上の留意点

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | データベースとは | データベースは情報の組織化、蓄積、検索の部分を担う情報管理手法である。本章では、データベースの発展の歴史を振り返るとともに、多種多様なデータベースを分類する枠組みを論じる。さらに、データベース管理ソフトウェアであるデータベース管理システム(DBMS)の機能と、搭載するデータの論理構造を表す主要なデータモデルを紹介する。<br>【キーワード】<br>情報管理、データベース、データベース管理システム、DBMS、データモデル | 三輪　眞木子(放送大学・教授) | 三輪　眞木子(放送大学・教授) |
| 2 | リレーショナルデータベース技術 | まとまりのある一連のデータを効率的に扱うために、データベースが構築される。データベースの構築手段として、コンピュータ上で動作するデータベース管理システムが用いられることが多い。このうち、最も重要なリレーショナルデータベースについて概観する。リレーショナルデータベースの基礎知識を習得し、SQLによるデータ定義とデータ操作の方法を学ぶ。<br>【キーワード】<br>リレーショナルデータベース、SQL | 森本　容介(放送大学・准教授) | 森本　容介(放送大学・准教授) |
| 3 | 文献データベースの構築 | 私たちの身近にある図書、新聞、雑誌論文などの文献データベースがどのように発展してきたかを概観する。また、文献データベースの構築の手順と、検索におけるメタデータの役割を論じ、メタデータ標準の具体例を示す。さらに文献検索において重要な課題である主題表現の考え方と方法を紹介する。<br>【キーワード】<br>文献データベース、情報検索、メタデータ、主題表現 | 三輪　眞木子(放送大学・教授) | 三輪　眞木子(放送大学・教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 文献データベースの利用 | 文献データベースを使って情報を検索するプロセスを、文献とクエリのマッチングとしてとらえる伝統的な情報検索モデルを紹介し、その問題点を考える。また、ユーザの情報探索行動の一部として情報検索を捉えるユーザ志向の情報探索の考え方を学ぶ。さらに、情報検索におけるユーザの心理を捉えるために、意思決定と問題解決における心の動きを捉える。<br>【キーワード】<br>検索技法、情報探索プロセス | 三輪　眞木子（放送大学・教授） | 三輪　眞木子（放送大学・教授） |
| 5 | テキスト検索 | 検索インデックスを用いた高速なテキスト検索の一連の流れを学ぶ。テキスト検索の応用例として、インターネットの検索エンジンを取り上げる。<br>【キーワード】<br>全文検索、検索インデックス、形態素解析、N-gram、検索エンジン | 森本　容介（放送大学・准教授） | 森本　容介（放送大学・准教授） |
| 6 | 文献データベースの評価 | 文献検索システムの評価基準として使われている適合性の概念と、適合性に基づく評価指標である再現率と精度を考える。これらの指標を用いて文献検索システムを評価する検索実験を紹介する。一方、ユーザが文献データベースをどのように評価しているかを考える。また、文献データベースを包括的に評価する視点である、費用対効果および費用対便益の考え方を学ぶ。<br>【キーワード】<br>適合性、検索実験、システム志向、ユーザ志向、費用対効果、費用対便益 | 三輪　眞木子（放送大学・教授） | 三輪　眞木子（放送大学・教授） |
| 7 | 多様なメディアとデータベース | 私たちは、文字情報以外に画像や映像などさまざまなメディアによる情報を活用している。3つの観点から多様なメディアとデータベースについて考える。①コンピュータやネットワーク上でどのようなメディアを活用しているのか。②さまざまなメディアの中でなぜ画像情報は重要なのか。③多様なメディアによるデータベースが発展してきた要因は何か。<br>【キーワード】<br>メディア、画像情報、コンピュータ技術、メディア技術、情報基盤 | 川淵　明美（放送大学・准教授） | 川淵　明美（放送大学・准教授） |
| 8 | 画像処理の基礎 | 様々なメディアの中で静止画像を取り上げる。画像をコンピュータ上で扱うには、画像データのデジタル化や加工、符号化などの処理が必要である。画像データの仕組み、画像データの加工、画像データの保存の基本技術を学ぶ。<br>【キーワード】<br>画像データ、デジタル化、色、画像ファイル | 川淵　明美（放送大学・准教授） | 川淵　明美（放送大学・准教授） |
| 9 | 画像データベースの管理と活用 | 美術館・博物館の所蔵品データベースやオンラインショッピングでの商品データベースなどWeb上で画像データベースを利用する機会が増えてきている。画像データベースの構成、画像情報の管理、画像検索の方法から画像データベースの仕組みを学ぶ。また、デジタルアーカイブにおける画像データベースの管理と活用事例から、画像データベースの有効性を考える。<br>【キーワード】<br>画像データベース、画像ファイル、メタデータ、画像検索 | 川淵　明美（放送大学・准教授） | 川淵　明美（放送大学・准教授） |
| 10 | 映像データの取得 | 映像データをデータベース化する際に必要となる，映像データの取得や編集方法について概説する．また，映像の処理技術の例として，情報量が大きな映像を効率的に扱うために用いられる，映像の変わり目（シーンチェンジ）の検出手法についてもあわせて述べる．<br>【キーワード】<br>A/D変換，映像フォーマット，映像編集，シーンチェンジ | 柳沼　良知（放送大学・准教授） | 柳沼　良知（放送大学・准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 映像データの配信 | 映像データの配信手法として，Webサーバを使ったダウンロード配信やビデオポッドキャスト，専用の映像サーバを用いたストリーミング配信等の配信手法について述べる．また，映像配信の際の要素技術の1つである，映像要約の概要についてもあわせて述べる．<br>【キーワード】<br>ビデオポッドキャスト，ストリーミング，映像要約 | 柳沼　良知(放送大学・准教授) | 柳沼　良知(放送大学・准教授) |
| 12 | 映像データの「こんな検索」 | 画像検索や映像検索は，利用者の検索意図に基づき，検索したい画像のイメージを明確に表現できる場合に対応する「こんな検索」と，検索したい画像のイメージを明確に表現できない場合に対応する「あんな検索」の2つに分類することができる．本章では，「こんな検索」における検索キーの抽出手法や検索システムの実現について述べる．<br>【キーワード】<br>映像検索，画像検索，検索キー，「こんな検索」 | 柳沼　良知(放送大学・准教授) | 柳沼　良知(放送大学・准教授) |
| 13 | 映像データの「あんな検索」 | 画像検索や映像検索は，利用者の検索意図に基づき，検索したい画像のイメージを明確に表現できる場合に対応する「こんな検索」と，検索したい画像のイメージを明確に表現できない場合に対応する「あんな検索」の2つに分類することができる．本章では，「あんな検索」における検索キーの抽出手法や検索システムの実現について述べる．<br>【キーワード】<br>映像検索，画像検索，検索キー，「あんな検索」 | 柳沼　良知(放送大学・准教授) | 柳沼　良知(放送大学・准教授) |
| 14 | 3次元データの処理 | 近年のハードウェアの発達により、3次元データが科学、医療、教育、エンタテイメントなど、様々な分野で利用されるようになってきている。本章では、3次元ボリュームデータや3次元ポリゴン(多面体)のデータ形式や構造について学習する。また、3次元データベースを効果的に扱うために必要な類似形状検索技術とその応用について学習する。<br>【キーワード】<br>3次元データ、ボリュームデータ、ポリゴン、類似形状検索 | 鈴木　一史(放送大学・准教授) | 鈴木　一史(放送大学・准教授) |
| 15 | データベースの運用 | 長期的視野に立ってデータベースを運用していくために必要な、セキュリティ管理や障害対策、著作権の管理について述べる。利用者にとって使いやすいデータベースサービスを提供するために必要な、インターフェイス設計や利用者支援のあり方を考える。最後に、時間や空間の枠を超えてデータベースを発展させていくための方法について論じる。<br>【キーワード】<br>セキュリティ管理、障害対策、著作権管理，データベースの更新、利用者支援 | 柳沼　良知(放送大学・准教授)<br>三輪　眞木子(放送大学・教授) | 柳沼　良知(放送大学・准教授)<br>三輪　眞木子(放送大学・教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１２年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8970009 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　eラーニングの理論と実践　　（’１２）＝　　(TV)

〔主任講師（現職名）：青木　久美子　（放送大学教授）　〕

〔主任講師（現職名）：　〕

【本学担当専任教員：　】

講義概要

インターネット等の情報通信技術を活用した教育方法として現在普及しつつあるeラーニングの概要、国内外の実践状況、背景となる学習理論、基礎となる技術、設計プロセス、運営方法、評価、質保証等について説明し，現在のeラーニングの状況と将来の方向性を展望する。

授業の目標

・eラーニングの歴史的背景や現状を理解し、その背景となる理論や技術について説明できるようになる。
・eラーニングの諸課題に関する理解を深め、eラーニングの設計において考えなければいけない要因について助言ができるようになる。

履修上の留意点

インターネット接続が可能であること。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | eラーニングとは | eラーニングという用語の意味、その歴史的背景、さまざまな形態の分類、eラーニングを実施する利点について検討する。また、海外（ここでは、米国、英国、韓国）の高等教育機関においてのeラーニングの活用状況、そして、企業・学校・予備校・生涯学習、といった分野においてeラーニングがどのように活用されているかについても説明する。<br>【キーワード】<br>eラーニングの定義，ブレンデッドラーニング、ハイブリッドラーニング、フルオンライン | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |
| 2 | eラーニングの活用事例 | 国内外のeラーニングがどのように行われているかについて、組織的・技術的など様々な観点から概説する。特に、「日本国内においてはどのようにeラーニングが行われているのか」・「海外のeラーニングとはどのような違いがあるのか」・「現在のeラーニングにおける課題は何か」について本センターの調査結果や事例を踏まえながら説明する。<br>【キーワード】<br>eラーニング活用状況、eラーニングの国際比較 | 辻靖彦（放送大学・准教授） | 同左 |
| 3 | eラーニングの学習理論 | ここでは、eラーニングの一般的な特性を考えるとともに、eラーニングを設計・実施・受講する際に前提となる学習理論について理解を深める。ここでは、学習理論を、行動主義論・認知主義論・構成主義論の3つに分類して、eラーニングにおける歴史的変遷を鑑みながら、それぞれの学習理論におけるeラーニングの特性について検討する。<br>【キーワード】<br>学習理論、行動主義、認知主義、構成主義、教育目標分類 | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 動機づけと自己制御学習 | eラーニングにおける学習への動機づけを高め維持する技法について、ケラーによって提唱されているARCSモデルとその活用例とを紹介する。あわせて、自己調整学習について学習方略との関係に注目しつつ言及する。<br>【キーワード】<br>動機づけ、ARCSモデル、自己制御学習、学習方略 | 高橋秀明（放送大学・准教授） | 同左 |
| 5 | マルチメディア学習 | メイヤーによって提唱されているマルチメディア学習の理論と方法論とを紹介し、eラーニングの設計に応用可能な原理・原則を説明する。あわせて、その問題点や限界についても言及する。<br>【キーワード】<br>マルチメディア学習、ことば、絵、情報処理モデル | 高橋秀明（放送大学・准教授） | 同左 |
| 6 | eラーニングの基盤技術 | eラーニングはどのような技術を用いて行われているのか、基盤となる技術について解説する。具体的にはTCP/IP、HTTP、Webなどネットワークやインターネットの技術及び、学習管理システム（LMS／CMS）などの具体的なシステムについて概念的な説明を行う。<br>【キーワード】<br>ネットワーク、TCP/IP、Web、インターネット、LMS | 辻靖彦（放送大学・准教授） | 同左 |
| 7 | eラーニング教材の技術 | eラーニングでは実際にどのような形式の教材が用いられているのか、また、用いられている教材にはどのような技術が用いられているのかについて説明を行う。教材の形式としては、ビデオ形式、、スライド形式、テキスト形式、Flash形式、クイズ形式、書籍形式など一連の教材のタイプを取り上げ、さらに、学習者の進捗履歴状況や点数などを扱う標準化技術であるSCORMについて説明を行う。<br>【キーワード】<br>eラーニング教材、SCORM | 辻靖彦（放送大学・准教授） | 同左 |
| 8 | 学習オブジェクト：学習コンテンツの共有・再利用 | eラーニングの特長の1つは，学習者の特性や学習の進捗状況に応じて最適な学習コンテンツを提供できることである。しかし，その都度コンテンツを，教員や教育機関が一から作成したのでは無駄も多く質の保証もできない。そこで，高品質な素材や部品を共有し再利用するための「学習オブジェクト（learning object）」モデルが生まれた。今回は，いくつかの基本的概念，技術的要件，活用事例，特に国際的なコミュニティにおける学習コンテンツ共有の試みについて解説する。<br>【キーワード】<br>学習コンテンツ，学習オブジェクト，メタデータ，検索，機関リポジトリ，国際標準化 | 山田恒夫（放送大学・教授） | 同左 |
| 9 | eラーニングを支える専門家 | 従来の学校教育では教師が計画から評価までを一貫して行うことが多いが、eラーニングでは教育内容以外の様々な専門性が必要となってくるために、専門性を持った人たちと協働で行われるのが普通である。この回では、eラーニングの企画・運営にはどのような役割を果たす専門家が必要で、そのためにどのような知識/技能が必要とされるかを解説する。<br>【キーワード】<br>インストラクショナルデザイナー、チューター、メンター、システム管理者、スキル、コンピテンシー | 加藤浩（放送大学・教授） | 同左 |
| 10 | インストラクショナルデザイン理論 | ここでは、インストラクショナルデザインの歴史的背景、そしてインストラクショナルデザインの主流となっている2つのプロセスモデル、ADDIEモデルとディックとケリーのモデルについて説明する。また、本章最後には、このモデルの限界についても考察する。<br>【キーワード】<br>インストラクショナルデザイン、ADDIEモデル、ディックとケリーのモデル | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | インストラクションの設計 | ここでは、eラーニングコース開発のプロジェクトの規模についてまず考え、それから前回で説明したADDIE（分析・設計・開発・実施・評価）モデルに沿って、実際にeラーニングを開発するにあたって、どのようにインストラクションを設計して実施するのかを順を追って考えていく。それぞれの段階において、何に気をつけたらよいのか、どのようなことを考えればよいのか、を説明する。<br>【キーワード】<br>インストラクショナルデザイン、ADDIEモデル | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |
| 12 | 協調学習と学習コミュニティ | 近年、学習における社会的相互作用が重視されるようになってきているが、その背景には、学習が個人の頭の中で起こることとみなす学習観へのアンチテーゼとして、社会文化的な学習観が台頭してきたことがある。この回では、学習の社会的側面を重視する立場の学習観の中から主要なものを紹介する。また、学習活動の中に、他者との社会的交流が取り入れられるようになってきているが、そういった場面でよく用いられるツール類についても紹介する。<br>【キーワード】<br>正統的周辺参加、実践コミュニティ、活動理論、社会構築主義、学習コミュニティ、BBS、SNS、 | 加藤浩（放送大学・教授） | 同左 |
| 13 | ラーニングデザイン | インストラクションデザインが主に米国で盛んに謳われたのに対し、欧州や豪州で始まったラーニングデザインの理論と実践について論じる。ラーニングデザインの分野での研究アプローチや、研究開発されているツールを幾つか紹介する。<br>【キーワード】<br>ラーニングデザイン、アフォーダンス、IMS-LD、デザインベースの研究、教育パターン | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |
| 14 | eラーニングにおける学習評価 | eラーニングや遠隔教育において、学習活動や内容の基本的な評価法が大きく異なるわけではない。しかし、遠隔で個別に、自律的に行われるという特徴から、いくつかの留意すべきポイントがある。eラーニングの特長を引き出すものとして、形成的評価、eポートフォリオ、コンピテンシーモデル、eラーニングにおける固有の問題として、個人認証、コンピュータ適応型テストについて概説する。<br>【キーワード】<br>eテスティング、総括的評価、形成的評価、eポートフォリオ、コンピュータ適応型テスト、項目反応理論、個人認証 | 山田恒夫（放送大学・教授） | 同左 |
| 15 | eラーニングの質保証 | ここでは、eラーニングの制度的な質保証について、高等教育を重点において説明する。教育の質というものの考え方、また、諸外国でみられる様々な施策を紹介し、eラーニングの質の評価方法について言及する。最後に、eラーニングの特性として、時空間を超えることから、国境を越えたeラーニングの質の保証についても考察する。<br>【キーワード】<br>eラーニング質保証、ベンチマーキング、ガイドライン、国境を越えたeラーニング | 青木久美子（放送大学・教授） | 同左 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8960518 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 基礎情報科学 （’０９）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：川合慧（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：萩谷昌己（東京大学教授）〕

## 講義概要

情報に関する学問分野は，記号論，計算機科学，計算機工学といった比較的に基礎分野を扱うものから，情報学，さらには人間社会と密接に絡み合うメディア関連の諸学問まで極めて幅広いものとなっており，その学習にあたっても，全体と部分を見る努力の焦点を定めにくい．本科目ではこのように広い情報分野の中で，基礎学問としての計算機科学の核となる概念である「計算」に焦点をあて，その数理的な概念と性質，計算のモデル化と計算量，計算可能性，さまざまなタイプの計算システム，そしてその物理現象としての実装とを総合的に扱う．

## 授業の目標

全15回の講義を通じ，本来抽象的であり理解することが容易ではない「基本概念としての計算」の姿を会得する．また，計算量やそのオーダ，計算可能性などについての具体的な理解を，数式等の助けを可能な限り借りることなしに得ることを目的とする．現代のコンピュータの動作についての，パソコン利用的な表面的ではない本質的な部分のイメージを体系的に学ぶことが最終目標である．

## 履修上の留意点

グラフ理論や形式言語等の知識があれば理解はさらに深まるであろう．実際のプログラム言語の利用経験も理解の助けにはなるが，本科目ではより抽象的かつ包括的な計算を取り扱う．

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 情報とその表現 | 我々が一般にイメージする「情報」は，本来は普遍的な概念である情報の，個々の局面での様々な出現形態である．ここでは情報の本質と，その表現に使われる種々の約束事について，多面的な例をもとにして理解する．<br><br>【キーワード】<br>情報，情報処理，表現 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 2 | 情報の処理と計算 | 我々が普段目にする「計算」，たとえば四則演算のようなものは，もともとの意味の忠実な表現を維持するようにして実行される，記号の間の変換操作である．ここでは，アルゴリズムと呼ばれる様々な「計算手順」の具体例によって，計算処理の本質を理解する．<br><br>【キーワード】<br>意味と記号，計算 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 3 | 再帰の本質 | 一定数の記述部品を使って計算を表現する場合，同じ部品を状況を変えて何回も利用するが，自分自身を下請けとして使用することもある．ここでは，再帰と呼ばれるこの手法によって組み立てられる計算のやり方と性質とを理解する．<br><br>【キーワード】<br>再帰，関数 | 萩谷昌己（東京大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | パターン照合による計算 | データの間の対応関係を定める処理をパターン照合と呼ぶ．データの構造や制限された任意性の利用により，パターン照合による計算が実現できる．ここではパターン照合による計算のやり方を学び，その性質を理解する．<br><br>【キーワード】<br>パターン照合，バインディング | 萩谷昌己(東京大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 5 | オートマトンと状態遷移 | 一連の入力を与えると内部の状態が順々に変化してゆくような抽象的なシステムをオートマトンと呼び，その性質は詳しく調べられている．ここではオートマトンを用いた計算のやり方と，その構成方法について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>オートマトン，状態遷移 | 萩谷昌己(東京大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 6 | チューリングのテープ機械 | オートマトンの入出力を無限長のテープを使って行ない，テープ上に計算結果を残す働きをもつシステムとしてチューリング機械があり，計算論では中心的な意味をもつ．ここではその原理と計算の様子および主な性質を学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>チューリング機械，遷移表，テープ | 萩谷昌己(東京大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 7 | 計算モデルの等価性 | これまでに見た様々な「計算のやり方」は，その基本要素の種類に応じて「計算モデル」として整理される．ここではその様子を学び，これらの計算モデルが互に他の真似をすることができるという意味で等価であることを理解する．<br><br>【キーワード】<br>計算モデル，シミュレーション，等価性 | 萩谷昌己(東京大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 8 | 計算量 | 計算モデルのすべてに渡って，そのモデルに従った手順(アルゴリズム)を実行した際に，結果を得るまでの手間という量(計算量)を考えることができる．ここではその基本的な性質と主要項である計算量のオーダについて学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>計算量，計算の手間，計算量のオーダ | 川合慧(放送大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 9 | 計算量の実際 | 各種の実用的な計算では計算量が莫大になることが多い．ここではそのような計算の例として，膨大な数の局面を検査する必要のあるゲームプレイと，解手順の計算量の大きさを利用する暗号処理について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>ゲーム，探索空間，暗号，一方向関数 | 川合慧(放送大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |
| 10 | 計算の複雑さ | 計算量をそのオーダによって分類すると，問題の大きさが変化した場合の計算量の変化の振舞いが明らかになる．いくつかのオーダの例でこれを調べ，計算量のオーダの階層性を学び，関連する未解決問題「P=NP？」を理解する．<br><br>【キーワード】<br>計算量階層，多項式オーダ，指数オーダ，P=NP問題 | 川合慧(放送大学教授) | 川合慧(放送大学教授)<br>萩谷昌己(東京大学教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 計算不能！ | ここで取り上げた計算モデルはすべて数学の証明論の枠組みで取らえられる．数学基礎論では証明不可能な問題があることが不完全性定理の名で知られているが，その「計算版」として計算不可能な問題が構成できることを学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>計算可能性，不完全性定理，対角線論法 | 萩谷昌己（東京大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 12 | いろいろな計算 | 計算論におけるいくつかの話題として，分子の反応を利用する分子計算，いつでもundoができる可逆計算，量子力学にもとづく量子計算などの実際と，その原理とを理解する．<br><br>【キーワード】<br>可逆計算，量子計算，分子計算 | 萩谷昌己（東京大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 13 | 記号と情報 | 何かを意味し，かつ知覚できるもの，という記号の定義を，情報科学の文脈に摘要し，計算の諸概念を分析する．また，メッセージがもつ情報の大きさについての数値化の例としての情報量と，その計算とのかかわりを理解する．<br><br>【キーワード】<br>記号，情報の表現，情報量 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 14 | 計算の実現 | 計算で扱う様々な情報の処理は，計算の要素を様々な方法で表現することにより，現実に動作する物理的な装置として実現できる．ここではその概略と，現実のコンピュータにおける2進表現の使用理由について学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>論理演算，2進表現 | 川合慧（放送大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |
| 15 | 現代的コンピュータ | 現代のコンピュータは「計算」を行なう機械であるが，その成り立ちは現実の工学的な実現可能性に強く縛られている．ここではその概略と，実際に用いられているプログラム言語と呼ばれる計算記述の様子を学ぶ．<br><br>【キーワード】<br>コンピュータ，プログラム内蔵方式，プログラム言語 | 萩谷昌己（東京大学教授） | 川合慧（放送大学教授）<br>萩谷昌己（東京大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１３年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8960577 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　現代物理科学の論理と方法　　（’１３）＝（R）

〔主任講師（現職名）：米谷民明（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：】

講義概要

物理学は、物質と時空を研究対象として、普遍的な法則性の理解を深めてきた。その過程で、特定の研究対象だけに限らず、対象の空間・時間スケールを超えて異なるスケールで有効な様々な物の見方（論理）や方法論が発展した。本科目では、従来の科目の一般的分類にとらわれずに、広い範囲で有効性を持つ物理科学の基礎的な考え方・方法論とその具体的応用に焦点を当て、物理科学の基礎としての現代物理学の神髄について最先端の成果や将来の展望も含めて、大学院科目ではあるが、初学者が入門しやすいように工夫した講義を行う。

授業の目標

体系的な一般論や数学的な厳密さの追求は強調せず、具体例や単純化されたモデルに基づき、本質を直観的に理解できるような講義内容とする。履修者が自分の頭で考え、発見を追体験しつつ学び、それぞれ自分なりの応用や創意工夫へと動機づけられるような科目を目指す。

履修上の留意点

物理学全般について、放送大学学部共通科目の「物理の世界」程度以上の理解があることを最低限の前提とする。また、放送大学学部専門科目、「力と運動の物理」、「現代物理」等を履修したのと同等レベル以上の知識や運用力があるのが望ましい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 物理科学の基礎概念と方法1<br>物理学の発展 | 第1回から5回までは、6回以降の様々なテーマに進むための準備として、物理学の基礎的概念と方法について、導入的な解説を行う。第1回は、物理学の歴史的発展を概観することを通じて、自然科学のなかでの現代物理学の位置づけを把握し、物理学の最も基礎的な概念（時間と空間、座標系、力、運動、場、など）のいくつかについて復習する。<br>【キーワード】<br>力、運動、時間、空間、座標系、場 | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |
| 2 | 物理科学の基礎概念と方法2<br>保存則と対称性 | 物理学を具体的な問題に応用するときに、普遍的に役立つ知見の1つは、取り扱う現象において保存する物理量が何かを見極めることだ。本章ではこの保存量と対称性の関係を変分原理を通じて整理する。また量子力学における対称性と保存則についても概略を述べる。<br>【キーワード】<br>保存則、対称性、対称性の自発的破れ | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |
| 3 | 物理科学の基礎概念と方法3<br>確率とゆらぎ | 多数の要素が関与する複雑な現象を解析し、有用な解釈をするには、物理科学に限らず、確率とゆらぎの概念、および、それらを扱うための統計的方法が欠かせない重要な役割を果たす。典型的例を通じて、確率と統計の方法が果たす役割を通じて統計力学の考え方を学ぶ。さらに、量子力学における確率概念の特質を概観する。<br>【キーワード】<br>確率、ゆらぎ、正準分布、状態の重ね合わせ、混合状態 | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 物理科学の基礎概念と方法4<br>現象とモデル | モデルの構築は、現象の本質をえぐりだすのに必要な最小限の要素だけに対象を切り落として単純化することや、複雑な現象を整理してモデルから理解することなど、を通じて自然界の普遍的な性質を取り出すのに有効な方法である。モデルの有効性と限界を具体例でみる。<br>【キーワード】<br>プランクの公式、ボーアの原子模型、分子間力、揺らぎと力 | 米谷民明(放送大学教授) | 米谷民明(放送大学教授) |
| 5 | 物理科学の基礎概念と方法5<br>数理的方法と近似 | 物理科学において、個別の対象によらず共通に役立つ数理的見方と方法として典型的で、対称性の扱いに役立つ群論の考え方を整理し、応用例を解説する。<br>また、線形と非線形の違い、それぞれの特徴について述べる。<br>【キーワード】<br>対称群、点群、回転群、空間反転、時間反転、線形、非線形 | 米谷民明(放送大学教授) | 米谷民明(放送大学教授) |
| 6 | 形の物理 | 自然界に現れる「形」はさまざまであるが、共通して現れる形があり、背後には普遍的な形成原理がある。この講義では水玉やシャボン膜にはたらく表面張力を例として、形の形成原理の1つである面積極小という数理的方法論を学ぶ。マクロ世界で現れるこの面積極小の考え方はミクロ世界の自己組織化構造である共連続相にも現れる。共連続相の対称性である空間群についても述べる。<br>【キーワード】<br>形、表面張力、極小曲面、自己組織化、共連続相、空間群 | 堂寺知成(近畿大学理工学部教授) | 堂寺知成(近畿大学理工学部教授) |
| 7 | ミクロとマクロ | 原子や分子が主役となるミクロ世界の空間尺度は1億分の1センチメートル程度であり、われわれが普段生活しているマクロ世界とは8桁以上離れている。空間尺度の大きな差の結果として、素朴には想像できない普遍的な法則がマクロ世界で成り立ち、その根拠がミクロ側のある様相に求められる。「ゴム」を例題にして、この論理の本質的部分を学ぶ。<br>【キーワード】<br>熱と力学の統合、スケールの分離、大数の法則、等重率の原理、エントロピー力 | 佐々真一(東京大学・大学院総合文化研究科教授) | 佐々真一(東京大学・大学院総合文化研究科教授) |
| 8 | 平衡と非平衡 | 平衡条件下にある系では、エントロピー増大則に代表されるように、「変化の向きに関する制約」が法則化される。その一方、生物をはじめとして、生き生きと活動しているように見える系は、非平衡条件下で作動している。平衡と非平衡の違いは何か、それぞれにおける変化の向きの制約は何か、また、それらの違いは何に由来して生じるのか。「ファインマンの歯車」と呼ばれる思考実験を例題にして、これらの基本的考え方を学ぶ。<br>【キーワード】<br>エントロピー増大則、非平衡環境、ゆらぎと散逸、輸送、可逆と不可逆 | 佐々真一(東京大学・大学院総合文化研究科教授) | 佐々真一(東京大学・大学院総合文化研究科教授) |
| 9 | 超伝導とボース・アインシュタイン凝縮 | 量子論の特徴的性質であるボース・アインシュタイン凝縮について学ぶ。特に、典型的例の一つとして、物質の量子的性質がマクロに現れる超伝導現象を取り上げ、マクロ的な取り扱いや、ミクロな立場からのメカニズムの理解に関して基礎的な考え方や方法を学ぶ。<br>【キーワード】<br>ボース統計、超流動、超伝導、レーザー | 氷上忍(沖縄科学技術大学院大学学園教授) | 氷上忍(沖縄科学技術大学院大学学園教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 相転移とはどういうものか | 物質の通常の状態から超伝導状態への変化は、相転移と呼ばれる現象によって起る。相転移は、身近にもよく起こっているし、宇宙から素粒子までにわたって普遍的に起こる現象である。相転移を取り扱うのに有効な考え方のいくつかを、典型的な凝縮系での例をもとに、まずマクロな立場から学ぶ。<br>【キーワード】<br>磁性体、イジング模型、ギンツブルグ・ランダウハミルトニアン | 氷上忍（沖縄科学技術大学院大学学園教授） | 氷上忍（沖縄科学技術大学院大学学園教授） |
| 11 | 臨界現象と繰り込み群 | 物質の相転移をミクロな立場から理解するには、繰り込み群の考えが有効性を発揮する。その初歩をいくつかの具体的例により学ぶ。繰り込み群は量子論における場の理解にも欠かせないない重要な概念である。それらについても触れる。<br>【キーワード】<br>スケーリング則、繰り込み群方程式、臨界指数、異常次元 | 氷上忍（沖縄科学技術大学院大学学園教授） | 氷上忍（沖縄科学技術大学院大学学園教授） |
| 12 | 力とゲージ場 | マックスウェルの電磁場理論は量子論と組み合わさり、力についてのより根源的な理解を支えるゲージ場という概念を生んだ。ゲージ場は、素粒子相互作用だけではなく、マクロな凝縮系でもミクロのレベルから対称性とその破れに基づき物質を理解するのに役立つ普遍的概念の一つである。ゲージ場とは何か、その意味、特徴、役割を具体例で述べる。<br>【キーワード】<br>ゲージ変換、ゲージ不変性、AB効果、磁気単極子 | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |
| 13 | 素粒子物理と相転移 | 素粒子レベルにおいては、真空そのものが、ただの空っぽではなく、素粒子が絶えず生成消滅を繰り返している複雑な系である。基本相互作用の統一には、真空の相構造の理解が重要である。第1章で強調した基本相互作用の場の理論であるゲージ理論の相構造について解説する。<br>【キーワード】<br>量子色力学、電弱統一理論、粒子と反粒子、真空の相転移 | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |
| 14 | 初期宇宙論と相転移 | 現代宇宙論は、インフレーションと呼ばれる急膨張時代があったことを突き止め、大域的に一様等方で、かつ豊かな階層構造を持つ私たちの宇宙に進化するための初期条件の起源を明らかにした。そこには、相互作用の分化と相転移という概念が重要な役割を果たしていること、また、宇宙の起源を理解するために不可欠な、「ゆらぎ」の概念について解説する。<br>【キーワード】<br>宇宙の相転移、インフレーション宇宙論、宇宙の創生、ゆらぎ | 横山順一（東京大学・大学院理学研究科教授） | 横山順一（東京大学・大学院理学研究科教授） |
| 15 | 現代物理科学の課題 | 最終章として全体のまとめを行う。広い分野で普遍的に用いられるエントロピーの概念を改めて整理し、最先端の研究に関わる問題としてブラックホールの場合を解説する。最後にさらなる普遍性の探求と課題について述べる。<br>【キーワード】<br>エントロピー、H定理、ブラックホール、生命の起源、宇宙の起源 | 米谷民明（放送大学教授） | 米谷民明（放送大学教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8960550 | 履修制限 | 有 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 生命環境科学Ⅰ （’１０）＝（ＴＶ）

－生物多様性の成立ちと保全－

※この科目は「生命環境科学Ⅰ（’05）」を一部改訂した科目です。
改訂回は第9, 10, 11, 14, 15回です。

〔主任講師（現職名）：松本　忠夫（放送大学　教授）　〕

## 講義概要

生命体は様々な地球環境のもとで、おそらく40億年近くかけて進化してきたが、その結果として、今日の大きな生物多様性が見られる。そのような多様な生命体の姿は、ゲノムの中の遺伝情報が表現型として表れたものである。本講義では、遺伝情報がどのようにして進化史の中で改変し、また現実にどのように発現されて多様化しているのかを環境との対比で見る。さらに、野外自然における生物多様性の調査法を解説する。そして、人間活動が生物多様性の減少に大きく影響している現代の様相を概観し、生物多様性の保全策について考察する。

## 授業の目標

自然環境科学における重要な概念としての生物多様性とは何か、いかにして成立したか、そしてそれを保全するにはどのようなことを行わなくてはならないかについて、大学院生としての知識を学んでもらう。

## 履修上の留意点

本講義を履修するにあたっては、学部での基礎科目の「初歩からの生物学」を履修しておくこと、あるいは同水準の生物学を既習していることが望ましい。また、学部での専門科目の「動物の科学」、「植物の科学」、「生物界の変遷」そして総合科目の「バイオサイエンスで豊かな暮らし」は、生物科学関係の関連した科目として設置されているので、できるだけ参考にして欲しい。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 「生命環境科学Ⅰ」のねらい、生物多様性について | 今日の生物の多様性が生じた理由は実にさまざまであるが、特に大きな理由として無機環境への適応性、生活資源の獲得力、そして生物間の相互作用がある。それらに関しての様相を概観し、本講義全体のねらいを解説する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫（放送大学教授） | 松本　忠夫（放送大学教授） |
| 2 | 様々な生物社会とその成立メカニズム | 生物は多かれ少なかれ、同種個体が集団（群れ、群落、コロニーなど）を形成して生活しているものが多い。そのような集団を社会と見ることができるが、いかなる理由でそれらの社会が成立しているのかについて、特に環境との関連で説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 3 | 植物の多様な繁殖様式と、動物との関係 | 植物では、動物とは個体性が大きく異なり、動物にはみられない多様な性表現が存在する。ここでは、被子植物にみられる性表現と受粉様式の進化を解説するとともに、それには動物の影響が大きかったことを紹介する。また、植物が動物からの摂食に耐えるためのさまざまな適応戦略を説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫<br>大原　雅（北海道大学大学院教授） | 松本　忠夫<br>大原　雅（北海道大学大学院教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 動物の多様な繁殖様式 | 通常の動物は有性生殖を行うが、中には単為生殖、多胚生殖、幼形生殖などを行うものがいる。また、親による子の保護様式と関係して、卵生、卵胎生、胎生などが見られる。さらに哺乳類では雌親による授乳が発達している。本章では、このように多様な動物の繁殖様式を説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 5 | 植物の発生と環境適応 | 植物は固着生物なので、環境に対して柔軟に適応する能力が進化の過程で発達した。中でも植物の生活を支えている光合成に関しては、環境適応が必須のため、光合成器官である葉の発生は、外界の環境に適応して実に大きな可塑性を発揮する。葉の発生の可塑性と環境適応との関係について、発生を制御する遺伝子の働きの視点から、現在の理解を紹介する<br>【キーワード】 | 塚谷裕一（東京大学大学院教授） | 塚谷裕一（東京大学大学院教授） |
| 6 | 動物の発生と環境適応<br>(1) 諸事例 | 動物の中には、発生・発育過程において環境の影響を受けて、その形態や性質が大きく変化するものたちがいる。生存のための環境適応と解釈される。また、繁殖における戦略として性転換をする魚類、さらには昆虫類の環境適応としての多型現象にもふれる。そして、そのような多様な形態や性質をもたらす進化的要因および体内メカニズムについて説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 7 | 動物の発生と環境適応<br>(2) 昆虫の翅形質の例 | 昆虫類はその進化の中で翅を獲得することで陸上に大きく繁栄できた。しかし、昆虫によっては翅を形成しない種類もいる。一方、チョウ類のように翅の色彩や斑紋が華美であったり、擬態していたり多彩な分類群がいる。ここではそのような昆虫類における翅形成の有無、色彩や斑紋の多様性などが成立するに至った進化的要因および翅形成のメカニズムについて説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫<br>三浦　徹（北海道大学大学院准教授） | 松本　忠夫<br>三浦　徹（北海道大学大学院准教授） |
| 8 | 社会性生物におけるカースト分化 | 社会性生物は、集団で生活し、その中に少数の生殖者そして多数のワーカーや兵隊など非生殖者といったカースト分化が見られることを特徴としている。そして、陸域において大繁栄している。ここでは動物の社会性について解説する。そして、繁栄の鍵となっているカースト分化がもたらされた進化的要因およびカースト分化の分子生物学的メカニズムについておもにシロアリを例にして説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫<br>三浦　徹 | 松本　忠夫<br>三浦　徹 |
| 9 | 生態系における微生物の位置<br>（※改訂回） | 生態系において、微生物によっては一次生産（光合成または化学合成による有機物生産）を行うものがいる。さらに、多くの微生物は、植物や動物由来の有機物を分解する働きをしている。本章では、そのような微生物の存在が、生態系における生物多様性とどのように関係しているかを説明する。また菌類と植物、あるいは菌類とシアノバクテリアとの共生関係に関しても説明する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 地球における生物資源の管理<br>（※改訂回） | 近世になって世界の人口は爆発的に増加し始めたが、現在でも勢いは衰えず着々と増えている。そして、所得水準の向上もあり、近未来に食料不足や化石燃料由来のエネルギー枯渇が起こることが懸念されている。付随して、地球上の原生的な自然が急速に開発されつつあり、生物多様性の危機がさけばれている。そこで、地球上における生物多様性を保全しつつ、地球上の生物資源を合理的に利用することが強く求められている。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 11 | 人工物の生物多様性への影響<br>（※改訂回） | 人間は生活向上のために、さまざまな人為建造物を作ったりして、生態系を大規模に改変してきた。そして、近年では実に様々な化学物質を作ってきている。しかし、このような人為建造物や人為的に作成された化学物質は、生物多様性にも大きな負の影響を与えている。本章では、その影響の様相および対策について概観する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 12 | 生物環境の調査法<br>(1)陸上生物 | 植物群落は、陸上の生態系の一次生産を担い、また動物の生息空間の構造を大きく規定している。植物の種組成や種多様性、さらには動物の生息空間としての植物群落の構造を調査するための方法と、その結果の分析法についてまず紹介する。陸上の動物の調査法は、動物の種類に応じた様々な方法が知られているが、ここではその中から鳥類の個体数調査法を取り上げ、解説するとともに、調査結果を植物群落の調査結果と対応づけるやり方についても概観する。<br>【キーワード】 | 加藤　和弘<br>（東京大学大学院准教授） | 加藤　和弘<br>（東京大学大学院准教授） |
| 13 | 生物環境の調査法<br>(2)水界生物 | 水界にも多様な生物が生育・生息しており、その調査方法は生物の種類に応じて異なる。ここでは河川での生物調査を念頭に置き、一次生産の主体である付着藻類と、調査が比較的容易で環境指標性も高い底生無脊椎動物の調査方法について説明する。さらに、そのような調査によって得られたデータを分析して、種多様性の数値化や生物相の地点間での比較、さらには生物の生息環境の善し悪しの評価を行う手順についても解説する。<br>【キーワード】 | 加藤　和弘 | 加藤　和弘 |
| 14 | 外来種の生物多様性への影響<br>（※改訂回） | 近代の世界では、他地域からの生物が、意図的あるいは非意図的に導入されるが、それらの中で、新しい場所に居着いたものは外来種とよばれる。世界のあちこちで非常に多数の生物が導入された結果として、在来の生物相を圧迫する種が出現し、それらの外来種のために、生物多様性が急速に変化しつつある。本章では、その典型的な例を知るとともに、生物多様性保全のための施策について概観する。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |
| 15 | 生物の絶滅問題と生物多様性の価値<br>（※改訂回） | 現在の地球における生物多様性（生態系、種、遺伝子それぞれの多様性）に対しての人為の影響はたいへん大きい。そして、近代では非常に多数の生物が絶滅し、現在も絶滅の危機に瀕している生物が多い。特に熱帯多雨林域における森林群集全体の喪失は、生物多様性を一気に著しく減少させてしまうので重大問題である。ここでは、そのような生物絶滅の様相を説明し、絶滅をくい止める方策について、また、生物多様性の価値についても改めて考える。<br>【キーワード】 | 松本　忠夫 | 松本　忠夫 |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | 平成20年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920257 | 履修制限 | 有 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 生命環境科学Ⅱ （'０８）＝（ＴＶ）

－環境と生物進化－

※この科目は「生物環境科学Ⅱ('06)」を一部改訂した科目です。
改訂回は1，5，6，7，8回です。

〔主任講師（現職名）：二河　成男（放送大学准教授）〕

〔主任講師（現職名）：星　　元紀（放送大学客員教授）〕

講義概要

生物の個体にとっては，自分自身を除くすべては環境である。このような意味における環境と生物の相互作用を軸として，生物の進化を総合的に考えることにする。

授業の目標

生物と地球環境は、互いに作用しあいながら、進化の過程を通じて現在のような姿になっていること、同じような関係が個体内や、細胞内にも認められることとを学ぶことによって、生物進化と環境との関わりを、分子から生物種間の関係にわたる広い観点から理解することを目指す。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生物にとって環境とは何か（※改訂回） | 「環境と生物進化」を考えるための序章として，生物にとっての環境とは外界の物理化学的自然環境だけではなく，細胞内の環境，生体の内部環境，さらには同種他個体や異種生物との直接的間接的な相互作用等があることを紹介する。ついで、環境との関わりにおいて生物進化を概観する。 | 星　元紀（放送大学客員教授） | 星　元紀（放送大学客員教授） |
| 2 | 原始地球環境と化学進化：生命誕生への第一歩 | 地球は今から45億5000万年前に誕生した。原始地球環境で無生物的に有機物が合成され、蓄積した有機物を基に生命が誕生した。こうした過程を概説するとともに、当時の生態系特に海底熱水系についても述べる。 | 山岸 明彦（東京薬科大学教授） | 山岸 明彦（東京薬科大学教授） |
| 3 | 生命の起源とRNA | 生命誕生間もない頃の原始的な生命体はいったいどのような物であったか。有力な説の1つにRNAワールド仮説がある。この仮説では、原始的な生命体を形づくっていた物 質は主にRNA分子であり、現在ではDNAやタンパク質が担う遺伝情報や触媒機能といった生命活動の基礎を、生命の起源の頃はRNAが担っていたとする。その根拠について解説する。 | 二河成男（放送大学・准教授） | 二河成男（放送大学・准教授） |
| 4 | 極限環境での生物の生存戦略 | さまざまな極限環境、たとえば100℃以上の高温、低温、高圧、酸性、アルカリ性等に、生物とくに微生物が生育している。微生物がこれらの環境に適応するためのさまざまな戦略を解説する。 | 山岸 明彦（東京薬科大学教授） | 山岸 明彦（東京薬科大学教授） |
| 5 | 細胞の出現（※改訂回） | 細胞は生物を構築する基本単位であるとともに，機能分子にとっては環境としての意味をもっている。細胞の起源とその構造と機能について述べる。 | 星　元紀（放送大学客員教授） | 星　元紀（放送大学客員教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 分子状酸素の増加（※改訂回） | 原始地球上には酸素分子は乏しかったが，水分解型の光合成生物が出現したことによって，大気中のその濃度が上昇した。酸素濃度の上昇が生物進化に与えた影響について概説する。 | 星　元紀（放送大学客員教授） | 星　元紀（放送大学客員教授） |
| 7 | 真核細胞の出現（※改訂回） | 生物全体の系統進化を概観した後に，種類の異なる原核細胞が共生しあうことによって真核細胞は生まれたとする共生説の根拠を紹介しつつ，ミトコンドリアおよび葉緑体の起源と進化について述べる。 | 星　元紀（放送大学客員教授） | 星　元紀（放送大学客員教授） |
| 8 | 多細胞生物の出現（※改訂回） | 単細胞生物から多細胞生物が進化してきた道筋を考察するとともに，多細胞生物を構成する細胞は内部環境の恒常性と他細胞との情報交換によって、個体としての整合性が維持されていることを紹介する。 | 星　元紀（放送大学客員教授） | 星　元紀（放送大学客員教授） |
| 9 | 発生の場としての細胞環境 | 生物の発生において個々の細胞は周囲の環境からの情報を受容して分化する。環境要因としては細胞外基質や分泌因子などが重要であり、その作用機構の解明が進んでいる。この講義では発生における細胞環境や幹細胞の環境（ニッチ）について概説する。 | 八杉 貞雄（京都産業大学教授） | 八杉 貞雄（京都産業大学教授） |
| 10 | 生物の大進化と地球環境 | 生物の進化が環境要因の影響下におこることはいうまでもない。環境の影響は発生中の生物にとっても重要であり、近年は環境を通した発生と進化の密接な結びつきが明らかになりつつある。この講義では、進化、発生、環境の全体像について概説する。 | 八杉 貞雄（京都産業大学教授） | 八杉 貞雄（京都産業大学教授） |
| 11 | 寄生：異種生物という環境における生存戦略 | 寄生者にとっては、宿主生物の体内が生きていく環境である。寄生者と宿主の間にみられる高度な相互作用、そして巧妙な駆け引きや生存戦略について学び、理解を深める。 | 深津 武馬（産業技術総合研究所研究グループ長） | 深津 武馬（産業技術総合研究所研究グループ長） |
| 12 | 内部共生と進化 | 密接な生物間相互作用のもとに成り立つ「内部共生」と、それにともなう相互依存関係の発展としてとらえられる生物進化について、多様な実例に沿いつつ紹介し、その本質と帰結について考察する。 | 深津 武馬（産業技術総合研究所研究グループ長） | 深津 武馬（産業技術総合研究所研究グループ長） |
| 13 | 環境とゲノム | ゲノム維持機構は、環境ストレスから生物を守るとともに、様々な環境に適応する多様な生物種を生み出す原動力にもなっている。このシステムを支える分子の働きを解説する。 | 三谷 啓志（東京大学教授） | 三谷 啓志（東京大学教授） |
| 14 | 生物集団の個体数変動 | 生物の数の多さ少なさ、変動性・安定性などはどのように決まっているのかについて紹介し，それが生物進化に果たす役割について解説する。 | 宮下 直（東京大学准教授） | 宮下 直（東京大学准教授） |
| 15 | 生物種間の相互作用と進化 | 自然界で生物種どうしは競争・捕食・寄生・共生など相互に作用し合いながら共存しており，これが生物の多様性を生みだす原動力となっている。ここでは生物間相互作用の実態と，それが生物の多様化に果たす役割について概説する。 | 宮下 直（東京大学准教授） | 宮下 直（東京大学准教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | 平成20年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8920249 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 物質環境科学Ⅱ （’０８）＝（ＴＶ）

－宇宙・自然システムと人類－

〔主任講師（現職名）：海部　宣男　（国立天文台名誉教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉山　直　（名古屋大学大学院教授）〕

〔主任講師（現職名）：佐々木　晶　（国立天文台教授）〕

## 講義概要

地球上の生命、および人類とその文明は、膨張する宇宙で進んだ自然の営みから生まれたものである。地球と生命・人類の創生をもたらし、またその存続を支える物質・エネルギーの源泉とその転化・変遷・循環のしくみは、どのようなものなのか。人類にとっての存続基盤であるさまざまなレベルの環境は、どのようにして生まれ、成り立っているのか。私たち人類文明の基盤とその現在とを物理学的・歴史的視点からグローバルに考察する、全15回の講義である。人類文明はいま存続の可能性すら問われるに至っているが、当面する問題や危機の背後にあるエネルギー・物質の流れや大きな時間・空間にわたるその変遷を踏まえて、宇宙の中の人類とその文明を、現代科学の視点でとらえなおす。

## 授業の目標

私たちが生き、活動しているこの世界(自然)環境について、その本質と歴史、変化のしくみを物理学・天文学・地球科学にもとづいて全体的・重層的に理解することが、本講義の第一の目標である。そうした自然システムの理解を基盤として、人類が活動する基盤である地球、人類自身の活動がいまや脅かしつつある環境、そして人類と文明の未来について、科学的で長期的な視点をもって深く考えることのできる地球市民の視座を獲得することが、第二の(そして、最終の)目標である。

## 履修上の留意点

宇宙・地球という時間・空間の大きなシステムについて、人間とのかかわりを中心に総合的な理解を深めようとする授業であるから、地球、太陽系、宇宙に関する基本的な知識は可能な範囲で身につけてから学ぶことが望ましい。放送大学学部講義では、『太陽系の科学('10)』、『進化する宇宙('11)』、『地球のダイナミックス('10)』、『惑星地球の進化('13)』が基礎となる。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 人類環境と宇宙 | 本講義の総論である。「環境」についての総合的かつ物理学的な考察を行い、人類とその環境を生み出した基盤が宇宙・地球の運動と歴史にあることを概観し、人類と環境問題の位置づけにふれながら、この講義全体の展望を与える。<br>【キーワード】<br>人類環境、生命環境、宇宙環境 | 海部宣男<br>(国立天文台名誉教授) | 海部宣男<br>(国立天文台名誉教授) |
| 2 | 宇宙の環境とそこに存在するエネルギー | 宇宙の環境とはどのようなものか学び、そこに存在する多様な構造を、多様なエネルギーの存在形態としてとらえる。具体的な内容としては、まず惑星系から銀河、銀河団、宇宙の大規模構造へとまたがる宇宙の多様な構造について見ていく。次に、密度や温度が10桁以上も異なる各々の構造の環境についてまとめる。そして、そのような多様な環境を生み出した、宇宙でのエネルギーを生み出す機構について解説する。<br>【キーワード】<br>階層構造、銀河、銀河団、エネルギー | 杉山　直<br>(名古屋大学教授) | 杉山　直<br>(名古屋大学教授) |
| 3 | 宇宙における物質生成 | ビッグバンの熱的な歴史におけるエネルギーの役割と、そこでの物質の生成について理解する。具体的な内容としては、インフレーションと呼ばれる宇宙初期の莫大な膨張に導かれたビッグバンの誕生から、空間の膨張に伴う宇宙の熱的な環境の進化、そして、そこでの構造の形成について解説する。以上をふまえて、まとめとして地球という人間の生まれた環境が、宇宙全体から見たときにどのように実現しているのかについて述べる。<br>【キーワード】<br>ビッグバン、膨張宇宙、構造形成 | 杉山　直<br>(名古屋大学教授) | 杉山　直<br>(名古屋大学教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 恒星進化と物質・エネルギーの流れ | 恒星進化を概説し、恒星で起きる元素合成、化学反応とそれらの放出過程を踏まえながら、恒星活動による物質とエネルギーの転換、その銀河系への影響をまとめる。<br>【キーワード】<br>恒星進化、元素合成、星周ダスト、質量放出 | 有本信雄（国立天文台所長） | 有本信雄（国立天文台所長） |
| 5 | 超新星による銀河環境への影響 | 超新星爆発について現在の理解の到達点をまとめ、超新星爆発が銀河系の物質・エネルギー環境にどのような影響を及ぼしてきたかを考察する。わが太陽系の形成において及ぼしたと考えられる影響（物質組成、トリガなど）にも触れる。<br>【キーワード】<br>Ia型超新星、II型超新星、化学進化、銀河系 | 有本信雄（国立天文台所長） | 有本信雄（国立天文台所長） |
| 6 | 星間分子雲からの地球環境の形成 | 星が生成放出した元素から星間物質、特に多量の氷やシリケイト、有機分子を含む分子雲ができること、さらに星間分子雲から太陽系と地球の形成に至る過程を概説する。また近年の太陽系外惑星の発見と太陽系形成論の新展開を踏まえ、地球の形成までにおこった物質の分別過程・変化について考察し、地球という生命を生んだ環境の成立とその位置を理解する。<br>【キーワード】<br>星間分子雲、原始惑星系円盤、惑星形成 | 海部宣男（国立天文台名誉教授） | 海部宣男（国立天文台名誉教授） |
| 7 | 太陽 | 太陽とはどんな星かという概論から始め、ひので衛星の最新の画像により研究の最前線について紹介し、最後に太陽と地球の関係、地球環境への影響について述べる。<br>【キーワード】<br>太陽、太陽フレア、太陽黒点、宇宙天気 | 櫻井 隆（国立天文台教授） | 櫻井 隆（国立天文台教授） |
| 8 | 地球の初期のエネルギー | 惑星形成段階から現在に至る地球・惑星のエネルギー史を説明する。惑星集積段階では、微惑星・原始惑星の衝突の運動エネルギーの解放や金属中心核の生成に伴う重力エネルギーの解放により莫大な熱が内部に発生して、マグマの海が形成される。集積が収まると、冷却が進み、マントルが形成され、ウラン、トリウム、カリウムなどの放射性元素が主要な熱源になる。一方で、地表付近や大気では、過去から現在に至るまで、太陽エネルギーが重要な役割を果たしている。<br>【キーワード】<br>惑星集積、マグマの海、放射性熱源、太陽エネルギー | 佐々木 晶（国立天文台教授） | 佐々木 晶（国立天文台教授） |
| 9 | 地球の物質循環―生命が存在する惑星の維持 | 地球・惑星の長いスケールの物質循環とその変遷について概説する。地球内部と表層・大気との間の物質循環には、マントル対流や、それに関係する活動が大きくかかわっている。地球ではプレートテクトニクスが重要な役割を果たす。物質循環が、過去どのように変わってきたか、現在はどのような状況にあるか。とくに、水や二酸化炭素の循環について、火星や金星と比較して概説して、なぜ地球だけが生命が繁栄できた環境になったかを議論する。<br>【キーワード】<br>物質循環、プレートテクトニクス、生命存在環境、二酸化炭素 | 佐々木 晶（国立天文台教授） | 佐々木 晶（国立天文台教授） |
| 10 | 地球型惑星の環境のエネルギーバランス | 地球型惑星の気候が温室効果と大気大循環のエネルギーバランスのもとにどのように成り立っているのかを、金星・地球・火星を比較しつつ論じる。これらの惑星は大きさ・太陽からの距離・大気量・大気組成・自転速度などが互いに違っており、このことが異なる気候システムを生み出している。<br>【キーワード】<br>惑星　気候　温室効果　大気大循環 | 今村 剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部准教授） | 今村 剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部准教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 生物関連元素の循環－微生物との共進化 | 地球表層を構成する陸域、大気、海洋を通じての短い時間スケールの物質循環、特に炭素・窒素などの生元素の循環には微生物を中心としたエネルギー獲得系などの生命活動が密接に関与し、現世を含めて地球の環境に大きな影響を与えている。本章では、これらの生元素の循環と地球表層での生命活動との相互作用について具体的な例を挙げながら考察する。さらに生命におけるエネルギー獲得系と地球の進化の関係についてもふれる。<br>【キーワード】<br>生元素循環、エネルギー獲得系、微生物 | 小池勲夫（琉球大学監事） | 小池勲夫（琉球大学監事） |
| 12 | 天体の運動と気候変動 | 惑星間の重力相互作用により、地球の軌道や自転軸の傾きが長い時間で周期的に変化する。また太陽活動の変動に伴い、地球の受ける太陽放射が変化したり、雲の量が変化することが知られている。これらの変化量はわずかであるが、それから大きな気候変動が生まれる可能性がある。その変動は、地球では海底堆積物や氷床に記録されている。一方で、火星の極冠の縞模様も気候変動の記録と考えられるようになっている。過去の気候変動の事例と、その機構についての最新の知識を説明する。<br>【キーワード】<br>ミランコビッチ・サイクル、気候変動、火星の極冠、自転軸傾斜角 | 佐々木 晶（国立天文台教授） | 佐々木 晶（国立天文台教授） |
| 13 | 地球の環境への生命活動・人間活動のインパクト | 地球表層に誕生した生命は様々なプロセスを通じて地球の環境を変え、そのことによって結果的に生命の進化、多様性を導いてきた。ここでは生命活動によって地球表層の大気、海洋、陸域の酸化還元状態などの化学的環境や地形などの物理的環境がどのようなインパクトを受けたか、またそのインパクトがどのような生命の多様性、進化をもたらしたかについて具体的な事例を挙げて解説する。さらに人間活動が地球環境に与えたインパクトについても考察する。<br>【キーワード】<br>生命の進化、物理的・化学的環境、人間活動 | 小池 勲夫（琉球大学監事） | 小池 勲夫（琉球大学監事） |
| 14 | 文明と環境 | 長い時間スケールで見れば地球環境は激しく変化してきた。その中で人類はわずかな歴史を刻んできたに過ぎないが、厳しい環境を克服するための技術を開拓し、自然の根底を貫く法則を理解すべく科学を発展させて、文明の形態を大きく変化させてきた。その科学・技術文明が逆に人類にとって深刻な環境問題を引き起こすに至った現在の状況を掘り下げて考え、環境を保全しつつ人類活動をいかに進めるかを考えてみたい。今こそ、人類の英知が求められているのである。<br>【キーワード】<br>地球変動、環境問題、科学と技術の進歩、環境保全の取り組み | 池内 了（総合研究大学院大学教授） | 池内 了（総合研究大学院大学教授） |
| 15 | 宇宙史の中の地球・生命・人類・文明 | 本講義全体のまとめをかねて、広く宇宙スケールで人類文明の位置を振り返り、文明の存在可能性とも絡めながら現在進行している宇宙文明の科学的探査を紹介し、そうした活動の意義を考える。最後に、現代の人間にとっての環境をどう捉えるべきかを宇宙・地球・生命の視座から見直すとともに、文明をもたらした科学・技術の人類にとっての意味を改めて考える。<br>【キーワード】<br>宇宙の中の人類、人類文明、地球市民の環境論 | 海部宣男（国立天文台名誉教授） | 海部宣男（国立天文台名誉教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１１年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8960569 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 現代地球科学 （’１１）＝ （ＴＶ）

〔主任講師（現職名）： 川上 紳一（岐阜大学教授）〕
〔主任講師（現職名）： 藤井 直之（名古屋大学名誉教授）〕
【本学担当専任教員： 吉岡 一男（放送大学教授）】

## 講義概要

惑星探査、地球史解読、高温高圧試験、リモートセンシング技術などの進歩によって、新しい地球観が生み出されている。本科目では、地球科学における最近のトピックスを取り上げ、新しい地球観の探究を進めている研究現場をレポートしつつ、最新の研究成果を解説する。高温高圧実験技術の進歩による地球内部構造の解明、天体衝突と地球環境や生物進化、気候変動のしくみ、宇宙からの地球観測による地球変動などに関する研究をもとに、地球の探究のダイナミズムや最新の地球観をわかりやすく講義する。

## 授業の目標

地球温暖化問題や地球環境問題の理解には、地球変動のしくみについて、深く理解することが大切である。本科目では、さまざまな研究手法による地球の変動とその歴史に関する研究者の発想や研究法を学び、地球環境の成り立ち、変遷に関する見方や考え方を育成することを目標としている。

## 履修上の留意点

本科目とともに学部の科目である「身近な気象学（’10）」や「惑星地球の進化（’13）」や「地球のダイナミックス（’10）」を履修すると地球科学分野の理解が深まる。また、大学院科目の「物質環境科学Ⅱ（’08）」を合わせて履修すると、宇宙の中での地球という広い視点での地球観が得られるであろう。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 新しい地球観：変動する地球システム | これまでの地球科学の発展を振り返ると、新しい観測技術の開発、新研究領域の開拓、観測データの総合化などがベースになっていることがわかる。変動する地球システムの本質的理解を目指す最近の研究トピックスを取り上げ、新しい地球観の構築へ向けた研究を概説し、本科目の内容と目標を明らかにする。<br><br>【キーワード】<br>地球観、観測技術、地球内部構造、テクトニクス、気候変動、生物進化 | 川上紳一（岐阜大学・教授） | 川上紳一（岐阜大学・教授）・藤井直之（名古屋大学・名誉教授）・安成哲三（名古屋大学・教授）・大野照文（京都大学・教授）・入舩徹男（愛媛大学・教授） |
| 2 | 地球内部を探る | 地球のマントルや核の大部分は、人類にとっていまだに未踏の地である。地球内部の構造や構成物質を探るために、地表の岩石や隕石の研究、地震波の伝わり方や、密度の推定といった地球物理学的研究などが行われている。こうした手法を概説するとともに、近年重要な役割を果たしている超高圧実験について、原理や応用、最近の発展について紹介する。<br><br>【キーワード】<br>隕石、超高圧実験、地震波速度、密度、第一原理計算 | 入舩徹男（愛媛大学・教授） | 入舩徹男（愛媛大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 地球内部の物質と構造 | 地球内部には、地震波速度や密度が急激に変化する地震学的不連続面が存在する。それらは、化学組成の違いによる第1級の不連続面と、鉱物の結晶構造が変化することによる第2級の不連続面に分けられる。最近の超高圧実験の結果に基づいて、地球内部物質の相転移を明らかにするとともに、そのマントルダイナミクスへの影響などについて解説する。また、「地球深部からの手紙」とも称される、ダイヤモンドに関する最近の研究についても紹介する。<br><br>【キーワード】<br>マントル、核−マントル境界、核、相転移、プレート沈み込み、ダイヤモンド | 入船徹男（愛媛大学・教授） | 入船徹男（愛媛大学・教授） |
| 4 | 月と地球の進化 | 月と地球の内部構造の違いや月の誕生の謎、初期地球の進化に関する最新の研究成果を講義する。月の起源についてはジャイアントインパクト説を詳しく解説する。地球や月の熱史の問題や地球マントルの対流についても述べる。現在の地球では、プレートテクトニクスが支配的であるが、地球の歴史を通じて、マントル対流のパターンの変化、地球表層のグローバルテクトニクスとの関連にも着目する。<br><br>【キーワード】<br>月、地球、起源、熱史、マントル対流、プレートテクトニクス | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） |
| 5 | 天体衝突と地球の歴史 | 最近の研究によって、小惑星帯での大規模天体衝突が地球や月面での天体衝突現象と関係していることが明らかになってきた。天体衝突と地球の歴史、地球の衝突構造の研究の発展を講義する。小惑星の族と軌道進化に関する最新の研究を紹介する。<br><br>【キーワード】<br>クレーター、小惑星、恐竜絶滅、軌道進化 | 川上紳一（岐阜大学・教授） | 川上紳一（岐阜大学・教授） |
| 6 | 氷河時代とスノーボール・アース仮説 | 気候変動と地球の歴史に関する講義を行う。氷河時代の発見やスノーボール・アース仮説の成立の鍵となった地質学的証拠について詳しく解説する。計算機シミュレーションによる研究についても紹介する。スノーボール・アース仮説を巡る論争の展開や蒸発岩による画期的な検証など、最近のトピックスを紹介する。<br><br>【キーワード】<br>気候変動、スノーボール・アース、氷河堆積物、古地磁気学 | 川上紳一（岐阜大学・教授） | 川上紳一（岐阜大学・教授） |
| 7 | 多細胞動物への進化の道のり | 原生代末の最古の多細胞動物について、論争のあるエディアカラ化石生物群も含めて紹介する。さらに、多細胞動物進化の前史について、現在明らかにされつつある真核生物の系統との関連で述べる。また、真核生物の出現やそれに重要な役割を果たした酸素濃度の変遷についても、最新の地質学的、地球化学的証拠を含めて概説する。<br><br>【キーワード】<br>生命の起源、シアノバクテリアと酸素、真核生物、ドウシャンツオの動物化石、エディアカラ化石生物群 | 大野照文（京都大学・教授） | 大野照文（京都大学・教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 多細胞動物の爆発的多様化事件 | 多細胞動物の起源と進化については、分子生物学的研究が進んでいる。多様な姿や生態を示す現生の多細胞動物について、形態や遺伝子解析の研究成果をもとに、分類と系統関係について、最新の知見を講義する。これらをふまえて古生代カンブリア紀に起こった多細胞動物の多様な分類群の出現を示す化石を紹介するとともに、それらの爆発的出現の原因を探る。<br>【キーワード】<br>多細胞動物の分類と系統、チェンジャン・バージェス化石生物群、ホックス遺伝子、進化の大停滞、シュラム偏位 | 大野照文(京都大学・教授) | 大野照文(京都大学・教授) |
| 9 | 地球史と気候変動 | 地球における気候変動の復元の方法を述べ、気候の変遷について概観する。過去6億年については、超大陸の形成や分裂と気候が相関している。第三紀になると徐々に気候は寒冷化へ向かうが、5500万年前に一時的に突発的に温暖化した。その原因を考察する。過去500万年間には、氷期-間氷期サイクルが顕著になるが、そのペースメーカーとなっているのが、ミランコビッチサイクルである。ミランコビッチサイクルのメカニズムを述べ、その周期性が地層の縞模様として記録していることを述べる。10万年周期の謎など、まだ解明されていない事象が残されている。<br>【キーワード】<br>氷期-間氷期サイクル、ミランコビッチサイクル、地球史、超大陸、気候変動 | 川上紳一(岐阜大学・教授) | 川上紳一(岐阜大学・教授) |
| 10 | 地球の気候とその変動のしくみ | 地球の気候状態はさまざまな要素が複雑に関わって変動しており、気候を支配する要素全体を気候システムと呼んでいる。気候システムを構成するサブシステムについて解説し、サブシステム間の相互作用における、主なフィードバックメカニズムについて説明する。地球の歴史とともに気候システムが変化してきたことを、具体的な事例をもとに概説する。<br>【キーワード】<br>気候システム、気候変動、フィードバック | 安成哲三(名古屋大学・教授) | 安成哲三(名古屋大学・教授) |
| 11 | 地球気候におけるアジアモンスーン | 日本列島周辺の気候は、アジアモンスーンの影響を強く受けているが、その影響はアジアに限らず世界の気候にまで及んでいる。アジアモンスーンについて概説し、新生代におけるその変動がヒマラヤ山脈の隆起と深く関わっていることを、研究現場からレポートする。<br>【キーワード】<br>アジアモンスーン、ヒマラヤ山脈、大気大循環 | 安成哲三(名古屋大学・教授) | 安成哲三(名古屋大学・教授) |
| 12 | 近年の「地球温暖化」と異常気象 | 20世紀後半以降、地球の気候は急速に温暖化しつつあり、人間活動による$CO_2$などの温室効果ガスの増加に起因する「地球温暖化」の可能性が大きな社会問題ともなっている。これに関連して、豪雨や干ばつなどの異常気象の頻度も世界中で増加している。この問題について、最近のIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告なども含め、今後の予測やその問題点について講義する。<br>【キーワード】<br>地球温暖化、温室効果ガス増加、異常気象 | 安成哲三(名古屋大学・教授) | 安成哲三(名古屋大学・教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 地震と火山のしくみ | 日本では防災・減災の立場から地震や火山などに対する問題が大きな課題となっている。地震や火山の活動は，プレート境界に特徴的な固体地球の変動である。近年の観測システムの進歩によって，最近発見された地震発生や火山活動に伴う現象について述べる。自然災害に関わる地震の発生や火山噴火の事例を紹介するとともに，最近の地球観測技術の進歩によって明らかにされてきた沈み込み帯のスロースリップや火山噴火に伴う局所的な地殻変動のモニタリング研究について概説する。<br>【キーワード】<br>地震発生，リアルタイム地震学，カルデラ形成，長周期パルス，スロースリップ，非火山性深部微動 | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） |
| 14 | 宇宙からの地球観測 | 地球科学の進展に大きな貢献をしている最近の宇宙からの地球観測について講義する。とくに、宇宙からの地球観測の技術的進歩は目覚しく、気候変動や地震・火山活動などについて，全地球規模でリアルタイムのデータを取得して，地球環境のモニタリングに貢献する課題から，いくつかの話題を取り上げる。地球環境のモニタリングの進展を概説するとともに，全地球測位システム（GPS）、面的に地殻変動を捉える合成開口レーダー干渉法（InSAR）、重力観測衛星（GRACE）などについて、やや詳しく解説する。<br>【キーワード】<br>リモートセンシング，地球観測衛星、GPS観測網、合成開口レーダー干渉法、地球変動の検出，重力探査衛星 | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） |
| 15 | 地球観測技術と新しい地球観 | 観測技術の革新的な進歩とそれに刺激された新しい地球観によって、地球科学は常に大きな飛躍を遂げてきた。そして、私たち人類の今後の展望において、変動する地球や多様な生物との共存を目指して、地球環境の変遷と生物進化の理解が不可欠であることを確認する。これまでの講義内容を振り返り、今後の地球科学の研究の方向性や課題について考える。<br>【キーワード】<br>地球観、観測技術、地球内部構造、テクトニクス、気候変動、生物進化 | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授） | 藤井直之（名古屋大学・名誉教授）・川上紳一（岐阜大学教授）・安成哲三（名古屋大学・教授）・大野照文（京都大学・教授）・入船徹男（愛媛大学・教授） |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２００９年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目ｺｰﾄﾞ | 8960526 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝　　数理科学の方法　　（’０９）＝　（R）

〔主任講師（現職名）：熊原啓作（放送大学教授）　　〕

## 講義概要

コンピュータの発達と共に計量的手法があらゆる分野に浸透し，数理科学的手法が必要とされ使われている．この講義では数理科学の個別科学への応用例を提示する．数理科学やその考え方がいかに活用されているかを解説する．数理物理学から生まれ，情報科学，通信工学など広い応用を持つフーリエ解析学，生命現象を数学的に解明しようとする数理生物学，一見数学と無縁に思われる文化的方面にもデータ解析を活用する文化情報学，そして日々の経済動向の裏にある数理経済学を取り上げる．

## 授業の目標

様々な場面で数学的考え方がいかに有効に活用されているか，またその限界とこれからの課題についても理解を深めることを目標とする．数理科学あるいは応用数学は，数学者が準備してくれた道具を便利に使うというようなものではなく，新たに問題に応じて数学を作ることであることも強調したい．

## 履修上の留意点

15回の講義では厳密に理論を展開することはできないので，どうしても包括的な話が多くなるが，数学的論理の展開も不可欠である．数学に不慣れな受講者は細部より流れを読むようにし，この講義はいわば数理科学ガイダンスと理解していただきたい．学部における数学科目はできるだけ学んでおいていただきたい．

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 数理科学の方法 | 数理科学の概観と全担当講師によるそれぞれのパートにガイダンスを与える．<br><br>【キーワード】<br>数学と数理科学，生物学と数理科学，文化情報学と数理科学，数理経済学と数理科学 | 熊原啓作（放送大学教授）・梶原毅（岡山大学教授）・村上征勝（同志社大学教授）・丸山徹（慶應義塾大学教授） | 熊原啓作（放送大学教授）・梶原毅（岡山大学教授）・村上征勝（同志社大学教授）・丸山徹（慶應義塾大学教授） |
| 2 | フーリエとフーリエ解析 | 数理物理学における問題の解決のために誕生したフーリエ解析の誕生と生い立ちを見る．<br><br>【キーワード】<br>振動，熱伝導，フーリエ級数，フーリエ級数複素形 | 熊原啓作（放送大学教授） | 熊原啓作（放送大学教授） |
| 3 | フーリエ解析の発展と数学における影響 | フーリエ解析の発展が数学の基礎を見直すことにつながり，j実数，関数，収束，積分などの基礎概念の明確化を必要とし，集合論やルベーグ積分論誕生の一因にもなった。数学にいかに大きな影響を与えたかを見る。<br><br>【キーワード】<br>関数と実数，フーリエ級数の収束問題，リーマン積分，フーリエ積分，集合論，ルベーグ積分 | 熊原啓作（放送大学教授） | 熊原啓作（放送大学教授） |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 4 | フーリエ解析の諸結果 | フーリエ解析の興味あるいくつかの性質について概観する。ギブズ現象，直交関数展開としてのフーリエ級数，一般フーリエ級数を紹介し，フーリエ級数の概収束，フーリエ変換，サンプリング定理を取り上げる。<br><br>【キーワード】<br>ギブズ現象，直交関数，関数空間，プランシュレルの定理，不確定性原理，サンプリング定理 | 熊原啓作(放送大学教授) | 熊原啓作(放送大学教授) |
| 5 | フーリエ解析の新しい流れ | フーリエ解析は加法群に拡張される。その例として整数上のフーリエ変換とさらなる一般化の方向を示し，有限フーリエ変換と高速フーリエ変換を概説する。フーリエ変換は周波数情報を与えるが，その成分が何時現れるかを教えてはくれない。その欠陥を補うものとして誕生したウェーブレット変換を取り上げる。<br><br>【キーワード】<br>指標，離散フーリエ変換，双対定理，高速フーリエ変換，ウェーブレット変換 | 熊原啓作(放送大学教授) | 熊原啓作(放送大学教授) |
| 6 | 単一集団モデル | 生物集団の個体数の変動は、数理生態学の基本的なテーマである。最初に単一集団のモデルを説明する。微分方程式モデルの導きかた、マルサスモデル、ロジスティックモデルについて、データと比較しながら述べる。小集団をあつかう確率モデルについても説明し、微分方程式モデルとの関係についても触れる。<br><br>【キーワード】<br>生物現象，微分方程式モデル，確率モデル | 梶原毅(岡山大学教授) | 梶原毅(岡山大学教授) |
| 7 | 複数集団モデル | 前回にひきつづき、互いに相互作用する複数集団のモデルを扱う。始めに競争関係を扱うロトカ・ヴォルテラ競争モデルについて、アイソクライン法、および数学的解析、生物的意味について説明する。次に、ロトカ・ヴォルテラ捕食モデルについて、解が周期的になることを説明し、それを用いた漁獲の効果の解析を説明する。<br><br>【キーワード】<br>競争モデル、単調性、捕食モデル、保存量 | 梶原毅(岡山大学教授) | 梶原毅(岡山大学教授) |
| 8 | 体内の病気モデル | 人間の体内は観察が容易ではないので、病気の様子を調べるために数理モデルを作って研究することが役に立つ。主として HIV 感染のさまざまな段階を対象としたモデルについて、数学解析と生物的な意味について説明する。さらに、免疫が自己を攻撃する自己免疫病のモデルについても説明する。<br><br>【キーワード】<br>エイズ、免疫系、安定性、抗原多様性閾値、自己免疫 | 梶原毅(岡山大学教授) | 梶原毅(岡山大学教授) |
| 9 | 感染症の流行モデル | 人間にとって切実な問題である病気の流行についてはデータも豊富で，昔から研究が盛んである。感染症の流行をあつかういくつかの基本的なモデルについて説明する。さらに、具体例として、狂犬病などの伝播のモデル、また空間的に一様でない防御の効果のモデルについて説明する。<br><br>【キーワード】<br>体内の病気，エイズ，肝炎，免疫細胞 | 梶原毅(岡山大学教授) | 梶原毅(岡山大学教授) |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名(所属・職名) | 放送担当講師名(所属・職名) |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 文化領域の数量分析 | 文章や絵画を中心に，文化の研究領域における数量的アプローチの目的，意義および研究方法を紹介する．特に類似性という観点から，分析に用いる情報(変数)の選択や必要な統計量について説明する．<br><br>【キーワード】<br>数量分析，情報(変数)選択，平均値，分散，クラスター分析，主成分分析 | 村上征勝(同志社大学教授) | 村上征勝(同志社大学教授) |
| 11 | 文章の数量分析 | 文章の類似性の分析で著者に関する疑問の解明を試みた幾つかの研究を紹介する．具体的には「シェークスピア＝ベーコン説」の検討，『静かなドン』盗作説の解明，アメリカ合衆国憲法に関する論説12編の著者の推定，『源氏物語』の文章の分析，犯罪事件の文章の分析等を紹介する．<br><br>【キーワード】<br>シェークスピア＝ベーコン説，『静かなドン』，『連邦主義者』，『源氏物語』，最頻値，出現頻度，クラスター分析，判別分析 | 村上征勝(同志社大学教授) | 村上征勝(同志社大学教授) |
| 12 | 浮世絵の数量分析 | 浮世絵・美人画に描かれてた顔を対象に，目，鼻，口などの部品間の角度を分析することで，9人の浮世絵師たちの描画法の差異の解明を試みた研究を紹介する。また，歌舞伎劇で女役を演じる男性の顔の描き方について，数量分析でどのようなことが明らかになったかも紹介する。<br><br>【キーワード】<br>浮世絵，美人画，役者絵，女形，角度情報，主成分分析 | 村上征勝(同志社大学教授) | 村上征勝(同志社大学教授) |
| 13 | 効用関数の存在 | 集合上で定義された擬順序を実数値の関数(効用関数)で表現する可能性について述べる。制約条件下における最適化行動の分析は、経済理論におけるひとつの基本的類型である。効用関数はこの種の分析上不可欠の役割を果たす。併せて、必要とされる位相空間論の基本的な概念・事実についても解説したい。<br><br>【キーワード】<br>位相空間，擬順序，効用関数，Debreuの定理 | 丸山徹(慶應義塾大学教授) | 丸山徹(慶應義塾大学教授) |
| 14 | 期待効用の理論 | 生起しうる事象に対して定義された、いろいろな確率を序列づけする擬順序が与えられたとき、それを表現する効用関数の存在について研究する。とくに効用関数が、ある関数の期待値の形式で与えられるための条件に焦点をあわせて論ずる。基礎的準備として、測度・積分、そして確率測度が作る空間の＊弱位相についても解説し、ひとつの現代解析学への案内としたい。放送授業では効用関数と中心に丁寧に説明する。基礎的準備については印刷教材と精読されたい。<br>【キーワード】<br>測度と積分、確率測度族上の＊弱位相、期待効用 | 丸山徹(慶應義塾大学教授) | 丸山徹(慶應義塾大学教授) |
| 15 | 経済の均衡 | 効用関数に基づき、経済を構成する主体の最適化行動を分析する。つづいて多数の主体の間に成り立つバランス——つまり一般均衡の概念を論じて、現代経済学の基本的分析視角を紹介する。<br><br>【キーワード】<br>ラグランジュの未定乗数法，二次形式の符号、需要関数の導出、一般均衡 | 丸山徹(慶應義塾大学教授) | 丸山徹(慶應義塾大学教授) |

| 事務局記載欄 | 開講年度 | ２０１０年度 | 科目区分 | 大学院科目 | 科目コード | 8960534 | 履修制限 | 無 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

科目名（メディア） ＝ 計算論 （’１０）＝ （R）

〔主任講師（現職名）：隈部　正博（放送大学教授）〕

## 講義概要

まず、言語、文法とは何かを定義する。次にチョムスキーの定義した様々な形の文法を学び、それによってどんな言語が生成されるかをみる。次に計算という概念について初歩から解説する。言語を構成（計算）するための機械であるオートマトンの定義から始め、様々な種類のオートマトンの形を学ぶ。その後チューリング機械の定義をする。そして多くの計算が、チューリング機械の形で書くことができることを理解する。最後にアルゴリズムとは何かを考える。

## 授業の目標

計算という概念を、様々な種類に分けて解説し、最終的には計算機の数学的モデルといわれる、チューリング機械がどのような構造を持っているかを理解する。また文法によって生成される（形式）言語がどのようなものか理解し、様々な文法と言語との関わりを理解する。このとき、文法によって生成される言語と、オートマトンによって計算される言語、これらの関連性を理解するのが目標である。

## 履修上の留意点

予備知識は仮定しない。計算や言語という概念について、論理的立場から解説するが、数学のみならず、コンピューターや言語に興味のある学生向けの授業でもある。

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 準備 | これから授業を進めるにあたって必要な予備知識に付いて解説する。<br><br>【キーワード】<br>数学的帰納法、集合、関数 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 2 | 言語 | 言語、文法とは何か、定義する。そして様々な例を通してこれらの概念を理解する。<br><br>【キーワード】<br>言語、文法 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 3 | チョムスキーの階層 | チョムスキーの階層といわれる、様々な文法や言語の種類について、例を挙げながら学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>チョムスキーの階層、文脈依存文法、文脈自由文法、正規文法 | 隈部正博 | 隈部正博 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 4 | オートマトン | 言語を計算する一つの形である、オートマトンとは何か、その定義を述べ、簡単な例を学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>オートマトン、遷移関数 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 5 | オートマトンによって受理される言語 | 様々なオートマトンの例を通して、どのような言語が作られるかをみる。<br><br>【キーワード】<br>受理される言語 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 6 | 非決定性オートマトン | 機械が次のステップで行う動作が一つに限らない、非決定性オートマトンを定義し、いくつかの例を考える。<br><br>【キーワード】<br>決定性オートマトン、非決定性オートマトン | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 7 | 決定性オートマトンと非決定性オートマトン | 非決定性オートマトンによって受理される言語は、決定性オートマトンによっても受理されることを示す。<br><br>【キーワード】<br>等価、状態の道 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 8 | 正規文法とオートマトン | 正規文法で生成される言語と、オートマトンによって受理される言語が等しいことを示す。これを例を挙げながら解説する。<br><br>【キーワード】<br>正規文法 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 9 | 2方向オートマトン | 今まで定義したオートマトンを改良し、機械のヘッドが左右に動く、2方向オートマトンについて、その定義を述べ、幾つかの例を学ぶ。<br><br>【キーワード】<br>2方向オートマトン | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 10 | 1方向オートマトンと2方向オートマトン | 2方向オートマトンによって受理される言語が、1方向オートマトンによって受理される言語が等しいことを、例を使って解説しながら示す。<br><br>【キーワード】<br>1方向オートマトン、2方向オートマトン、等価 | 隈部正博 | 隈部正博 |

| 回 | テーマ | 内容 | 執筆担当講師名（所属・職名） | 放送担当講師名（所属・職名） |
|---|---|---|---|---|
| 11 | ε一動作を含むオートマトン | 非決定性オートマトンの定義をさらに改良して、ヘッドが動かず機械の状態のみを変化させるような動作を追加した、非決定性オートマトンの定義をする。このε一動作を含む非決定性オートマトンと、含まない非決定性オートマトンが等価であることをみる。<br>【キーワード】<br>ε一動作 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 12 | 正規表現 | 言語を式で表すことを考え、正規表現とは何か解説する。そして正規表現で定義される言語がオートマトンによって受理される言語に等しいことを見る。<br>【キーワード】<br>正規表現 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 13 | チューリング機械 | コンピューターの数学的モデルである、チューリング機械とは何かについて考える。幾つかの例を通して理解を深める。<br>【キーワード】<br>チューリング機械、時点表示 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 14 | 様々なチューリング機械 | さまざまなチューリング機械の例を考える。また複数ののテープを備えた多テープチューリング機械を定義する。そして、多テープチューリング機械とチューリング機械が等価であることを示す。<br>【キーワード】<br>多テープチューリング機械、非決定性チューリング機械 | 隈部正博 | 隈部正博 |
| 15 | アルゴリズムの概念 | 非決定性チューリング機械を定義し、これが決定性チューリング機械と等価であることを示す。次にチューリング機械と、文法の概念が等しいことをみる。最後にアルゴリズム、計算とは何か、考察する。<br>【キーワード】<br>アルゴリズム、計算、チャーチの提唱 | 隈部正博 | 隈部正博 |

この冊子に掲載した2013年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています